

ISSN 2433 – 9776

令和6年度

群馬高専レビュー

第 43 号

2024

THE GUNMA-KOSEN REVIEW

No. 43

目 次

Dolphin Readers 案内—— 小学生に最適のグレイディッド・リーダー ——	横山 孝一.. 1
IBCオーディオボックス案内—— 英語のリスニングを楽しもう ——	横山 孝一.. 9
小池真理子の小説 50 冊—— 知的悪女の生きざまを読む ——	横山 孝一.. 19
土木構造物の認知度のアンケート調査に基づく土木工学初心者向けの新たな学習教材の提案	渡邊 祥庸・高見澤 拓哉.. 39
Scratch を用いたソフトウェアとハードウェア両面からの中学生向け体験型プログラミング教育 － 群馬高専スマートサイエンススクールにおける取組（第3報） －	荒川 達也・市村 智康・渡邊 俊哉.. 47
ダイバーシティ推進室企画「メイクアップ教室」～令和3年度から令和6年度の振り返り～	工藤 まゆみ・佐藤 孝之・太田 たまき・櫻岡 広.. 51
三百六十番歌合にみる後鳥羽宮内卿歌について	難波 宏彰.. 55
妙義山麓の天神信仰とその伝承 - 旧菅応寺をめぐって -	大島 由紀夫.. 69
『讃岐典侍日記』—— 「静」と「動」の効果 ——	太田 たまき.. 79
高専生とアカデミックライティング —— 『夢十夜』実践報告 ——	太田 たまき.. 89

CONTENTS

A Guide to Dolphin Readers: Graded Readers Suitable for Elementary School Children	Koichi YOKOYAMA . . 1
A Guide to IBC Audio Books: Let's Enjoy Listening to English	Koichi YOKOYAMA . . 9
Mariko KOIKE's 50 Novels: Reading the Life of the Intellectual Wicked Woman	Koichi YOKOYAMA . . 19
Proposal for New Learning Materials Based on Questionnaire Survey on the Recognition of Civil Engineering Structures	Yoshinobu WATANABE, Takuya TAKAMIZAWA . . 39
A Software and Hardware Programming Education for Junior High School Students Using Scratch , III	Tatsuya ARAKAWA, Tomoyasu ICHIMURA, Toshiya WATANABE . . 47
Diversity Promotion Office Planning "Makeup Classes" ~Review of 2021 to 2024~	Mayumi KUDO, Takayuki SATO, Tamaki OTA, Hiroshi SAKURAOKA . . 51
A discussion the waka poem by <i>Gotoba no in Kunaikyo</i> in the <i>360number uta-awase</i>	Hiroaki NAMBA . . 55
The Faith in <i>Tenjin</i> and Its Tradition at the Foot of <i>Mt.Myogi</i> —Issues Surrounding the Former <i>Kannoji</i> Temple—	Yukio OSHIMA . . 69
The Diary of Sanuki no Suke —— Reevaluating the author's expressive power ——	Tamaki OTA . . 79
Academic Writing Guidance for Technical College Students Ten Nights of Dream	Tamaki OTA . . 89

Dolphin Readers 案内

——小学生に最適のグレイディッド・リーダー——

横山 孝一*

(2024 年11月29日受理)

はじめに

オックスフォード大学出版局 (Oxford University Press) のドルフィン・リーダーズ (Dolphin Readers) は、2005 年出版以来、小学生用グレイディッド・リーダーの典型として君臨している。初心者レベル (Starter Level) から始まり、レベル 1 からレベル 4 まで、各 8 冊、合計 40 冊からなるシリーズである。身につく見出し語 (Headwords) は、175 語から開始され、最終的には 625 語まで増える。無理なく着実に、必要な語彙を増加させることができよう。

1 冊目の *Baby Animals* はかわいらしい動物の子供の写真集だ。最初のページは犬の親子を写し、“This dog has two puppies. They are very cute.”とカラー写真の下に英文が入る。右側のページは練習問題で、犬の数 one~six の表わし方を正しい英語と犬の絵を結びつけて (Connect.) 学ぶ。例えば、1 匹の犬の絵は one puppy、6 匹だと six puppies になる。写真と挿絵は共に魅力的で、とにかく飽きさせない。英語を母語としない年長の学習者にとっても簡単すぎることはないだろう。Dog, cat, sheep, lion はわかっているその子を英語で何というのか知らなければ、この Starter の最初の本で学ぶことになる。

初心者レベルの対象は、2 冊目の *A Day with Baby* を見ると、赤ちゃんの世話ができるお兄ちゃん、小学校の低学年だとわかる。まだしゃべれない弟 Ben にいろいろなものを何と呼ぶのか教える絵本だが、これも日本人の学習者にはためになる。“Here is a banana, Ben. Here is some juice.”と言うように、数えられる名詞と数えられない名詞があることを教えてくれる。親しみやすい絵柄の絵本になっているが、3 冊目の *Doctor, Doctor* は、吹き出しのついたマンガ形式になっていて、さらに親しみやすい。木から落ちた Katy はすぐママに診療所へ連れて行かれるが、“My head hurts.”と医者に症状を訴えている。頭が痛いときはこう言えばいいとわかる。

本シリーズは、絵と写真を交互にバランスよく用いて

いる。これは、フィクションとノンフィクションを上手に使い分けていることでもあり、同じ形式による単調さを防いでいる。色とりどりの様々な形のものを写す写真からクイズ形式で答えを探す Starter 4 冊目の *A Game of Shapes* は、金髪の白人の少女と黒髪のアジア系の男の子が問題を出し合う。男女差別や人種差別がないように配慮した作りだ。“It is brown. It is a triangle. What is it?” 答えは次のページをめくらないとわからないので、読者も一緒に写真から茶色い三角形のものを探しだし、それが英語でなんと言うのか、どう綴るのかを考える。答えは、“It is a sandwich.” 当たれば、うれしいはずだ。

こんな調子で、レベル 4 にたどり着くと、どの程度の英文が読めるようになるのか。イソップ寓話「いなかのネズミとまちのネズミ」あるいはビアトリクス・ポター (Beatrix Potter, 1866-1943) のわが国では石井桃子訳が有名な『まちねずみジョニーのおはなし』 (*The Tale of Johnny Town-Mouse*, 1918) を人間に置き換えて翻案した *City Girl, Country Boy* (Fiona Kenshole) を例に見てみよう。最初のページは、マンガ風挿絵の下に次の英文がつく。

Tim lives on a farm in the country. He is on his way to visit his cousin Anna in the city. Anna and her mother are waiting to meet him at the train station.

This is Tim's first visit to the big city. He is very excited. (p. 2)

イソップや *The Tale of Johnny Town-Mouse* を楽しめる力がつくだろう。レベル 4 になると、印象に残る読書体験となる。英語をマスターした中国の老人が語るトラの背中を 3 本抜いてきた少年の話 *The Tough Task* は何を意味するのか。東洋の謎かけは日本人読者には身近に感じられるだろう。リチャード・ノースcott (Richard Northcott) が書いた *Up and Down* はユーモア

小説で、デパートのエレベーターに乗り合わせた奇妙な人びとの謎が帰りに解けるユニークな作品である。写真によるノンフィクション作品も負けてはいない。*Go, Gorillas, Go* (Fiona Kenshole)は、ゴリラが1人称で自分たちの生態を紹介し、環境保護を訴えるユニークな本だ。*In the Ocean* (Richard Northcott)も同様の環境保護の必要を実感させる。海底の珍しい生物の写真集になっていて、一見の価値がある。*Where People Live* (Richard Northcott)は世界のさまざまな家に着目した写真集で、わが国の美しい和室の写真 (p. 22) も掲載されている。地球の豊かな自然環境を守り、世界の多様な文化を尊重する 21 世紀の理想の世界観を反映した英語リーダーとしてドルフィン・リーダーズをお勧めしたい。

以下、全 40 冊の概要を紹介する。

Starter Level (見出し語 175)

① *Baby Animals* (Richard Northcott) 写真

犬・猫・羊・ウサギ・ライオン・ゴリラ・フクロウの愛らしい写真を掲げ、動物とその子供を英語で何というか習得させる。子犬はpuppy、子猫はkitten、子羊はlamb、ライオンの子はcubである。ちなみに、ゴリラの赤ちゃんが父親の背中にしがみついている写真には、“This baby gorilla is on his father’s back. He loves his father.” という的確でほほ笑ましい説明がつく。

② *A Day with Baby* (Di Taylor) 絵

Max少年が母親に“Please play with Ben.”と弟のBaby Benの世話を任される。Maxは本やおもちゃを用いて物の名前を次々に教える。“Here is a banana, Ben. Here is some juice.” 食事で顔が汚れると、“Let’s wash your face, Ben.”とふいてやる。最後は、疲れて眠ってしまった弟に“Sleep well, Ben. See you later.”とやさしく声をかける。

③ *Doctor, Doctor* (Mary Rose) 絵

木から落ちて“Ouch!”とうめくKaty。頭が痛み“My head hurts.”と訴えると、ママは“Let’s go see Doctor Green.”と診療所へ連れて行く。名前を訊かれ“My name is Katy.”と答え、“How old are you, Katy?”に“I am six.”ときちんと返事ができた。治療が済むとお礼も言い、“You’re welcome.”と医者も喜んでいる。

④ *A Game of Shapes* (Christine Lindop) 写真

金髪の白人の少女と眼鏡をかけた黒髪のアジア系の男の子が、形の異なる色とりどりのものが並ぶ写真を見て

問題を出し合う。“It is white. It is an oval. What is it?” 答えは、“It is an egg.” このようにして、色とともに circle, square, triangle, rectangle, oval, diamond, heart といった形を表わす語を学ぶ。

⑤ *Monkeying Around* (Craig Wright) 絵

森の中の茂みが描かれていて、“What is in the bush?” 体の一部を見せて、nose, ears, mouth, eyes, hands, feet, body, legs, tail, arms といった体に関する語を習得させる。最後は、“What is it?” 茂みからサルが飛び出し、“It’s a monkey.” で終わる。すっきり納得でき、幼い読者は満足することだろう。

⑥ *Moving House* (Di Taylor) 絵

両親は引っ越しの準備で大忙し。「われもの注意」(FRAGILE)のシールが貼られた段ボール箱が並ぶ居間で、Annaは意味もわからずソファに座っている。引っ越し業者が来てAnnaのテレビや人形を運ぼうとすると、Annaは怒る。そこで、ママが新しい家の写真を見せて説明。Annaは“I like our new house. Let’s go.”と乗り気になる。

⑦ *My Family* (Mary Rose) 写真

白人の少女 Mary が一人ずつ家族を紹介。お父さんは台所(the kitchen)で野菜を切っている。お母さんは居間(the living room)のソファに座って電話している。お兄さんのDavidは寝室(the bedroom)で読書中。妹のJulieは浴室(the bathroom)で髪をとかしている。写真の動作の説明はないが、家族と部屋に関する語彙が学べる。最後にペットの犬Jack、猫Jill、祖父と祖母も紹介して、温かな家庭が想像できる。

⑧ *Silly Squirrel* (Craig Wright) 絵

リスのSidが腹をすかせ、森に食料を探しに行く。“Can you see any food?”と読者に問いかけているが、絵を見ると、なぜか、あるはずのない食べ物が散乱している。どうやらピクニックに来た人の弁当らしいが言及なし。リスはan apple, a lemon, a banana, an orange, an egg, a sandwich を拾って自分の木の家に押し込むが、自分が入れなくなってしまう。“Sid is a silly squirrel.” 冠詞 a と an の使い方が学べ、なぜ「バカなリス」なのか題名の謎も最後に解ける。

Level 1 (見出し語275)

⑨ *How’s the Weather?* (Richard Northcott) 写真

月曜日から日曜日までの1週間。黒人の男の子Davidと白人の女の子Lisaの服装から、その日の天気を当てる。曜日と共に、It is cloudy / rainy / windy / foggy / cold / snowy / warm / sunny / very hot. といった天気を表わす語彙が学べる。

⑩ **Jack the Hero** (Christine Lindop) 漫画

“Look out!” 老人をトラックから守り、“Got it!”と窓ガラスに当たる寸前のボール、教室の床に落ちる寸前の花瓶(vase) をキャッチして、妹や友達の危機を救うJackだが、家では、ママが“Watch out, Jack!”と、階段を滑り落ちそうな主人公を抱きとめる。

⑪ **Little Helpers** (Mary Rose) 絵

料理、洗車、買い物などを手伝う子供たち。しかし、絵を見ると、あまりうまくいっていない様子。それでも意欲は満々で、“We are all helpers. Can we help you?”と呼びかける。

⑫ **Lost Kitten** (Di Taylor) 絵

夜中に森の中で目を覚ました子猫のTobyは、“Oh, no. Where am I?” と迷子になってしまったようだが、慌てず、“I am lost. Can you help me?” と巣(nest)で暮らす鳥、蜘蛛の巣(web)のクモ、飛んでいるコウモリ(bat)に尋ねる。やっと家の前でMommyに会え、“I am home!”と帰宅を喜ぶ。

⑬ **Meet Molly** (Richard Northcott) 漫画

シルクハットをかぶった少女Mollyが顔と右手だけで登場し、飛んでいる桃色のハエに、自分の手足を描いてみせる。“These are my legs. One leg. Two legs.”と脚を描き、つづいて“These are my feet. One foot. Two feet.”と、足の単数形と複数形が異なることを示す。Mollyはさらに友人のJoeを描いて登場させ、彼のために魔法のペンで犬と恐竜を生みだす。“Do you like dinosaurs?”と訊いてドアを描き、それを開けさせて、“You see. It’s a dinosaur.”と恐竜を登場させるのがしゃれている。

⑭ **Number Magic** (Rebecca Brooke) 絵

シルクハットをかぶった少年Montyのマジックショー。帽子からrabbits, mice, birds を取り出す。頁ごとに増え、全体の数を数えさせる。ウサギ6匹は飛び跳ねて会場から去り(hop out of the room)、9匹いたネズミがドアの下から出ていくのを“Look at them go.”と注目させる。最後は、12羽いた鳥が窓から飛び去り(fly out of the window)、“That’s cool!”と歓声が上がる。

⑮ **On Safari** (Di Taylor) 絵と写真

両親と赤い車でサファリパークをまわるColin。母が運転し、シマウマ(zebras)、カンガルー(kangaroos)、サル(monkeys)、ゾウ(elephants)、ライオン(lions)をパパと見る。帰途についたColinはライオンを思い浮かべ満足する。The lions are his favorite animals.

⑯ **Where Is It?** (Christine Lindop) 絵

兄妹のJohnとAlice が捜し物を見つけてはどこにあるか表現する。散らかった子供部屋、庭、教室、玄関、台所、居間などで問題のものを捜しだす。最後は、“Where is my hat?”と訊く幼い妹に、“Look, baby. Your hat is on your head.”とAlice が教える。

Level 2 (見出し語425)

⑰ **A Visit to the City** (Mary Rose) 写真

Today is a holiday. Let’s go to the city. 電車に乗り、車がたくさん走る都会に出る。ボートが浮かぶ湖のある公園、パンダ(a panda)がいる動物園、古い車や美しい絵画が見られる博物館(museum)、遠くまで見渡せる高層ビル、さまざまな果物を売る市場などに行き、日が暮れて、“It’s time to go home. What a great day in the city.”と満足する。

⑱ **Candy for Breakfast** (Rebecca Brooke) 写真

月曜日(It’s a school day.)の朝7時、ママに起こされたMayは、“What do you want for breakfast, May?”と訊かれ、スニッカーズ(a candy bar)、クッキー(some cookies)、ケーキ(some cake)、チョコレートソースをかけたアイス(ice cream with chocolate sauce)が食べたいと言うが、どれも却下され、ママが提案したパンケーキにチョコレートソースをかけることで落着。甘いものを敵視するママは“OK, May. You can today, but not every day.”と注意する。

⑲ **Circles and Squares** (Rebecca Brooke) 絵

Every Tuesday morning Mary has art class at her school. Mary is not happy. She hates art. 火曜日の朝にある美術の授業が大嫌いな白人のMaryは、絵を描くのが得意な黒人のDavidから簡単な図形(triangles, squares, ovals, rectangles, and diamonds)を組み合わせて描く方法を教えられ、見事、農場の絵を完成する。Mary likes art now, and she loves art class on Tuesday mornings. と締め括り、めでたし、めでたしで終わる。

⑳ **Double Trouble** (Craig Wright) 絵

新しいピンクの自転車で通学途中、メガネをかけたSarahは、“Stop!”と警官に呼び止められる。“What is your name? How old are you?”と尋問が始まり、“Whose bicycle is it?”と怪しまれ、住所や電話番号まで言わされるが、なんだか警官の様子がおかしい。“Bobby. Kevin. Is that you?”と気づく。“Surprise.”級友男子のいたずらだった。

㉑ **Lost!** (Jacqueline Martin) 絵

Jamesがママに誘われ一緒にスーパー(supermarket)に出かける。“James, can you get the milk and juice, please?”と任されるが、外に漂う風船を追って迷子になってしまう。文具店の年配の女性に“Hello, what’s wrong?”と訊かれ、ママが見つからないと説明。警察署(the police station)に一緒に行ってもらい、“What’s the matter?”と訊かれ、迷子になったことを伝え、名前、年齢、電話番号を言って、ママを呼んでもらう。

㉒ **Matt’s Mistake** (Di Taylor) 絵

Cindyがママにおつかいを頼まれ、Mattと出かけるが、“Oh no! I forgot the shopping list at home.”と大事な忘れ物に気づく。“That’s OK! I can remember what we need.”とMattは自信満々だが、本当に思いだせたのか、かなり怪しい。買ったものは、apple pie, rice pops, chocolate ice cream, potato chips, grape soda, popcorn, peanut butter and cheeseburgersである。頼まれた食材は、二人が食べたい菓子になってしまった。

㉓ **Numbers, Numbers Everywhere** (Richard Northcott) 絵

土曜日の朝、起床したRoyの部屋には、カレンダーの他、マグカップや掛布団にまでいろんなところに数字が記されている。着換えたシャツには11、かぶった帽子には7の数字がついている。今日は4月1日(April 1st)、9歳の誕生日であるRoy少年は、Uncle Jimからもらった20ドルをもって電話で黒人の友人Jeffを誘い、街のおもちゃ屋へ買い物に行く。いろんな値段がついた中から、欲しい品を購入。街を歩くと、店やバスや壁にも数字があふれている。電機店に並ぶテレビの前で、Jeffは“Surprise! Happy birthday, Roy. Happy birthday to you. You are the birthday boy.”と祝う。

㉔ **Super Sam** (Craig Wright) 写真と漫画

黒人の男の子Toddが白人の女子Emmaと自宅のソファで仲良く一緒に、スーパーヒーローの漫画を読んでいる。高くジャンプできる(jump very high)スーパーブーツに空高く飛べるマント(flying cape)、透視できるメガネ

を説明したToddは元気をなくす。“What’s wrong?”とEmmaが気遣うと、「自分はスーパーサムのように飛べないし、速くも走れない」と落ち込んでいる。Emmaは「でも読み書きができてパソコンも使えるじゃない」と言って励ます。Toddは、“I am a super student!”と自信をもつ。

Level 3 (見出し語525)㉕ **Just Like Mine** (Richard Northcott) 絵

4年生(a student in Grade Four)のBiancaは金持ちの娘でわがまま。運転手つきの車でママと買い物に出るが、同じハート形のサングラスをママがかけているのが気に入らない。“I want to be special”が口癖だが、街では、自分と同じ靴、桃色のセーター(a pink sweater)、ジーンズ、帽子(a cap)を見かけ、違うものが欲しい。とにかく他人と同じものが嫌で、“I am not thirsty.”と言ってママと同じジュースは飲まない。女性が自分と同じバックパックを持ってやってくるのを見てうんざりするが、彼女は忘れ物を届けてくれたのだった。

㉖ **Let’s Go to the Rainforest** (Fiona Kenshole) 写真

1年じゅう(all year) 蒸し暑く(hot and sticky)、毎日雨が降る熱帯雨林を紹介する。飛行機で出かけ、船を降りたら、歩く。熱帯雨林の高い木々は千年も生きる(live a thousand years)。多くの鳥や動物が棲み、中にはキツネザル(lemurs)や花の中にいる小アマガエル(tree frogs)など珍しい生物も見られる。昆虫(6本の脚をもつ)は特に豊富で、さまざまな色・形・大きさのものがいる。熱帯雨林の王者はジャガー(jaguar)である。It hunts through the trees, using its ears, eyes, and nose to find an animal to eat. 地球の全生命を救うために、熱帯雨林を守ることが大切だ。If we protect the rainforest, we can help save the world.

㉗ **New Girl in School** (Christine Lindop) 絵

学校で先生が転校生を紹介。“Emma, this is Linda,” said Miss Taylor. Emmaは頼まれて、彼女を4Cクラス(Class 4C)に連れていく。一緒に絵を描くが様子がおかしい。絵筆が勝手に動いている。校庭ではスキップしたりジャンプしたりする子がいる中で、空中を飛び、音楽の時間は、ピアノとバイオリンとドラムを同時に演奏。食堂ではクッキー(cookie)を出現させる。バスケの試合や図書館での片づけでも魔法を使った彼女は魔女の娘だったようだ。ママが来て“This is the wrong school for you. You must go to the Magic School, not this school.”と言って読者を納得させる。

②⑧ **Students in Space** (Craig Wright) 絵

“How do fireflies make fire?” とか “Why do bats sleep upside down?” など、学校や家庭でたくさん質問して先生や親を困らせているGregとAnn。この兄妹が夜中にホテルを見に行つて、宇宙人に拉致されてしまう。しかし宇宙船内でもたくさん質問。答えられずに困ってしまった宇宙人は二人を解放する。最後は、“You see,” says Ann. “It is good to ask questions.”と締め括り、質問を奨励するお話だったとわかる。

②⑨ **Things That Fly** (Richard Northcott) 写真

空を飛べるのは、紙ヒコーキ(paper airplane)、凧(Chinese people made the first kites.)、気球(balloon)、飛行船(The first airship flew in 1900.)、飛行機(The Wright brothers flew the first airplane in 1903.)、ジャンボ機(jumbo jet)、ヘリコプター(helicopter)、鳥のように飛べるハンググライダー(hang glider)など。将来は、火星まで宇宙船(spacecraft)で往復できるかもしれない。

③⑩ **Uncle Jerry's Great Idea** (Norma Shapiro) 絵

土曜日、家族は公園へスポーツをしに出かけるというのに、息子のJimは部屋に残ってコンピューターで(on his computer)野球のゲームをしている。Uncle Jerryは心配し、“Just count the times we get runs and hits”と言って公園の野球場に連れだす。Jimは父親と叔父の活躍を記録し、表にして比較。新しい楽しみができた。

③⑪ **What Did You Do Yesterday?** (Jacqueline Martin) 絵

Markは泳ぎにプールへ、Donnaは腕をけがして病院へ、Martinは叔父を迎えに駅へ、Johnは本屋(bookstore)と郵便局(post office)へ、Kateは動物園(zoo)へ、Mariaは図書館へ(She likes to read. She took home five books!)、TomとRobは野球を見に球場(ballpark)へ、Clareは病気で家で寝ていたが、Mikeは誕生日でレストランへ、Amyは祖父母(her grandparents)と海水浴場へそれぞれ出かけたが、Amyの両親は働いていた。

③⑫ **Wonderful Wild Animals** (Fiona Kenshole) 写真

寒い日が好きなシロクマ(polar bears)、嫌いでも外にいる番犬(watchdog)、雨の中で遊ぶカモ(ducks)、葉っぱを傘代わりにする頭のいいリス(smart squirrel)、涼しげに泥を浴びるゾウ(Elephants love a mud bath.)、太陽と砂が好きなラクダ(camel)、夜間(night-time)にえさを求めて飛ぶコウモリ(bats)、日光(the sunshine)を浴びるのが好きなワニ(crocodile)、ライオンも手が出せないたくさんの針(spines)に守られたヤマアラシ

(porcupines)、親に守られたペンギンの赤ちゃん(baby penguin)、巣(nest)で気持ちよさそうに丸まって眠っている子ネズミ(little mouse)。それぞれ印象的な写真を使って紹介している。

Level 4 (見出し語625)

③⑬ **City Girl, Country Boy** (Fiona Kenshole) 絵

有名な「いなかのネズミとまちのネズミ」を人に置き換えた物語。田舎の農場で暮らす Tim がいとこの Anna を訪ね、初めて大都会を見る。Anna の住む高層マンションのベランダから通りを見おろして “They look like ants from up here. You're really lucky, Anna.” と、うらやましがるのは最初だけ。夜は外が騒がしくて眠れず、地下鉄は混雑し、初めてのローラー・ディスコは、“The music is too loud!” 帰りは乱暴な運転のタクシーにはねられそうになり、都会の印象はよくない。一方、“Welcome to the country!”と自信満々の Tim に迎えられた Anna は、最初こそ多くの動物に感銘を受け、“You're so lucky, Tim!” とほめるが、夜はフクロウ(an owl)が鳴いて薄気味悪く、乗馬も釣りもつまらない。結局、“You prefer the city and I prefer the country”と Tim が結論する。

③⑭ **Go, Gorillas, Go** (Fiona Kenshole) 写真

ゴリラが1人称で、自分たちの生態を人間に紹介する。サル(monkeys)との違いは尾(tail)がないこと。類人猿(apes)は他に、「森の人」という意味の、東南アジアの熱帯林で暮らすオランウータン(orangutan)や頭がよく手先が器用なチンパンジー(chimpanzee)もいる。ゴリラは5~10頭の家族単位で暮らす。190キロの体重があり、立てば人間と同じ身長がある父ゴリラ、赤ん坊を抱く母ゴリラ、遊ぶのが大好きなゴリラの子供たち(約11歳で大人になる)が毎日、長距離を歩いてえさを探す。花・葉・アリ・虫・果物などを食べる。ふだんゴリラはおとなしいが、家族を守るときは狂暴になる。最後は、“There are not many of us left, and we need your help.”と絶滅しないよう人間に助けを求めている。

③⑮ **In the Ocean** (Richard Northcott) 写真

海底には何百万もの生物が棲むすばらしい世界がある。“Let's explore the ocean together.”読者にさまざまな海の生き物を紹介する。長い針骨(spines)で刺すことができるミノカサゴ(lionfish)、1年間に何千キロも泳ぐウミガメ(turtles)、襲われると墨を吹きかけて逃げる(squirt ink at it and swim away)タコ(octopuses)、

イソギンチャク(anemones)と共生するカクレマノミ(clownfish)、植物のようにも見えるシードラゴン(sea dragon)、横4メートルにもなる世界一大きなタカアシガニ(Japanese spider crab)、海中でいちばん頭がいいイルカ(dolphins)、光に集まる小魚を食べるチョウチンアンコウ(anglerfish)、美しいが長い触手(tentacles)で刺すことがあるクラゲ(jellyfish)、海の牛とも呼ばれるジュゴン(dugongs)、見た目では船乗りにも恐れられましたが実際はプランクトンだけを食べる無害なマンタ(manta ray)、温血の哺乳類で呼吸が必要な(have to breathe air)クジラ。私たちは大切な海を守らなければならない。

③⑥ The Tough Task (Craig Wright) 絵

中国。祖父Lee Mingが木の下で、孫(grandchildren)に昔話をする。英語が苦手な少年がいた。ある日、家に帰る途中、外で本を読む老人に呼び止められて、事情を話すと、“You have to bring me three hairs from a tiger.”とむちゃな注文を出される。3本のトラの毛はどうしたら手に入るのか。“How can I do this? The tiger will kill me.”と訊くと、方法は自分で見つけろと言われる。少年は、ほら穴(cave)に棲む飢えたトラに毎日えさを与え、足のとげを抜いてやり(pulled the thorn out)、差しだした自分の手から肉を食べるまで慣らしたうえで、背中の毛を3本を抜いた。老人に届けると、英語の習得も同じだと言われる。「少しずつ、段階を踏んで」(little by little, step by step)やればいit。もちろん少年の正体は、昔話を語った祖父自身である。その後、英語が得意になったという。

③⑦ Up and Down (Richard Northcott) 絵

誕生日祝いにお金をもらったNickは姉Maryとデパートのおもちゃ売りにコンピューターゲームを買いに行く。混雑したエレベーターで降りる赤の他人にNickは興味を抱き、姉にあけすけな質問をする。2階で降りた若い男はサングラスをかけていた。Nickは“Why is he wearing sunglasses? It isn't sunny.”と疑問を口にして姉のMaryは“Shhh!”と黙らせ“Don't ask silly questions.”と注意する。ティーンエージャーのファッションフロアである3階で降りたおばあさんのことを“She looks really old! Why is she getting out here?”と訊いて同じ注意を受けるが、Nickは4階と5階でも同じような質問を繰り返す。6階で買い物を終え下りエレベーターに乗ると、問題の人物たちが乗ってきて、Nickの疑問が解ける。例のおばあさんは若者のファッションに着換えて乗り込んできた。サングラスの怪しげな男性は有名なロックスターだった。

③⑧ We Won the Cup (Craig Wright) 写真

夏休み(It's summer vacation.)。妹のMayは“We're playing against Northcliff in the Cup Final”と兄のDavidにサッカーの重要な試合があることを話すが、彼は“Soccer is a girls' sport.”と言い、友人のAlanとキャッチボールをする。それでも、妹がゴールを決めて優勝カップを持って帰宅すると、Davidは“My sister is a soccer star.”とほめたたえ、“Soccer is not a girls' sport. It's a cool sport. Well done,”と考えを改め、妹をねぎらった。

③⑨ Where People Live (Richard Northcott) 写真

民族ごとに住む家も異なる。“Let's take a trip around the world and see how, where, and why people live in different houses.”と読者に呼びかけ、世界の家を紹介する。何年も前に(many years ago)フランスで建てられた美しい城(castle)、大雪が降るスイス(Switzerland)の山の家、雪のブロックのできたドーム型の家イグルー(igloo)、草と泥で建てるアフリカの家(hut)、熱帯雨林の中に建つ高い土台柱(stilts)つきの家、日差しと熱を防ぐ小さな窓のついた粘土(clay)の家、人類最初の棲家を発展させた洞窟(cave)の家、イタリアの「水の都」ヴェネツィア(Venice)の運河沿いに建つ家、インドの美しい船の家(houseboat)、大家族が暮らす中庭つきの中国の家、地震に強い日本の木の家(写真は畳のある和室)、パプアニューギニア(Papua New Guinea)の木の家(tree house)、省エネ(save energy)のために英国で建てられた冬は暖かく夏は涼しい地下の家(What a great house to live!)。お気に入りの家をトラックとトレーラーを使って丸ごと引っ越すことができるが、家ごと旅したいのならキャンピングカーがおすすめだ。

④⑩ Yesterday, Today, and Tomorrow (Craig Wright) 絵

GaryとLesleyは引率の先生とクラスメートと一緒に、博物館に来ている。最初に過去の生活を扱ったコーナー(the Past section)を見る。“What clothes did people wear in the old days?”とGaryが質問。先生は写真の前で英国の貴族とネイティブアメリカンと中国人の衣服を紹介する。Lesleyは“How did people travel?”と質問。カヌー(canoe)、人力車(rickshaw)、馬車(horse and carriage)が説明される。当時(in those days)の住居も同じ国で比較され、アメリカ原住民が住んだテント小屋(tepee)も紹介される。当時は、電話はなく、英国では電報(telegram)、中国では手紙、アメリカではのろし(smoke signals)が使われた。一同は、現在のコーナー(the Present section)へ。服装はジーンズ(jeans)、スニーカー(sneakers)、Tシャツ(T-shirts)などに変わ

り、移動は車、バス、スクーター(scooter)、バイク(motorcycle)、住居はGaryが広い庭つきの家(a house with a big yard)に、Lesleyが高層マンション(“I live in an apartment, in a tall building”)に住んでいると言う。通信手段はケータイやメールと答える。最後は、未来コーナー(the Future section)へ。衣服は小型コン

ピューター内蔵、移動は空飛ぶ車、学校はなくなって、“They will have class at home on their computers.” 海底都市に住み、念じるだけで友達と話せるようになるかもしれないと想像する。科学技術が発達した輝かしい未来を期待して、最後はこう締め括っている。“I can't wait for the future,” says Gary.

A Guide to Dolphin Readers: Graded Readers Suitable for Elementary School Children

Koichi YOKOYAMA

Oxford University Press's Dolphin Readers, published in 2005, appears to have remained the number one graded reader series for elementary school children. Most of the books in this series can certainly be enjoyed and fully appreciated by today's children. It is ironic that by the end of the series, you might find it outdated if you read the last book, *Yesterday, Today and Tomorrow*, by Craig Wright, who correctly predicted today's smartwatches, home-schooling and flying cars.

Dolphin Readers consists of 40 books (18 to 34 pages) divided into 5 levels (Starter Level with 175 headwords to Level 4 with 625 headwords). The 8 books in each level are uniquely written, with either comic illustrations or beautiful photographs, depending on whether the content is fiction or non-fiction. In other words, the variety will prevent young learners from getting bored and will keep them engaged in the books.

How well will students be able to read English using these readers? The series starts with *Baby Animals* with photos of cute animals such as puppies, kittens and lambs. The first page, 60 percent of which is taken up by a picture, reads as follows: “This dog has two puppies. They are very cute.” There are only two short sentences.

The number of sentences increases as the level increases. At the final level, students read Fiona Kenshole's *City Girl, Country Boy*, which begins with a cartoon-style illustration of a country boy with a worried look on his face, sitting on a train to a big city, followed by these sentences: “Tim lives on a farm in the country. He is on his way to visit his cousin Anna in the city. Anna and her mother are waiting to meet him at the train station. This is Tim's first visit to the big city. He is very excited.” As Ms. Kenshole based the story on Beatrix Potter's *The Tale of Johnny Town-Mouse* (1918) or “The Country Mouse and the Town Mouse” from Aesop's Fables, the students will acquire the ability to read such stories. That is quite an achievement.

Oxford University Press's Dolphin Readers are full of inspiring, useful non-fiction books such as *A Game of Shapes, Go, Gorillas, Go, In the Ocean* and *Where People Live* (which includes a picture of a Japanese tatami room), as well as original, interesting fictional stories such as *Meet Molly* and *Up and Down*, both written by the same author, Richard Northcott. As the Graded Reader series is intended for the 21st century world, it seems that the editors were concerned not only with environmental protection, but also with racial and gender equality. It is therefore highly recommended that Dolphin Readers continue to be used in schools around the world.

IBCオーディオブック案内

——英語のリスニングを楽しもう——

横山 孝一*

(2024年11月29日受理)

はじめに

わが国を代表するグレイディッド・リーダーといえば、ラダーシリーズだが、同じ IBC パブリッシングから CD と本がセットになったオーディオブックが刊行されている。テキストが共通のラダーシリーズも音声のダウンロードが可能になっているので、IBC オーディオブックは CD とともに消えゆく運命なのかもしれないが、「アメリカでは、ベストセラーをオーディオブックで楽しむスタイルが普及しています」（シリーズ共通の「はじめに」p.7）と述べられているように、丸善などの洋書店にはペーパーバックやハードカバーの本とは別に CD（以前はカセットテープ）が並ぶオーディオブックの棚がある。有名な映画俳優や著者自身による録音や、BGM が入っているものもあり、音楽鑑賞や読書と同様に、余暇の楽しみとなる。

IBC オーディオブックは、その橋渡しをしてくれる。日本人英語学習者用に編集されたテキストで朗読は遅めにはっきり発音されているので、テキストの英語が読めればストレスなく聞き取れるだろう。好きな本があれば、このオーディオブックの CD が宝物になる。たとえば、映画『ローマの休日』のファンなら LEVEL 2 の『ローマの休日』(*Roman Holiday*)がお勧めだ。感動の名場面を引用してみよう。

“Which of the cities visited did Your Royal Highness enjoy the most?” asked another reporter. Ann looked at Joe.

“Each city in its own way...” said the general quietly, trying to remind Ann of what she was supposed to say.

“Each city in its own way was special,” said Ann. “It would be difficult to choose—”

But then she suddenly stopped. She looked at Joe again and smiled.

“Rome,” said Ann, smiling wide. “By all means,

Rome. I will never forget my time here, for as long as I live.”

“Even though you were ill, Your Highness?” asked another reporter.

“Even so,” said Ann. (pp.90-91)

オードリー・ヘプバーン(Audrey Hepburn, 1929-93)とグレゴリー・ペック(Gregory Peck, 1916-2003)が共演した映画の感動が鮮やかによみがえる。ノベライズ版が存在し、1時間11分25秒のCD1枚にその内容が収録されていると知れば、ファンはきっと欲しくなるにちがいない。推理小説ファンなら『怪盗ルパン傑作短編集』(*The Adventures of Arsene Lupin, Gentleman-Thief*)で怪盗ルパンとシャーロック・ホームズの対決が聴けてうれしいだろう。太宰治の『走れメロス』(*Run, Melos, Run*)や宮沢賢治の『銀河鉄道の夜』(*The Night of the Milky Way Train*)といった日本の名作の英訳版もある。

『英語耳』で有名な松澤喜好(1950-)が監修者として「リスニング 100%」レベルに到達するための練習法を「はじめに」で伝授しているので、高い志をもつ学習者は参照していただきたい。本稿では、2024年1月現在入手可能な全34冊について紹介する。

1. ノンフィクション

高専生や理系の大学生は小説が苦手な人が多いので、最初に実用書から紹介することにしよう。TOEIC テストで高得点をめざすため TOEIC の問題集しかやらないような人、あるいは、TOEIC の勉強をしなければならないのにどうしてもやる気が起きない人は、プリンストン大学を卒業し米国で翻訳家として活躍する寺沢美紀が集めた『人生に前向きになる英語の名言 101』(*Inspiring Quotations*)を聴くとよい。「成功と失敗」(Success and Failure)から「愛と友情」(Love and Friendship)まで7つの章に分類して、101の名言を解説つきで紹介

している。仏陀(Gautama Buddha)、エイブラハム・リンカーン(Abraham Lincoln)、アンネ・フランク(Arne Frank)、クリスチャン・ディオール(Christian Dior)、ジョン・レノン(John Lennon)、ダライ・ラマ14世(His Holiness the 14th Dalai Lama)、バラク・オバマ(Barack Obama)などの有名人の中には、理系の偉人たちが、ガリレオ・ガリレイ(Galileo Galilei)、トマス・エジソン(Thomas Edison)、ヘンリー・フォード(Henry Ford)、アルベルト・アインシュタイン(Albert Einstein)に、スティーブ・ジョブズ(Steve Jobs)や、ビル・ゲイツ(Bill Gates)も含まれている。

しかし、心に響くのは意外に文学者の言葉かもしれない。アメリカ文学の巨匠のひとりナサニエル・ホーソーン(Nathaniel Hawthorne, 1804-64)は63番の名言で、“Happiness is like a butterfly which, when pursued, is always beyond our grasp, but, if you will sit down quietly, may alight upon you.” (110)と「幸せは蝶に似ている。追い求めると、決まって逃げてゆくが、一休みすれば、ひらひら舞い降りてくるかもしれない」と述べている。また、A.A. ミルンの『クマのプーさん』から引用した65番では、

“What day is it?” asked Pooh.

“It’s today,” squeaked Piglet.

“My favorite day,” said Pooh. (113)

曜日を訊いたはずなのに、ピグレットは「今日」と答え、プー自身も「ぼくの大好きな日だ」と応じる。ユーモアの中に、毎日巡ってくる「今日」をとことん楽しもうという肯定的な意味が込められている。寺沢美紀も“Just like Pooh, we should remember that today should always be “our favorite day.”” (113) とプーの考え方を見習うよう呼びかけている。

寺沢の本はLEVEL 4。引用は原文のままなので難しいと感じた人は、LEVEL 3の『心に響く英語のことわざ・名言100』(*Inspirational Proverbs and Sayings*)のほうがよいかもしれない。有名なことわざは会話でも使う。その使用例がダイアログで示されているのがあるがたい。リスニングはTOEIC対策にもなるだろう。私たち日本人は悲観的な人が多いが、英語を通してアメリカ人の特性である楽観主義をもっと学ぶ必要があるかもしれない。80番の有名な“Every cloud has a silver lining”の解説で、著者レベッカ・ミルナー(Rebecca Milner)は、“Being positive takes practice.” (137) と言うので、悪い状況をプラスに変える発想を練習するとよい。東京在住のミルナーは失恋を例にあげ、友達と過ごす時間が増えるという利点を見出している(136-37)。楽観主義の

秘訣は恐れず希望をもちつづけることだ。フランクリンD. ルーズベルト大統領(Franklin D. Roosevelt, 1882-1945)は、“The only thing we have to fear is fear itself.”(本書96番、155)と言った。これについて著者は、“It is important to stay positive and hope for the best. Without hope, it is impossible to imagine a better future. Fear destroys this hope and that is why it is dangerous. Fight back against fear with positive thinking.” (156)と解説を加えた。常に希望をもつことが重要なのだ。そのために、恐怖を克服する必要がある。ぜひともプラス思考を身に着けたい。

LEVEL 2の『恋と仕事にスグ効く英語100』(*Signposts for Balance in Love and Work*)も同様のプラス思考を鍛える本だ。「理想の男性と出会う方法」(How to Meet The Man of Your Dreams)から始まっているので女性向けに書かれていることがわかるが、男性にも有用な名言を多数見つけることができる。67番の“Don’t compare yourself with others.”(自分を他人と比較するな)は、劣等感をもつ男性にも「スグ効く」のではなかろうか。さんざん男たちを見比べているくせに自分は例外とする女のご都合主義はこの際、気にしなくていい。著者曰く、“Comparing yourself with another person is like comparing an apple with an orange. Both taste good, both are good for you, both have a purpose, both are of value, but not in exactly the same way.”(139-40)なのだそう。自分には他人と比較できない長所があると考えるのもプラス思考だ。これで自信と希望が手に入れば、英語学習にも力が入るというものだ。

他人と比較してはいけないとは言っても、自分に足りないことを学ぶ、お手本とすべき傑出した人はいるものだ。いわゆる偉人伝として『ガンジー・ストーリー』(*The Gandhi Story*)がお勧めできる。インドを独立に導くまでの長い闘争の日々が語られているが、やはり興味がわくのはガンジーの人間性だ。ガンジーは13歳で親の決めた結婚をした。イギリスの植民地インドの現実に違和感を抱く人もいるだろうが、60年連れ添った妻の死について“Gandhi felt like part of him died with her.” (95)と聴けば、妻を一個の人間として見ていなかったと憤る人より、一心同体の夫婦愛に感銘を受ける人のほうが多いのではないか。ガンジーと言えば、非暴力主義だ。戦争のニュースが絶えない今こそ再評価されるべき戦術かもしれない。2000年にカナダから来日したという著者のジェイク・ロナルドソン(Jake Ronaldson)は、“The famous American, General Douglas MacArthur once said something important about Gandhi. He said that if the world is going to survive, then everyone must accept Gandhi’s teachings about nonviolence.”

(110)と本書を締め括っている。現代の戦争の行きつく先は核戦争で、地球の破滅につながることは明白だろう。人類が生き延びるためには、ガンジーの非暴力主義を受け入れるしかないということだ。本書は「TOEICテスト300点以上」が対象なので、未来を担う中高生に聴いていただきたい。

未来と言えば、高度経済成長を遂げ「世界の日本」となった、わが国の戦後経済について知っておくべきだ。小林佳代の『日本の経済』(*The Japanese Economy*) [改訂版]は2021年11月に出版された。国中を大混乱に陥れたコロナ禍(The Ravages of Covid-19)が書き加えられているので、若い学習者たちも最後に自分の体験と重ね合わせることができる。米軍の空襲で壊滅した産業が戦後に息を吹き返し、1960年の「所得倍増計画」(the Income Doubling Plan)の目標を大きく上回る高度成長を達成して、後世に誇るべき世界第2位の「経済大国」(an economic superpower)に成長した。1985年のプラザ合意(the 1985 Plaza Accord)で円高が加速して輸出が減り、国内の不動産投資ブームで地価が異常に上昇し、ついに暴落。1990年代初頭に日本のバブル経済(Japan's bubble economy)は崩壊してしまった。現在では信じられないような栄華を極めた日本は、いまでも多くの日本人のあこがれだ。バブル経済崩壊後、1996年に政府が計画した金融制度改革「日本版ビッグバン」(the Big Bang in Japan)や2012年に返り咲いた安倍晋三首相のデフレ脱却をめざす経済政策「アベノミクス」(Abenomics)等の試みもあったが、過去の栄光は戻らない。世界で人気のテレビゲーム、マンガ、アニメに期待をかけ、外国人観光客を国内に呼びこむ観光業でどうにか凌いでいるが、「少子高齢化」("The Aging Society and Declining Birthrate" pp. 101-04)と「貧富の差」("The Growth of Inequality" pp. 127-29)が日本経済を根底から崩そうとしている。現代の若者たちはこの現実を直視したうえで、希望をもち、プラス思考で明るい未来を構想しなければならない。

そのためには、明治時代に西洋化を成し遂げたわが国の原動力を知る必要がある。新渡戸稲造の『武士道』(*Bushido: The Soul of Japan*)が役に立つ。1920年から26年まで国際連盟事務次長を務めた新渡戸は真の国際人で、1900年に出版された本書は日本人による英語の名著である。キリスト教国でない日本にも西洋に引けを取らない道徳体系があり、それが武士道だと新渡戸は説明している。礼儀正しく、負けた敵に情けを見せる武士は、義のためには命を惜しまぬ勇気を示す。忠孝や愛国心に軍国主義の影を見て不快になる人もいるだろうが、日本の独立を守った先祖の精神には学ぶことが多い。本書は、アルジャーノン・ミットフォード(Algernon Mitford,

1837-1916)の名著『昔の日本の物語』(*Tales of Old Japan*, 1871)から、切腹の儀式に立ち会ったときの体験を綴った生々しい描写の引用がある(pp. 91-93)。CDではミットフォードが直接語っているかのような迫力があり、その内容に圧倒されることだろう。野蛮な文化だと思わないでいただきたい。英国の外交官でさえ、そこに高潔な志を見出したのだ。

2. 日本の物語

現代の日本の若者は意外にも、自国の物語を読んでいない。外国に行つて質問されて、自分の無知に気づくことも多い。有名な日本の物語もオーディオボックスに収録されているので、この機会に、英語で聴いてみよう。

まずは、おなじみの『日本昔ばなし』(*Long-ago Stories of Japan*)から始めてみてはどうだろうか。“Momotaro”から“Treasure Clogs”まで19編もの物語からなる1冊でCD2枚、1時間40分ほど楽しめる。主人公の名前が題名になった「桃太郎」「一寸法師」「浦島太郎」は英語でもそのままだが、「金太郎」はなぜか“The Golden Boy”、“三年寝太郎”は“The Man Who Slept for Three Years”、“こぶとりじいさん”は“The Old Man with a Lump”、“かぐや姫”は“The Bamboo Princess”、“六地蔵”は“Six Little Statues”としてあり、英語で意味がとれる。それならば、他の本で使用されている“Peach Boy”(桃太郎)、“The Inch-High Samurai”(一寸法師)のほうが親切だ。好みもあろうが、英訳の際、日本の名前をどう扱うかは問題とすべき点だ。「カチカチ山」は“Kachi Kachi Mountain”と訳しており、山の名前とわかるが、「かちかち」は日本人以外、意味不明だ。“The Crane Gives Back”“A Sparrow with Her Tongue Cut Out”“Monkey vs. Crab”はそれぞれ何の英訳かわかるだろうか。動物の英単語を学べば、すぐわかる。craneはツル、sparrowはスズメ、crabはカニだ。つまり、「鶴の恩返し」「舌切り雀」「猿蟹合戦」だ。昭和時代には子供たちの間で『まんが日本昔ばなし』というアニメが広く視聴されていたので以上の物語を知らない者はまずいなかったが、現代の子供はどうなのだろう。もし知らなかったら、以上の昔話は日本の財産なので、ぜひこのオーディオブックを使って学んでいただきたい。なお、収録されている“The Mouse's Wedding”は、日本国内よりも海外で人気があるようなので、ぜひとも知っておく必要がある。

多彩でユニークな昔話から、わが国の児童文学は発展していった。新見南吉『ごんぎつね 手袋を買いに』(*Gon, the Fox / Buying Some Gloves*)は、1943年29歳

の若さで結核で亡くなった作家の創作童話を2編収める。「ごんぎつね」は兵十(Hyoju)と子ぎつねごん(Gon)の悲劇的な心の交流を描いた名編で、幼い読者は感情移入を学ぶにちがいない。「手袋を買いに」のほうはメルヘンチックでほのぼのとした味わいがある。しかし、著者の意図は深い。“Human beings aren’t so terrible”(57)と感想をもつLittle Foxに対し、母ぎつねは“Are human beings really good? Are they really good?”(58)と自問して物語は終わっている。リスナーに反省を促す問題提起だ。なお、愛知県半田市に、新見南吉記念館がある。

昔話を大人の読者の鑑賞にたえる文学作品に仕立てた作家もいる。芥川龍之介(1892-1927)だ。『鼻 杜子春』(*The Nose / Toshishun*)はどちらも楽しく聴くことができるだろう。「鼻」のほうは大きな鼻にコンプレックスをもつ僧がなんとか小さくしようと奮闘するさまがなんとも滑稽だが、世間の目と劣等感のつながりを考察した風刺ものとして考えさせられる。「杜子春」は中国起源で、浪費家の杜子春が仙人と出会って摩訶不思議な体験をし、まっとうな人間に成長する話である。4歳で母を亡くした新見南吉が『ごんぎつね 手袋を買いに』で母を讃えているように、芥川の「杜子春」でも子供を思う痛切なる母の愛が印象に残るだろう。

江戸時代の昔話を知りたい人には『落語』(*Rakugo*)がお勧めだ。「初天神」(*The First Visit to the Tenjin Shrine*)「猫の皿」(*The Cat’s Dish*)「饅頭こわい」(*The Scary Bean Cakes*)「目黒のさんま」(*Meguro’s Sanma*)「芝浜」(*The Wallet Found on the Beach at Shiba*)が収録されている。落語は読むものではなく聴くものなので、オーディオブックが最適だ。本には時代劇でおなじみの江戸の町人や侍がユーモラスに描かれた挿絵がつくが、英語のリスニングでこの絵が思い浮かぶかどうかはちょっと疑問だ。天神の祭りに問題児の息子・金坊(Kinbo)は連れていかないと、妻と口論する熊五郎(Kuma)は、帰ってきた金坊と次のような会話を交わす。

Kinbo: Hi, Mom! Hi, Dad! You’re arguing again. You guys shouldn’t cause trouble in the house.

Kuma: Don’t call us you guys! That’s no way to talk to your parents.

Kinbo: It’s nothing to get angry about, Dad. Are you going somewhere? (19)

現代のアメリカ人家庭での一コマのように受けとれるだろう。翻訳が生み出すこのようなチグハグさも楽しみたい。TOEIC350点以上レベルだそうだから、リスニングが苦手な人には、日常英会話として聞き取りの勉強になるはずだ。

太宰治『走れメロス』(*Run, Melos, Run*)と宮沢賢治『銀河鉄道の夜』(*The Night of the Milky Way Train*)は日本人が西洋を舞台に書いた物語なので、英訳向きだ。日本語が英語に変わっても、さほど違和感なく物語世界に没入できるのではないか。人間不信に陥って殺戮を繰り返すディオニス王(Our king, Dionysius)を改心させることになる羊飼いまろと親友セリヌンティウス(Selinuntius)の友情の物語は、結末がわかっているも聴きごたえがある。洪水や山賊をものともしないメロスの超人ぶりには心底驚かされる。これは派手な冒険ものでもある。一方、『銀河鉄道の夜』もジョバンニ(Giovanni)とカンパネラ(Campanella)の友情の物語だが、その幻想性は、日没前に到着しようと走りつづける『走れメロス』とは対照的だ。銀河鉄道とはいったい何なのか。タイタニック号で亡くなったらしい幼い姉弟とその家庭教師の青年が乗り込んできたり、アメリカインディアンが登場したり、光り輝く十字架のもと、主人公の二人以外下車した人びとがイエス・キリストらしき者に迎えられたり……刺激的な展開ながら謎だらけで最後は衝撃の真相と希望の結末へと至る。わからないことは宮沢賢治の研究者に頼るしかないが、それまでは独力で何度も聴いて、賢治のイメージした壮大な宇宙観に思いを馳せたい。

3. 海外の物語

日本の昔話が気に入ったら、海外の昔話にも挑戦してほしい。まずは古代ギリシャの有名な『イソップ物語』(*Aesop’s Fables*)だ。ここでいう物語とは教訓を含む、動物(重複を避けて出てくる順に英語であげると、bat, bear, fox, stork, mouse, crab, sea anemone, wolf, lion, crow, snake, crane, frog, ox, hare, tortoise, cow, ant, grasshopper, goose, donkey, raven等)を擬人化した「寓話」のことだ。TOEICテスト対策が最良の英語教育と信じる某校長が「私の学生時代は英語の授業にイソップを読まされた」と嘆いていたが、この寓話は現代まで読み継がれていることからわかるように、時代を超えた一流の教材である。それぞれの話は短く簡潔なので、内容が理解できるまで繰り返し聴くとよい。英語を聴く力が伸ばせるだけでなく、生活に役立つ知恵が身につくはずだ。「北風と太陽」(*The Wind and the Sun*)、「オオカミ少年」(*The Boy Who Cried Wolf*)、「ウサギと亀」(*The Hare and the Tortoise*)、「アリとキリギリス」(*The Ant and the Grasshopper*)のほか、ビアトリクス・ポター(Beatrix Potter, 1866-1943)の、わが国では石井桃子訳で有名な『まちねずみ

ジョニーのおはなし』(*The Tale of Johnny Town-Mouse*, 1918)の原作である「いなかのネズミとまちのネズミ」(*The Country Mouse and the Town Mouse*)も収録されている。これもイソップだったんだ、とギリシャの昔話のすごさを感じてもらえると思う。

ドイツの昔話と言えば、グリム兄弟(*The Brothers Grimm*)が編纂した『グリム童話』が有名だ。昔話の採集はお年寄りから聴いて集めたはずなので、これもオーディオブックの『グリム名作選』(*The Best of Grimm's Fairy Tales*)で味わっていただきたい。CD 2枚で約2時間、8編を収める。『日本昔ばなし』よりも長く複雑な話が目立つが、共通して洗練されていない民衆の残虐さや泥臭さを感じられる。お菓子の家で有名な「ヘンゼルとグレーテル」(*Hansel and Gretel*)、カエルに対するお姫さまの態度が笑いを誘う「カエルの王子」(*The Frog Prince*)、欲ばりな女性のエスカレートする要求とその結末が痛快な「漁師とおかみさん」(*The Fisherman and His Wife*)が物語としてわりと整っており、楽しく聴くことができるだろう。

グレイディッド・リーダーや世界名作全集ではグリムとともにかならず収められる『アンデルセン名作選』(*The Best of Andersen's Fairy Tales*)も聴くとよい。こちらは民話ではなく、デンマークの作家ハンス・クリスチャン・アンデルセン(*Hans Christian Andersen*, 1805-75)のオリジナル童話である。収録されているのは、名作中の名作4編。誰もがよく知る「裸の王さま」(*The Emperor's New Clothes*)と「みにくいアヒルの子」(*The Ugly Duckling*)は昔話として通用するほどの教訓を含む。「しっかり者のスズの兵隊」(*The Steadfast Tin Soldier*)は冒険奇譚ながら最後の唐突でロマンチックな締め括りが感動を呼ぶ。生涯独身だったアンデルセンは、ロマンスにあこがれた繊細な作家だったのだろう。圧倒されるのは巻頭の「人魚姫」(*The Little Mermaid*)だ。わが国で『怪談』(*Kwaidan*, 1904)を書いた小泉八雲ことラフカディオ・ハーン(*Lafcadio Hearn*, 1850-1904)が晩年絶賛していたように、アンデルセンは一流の作家である。彼の想像力が生み出した究極の愛と美しすぎる失恋は何度でも聴く価値がある。ディズニーのアニメ版『リトル・マーメイド』のハッピーエンドとは違う結末であることをまずは知っていただきたい。

同じくディズニーで有名になった『美女と野獣』(*Beauty and the Beast*)のほうは、ニューヨーク生まれの日本語教師ザンティ・スミス・セラフィン(*Xanthe Smith Serafin*)がフランスの有名な民話をディズニーで知る日本人読者のために書き下ろした本だ。典型的昔話の雰囲気を残し、“The next day Beauty and Prince Rodwick had a wonderful wedding and they all lived

happily ever after.” (61)とハッピーエンドで50分間のリスニングはめでたく終了する。

昔話の教訓や形式が気に入った人は、アメリカ短編小説作家の『オー・ヘンリー傑作短編集』(*O. Henry's American Scenes*)を聴いてみよう。主にニューヨークを舞台に、意外でしゃれたオチがつく短編小説7編を収録。有名な「賢者の贈り物」(*The Gift of the Magi*)と「最後の一葉」(*The Last Leaf*)「20年後」(*After Twenty Years*)が入っている。服役経験のある作者 (O. Henry, 1862-1910)らしい物語は「20年後」だけでなく、3、4編めの“The Cop and the Anthem”と“A Retrieved Reformation”も同様だ。皮肉と悲哀が感じられて、聴きごたえがある。最後の残り2編“Transients in Arcadia”と“The Green Door”は、都会の退屈を忘れさせてくれるつかの間の冒険。オチがアンチクライマックスとなるが、そのぶん空想的だった本編が輝かしく記憶されるだろう。

4. 児童文学

取っつきやすさから言えば、次に児童文学があげられるが、子どもっぽいと思う人は無視してもよい。ただし、大人になってから聴くと、よく理解できる子供向けの本はある。大人の女性向けに恋愛小説を書きつづけている小池真理子(1952-)の愛読書は『クマのプーさん』(*Winnie-the-Pooh*)だ。A.A. ミルン (Alan Alexander Milne, 1882-1956) は男性作家だが、『人生に前向きになる英語の名言101』で寺沢美紀も引用しているように男女を問わずアピールする内容らしい。息子のクリストファー・ロビン(*Christopher Robin*)を主人公に書いた物語は、ぬいぐるみの動物が友達だった閉じられた幸せな子供時代を表わしている。ナンセンスな数々の冒険の中で、クマのプーさんとの友情が築かれる。頭は悪いが性格のよいプーはじつに魅力的だ。1時間54分の朗読の中でいちばん楽しく聴けるのは、このプーを褒めたたえる詩“Anxious Pooh Song”かもしれない。

3 Cheers for Pooh!

(For Who?)

For Pooh—

(Why what did he do?)

I thought you knew;

He saved his friend from a wetting!

3 Cheers for Bear!

(For where?)

For Bear—

He couldn't swim,

But he rescued him!
 (He rescued who?)
 Oh, listen, do!
 I am talking of Pooh—
 (Of who?)
 Of Pooh!
 (I'm sorry I keep forgetting.)
 Well, Pooh was a Bear of Enormous Brain—
 (Just say it again!) (162)

韻を踏んでいる調子のよさはリスニングでこそ実感でき、英語の響きのおもしろさを堪能できる。暗唱するのは文字どおり無意味かもしれないが、何度でも聴きたくなり、まねをしてみたくなる。

『クマのプーさん』を気に入った学生には、ルイス・キャロル(Lewis Carroll, 1832-98)のCD 4枚 4時間14分にも及ぶ『不思議の国のアリス』(*Alice's Adventures in Wonderland*)をお勧めする。オックスフォード大学の数学者で幼女の写真を撮りつづけた変わり者がアリス・リデル(Alice Liddell, 1852-1934)へのクリスマスプレゼントとして書いた物語が土台になっている。プーさんの仲間ピグレット(Piglet)やイーヨー(Eeyore)が忘れがたいように、『不思議の国のアリス』にも強烈に印象に残るキャラクターが多数登場する。The White Rabbit, the Dodo, the Caterpillar, Cheshire-Cat, the Duchess, the March Hare, the Hatter, the Dormouse, the Queen, the Mock Turtle, the Gryphon, the King 等。特に名前があるわけでもないのに作者が思いついた奇抜なエピソードからそれぞれ忘れがたいキャラクターになっている。第11章「誰がタルトを盗んだのか?」(Who Stole the Tarts?), アリスが裁判を受ける場面で、プー讃歌に匹敵する印象深い英詩が朗読されている。

*"The Queen of Hearts, she made some tarts,
 All on a summer's day:
 The Knave of Hearts took those tarts
 And took them far away!"* (150)

音声で聴くと、これも心地よい。アリスが過酷な裁判をどう切り抜けるのかはお楽しみ。数学的思考で書かれたと言われているこの本は理系の学生と相性が良いはずなので、ぜひオーディオブックで試していただきたい。

子供時代にこだわる英国人作家はミルン、キャロルの他にもう一人いる。ジェームズ・マシュー・バリー(J. M. Barrie, 1860-1937)だ。『ピーター・パン』(*Peter Pan*)は『クマのプーさん』『不思議の国のアリス』と並ぶ、楽しい子供時代を永久のものとして描き切った傑作

だ。ネバーランドにおけるピーターと海賊フックの宿命の対決は残酷でも子供時代のワクワク感を思い起こさせるだろう。それにしても、永遠の子供であるピーターやロスト・ボーイズ(The lost boys)は自分たちの世話をしてくれる母親代わりを必要とするが、ウェンディ(Wendy)もその娘ジェーン(Jane)も、さらにその娘のマーガレット(Margaret)も、子供でなくなると空を飛べなくなり、ネバーランドには二度と行けなくなってしまう。大人になる哀しみを自覚する人は少ないだろうが、本書を聴く者は最後の Chapter 12. Wendy Grows Up で、永遠の子供ピーター(あるいは作者本人?)のとてつもない孤独感を知って同情するにちがいない。

同様に永遠の子供であった作家はフランス人のサン＝テグジュペリ(Antoine de Saint-Exupéry, 1900-44)だ。『星の王子さま』(*The Little Prince*)は英訳でも広く読まれている。6年前、サハラ砂漠に不時着した飛行機乗りの語り手が出会った星の王子さまは、大人たちが絶対に理解してくれなかった一見帽子のように見える、ゾウをのみ込んだ大蛇の絵を正しく言い当てた。本書のテーマは、キツネが教えてくれた “We do not see clearly, except when we look with our hearts. The things that are most important cannot be seen with our eyes.” (115-16) 「もっとも大切なものは目には見えない。心で見ないと、はっきりは見えないのだ」。自分の小さな星に置き去りにしてしまったわがままな花には作者の愛する女性が投影されているのだろう。死を覚悟で彼女の元に帰る王子さまの痛ましい姿は、44歳で戦場の空に消えた作者の最期と重なって、大きな感動が押し寄せてくるだろう。子供のままの感性を保っている人は、繊細な男性作家に多いらしい。

子供時代へ戻りたい女性はそういないだろうが、子供を描ける女性作家は多い。日本では村岡花子(1893-1968)が1954年に訳し、1975年に世界名作劇場でアニメ化されたウィーダ(Ouida, 1893-1908)の『フランダースの犬』(*A Dog of Flanders*)は、迫害された貧しいネロ少年(Nello)と愛犬パトラッシュ(Patrasche)のあまりにも悲しい生涯を栄光あるルーベンス(the great Rubens)の絵へのあこがれとともに描きだしている。またフランシス・ホジソン・バーネット(Frances Hodgson Burnett, 1849-1924)も『小公女』(*A Little Princess*)でインドからロンドンの寄宿学校に入学して優遇されていた少女セーラ(Sara)が、金持ちの父を亡くしたとたんミンチン(Miss Minchin)校長に虐待される悲惨な子供時代を描いている。ネロが逆境に耐えたように、セーラは気高さを失わず、プリンセスの気概を持ちつづけたおかげで幸運をつかむことになる。こちらはハッピーエンドなので、安心して聴いてほしい。これも1985年に世界名作劇場で

『小公女セーラ』の題でアニメ化されているが、1979年に同劇場で放送された高畑勲(1935-2018)が監督した『赤毛のアン』のほうが完成度は高かった。オーディオブックでL. M. モンゴメリ(Lucy Maud Montgomery, 1874-1942)の原作『赤毛のアン』(*Anne of Green Gables*)が聴けるのはありがたい。想像力豊かな孤児のアンがマッシュューとマリラの兄妹が営む農場に引き取られた後のおもしろいエピソードの中には省かれたものもあるので、気に入った人は海外のオーディオブックも入手するとよい。村岡花子の邦題が示すとおり、主人公のアンは、赤毛に劣等感をもち、「ニンジン、ニンジン」(Carrots! Carrots!)とからかったギルバートに怒りを爆発させる。

Anne looked straight at him. Then she did more than look. She jumped to her feet, her eyes sparkling with angry tears. “You mean, hateful boy! How dare you!” And then—thwack! Anne broke her writing board right over Gilbert’s head. (57)

『赤毛のアン』はこのギルバートとの恋愛物語でもある。二人が和解して立ち話をするハッピーエンドには恋の芽生えを感じとれて、リスナーの胸を打つ。モンゴメリは、作品の舞台でもあるカナダのプリンスエドワード島出身。

オーディオブックで聴けるアメリカ児童文学も紹介しておこう。世界名作劇場で『赤毛のアン』の翌年の1980年に放送されているマーク・トウェイン(Mark Twain, 1835-1910)原作の『トム・ソーヤーの冒険』(*The Adventures of Tom Sawyer*)だ。わが国で大人気のアニメシリーズであった世界名作劇場の影響が強く感じられるラインアップだが、聴いても楽しめることは保証できる。子供時代の万国共通の冒険心を描いた普遍的なエピソードに満ちている。粋組みの殺人犯インジャン・ジョー(Indian Joe)との対決が本物の迫力で、ハッピーエンドで終わる。ベッキー(Becky)との淡い恋もうまく取り入れてあり、満足度は高いだろう。

もう一つは、フランク・ボーム(L. Frank Baum, 1856-1919)の『オズの魔法使い』(*The Wizard of Oz*)。アメリカの代表的なファンタジーで、ジュディ・ガーランド(Judy Garland, 1922-69)が主演したミュージカル映画(1939)はアメリカ人の国民的映画である。脳みそが欲しいかし(the Scarecrow)、心が欲しいブリキの木こり(the Tin Woodman)、勇気が欲しい臆病ライオン(the Cowardly Lion)とともに、カンザスから竜巻で飛ばされてきたドロシー(Dorothy)と愛犬トト(Toto)は家に帰るためエメラルドの都に君臨する偉大なる魔法使いオズを訪ねる旅に出る。本書はグレイディッド・リーダーでは定番の作品でさまざまなバージョンがある。(詳しくは、

「『オズの魔法使い』と映画、翻訳、グレイディッド・リーダー」を検索) IBC版では帰りの旅に省略が目立つので、お試しで本書を聴いて好きになった人はアメリカのオーディオブックも入手してみるとよい。元が児童書なので、英語が少し古くても難易度は大差ない。

5. 英米仏の文学

英語を学ぶ者にとっては英米文学が最高峰のはずだが、現行のオーディオブックのラインアップは昨今の文学離れを反映してか、ずいぶん貧弱だ。まずはウィリアム・シェイクスピア(William Shakespeare, 1564-1616)の『ロミオとジュリエット』(*Romeo and Juliet*)が戯曲ではなく現代英語に書き直したノベライズ版で楽しむことができる。オリジナルは難しいから、ジュリエットの次のような嘆きは理解しやすいだろう。

“Oh, Romeo, Romeo! Why are you Romeo?” she said. “Throw away your name of Montague, and I will be your lover! Or, if you won’t do that, tell me that you love me and I will stop being a Capulet. You are not my enemy, only your name is. What is a Montague? It’s not a hand, a foot, a face, or any other part that belongs to a man. Romeo would be just as perfect if he were called something else. Oh, if only you had another name! Throw away your name, and instead, take all of me!” (45)

『ロミオとジュリエット』は敵対するモンタギュー家とキャピュレット家の争いに巻き込まれた恋人たちの悲劇だ。初めて恋をしたジュリエットの一途な思いには共感できるが、ロザライン(Rosaline リーダーズ英和辞典にも「Julietに会う以前のRomeoの恋人；登場はしない」と載っている有名な人物)に失恋し、その美を讃えて、彼女めあてにキャピュレット家の仮面舞踏会に潜り込む、ロミオの一目惚れは信用できない。このあとの悲劇は、間抜けすぎるロミオのせいで起こる。一般的には究極の恋愛劇のように思われているので、実際はどうか自分の耳で確かめていただきたい。

もう一つの英文学作品にヴィクトリア朝の人気小説家、チャールズ・ディケンズ(Charles Dickens, 1812-70)の有名な『オリバー・ツイスト』(*Oliver Twist*)をTOEIC 470点未満レベルで挿絵入りの126ページ、CD 2枚98分にまとめた本がある。救貧院で生まれたオリバーが立派な紳士に成長する一代記が簡略版で楽しめる。子供たちをスリの一団に養成するユダヤ人のフェイギン(Fagin)、

自己犠牲でオリバーを助けるナンシー(Nancy)、彼女を残酷に殺すビル・サイクス(Bill Sikes)、オリバーを善に導くブラウンロー(Brownlow)など、わかりやすい典型的登場人物が魅力である。

Level 2の『ロミオとジュリエット』に対しLevel 4に分類されているジョージ・オーウェル(George Orwell, 1903-50)の『動物農場』(*Animal Farm*)はスターリンの横暴を皮肉り、共産主義ソ連の現実を見事なまでに風刺した1945年出版の小説だ。イソップの寓話のように動物を擬人化しているので、教訓がわかりやすい。動物たちを文字どおり搾取する人間の農場主を追い出して革命を実現。自分たちのため民主的な動物農場に改めたというのに、同志を束ねるリーダーの豚たちの間で争いが勃発。子犬から育てた獰猛な番犬を武器に、豚のナポレオン(Napoleon)が独裁者として君臨する。解放された動物の自由を保障する歌(“Beasts of England”)も七戒(the Seven Commandments)も“Four legs good, two legs bad.”の掛け声も禁じられ、豚が二本足で歩きだす皮肉な結末に圧倒されること間違いなしだ。

フランス文学からは、ヴィクトル・ユーゴー(Victor-Marie Hugo, 1802-85)の『レ・ミゼラブル』(*Les Misérables*)が収録されている。大作でLevel 5に分類されているが、ダイジェスト版に変わりなく、154ページ、CD 2枚、1時間43分に収めている。姉の子を養うためにパンを盗んで19年も服役したジャン・ヴァルジャン(Jean Valjean)が銀食器を盗んで去ったのち警察に逮捕されたのを、司教(the bishop)が自分が与えたとかばい、燭台まで持たせる。これで善に目覚めた主人公ジャン・ヴァルジャンの奮闘は感動を呼ぶ。娘として大事に育てたコゼット(Cosette)と彼女に一目惚れしたマリウス(Marius)に看取られる最期と無名の墓石を描いたラストまで、音声では駆け足のように感られるダイジェストではあるが、原作をあとでゆっくり楽しみたいと思わせる重厚な物語世界が感じとれる。

アメリカ文学は1冊のみ。村上春樹の宣伝で日本でも人気定着した、F. スコット・フィッツジェラルド(Francis Scott Key Fitzgerald, 1896-1940)が書いた『グレート・ギャツビー』(*The Great Gatsby*)である。1920年代のギャングの姿も垣間見える、血塗られた不倫小説だが、すでに人妻になっている昔の恋人デージー(Daisy)を取り戻すために大金持ちになった、ナイーブにも思えるギャツビーの純情ぶりが、中西部出身の株式仲買人の「僕」によって語られている。みじめに死んだギャツビーを「偉大」にするのは、この語り手の共感だ。葬式の後、貧しい老父が見せる少年時代のギャツビーの日課(SCHEDULE, SEPTEMBER 12, 1906)は、名作の主人公がきまじめな努力の人であったことを示している。

Rise from bed.....6 a.m.
Exercise.....6:15-6:30 a.m.
Study electricity, etc.....7:15-8:15 a.m.
Work.....8:30-4:30 p.m.
Baseball and sports.....4:30-5:00 p.m.
Practice speaking and poise.....5:00-6:00 p.m.
Study.....7:00-9:00 p.m. (151)

そして、目標(GOALS)もしっかり掲げていた。

No wasting time
No more smoking
Bath every other day
Read one book or magazine per week
Save \$5.00 [crossed out] \$3.00 per week
Be better to parents (152)

『人生に前向きになる英語の名言』に収録してもいい、実践的な日課と目標である。

おわりに

とはいえ、英語のオーディオブックはやはり楽しみのために聴くのがいちばんだ。聴いて楽しいと実感できるのは、推理ものかもしれない。名探偵の傑作が2冊ある。まずはコナン・ドイル(Arthur Conan Doyle, 1859-1930)の『シャーロック・ホームズの冒険』(*Adventures of Sherlock Holmes*)だ。“A Scandal in Bohemia,” “The Red-headed League,” “The Adventure of the Speckled Band,” “The Boscombe Valley Mystery”の4編を収録。「ボヘミアの醜聞」を巻頭に据えたところがしゃれている。女に無関心のように見えるホームズが感嘆する思い出の女性アイリーン・アドラー(Irene Adler)の魅力が描かれている。「赤毛組合」と「まだらの紐」はあまりにも有名な入門編だが、最後の「ボスコム谷の惨劇」は殺人犯がだれか、動機は何かを考えさせる異色作。以上、名探偵の変化にとんだ難事件が楽しめるだろう。

『シャーロック・ホームズ傑作短編集』(*From the Files of Sherlock Holmes*)は、“The Reigate Puzzle,” “The Adventure of the Devil’s Foot,” “The Adventure of the Golden Glasses”の3編からなる。「ライゲートの謎」は、多忙な世界的名探偵が静養中に解決する事件だが、「悪魔の足」ではまさにその名声が国中に轟いていることがわかる。

“Mr. Holmes,” said the vicar in a worried voice,
“the strangest and most unbelievable thing has

happened during the night. We are so pleased that, by chance, you are here at this time, for you are the man we need most out of all the men in England.” (63)

相棒のワトソンと解決する「悪魔の足」による怪事件は、ホームズの魅力であふれている。最後の「金縁の鼻眼鏡」は話がロシアに飛ぶ政治ものだが、ホームズ流の推理と調査が描き込まれていて楽しめるだろう。

ホームズのライバルと言えば怪盗ルパン!! フランスの人気作家モーリス・ルブラン (Maurice Leblanc, 1864-1941) が書いた『怪盗ルパン傑作短編集』(*The Adventures of Arsene Lupin, Gentleman-Thief*) は9編の短編からなる。鮮やかなどんでん返しに驚かされるだろう。なかには複雑な背景のものもあり、TOEICテスト400点以上の分類ながら、リスニングの難易度は決してやさしすぎることはない。わからなかったら理解できるまで聞き直せばいい。泥棒でも紳士的なルパンの魅力がわかってきて好きになるだろう。最後にシャーロック・

ホームズを登場させる “Sherlock Holmes Arrives Too Late” を配置しているのは、オーディオブック・ファンへの大サービスだ。ルブランが自分の創造したルパンをひいきするのは当然で大目に見てやる必要があるが、夢の競演をとにかく楽しんでほしい。

推理小説の古典で、シャーロック・ホームズの作者に比肩するのは、同じ英国のアガサ・クリスティ (Agatha Christie, 1890-1976) だ。探偵エルキュール・ポワロが思い浮かぶだろうが、現行のオーディオブック収録作は、名探偵ぬきの『そして誰もいなくなった』(*And Then There Were None*) だ。イギリスデボン州の孤島に招かれた客たちが、客室の壁に掛けられた10人の兵隊の童謡のとおり殺されていく。犯人はいったい誰なのか。クリスティは読者に犯人を考えさせる名手で、本作品も意外な人物が犯人だ。「ミステリーの女王」として人気のアガサ・クリスティの本はグレイディッド・リーダーやネイティブ向けのオーディオブックになっているので、気に入ったらぜひ集めてみるとよい。IBCのオーディオブックはよい橋渡しになる。

A Guide to IBC Audio Books: Let's Enjoy Listening to English

Koichi YOKOYAMA

This paper is a guide to the 34 IBC audio books published and still available in Japan as of January 2024. According to supervisor Kiyoshi MATSUZAWA (1950-), the series was designed to improve Japanese students' ability to listen to English with the help of the CDs included with each textbook. Unlike ordinary audio books in the United Kingdom and the United States, the recordings are somewhat slower and the English itself is much easier for students learning English as a foreign language. However, the attractive content will surely encourage them to enjoy listening to English all the time, hopefully as a hobby.

In particular, I recommend three how-to books: *Inspiring Quotations*, *Inspirational Proverbs and Sayings*, and *Signposts for Balance in Love and Work* to all students, because they are eager to find inspiration for success in their lives. *The Gandhi Story* is a good example of how to become a great man whom people all over the world will always respect. Both *The Japanese Economy* and *Bushido: The Soul of Japan* remind Japanese students of the efforts of their great ancestors.

Because Japanese listeners are more familiar with Japanese literature, I recommend that they listen to *Long-ago Stories of Japan*, *Gon, the Fox / Buying Some Gloves*, *Rakugo*, *The Nose / Toshishun*, *Run, Melos, Run*, and *The Night of the Milky Way Train* just before listening to the Western counterparts: *Aesop's Fables*, *The Best of Grimm's Fairy Tales*, *The Best of Andersen's Fairy Tales*, *Beauty and the Beast*, and *O. Henry's American Scenes*.

Through translation and anime, some foreign children's books have become so famous in Japan that Japanese listeners may find the following quite interesting: *Winnie-the-Pooh*, *Alice's Adventures in Wonderland*, *Peter Pan*, *The Little Prince*, *A Dog of Flanders*, *A Little Princess*, *Anne of Green Gables*, *The Adventures of Tom Sawyer*, and *The Wizard of Oz*.

Novelized *Roman Holiday* is such a wonderful feature of this series that the fans of the Audrey Hepburn movie will be happy to get it. *Romeo and Juliet* can also be enjoyed as a novel. As for great literature from the UK, USA and France, *Oliver Twist*, *Animal Farm*, *The Great Gatsby* and *Les Misérables* are available. However, the most popular genre is probably mystery. *Adventures of Sherlock Holmes*, *From the Files of Sherlock Holmes*, *The Adventures of Arsene Lupin*, and *And Then There Were None* can be called masterpieces that you cannot miss.

小池真理子の小説50冊 ——知的悪女の生きざまを読む——

横山 孝一*

(2024年11月29日受理)

はじめに

1. おすすめの本

小池真理子(1952-)は、数多くのすぐれた短編集とは別に、連作集の『美神』(1997)、『律子 慕情』(1998)、『存在の美しい哀しみ』(2010)、単独で出版された中編『イノセント』(1999)、『蔵の中』(2000)、『ふたりの季節』(2008)を合わせると、『あなたから逃れられない』(1985)から『アナベル・リイ』(2022)まで37年間に50冊の小説を書いている。

本稿は、この50作品のあらすじ(ネタバレはカッコ内に記す)とコメント(——あとに加える)からなる案内だが、先入観なくおもしろい小説を楽しみたい人のために、おすすめの本の題名をここに上げておきたい。傑作ホラーを読みたい人は『墓地を見おろす家』(1988)と『死者はまどろむ』(1989)、恋愛サスペンスが好きな人は『柩の中の猫』(1990)と『モンローが死んだ日』(2015)を読むとよい。男女問わず愛書家なら、現代日本文学を代表する女流作家の最良の作品が味わえるだろう。

コアな小池ファンなら、仙台時代の作者の自伝に大胆なフィクションを加えた『無伴奏』(1990)と直木賞を受賞した『恋』(1995)、亡き父をモデルにした『沈黙のひと』(2012)は作者自身のお気に入りなので絶対に外せないだろうし、かなり力を入れて書いたことが窺える『狂王の庭』(2002)と『虹の彼方』(2006)は小池流恋愛小説の見事な到達点と言ってよいが〈不倫もの〉の極致で大きく賛否が分かれる作品なので、芸術選奨文部科学大臣賞受賞作で映画化されている『無花果の森』(2011)を先に読んで気に入れば、遡るとよい。映画版は韓国人歌手「超新星」のユナクのアイドル映画になってしまったが、女流画家・天坊八重子は小池真理子の理想の芸術家像である。なお映画『二重生活』(2016)で印象に残るリリー・フランキー演じる大学教授の切ない恋愛は岸善幸監督による男性目線のファンタジーで原作とは何の関係もない。小池文学はあくまで女性の欲望を描く。普通の男性にはとてもついていけない内容を含むのだ。

ちなみに、小池真理子が大好きな俳優の一人である佐藤浩市(1960-)は、「なんか鼻についてやめてしまった」(『男と女 小説と映画にみる官能風景』1996、中公文庫、170)と小池の自信作『恋』を読み通せなかったことを明かしている。

2. 「知的悪女」小池真理子

小池真理子の本はかなり癖があるので、知らずに手にとった人の中には嫌悪感を抱く者もいる。編集部に送られてくるファンレターの中には「あんな作品は反吐が出る」と書かれていたり「あろうことか、私の本が同封されており、本の各ページに赤ペンで「死ぬ」だの「恥を知れ」だの、とてもここでは書けないような言葉が走り書きされてあった」(「ファンレター」『猫を抱いて長電話』1991年、角川文庫、107)という。初めてエッセー集『知的悪女のすすめ』(1978年10月)を出版してベストセラーになったとき「女性週刊誌で「私の嫌いな有名人、ベストテン」の中の第三位」(「二度目のデビュー？」同上、188-89)に入ったそうだから、驚くことではあるまい。小池本人も「自分の書いたものが活字になった時、それを読むと、いつも「わけ知りで押しつけがましくていやな文章だ」と思う」(「自分自身のためのあとがき」『愛は眠らせたくない 知的悪女のすすめ』1983年5月、角川文庫、225)と認めているほどだ。

小池真理子を一躍有名人にした『知的悪女のすすめ』はいまでも多くの男女の響感を買うことだろう。目次を開くと、「1章 知的悪女ほど楽しいことはない(略) 男を徹底的にダマす女になれ(略) 2章 不倫の恋を大いにすべし 女は複数の男を同時に愛せる 不倫の関係ほど充実したものはない(略) 3章 セックスは数多くの男とやるべし(略) 5章 結婚ほどナンセンスなものはない(以下略)」とあり、ウーマンリブを標榜する熱狂的な読者を多く集める一方、嫌悪する者も多かった。

『続・知的悪女のすすめ』(1978年11月)では「彼のよう

それを受け入れて生きることである」(角川文庫、168)と書いて「女ドンファン」になると宣言。「あなたって人は、本当に人を愛せない女なのね」(174)と友人や年配の主婦たちからあきれた。

それに対して、小池真理子は「私はただ一つの愛が終わったから、次の愛をはじめただけである。このプロセスは私が死ぬまで踏んでいくであろう。そして、多くの恋愛をしたことを誇りにするであろう」(同上174)と反論した。当時26歳のことばである。その後の小池文学を知る読者は、彼女が一貫して描いている、恋愛小説の主人公の生きざまそのものを要約していることに驚くだろう。長編については本編ブックガイドで見えていただくことにして、短編を1つ例にあげておく。『夜の寝覚め』(2002)に収録されている「時の轍」。「伊佐子ちゃんが毎回毎回、別の男を連れてここに来るようになって、全然驚かないから」(集英社文庫、184)と応援する友人のペンションで、東京から自家用車で雪の中やって来る愛人を持つ47歳の「私」は「恐ろしいほどの美男」(190)悟郎とつきあった学生時代を回想。妊娠したのを自分の子(いまでは25歳の娘に成長)として結婚してくれた殿村に嘘をつき、蔵島と密会している。ところが、到着した蔵島の腕の中でこう思うのだ。「永遠に持続する関係などないのである。愛も情熱も友情も、ついでに言えば浮気心も永遠には続かない。(略)いつかこの男とも別れる時が来るのだろう、と私は思う」(208)。愛と聞けば永遠を願うロマンチックな読者には身も蓋もない言い草だ。しかも「家族を、夫を裏切っている、という罪悪感には不思議なほど私の中にはなかった」(209)と明言する。不快に思う読者がいて当然だろう。

『新・知的悪女のすすめ』(1979)では「積極果敢な欲ばりな女たちがもっともって増えてもいい、と私は思うのである」(角川文庫、26)「私はもっと生に食欲でありたい。(略)死ぬときに「ワッハッハ、ザマアミロ。生きたい放題生きたぞ」と笑ってみせたいためである」(190)と告白。自分の欲望の解放を第一に、「他人は自分を裏切るかもしれない。自分も他人を裏切るかもしれない。それは仕方のないことだ。ただ、自分だけは裏切るべきではない。自分にだけは嘘をついてはいけない」(『愛は眠らせたくない』角川文庫、42)と信じているので、自分に誠実なら不倫の恋でも罪悪感はないというわけだ。

小池真理子は世間でいうところの「恋多き女」である。小池文学の主人公が恋に落ちるのは「端正な顔」の男が多いが、思い描いているのは毎回違う男性だ。映画好きの彼女が絶賛する男優をあげると、ケヴィン・コスナー、ウォーレン・ビーティ、クリストファー・ウォーケン、ジャック・ニコルソン、アラン・ドロン、ダーク・ボガード、レオナルド・ディカプリオ、佐藤浩市、岸部一徳、

沢田研二(以上『男と女』)、ブラッド・ピット、デヴィッド・シュールス、ジョニー・デップ、ダニエル・デイ・ルイス、リチャード・ギア、ウォーレン・ビーティ、ヘルムート・バーガー、ジェレミー・アイアンズ、ハーヴェイ・カイテル、アンソニー・ホプキンス、堤真一、布袋寅泰、萩原健一、高倉健(以上『忘我のためいき——私の好きな俳優たち』2001)、ヴィンセント・ギャロ、ロバート・デ・ニーロ、アラン・ドロン、ミシェル・ピコリ、ジェラルド・フィリップ、ダーク・ボガード、豊川悦司、佐藤浩市、松田優作、藤竜也、三國連太郎、佐分利信(以上『恋愛映画館』2004)。重複もあるが、いかに広く魅力的な男性を求めているかがわかる。(西洋人が多いのが気になるところだが「私は外国人とつきあったことない」(『秘密 小池真理子対談集』2006年、講談社文庫、223)そうなので、対象は彼らと似た雰囲気日本人男性ということになる。)

さすがは女ドンファンだが、いったい結婚をどう考えていたのか。デビュー作『知的悪女のすすめ』の5章で「結婚ほどナンセンスなものはない」と一刀両断にしていた彼女は、その名も『結婚アウトサイダーのすすめ』(1983年9月、角川文庫)では、ウーマンリブの家庭破壊に危機感を抱く保守派の評論家・渡部彰一(1930-2017)が書いた『知的風景の中の女性』(1977)を敵視している。四章「文化人たちの愚論を斬る」の中で「恋愛なるものを経験したことがない人」(134)だと斬り捨て、「制度としての一夫一婦や現代社会の家庭というものを必死になって援護し、そのために重要な役割を果たす女を口説きおとそうとしている」(136)と酷評している。

カトリック教徒の渡部彰一は、男女の違いを生物学的に説き起こし、聖母崇拜を破壊して「女性の価値の置き場所がなくなった」(講談社文庫、45)プロテスタントの女性蔑視の風土から、女性解放の思想が生まれたことを指摘。イザナギ・イザナミ神話の相補関係をよしとする『古事記』の伝統をもつ日本に米国経由で入ってきたウーマンリブが「究極的にはキリスト教の確立した一夫一妻制度の破壊を目的とするものであることが明らかになるであろう」(94)と予見した。怒った小池真理子が自著に引いた渡部の警告は以下の二点だ。(意地でも否定してやろうという気概が、その後の小池文学を生み出す原動力となる。)

ひとたび一夫一妻の理念が消えた世界においては、女性が幸福であろうとは思われない。なんとなれば、女性の男性に対する魅力は、母という要素を除けば急速に落ちやすいものだからである。

(渡部 87、小池 136)

十六、七歳の女性から見ると二十歳の女性はずでに

年寄りという感じなのである。いわんや二十四、五歳になったら、男性から見た魅力においてほとんど敵することはできないと思う。まして三十、四十になった女性は、もしも一夫一妻の家庭制度が破壊されたら、いったいどこに安定した地位を得ることができようか。あるいはどこに男性のパートナーを簡単に求めることができようか。

(渡部 87-88、小池 136-37)

『続・知的悪女のすすめ』で「多くの男を愛して生きてきた女」を自認していた26歳の小池は「あなたは若い。まだ若いからそんなことが言っていられるのよ。年をとってみともなくなつて、男にモテなくなれば、恋愛などはできなくなるわよ」(175)と言われてもぴんと来なかった。『新・知的悪女のすすめ』でも「結婚しようとする人はみな、人間の自由な本能——たとえば他の男とつき合ってみたくとか、一人になってゆつたりと暮らしたいとかいったこと——を完全に殺して、ただひたすら社会が求める一夫一婦制に従うことを義務づけられるのだ」(58)と性本能の自由を重視し、一夫一婦制には何の意義も見出さなかった。『悪女と呼ばれた女たち』(1982)では「エロスの人間」(集英社文庫、19)阿部定をいちばん高く評価し「一人の男を「愛した」と思うことと、別な男と同時に関係をもつことは、定にとってとやかくいわれる筋合いの問題ではなかった。それが世間的にいうところの“不貞”だとしたら、定にしてみれば、まったくのお笑い草だったろう」(29)と阿部定になりきって自分の主張を繰り返している。

引用した渡部彰一の文章は「三十、四十」の女性が仕事をもち社会で華々しく活躍している現在(2024年)から見ると、正直、古いと感じざるをえない。三谷幸喜(1961-)脚本・監督の『スオミの話をしよう』(2024)は、長澤まさみ(1987-)演じる魅力的な女性がさまざまな男を渡り歩いて5回離婚し、最後は同性の親友と気ままに暮らすつもりでいる姿を爽快地描いた。翻弄される5人の元夫たちはいまでもスオミを愛し未練たっぷりだ。小池真理子自身も渡部彰一の脅しに挑戦するかのように颯爽と生き、反骨精神あふれる恋愛小説を書きつづけている。

1980年代は、「知的悪女」が新しい女性像を宣伝する一方、フェミニストが嫌う「良妻賢母」の道を選ぶ女性たちもまだ多かった。昭和の国民的大スター山口百恵(1959-)は小池真理子と同年生まれの三浦友和(1952-)と熱愛の末、こう決心した。「男性社会の中で突っ張って、女性の立場を叫ぶより、ふさわしい自立の道だってある。多くの女性たちが半ば墮落や逃げだとして決めてしまっている家庭というものの中にだって、その道はあるのではないだろうか。家庭は、女がごくさり気なく、それで

いて自分の世界をはっきりと確立することのできる唯一の場所なのではないだろうか」(『蒼い時』(1980)集英社文庫、111)。今読むと「唯一の場所」に違和感を覚えるだろう。小池真理子と同じ年に生まれたフェミニストの小倉千加子(1952-)は「彼女は〈自立した女〉として生きる恐怖を回避したのです」(増補版、朝日文庫、103)「自立した女——制度を破る女——であることから逃れたのです」(108)とこの決断を断罪した。『松田聖子論』(1989)は半分が山口百恵論なのに彼女の名は題名に出さず、1980年10月に21歳で引退した百恵と入れ替わるように同年4月に芸能界にデビューした松田聖子(1962-)を礼賛する。「聖子は百恵と違って、日本の母に回帰することはしません」(198)というのがその理由だ。増補版(2012年)では、「聖子は娘の自立に備えて、三回目の結婚に踏み切り、自ら娘への依存から抜け出そうと努力しています」(213)と良いことづくめのように絶賛している。離婚されすっかり老けこんだ神田正輝(1950-)とその後自ら命を絶った神田沙也加(1986-2021)のことを考えると、めでたし、めでたしとはいかないが、自分の欲望に忠実な松田聖子の生きざまが時流に乗ったものであったことは確かだ。小池真理子の『知的悪女のすすめ』は松田聖子のような新しい女性の生き方を後押しする力を持っていたのである。

3. 藤田宜永と小池真理子の共同生活

しかし、小池真理子の「知的悪女」的活躍はすでに忘れられていて、2020年に朝日新聞土曜版「be」で連載されたエッセイ『月夜の森の鼻』で最愛の夫の死を悼む姿を思い浮かべる人のほうが多いかもしれない。中には、小池真理子と一緒に暮らす藤田宜永とともに直木賞の候補となり、1996年に、小池が『恋』で先に受賞し、5年後、藤田も『愛の領分』で受賞して仲良く抱き合った「おしどり夫婦」ぶりを思い出す人もいだろう。ヘビースモーカーで肺癌になった闘病中の藤田が「年をとったおまえを見たかった。見られないとわかると残念だな」(朝日文庫、29)と語った回想は、賛否両論あった小説『虹の彼方』と違い、万人を感動させるにじゅうぶんな愛の実話に見える。

37年もつづいた二人の関係とはどのようなものだったのか。小池文学の展開を考えると、パリで20代の7年間を過ごしたラテン系の恋愛通・藤田宜永(1950-2020)の存在はひじょうに重要だ。出会う前、小池真理子は「知的悪女にとって、男は闘って倒すべき相手なのだ。やさしく抱き合って、慰め合う相手ではない」(111)と『知的悪女のすすめ』に書いていたのに『結婚アウトサイダーのすすめ』では「私は今、男と同志的恋愛をしていくことに、もっとも確実な社会変革の材料の原点

を見つけているのです」(236)とちゃっかり転向していた。結婚せず死ぬまで恋愛をつづけると宣言していたのとは一見矛盾するように思えるが、彼女はこの本を出した翌1984年、31歳のときに「ふいに恋に落ちた藤田宜永と同年三月、東京都港区のマンションにて暮らし始める」(「著者自作年譜」『贅肉』2002年、集英社文庫、210)。二人とも、日本の伝統的イエ制度に反発し、家族を否定し、子供は持たぬ主義でお互いの自由を尊重した。藤田は妻ではなく「アイカタ」を得て「とにもかくにも、まず僕にとって真理子は“女”なのだ。エロチックな時間と空間を共有する相手ということが一番であって、共同生活者だとか、同じような仕事をしているパートナー、或いは、同じ思想を持つ同志だとかいう側面があったとしても、それは、付随的な事柄なのである」(「解説」小池『いとしき男たち』1984年、集英社文庫、250)といかにも恋愛至上主義者の小池が喜びそうなことを述べている。二人の生活は結婚ではなく、あくまで恋愛だった。プロ野球ファンである藤田は、野球を比喻にこう意気込む。

真理子には過去に三人、本気で愛した男がいた。偶然、この数は僕の場合と一致する。お互い、今度が四番バッターというわけだ。場外ホームランが打てるか、それとも三球三振に終わるか神のみぞ知ることだが、いずれにしろ、単なるシングル・ヒットを打って満足するような恋愛ではなさそうである。

(同上256)

「場外ホームラン」と呼べる二人の直木賞受賞が連想されつくづく感心させられるが、藤田宜永が島清恋愛文学賞受賞作『求愛』(1998)のなかで「才能と才能がぶつかり合う結婚なんかうまくいかない」(文春文庫、245)というテーマで、プロ野球選手とピアニストの悲慘な恋の末路を描くことを思えば、なおさらだ。藤田宜永と小池真理子の場合、二人は生活を共にすることで才能が共に開花したのだから。

『夢色ふたり暮らし』(1985)という本で、共同生活を始めた二人にインタビューした秋元真澄は「知的悪女」の異名をもつ小池真理子について「ツッパリが消えて、非常に素直にのびのびと生きているように見えるようになった」(194)と感想を述べている。小説家志望の二人はこの共同生活によって最初の夢を叶えることができた。小池真理子は1985年、初の長編小説『あなたから逃れられない』を出版し、精力的な創作活動が軌道に乗る。藤田宜永も翌1986年に『野望のラビリンス』(パリを舞台にフランス国籍の日本人探偵が女流画家の猫を捜し拳銃密輸組織に遭遇する)を角川書店から刊行し、プロの小説家になった。まさに「夢色ふたり暮らし」が夢の実現に有益

だったのだ。

正式に結婚せず、世間に反抗して恋愛重視で始めた共同生活はその後どうなったか。破綻せず、10年後その名も『夫婦公論』(1995)で、仲の良さをアピールしている。小池は藤田を「ツレアイ」と呼んでいるが、藤田は小池を「カミさん」と呼び、二人は世間並みに「夫婦」となっていた。「四番バッター」の恋人を気どっていた藤田宜永は自伝小説『愛さずにはいられない』(2003)で母に愛されなかった苦悩を描き「母に心から甘ったれてみたい」(新潮文庫、186)という願望を明かしているが、よりによって小池真理子にべったり甘えていた。「男をめとって徹底的にこき使え」(『知的悪女のすすめ』132)と書いていた小池は意外にも「日に三度のメシタキ係」(『夫婦公論』毎日新聞社、10)となって、母親よろしく、腹をすかせた藤田のために毎日毎日食事を作っていたのである。

「ハラヘッター」と彼に言われ、虫の居所が悪くて私がイラついた時なども、「独身でいたら、どんなによかったか、って思ってるだろ」なんて、にたにた笑いながら先回りして聞かれる。あげくの果てに、「わかる、わかる、その気持ち」と気の毒そうな顔をして言われてしまうと、結局、なんのことはない、彼の物分かりのよさに丸めこまれ、「ハラヘッター」を受け入れてしまうのだから、我ながら、ほとんど情けない。(毎日新聞社、242)

この前年、藤田宜永はヒットラーが台頭しソ連のスパイが暗躍するフランスで自動車レースに命を懸ける日本人義正を主人公にした全870ページの大作『鋼鉄の騎士』(1994)を発表している。日本推理作家協会賞と日本冒険小説協会特別賞を受賞し、彼の代表作となった。1984年から小池真理子が浮気せず彼に尽くしたことは作品からもわかる。『あなたから逃れられない』(1985)の恭一、『彼女が愛した男』(1986)の尾木、『仮面のマドンナ』(1987)の五郎はみな藤田宜永の社会のアウトサイダー的かつこよさを反映している。嫌悪するイエ制度の逆襲をホラー小説として描く『墓地を見おろす家』と『死者はまどろむ』では純粋に妻として「夫」を愛している。とりわけ後者では、小説家の男女が結婚し、小池の分身である亜希子は作家の才能があるにもかかわらず「自分の夢を夫の成功と引き換えに捨てる決心をつけた」(集英社文庫、22)ほどで、小池の献身ぶりが『鋼鉄の騎士』の成功に寄与していることがわかる。

しかし『夫婦公論』で藤田は甘え過ぎた。カミさんを「デブ」「カンテン腹」(124-26)とからかって、恋愛映画のビデオ鑑賞では一緒に見るのが照れくさく「あ、

必死になってる」(267)と画面を凝視する小池真理子を茶化した。ほぼ笑ましいと思ったら大間違いだ。相手は知的悪女なのだ。小池は自伝的な『無伴奏』(1990)で青春時代に回帰し、翌年の『唐沢家の四本の百合』(1991)で夫を事故死させて、作品中の浮気・不倫を解禁した。ミステリー、サスペンスホラーのジャンルに行き詰まりを感じていた小池は、43歳の年に『恋』(1995)を発表。これが直木賞受賞作となり、以後、恋愛小説のジャンルで大活躍する。『月狂ひ』(2000)(文庫化で『浪漫的恋愛』に改題)で、不倫を勧める知的悪女に返り咲く。50歳近い同世代の女たちが観光バスから降りるのを見て、作者の分身である主人公はこう語る。

この女たちはもう、恋はしないのだろうか、と私はぼんやり考える。夫と性を交わし、子供を作り、働き続け、五十になったから、五十を過ぎたから、もう恋はしない。そう決めているのだろうか。

(新潮文庫、7)

主人公の「私」は再び恋をして「年齢が女にもたらす如何ともしがたい残酷さ」(189)に気づき「無意識に性を放棄していた」(同)と悔いる。ついには「結婚後、恋をしない人のほうが不純なのだ」(246)と開き直って、愛人の妻から「みっともない色狂いの中年女」(379)と罵られても気にしない。

「私は夫に何度嘘をついたことか。あれは何度目の嘘だったのか。もう覚えていない」(314)ともらす主人公は作者自身だったようだ。『秘密 小池真理子対談集』(2006)で「いいではないですかと、私は多くの女性たちに言いたい。人が異性に惹かれていくのは当たり前のこと」(講談社文庫、123)と不倫の恋を勧め、『月狂ひ』の主人公同様、「常に異性を求めていくのが人として健全な姿なんですよ」(146)と主張している。

2000年に不倫宣言して見事に復活した知的悪女のその後の作品を見渡すと、ラブホテルの密会(『蔵の中』2000)、自分の年齢が原因の別れ(『虚無のオペラ』2003)、アルバイト青年に指摘されるぶざますぎる愛の真相(『エリカ』2005)など、もてすぎた小娘時代と比べて、恋愛の質は下落したと言わざるをえない。『青山娼館』(2006)では入会金1千万円の高級店とはいえ娼婦にまで落ちぶれてしまう。そうした中、大女優と大作家の情熱的な不倫を余すところなく描いた大作『虹の彼方』(2006)が生まれたのである。カムバックした知的悪女の主張に賛同できない読者には不快な本だが、小池真理子が文字どおり渾身の力をふりしぼって書いた空前絶後の不倫小説であることは間違いないだろう。

この間、夫の藤田宜永はどうしていたのだろうか。

「特別鼎談」(『甘やかな祝祭 恋愛小説アンソロジー』2004)で北方謙三をまじえた夫婦間の話で「ときめきの気持ちだけじゃなくて、いろんな意味で作家的刺激を受けるようなできごとって、やっぱり外にあるじゃない？それを作家同士がどういうふうに受け止めていくかってことなんだけど」という小池に「だから、最近、この人、帰ってこないのよ(笑)」(光文社文庫、336)と藤田は妻の浮気をほのめかして、小池の言う「危ない局面を渡りながら書いていく」ことについて「それはヒリヒリしていて、いいと思うよ」(339)と認めながらも「ハッキリ言って、こっち(小池氏)は知らないけど、俺は別れる気、全然ないからさ」(339)「捨てないでね(笑)」(341)と、完全に小池真理子に主導権を握られている。

この「“恋愛”と“結婚”の微妙な関係」(『恋愛不全時代の処方箋』2006)について、藤田はフランスの恋愛文化を念頭に「夫は夫で、妻が他の男性に愛されていることに多少はジェラシーを感じる。妻もそうです。どこかで張りあうし、緊張感が夫婦間のスパイスにもなるわけです」(改題『恋人の育て方』ハルキ文庫、163)と発言。どちらも不倫を描く恋愛小説家の夫婦は、互いに浮気を認め合いながらその緊張感で結婚を維持していたようだ。しかし、小池の思い切りのよさに対し、「都合のいい亭主」(『秘密』151)である藤田は未練らしい。「カミさん」の浮気には激しく怒らない代わりに「寂しいよ」(『恋人の育て方』ハルキ文庫、158)と言ったらしい。

藤田宜永が小池真理子をいかに愛していたかは直木賞受賞作『愛の領分』(2001)で主人公の仕立屋・淳蔵が好きになる佳世の造形で一目瞭然だ。「唇の間から反り気味の前歯が顔をのぞかせた。愛くるしい笑顔である」(文春文庫、51)というのは小池の特徴そのものであるし、佳世が教師と不倫して相手が自殺し地元で白眼視されているのは、小池の『夜ごとの闇の奥底で』(1993)に登場する亜美と同じである。「直木賞作家 原作 藤田宜永「虜」(新潮文庫刊)初の映画化」(特報・予告)と大々的に宣伝された映画『笑う蛙』(2001)は長塚京三演じる主人公がすでに愛人のいる妻に未練たつぷりでなんとかよりを戻そうと必死になる話だった。「あたしね、10年近くあなたと暮らしてて、何ていうのかな、ずっと子供の面倒を見てるような気がしてた」と大塚寧々演じる妻に言われる場面では、小池に甘えた作者の姿を思わざるをえない。

「葬式の猫」(『左腕の猫』2004年)になると、妻が憎む72歳の実母の葬式を中心に据えたフィクションだが、フランス語教師でミステリを翻訳している「私」は藤田自身(35歳の頃に訳したピエール・シニャック『ウサギ料理は殺しの味』はマニアに好評で2009年に復刊される。フランスの田舎町のレストランでウサギ料理が出されるとなぜ若い女

性が殺されるのか逗留したパリの探偵が謎に挑む)を、子宮筋腫(『肉体のファンタジア』(2001)で小池真理子は「現在、発育記録更新中」(集英社文庫、222)と公言)で入院した妻の美智代は小池真理子本人を、露骨に投影しており、当てつけとして読める次のような文章がある。

結婚した直後は、美智代はおとなしく家にいた。案外、簡単に遊び心が消えた、と私はタカを括っていた。ところが、しばらくすると、美智代はふいと家を出て、夜遅く、時には明け方にならないと帰ってこないようになった。それに合わせるかのように、男からの電話が増え始めた。(略)
誰とでも寝てしまう女が嫌なくせに、その無感動さ、精神の荒廃が愛おしく思えて、美智代と別れる気には一度もならなかった。(文春文庫、168-69)

「私」自身も隠れて浮気をしているのだが、やはり妻の浮気には精神的ダメージを受けている。藤田は、子供を持たないと約束した小池が読むことを知りつつ、愛人に自分の子供を身ごもらせたり「美智代との関係で何よりも願い下げなのは、浮気を報告し合うような夫婦になることだった」(171)と書いた。これはルール違反だろう。小池真理子は恋愛小説に転向した『恋』で、まさにそのような夫婦を理想としたのだった。言葉の暴力のように感じられるこの短編はまぎれもない嫉妬の表明だ。妻の不倫が恋愛小説家の取材を兼ねた知的悪女の生きざまと頭ではわかっている、やはり精神的には耐え難いものであったことがわかる。しかし、探偵・竹花シリーズでタフガイを気どる彼は小池真理子を心から愛し、離婚を退けて、耐え抜いたのである。『愛さずにはられない』(2003年5月)を現代に置き換え、17歳の主人公が実母から得られなかった母の愛を嬰兒のとき自分を誘拐した愛子に求める『子宮の記憶 ここにあなたがいる』(『キッドナップ』(2003年8月)を2006年改題)は小池の『虹の彼方』(2006)に比肩する、藤田のもっとも書きたかった恋愛小説で、小池真理子との生活の中から生まれた作品だ。松雪泰子と柄本佑主演の映画(2007)でも感じとれる、母性を渴望する原作者の思いには圧倒される。

藤田の原作小説(1999年)を三木聡監督が自身の脚本で映画化した『転々』(2007)では、老後に妻と東京を散歩するのを楽しみにしていた三浦友和演じる借金取りが妻の浮気を知り、殺してしまう。「原因は奥さんの浮気ですか?」「まあな。渋谷や新宿で若い男を漁ってほしい」「そんな」「まったくだ」。孤独な彼は息子のような若者と散歩を楽しむ。自首する前に疑似家族に癒される映画の後半は原作にはなく、寂しげな原作者・藤田へのプレゼントのような場面だ。オダギリジョーと

小泉今日子が好演したその疑似家庭の撮影に、いつものサングラスにジーンズを身に着けた「原作者の藤田宜永先生が現場訪問」(DVD特典)した。家族の団欒を小池と否定した藤田は、このとき何を思ったのだろうか。この喜劇映画の中で殺されてマンションのベッドに横たわる妻に山口百恵を重ねた観客はいただろうか。小池真理子を連想した人がいたとしたら、これこそ知的悪女の生きざままで、プロの恋愛小説家の矜持なのだと弁護したい。

藤田の、妻の不倫に打ちのめされる『戦力外通告』(2007)では、年下の愛人について夫人は「でも、いつかは終わるでしょう。私とあなたは別れられないと思う」(講談社文庫、657)「そうよ。私たちは一緒にの墓に入るの」(658)と語り、夫婦関係を守っている。

『虹の彼方』(2006)で不倫の極みを描き切ったあと、小池の激しい欲望は落ちつきを見せる。渋谷で若い男と密会する『ストロベリー・フィールズ』(2009)では、母性を利用するが結局、気恥ずかしさを感じて身を引く。

『無花果の森』(2011)で理想の老芸術家を描いたことはすでに書いた。『死の島』(2018)になると、恋愛の対象だった同世代の男が老境に入り、もう恋愛どころではなくなる。同年出版の夫・藤田宜永の遺作となる『彼女の恐喝』(2018)では分身がこう告白する。「僕は君を愛人にしようとか、深い関係になろうとかはまったく思っていない。(略)こんなことを言うのは、気恥ずかしいけれど、彩奈さんに対する気持ちはプラトニックなものなんだ」(実業之日本社文庫、298)。夫もすっかり衰えてしまった。小池自身も、労作ながら傑作とはいいがたい『神よ憐れみたまえ』(2021)で波乱万丈の人生の終わりをほのめかし、『アナベル・リイ』(2022)では「今、私はもはや、すっかり年老いた、不健康で孤独な老婆だ」(角川書店、347)と嘆いている。最新短編集の『日暮れのあと』(2023)の最後を飾る表題作でも「二十数年前、想像の中にたぐり寄せていた老いは、これ以上ないほど現実のものになった」(文藝春秋、252)と心境を吐露している。確かに1991年発表の「結婚式の客」で「七十と言え、相当な老境だ」と書き、その人物を「老婆」(『会いたかった人』祥伝社文庫、72-73)と呼んだ。

気になるのは、2023年1月に発表した「日暮れのあと」の中で、「ああ、いやだ。還暦も七十二も、どっちもどっちよ。そんなことより、お母さんの年でまだモテたい、っていうのが気持ち悪いの。申し訳ないけど、想像するだけで吐きそうになるの……」(236-37)と主人公の娘に言わせていることだ。小池真理子の恋愛小説はもう読めないのだろうか。『夫婦公論』で「亭主に死なれても、一年たてば大丈夫」(79)と書いていた小池が『月夜の森の鼻』文庫版(2024)あとがき「三年と十カ月が過ぎて――」でまだ立ち直っていないのも心配だ。同じ

『夫婦公論』で亭主の藤田は、自分が死んだ5年後に友人と饅頭を食べながら亡き夫をなつかしむしたたかな姿をユーモラスに予見している。「特別鼎談」で小池は「私はね、みんな、関係者もこの方も(と、藤田氏を見て)先に亡くなったら、何も思い煩うことなく全部小説として書き残したいっていう気持ちもあるんです。自分が体験したことを」(333-34)と男性遍歴を綴る自伝小説の構想を明かしている。藤田自身も「俺が死ぬと、もっとすごい恋愛がたくさんできて、もう自由になってだな、もっといい小説が書けるかも」(334)と応援している。

小池文学のいちばんの理解者だった藤田宜永は、短篇セレクション・サイコ・サスペンス篇Ⅱ『贅肉』(2002年、集英社文庫)の解説(1997年初出)で「僕があの世界に行ってから」回想録執筆を勧め「「私何だか死ななような気がするんですよ」という名言を残して世を去った宇野千代さんみたいに、小池真理子も長生きし、想像の海と無邪気に戯れながら、作品を世に問うていくような予感がするのだ」(203)と期待している。4回の結婚と離婚を中心に男性遍歴を小説『或る一人の女の話』(1972)と自伝『生きていく私』(1983)として書き残した宇野千代(1897-1996)を見習い、小池真理子にはぜひ長生きして生涯現役の恋愛小説家として書き続けていたきたい。「己のおぞましい好色」(幻冬舎文庫、193)を最大の読みどころとして死ぬ前に完成した石原慎太郎(1932-2022)の『「私」という男の生涯』(2022)に負けない「女の生涯」を描いて、徹底した男女平等をめざした知的悪女の意地を見せていただきたい。

以下は、小池真理子(1952年10月28日生まれ)が書いた小説50冊のあらすじ(ネタバレはカッコ内)とコメント(——あとに記す)である。

1980年代後半

1985年(昭和60年) 33歳

8月

1) あなたから逃れられない(集英社)

11歳年上の画廊経営者・麻生と結婚している「私」(比奈子)は35歳。快適な生活を手に入れたが退屈で、六本木でからんできた酔っぱらいを鮮やかに倒した美貌の青年・野瀬恭一と目が合って、飲み誘われ、ついてゆく。夫がニューヨークのオークションに出かけると、軽井沢の別荘で密会する。ところがそこへ恭一の女が押しかけ、自殺。死体を車に乗せて捨てに行ったところを目撃した牧田に脅される。1千万円は夫に出してもらいが、牧田が何者かに殺され、容疑者として恭一が逮捕されてしまう。

(犯人は、不倫を知った麻生の仕業だった。麻生の父親

も妻に浮気されていた。その後、家政婦の登代が物置で首を吊る。麻生が21歳のとき31歳だった彼女は彼の子を産んでいた。その高明も覚醒剤密輸で、牧田に脅されていたのだった。麻生は逮捕される前、ベランダから首を吊る。なお、別荘の女の自殺は嘘で、恭一が殺していた。——小池真理子の記念すべき初の長編小説。集英社文庫の「解説」で森瑤子は、六本木で寄り添う男と酒を飲む美人の小池を回想している。ミステリーの体裁をとっているが、美男に目がなく、夫に嘘をついて情事を重ねる女が主人公の小池文学のスタイルが早くも定まっている。母親や母代わりを性的に描くのも小池流だ。)

1986年(昭和61年) 34歳

2月

2) 彼女が愛した男(角川書店)

軽井沢の電器店でアルバイトした犬山が、前科のない長身の尾木26歳を誘って、作詞家の別荘に盗みに入る。犬山は夫人を強姦して射殺するが、階段から落ちて足の指を骨折する。川村出版社山荘の薪小屋に隠れたが見つかり、犬山は住み込みの老夫婦を射殺後、死亡。社長の一人娘・令子(たくさんの男と寝るじゃじゃ馬)と遊びに来ていた美穂25歳が人質として、尾木に連れ去られる。3年前に恋人が別の婚約者と自動車事故で死亡している美穂は、テレビで騒がれる中「あんたが好きだ」と尾木に告白され、世間の目など構わず愛し合うようになる。(能登まで逃げ、小松空港のレストランで食事後、尾木は警官に射殺されてしまう。「人殺し!」と悲痛の叫びをあげた美穂の前で、令子は犬山を射殺したのは自分だと自首する。尾木は殺人犯ではなかったのだ。——尾木が犬山を殺したと思わせて意外な真相を皮肉的に明かすラストにサスペンスミステリーの雰囲気を感じられるが、本書の基礎は、退屈な日常から抜け出す恋愛ものだ。)

1987年(昭和62年) 35歳

4月

3) 蠍のいる森(集英社)

英国人と離婚してミステリー翻訳家になった真樹子の迷い犬を届けたことで、図書館で働く対人視線恐怖症の美千代は親交を結び、児童文学作家の恋人もできて癒される。真樹子が惚れ込んだ便利屋のプレイボーイ修平は、日本画家・阿久津太一の未亡人が捜す、夫がモデルの女に生ませた私生児・慎太郎を騙って財産をだまし取ろうとする。(うまくやるつもりが、嫉妬に狂った未亡人に射殺されてしまう。京都旅行の約束をした真樹子は修平が現われず、すっぽかされたと思ってあきらめる。——精神を病み、恥をかかせた人たちをアイスピックで殺すつもりだった美千代の計画は妄想で済んだが、小池好み

の修平は欲を出し、予期せぬ落とし穴に落ちてしまった。真樹子と修平の恋愛を読んでみたかった。なお日本画家とモデルの話は『虚無のオペラ』（2003）でも描かれる。）

5月

4) 仮面のマドンナ（角川書店）

入会金120万円の二子玉川スポーツクラブで働く27歳の寿々子は、仙台の歯科医院の実家が用意した8回目の見合い話をつぶすため、厚化粧をして、恋人の劇団員・佐伯五郎と六本木の高級ディスコに繰り出し、その様子を興信所に調べさせた。報告書で素行の悪さを知れば、相手が破談にするだろうと思ってのことだったが、ガス爆発が起こり、クロークでコートを取り違えたことから寿々子は死んだことにされ、重傷を負った令嬢「玲奈」として、矢内原の愛人・滝子と、引きこもる息子・雅彦の看護を受けることになる。

（失語症になった寿々子は、車椅子が必要な不自由な体で、遺産を狙う滝子に命を狙われる一方、雅彦に抱かれ快楽に浸る。滝子が邸に火を放って雅彦が死ぬ悲劇を乗り越えるが、拘束はつづく。——親が息子の見合い女性を興信所に調べさせる古い慣習に反発し自由を謳歌する新しい女性が主人公なのに、さらに窮屈な生活を強いられる。『望みは何と訊かれたら』（2007）にも描かれるが、雅彦から受ける介護的性愛には倒錯した喜びがある。）

11月

5) 彼方の悪魔（中央公論社）

広田健一がサンフランシスコから持ち帰ったリスの死骸を食べた猫のルルがペストに感染。深夜番組で人気がでた千春を誘拐監禁した平松軍治がその猫に噛まれた。アメリカでホモの兄弟に強姦されて以来セントポーリアを栽培する軍治は、体を鍛え、千春と交わる儀式で男を回復させるつもりだったが、ペストに感染し高熱がでる。（千春に危機が迫る中、セントポーリアを売る花屋から軍治のマンションがばれ、警察が踏み込む。——東京にペスト菌が持ち込まれても、死んだのはルルと軍治のみ。小池真理子を書いたかったのは、パニック小説ではなく、ゆがんだ精神をもつ男に監禁された女性の性的な恐怖心だった。）

1988年（昭和63年）36歳

7月

6) 墓地を見おろす家（角川書店）

1986年、加納一家は都心から電車で20分のセントラルプラザマンション最上階の801号室に引っ越してきた。広告会社に勤める加納哲平はイラストを描く妻の美沙緒32歳と娘の玉緒4歳がいるが、前妻である玲子を亡くし

ている。美沙緒と伊豆に泊りに行って帰ってみると首を吊っていたのだ。玲子の位牌も持ってきたが、罪を分かち合う新しい夫婦にとって引っ越しは新しい出発だった。外には万世寺の墓地が広がり、火葬場から煙が上がっている。朝、文鳥ピヨコが死んでいた。幼い玉緒は、夜中にピヨコが飛んできて入ったら戻れない巨大な穴のことを教えてくれたと語る。テレビに人影が映ったり、飼い犬のクッキーがうなりだしたり、住民はどんどん減って行く。物置のある地下室には階段がなくエレベーターで行くしかないが、そこで玉緒がかまいたちにあって負傷。401号室に住む、インドでヨガ修行をしてきた瞑想家の東海林が、動かなくなったエレベーターを念力で動かしてくれたが、彼もまた不吉な存在を感じて去って行く。合理主義者で霊的なことは信じようとしなかった哲平も、地下室の見回りで何かに襲われて気絶。美沙緒の調べによると、1960年代に地下ショッピングセンター建設計画があったが、万世寺が移転に反対して頓挫。巨大な穴が墓地に直結しているらしい。窓ガラスにさまざまな手形が現われる中、美沙緒が親しくしていた井上栄子の一家も逃げ出した。加納家も引っ越し先を探すか、決めた家が不審火で全焼、第2候補のアパートの女性は急死した。管理人の田端夫妻まで逃げ出して、残るは加納家1世帯のみとなる。哲平の知人宅に避難することに決めたが、引っ越し業者もエアコンを取り外しに来た電機屋も原爆を落とされたように黒いシミとなって消滅する。1階の玄関のドアも窓も開かず、マンションに閉じ込められる。（手伝いにきていた哲平の弟夫婦は、地下室の壁穴から逃れようとして霊の餌食になった。食料も水も尽きかけるなか、哲平と美沙緒は愛を交わし、生きていることを実感する。結婚したことに悔いはない。しかし、8階にエレベーターが到着し、地下から上がってきた霊たちが降り立つ。——モダンホラーの傑作として小池真理子の文名を知らしめた記念碑的作品。代表作として後世に残る小説だ。この本しか知らない読者には意外だろうが、本稿を読めば明らかなように、本文中でもっとも小池色が出ているのは、哲平の妻玲子の首吊り自殺とその原因となった不倫の恋である。本小説は伝統的な日本の怪談と違って、夫に裏切られた妻の怨念はいっさい描かれていない。加納一家の不運に因果応報の要素は注意深く省かれている。しかし、玲子に対する夫婦の引け目と新居に持ち込んだ位牌についてはまんべんなく言及があり、自殺した玲子の位牌を目印にして地下の亡霊たちが加納家に押し寄せてくると解釈することも可能だ。不倫の恋こそが最上の恋愛と信じて恋愛小説を書きつづけることになる小池真理子も、無意識ながら良心の呵責があったようだ。原爆を落とされたように目の前で人が蒸発する場面は天罰のイメージそのものだ。アメリカで英訳版

The Graveyard Apartment (2016) も出版されているが、ネット上では、映画『ポルターガイスト』(*Poltergeist*, 1982) の二番煎じ、展開が遅すぎる、登場人物に魅力がない、謎を放置している等の酷評が目立つ。マンションの地下室の穴から入ってくる亡霊の群れが意味不明なのだろう。たしかに本文中に何の説明もないが『知的悪女のすすめ』を参照すれば、隣の寺の先祖代々の墓から攻めてくる亡霊の恐怖は、イエ制度を否定した著者の無意識的恐れだと推測できる。)

7月

7) プワゾンの匂う女 (徳間書店)

1974年、婚約者の宗介が心臓に痛みを覚え、庸子は、病院に連れて行こうと車の運転を代わる。ところが仮装カーニバルに参加する3人がじゃまをして宗介は死んでしまった。12年後、香水プワゾンをつけた女が復讐を開始。睡眠薬を飲まされた哲夫は山中湖で溺死させられ、マリリン・モンローに仮装した尚美の恋人が刺殺される。そしていま、庸子とつき合っている津野田雄が危ない。元妻で雄の最良の友になっている由梨が山路精神科クリニック院長と最後の復讐を止めに駆けつける。

(包丁を突き立てた庸子は別人格の蘭子に変身していた。庸子は二重人格者で、セクシーで派手な双子の妹は復讐を遂げるために生み出されたのだった。——文庫解説で笠井潔が絶賛。これまで寝た男の数では誰にも負けないと豪語する尚美は「知的悪女」を自認する作者そのもの。マリリン・モンローも小池真理子が好きな女優である。)

9月

8) 間違われた女 (祥伝社)

児玉建設の御曹司でパリから帰りカルチャースクールで絵を教える秀実は、11年前高校のときあこがれていた亜紀子にラブレターを送る。彼女はすでに結婚し、そのマンションには友人の雅子が住んでいる。何も知らず、拒まれたら心中するつもりでナイフを買ったが、亡き母のやさしい目をもつ店員の千世子(初めての男がヤクザで、妊娠中絶した過去から逃れるため、栃木から上京)と何気なく付き合いはじめる。彼女こそ理想の女だったが、秀実は気づかない。

(千世子は自分の気持ちを伝えようと、30歳の誕生日を迎える秀実の自宅に走るが、通り魔に刺殺されてしまう。別人にラブレターを送っていたことに気づいた秀実は神にバカにされたと思い、車を暴走させ自殺。その瞬間、千世子の幻を見る。——英国作家ルース・レンデル風の、病的な男の犯罪心理を描く小説。運命の皮肉は小池流。)

4月

9) 殺意の爪 (光文社)

コンパニオンガールの夏美が合鍵を拾った男に殺される。犯行現場には赤いマニキュアがこぼれていた。犯人は、13歳のときに赤いマニキュアをした叔母にいたずらされて以来、赤いマニキュア・フェチだった。合鍵の元の持ち主だった恋人の武史が容疑者として逮捕されて、無実を信じる異母兄の鏡一郎が登場。武史のアリバイを知っていながら、愛人と密会するために下の部屋にいた比呂子は証言をためらっていたが、鏡一郎と寝て決心がつく。しかし、比呂子はエレベーターで襲撃され、あやうく殺されそうになる。

(犯人は誰か? 比呂子の愛人の医者流二と新しい恋人の鏡一郎が怪しかったが、比呂子の親友で家庭的な景子の夫で一流銀行に勤める雅之が、殺人を犯した倒錯者だった。——なんとも後味の悪い結末で小池真理子らしい人間観だ。彼女は家庭の崩壊を好んで描くが、年下の男を誘惑することにも大いに関心がある。)

6月

10) 死者はまどろむ (講談社)

スランプに苦しむ小説家の間宮駿介が書いた実話。1988年、宮城県の集落・夢見村に別荘をえて妻の亜希子、5歳の悟、母の昌江、亜希子の離婚した妹・知美でひと夏を楽しく過ごすはずだった。ところが、卒中で倒れた昌江が、隠れキリシタンの流れをくむ教会の神父と医師を兼ねている海老名とその息子に連れ去られてしまう。

(共同墓地の地下には多数のミイラが並び、ムミイ様として祀られていた。村人たちはムミイになって永遠の命を得ると信じている。駿介はミイラにされかけた母親の遺体のかついで逃げたが、その後、知美の恋人も小説の原稿を受け取った編集者も行方不明になる。とても逃げきれないとあきらめ、間宮一家は夢見村に永住する決心をする。——『墓地を見おろす家』と並ぶ小池真理子のモダンホラーの傑作。自由を求める作者にとっては因習がいちばん恐ろしいのだろう。地下室に並ぶミイラは、『墓地を見おろす家』と同様、先祖を拒み、子孫を絶つことを決めた作者の無意識的恐怖の表れと解釈できる。)

12月

11) 闇のカルテット (双葉社)

有名建築家の娘で生活費に困らない清水芽衣子は朗読のボランティアをする図書館で、記憶喪失のホームレス、ケンと知り合う。軽井沢で車ではねてしまった男が別荘で死んでしまい、庭に埋めた芽衣子はその波多野誠の役をケンに任せ、一緒にフランスへ旅し、波多野が話していた生母との再会を果たさせる。その後、ケン記憶を

取り戻して、自分が芸能プロダクションの男色の老人に誘われ発作的に殺してしまったことを思い出す。

(芽衣子は、ケンが記憶を失っている間世話になった元ペットショップ経営者のホームレス、朝やんに殺される。朝やんは首を吊って自殺。息子の健一を亡くしてホームレスになった朝やんはケンを息子代わりと考え、ホモの老人はケンが殺したと思ったあとに別の男に殺されたという真相を調べ上げ、殺人者の芽衣子と一緒にするのは幸せにできないと判断して殺したのだった。——主人公が途中で入れ替わってしまう異色作だ。かつこよければホームレスでも家に上げてしまう小池流主人公を放棄し、男同士の人情話で終わらせる意外性は、夫・藤田宜永への貞節とサスペンス小説のジャンルに起因か。)

1990年代

1990年(平成2年) 38歳

7月

12) 無伴奏(集英社)

1969年、仙台の伯母の家から女子高に通っていた私(野間響子)は制服廃止を訴えて学園紛争に関わり、地元の大学生が集まる音楽喫茶「無伴奏」で和菓子の老舗千間堂の長男・堂本渉と知り合い初めて男を知る。彼の親友の祐之介もエマという恋人がいて熱烈に愛し合っていたが、なぜか彼は私と渉の行為をずっと盗み見ていた。(台風の夜、私は、渉と祐之介が裸で抱き合うのを目撃。祐之介は妊娠したエマを殺し、罪をかぶろうとした渉は首を吊る。20年後、新幹線で近くなり、仙台を再訪。「無伴奏」がなくなっていてほっとする。祐之介は出所して結婚したと聞く。——小池真理子が自身の仙台時代を書き込んでノスタルジーに浸る画期的な作品。2016年、矢崎仁司監督が完全映画化し、自分の最高傑作と称している。池松壮亮と斎藤工のからみは衝撃的だ。リアルな自伝に大胆な虚構をまぜて、小池文学の人気を高めた。*A Cappella* の題で英訳版(2013)も出版されている。)

9月

13) 柩の中の猫(白水社、新潮社、集英社)

リウマチで足が不自由な女流画家針生雅代がお手伝いの拾ってきた白い猫を見て、忘れられぬ過去を回想する。20歳で函館から絵を学ぶために上京した私は、アメリカのライフスタイルをまねる画家兼大学講師・川久保悟郎宅で、9歳の娘・桃子の家庭教師になった。母・百合子を亡くした桃子は白い雌猫のララを唯一の友として遊び、母代わりにしていた。私は桃子の味方になり、悟郎に恋していたが、そこへ30歳だが25歳に見える派手で美しい小柴千夏が現われる。彼女は桃子の気を引こうと嫌いな

猫を抱き上げて顔をひっかかれる。私は、千夏がララを溺死させる現場を目撃。悲しむ桃子に真相を告げる。

(はたして桃子は、以前私に教えてくれた秘密の古井戸が雪に覆われているのをいいことに、千夏をそこに案内する。落ちる瞬間を見ていた私も助けず、千夏は死んだ。悟郎は夜中に私の寝室に来て泣き、千夏が桃子の実母で結婚するつもりだったと語る。進駐軍の通訳をしていた彼女は悟郎の子を身籠りながら、恋に落ちた将校(その後病死)とアメリカに渡ったのだった。家庭教師を辞めた私はその後、桃子がパリの精神病院で亡くなったことを知る。——短めの長編だが、*The Cat in the Coffin* の題で英訳(2009)もされている傑作。実母の犠牲になった幼い桃子がなんとも哀れである。小池真理子が好んで描く「恋多き女」が敵役として葬られているのが特色。夫・藤田の手前、不倫願望を抑制していたためか。)

1991年(平成3年) 39歳

9月

14) 唐沢家の四本の百合(中央公論社)

私(妃佐子)が語る。輸入家具の専門店・唐沢商会の3代目社長・唐沢慎介は女好きで3人の息子と嫁たちと仲良く暮らしていた。ところが、寿美江夫人の連れ子である美少女の有沙18歳の運転する車の事故で、夫人と私の夫・慎一が死に、有沙は車椅子を使うようになった。大雪の日、慎介を殺すと電報が届き、死体が発見される。(有沙は3人の息子と寝て「車椅子の娼婦」となじられたから殺したと告白。私は、彼女が夜中に自殺するのをあえて止めなかった。義父を愛していたのだ。有沙は嘘をついていた。本当に寝た相手は慎介だけで、慎介を独占できなかったから殺したのだった。——『冬の伽藍』(1999)でも描かれるように、好色な義父との恋愛も小池が好きなテーマだ。作中、夫を事故死させ、ついに不倫を書き始める。ミステリーの要素がずいぶん少なくなり、書きたいことが見えてきたようだ。)

1992年(平成4年) 40歳

7月

15) 懐かしい骨(双葉社)

吉祥寺の実家の物置の下から25年前の白骨死体が発見され、真吾と早紀子の兄妹は佐川刑事の訪問を受け過去と向き合う。当時、真吾は母の旧友・門倉美和に夢中だった。美和は歯科医の父とも関係しているようで嫉妬したこともあった。母はそのことに気づいて美和を殺して埋めたのではないか。真吾は当時の連続殺人鬼・勝山のせいにしようとする。

(白骨死体の金歯から、父の助手をしていた園江と判明する。園江は父の愛人。父か母が殺したらしい。美和は

生きていてスペインからエアメールが届く。真吾は母のためではなく、美和との秘密を守るために勝山を犯人にしたかったのだ。——自由奔放に生きる41歳の美和は、小池の、自身の姿も投影した大好きな女性像だ。)

1993年(平成5年) 41歳

1月

16) 夜ごとの闇の奥底で(新潮社)

妹りつ子が、人気脚本家の小田隆志を彼がモデルガンと言っていた拳銃で射殺してしまった。12歳のとき自分のせいで妹の小指を欠損させてしまった世良祐介35歳は、本物だった銃を捨てに信州の山奥まで車を走らせ、木にぶつかって車を大破させてしまう。畑中亜美に助けられ、二人暮らしの父が経営するペンションに滞在することになる。亜美は高校で妊娠して相手の独身教師が自殺する事件を起こし、同じ学園の教師だった父親の秀治は退職してこの仕事を始めた。道徳家で神の正義を信じる秀治は、祐介が指名手配されていると知り、地下室に監禁。亜美は命がけで、祐介を脱出させようとする。

(秀治は祐介の肩に斧をめりこませ、灯油をかぶって、ペンションを道連れに焼死。亜美が瀕死の祐介を励ます。後日、裁判で世良祐介の無実がようやく明らかになる。——「ニンフォマニア」として父親に見張られる亜美は小池が愛するタイプの女性で、魅力的に描かれている。しかし、りつ子が新宿駅で列車に飛び込む自殺は必要だったのか。衝撃的な展開を狙いすぎて後味が悪い。)

3月

17) ナルキッソスの鏡(集英社)

長野県逢魔ヶ森。フィアンセの乃里子がいるのに意気投合した健一郎と真弓はドライブに出かけ、大女の益代の罠にかかり殺される。益代は森の中で子供を養うため金品めあての殺人を繰り返していた。一方、密かに女装する桜木真琴は、叔母夫婦の別荘で「鏡子」を主人公にした小説を執筆していた。鏡子の姿で、負傷した乃里子を助けて別荘に住まわせるが、真琴は、森の中であつけなく益代に殺されてしまう。行方不明の乃里子を探す姉夫婦が、益代の秘密に近づいてゆく。

(益代は調べにきた警官に斧で襲いかかり、逮捕された。謎のマネキンは、11歳のとき病死した娘の球子の代わりだった。息子の富士男はそのマネキンを連れて首を吊る。——トビー・フーパー監督(Tobe Hooper, 1943-2017)の『悪魔のいけにえ』(*The Texas Chain Saw Massacre*, 1974)と安達ヶ原の鬼婆伝説を混ぜ合わせたような怪作で読みごたえがあるが、『ナルキッソスの鏡』の書名が暗示する「鏡子」のエピソードがうまく発展しなかったのは残念だ。)

1994年(平成6年) 42歳

7月

18) 死に向かうアダージョ(双葉社)

青砥貞二郎画伯の裸婦モデルで、仙台出身の早川千尋29歳は、コーヒーショップを14歳年上の妻と経営する、二宮多門と出会い恋に落ちた。二人は、別荘地の廃屋でアルビノーニのアダージョを聴きながら心中するつもりだったが、50歳近い九里子夫人が駆けつける。大学生のとき多門が、夫から暴力を受けていたのを救い出し親の反対を押し切って結婚した女だった。九里子は夫に車のエンジンをかけるよう言い、その間に千尋の首を絞めた。雪の降る中、夫婦は警察署に向かったが、自動車事故で九里子は即死。多門は瀕死の重傷を負って入院。その頃、死なずに目を覚ました千尋は状況がつかめず、階段で足を骨折し、寒さの中、必死で生き延びようとする。

(青砥画伯に送った手紙から居場所がわかり、救出される。偶然録音されていたテープから何があったかもわかった。しかし、多門が「本当に愛していたのは」どっちだったのか。千尋は、意識が戻りそうな多門を見舞う。——小池真理子是不倫で傷つく九里子夫人には無関心だ。千尋の生命力を描き、彼女を応援したいようだ。しかし、相手の優柔不断な多門は魅力不足と言わざるをえない。)

1995年(平成7年) 43歳

10月

19) 恋(早川書房、新潮社)

ノンフィクション作家の鳥飼があさま山荘事件と同日に起こった殺人事件の犯人・矢野布美子を捜しだし子宮癌で亡くなる前に真相を聞き出すという枠組みで当時が語られる。同棲していた唐木が学生運動で逮捕されその後再会するが病死。大学生アルバイトとして私は、片瀬信太郎助教授の翻訳を手伝う。信太郎は、二階堂子爵の令嬢である雛子を妻として、優雅な生活を送っている。教え子の半田や、狩猟仲間の副島とも通じている雛子は、包み隠さずあったことを報告。信太郎も私との情事を話していた。私は傷つくが、雛子とも親密な関係ができて、片瀬夫妻こそ理想のカップルだと思う。そこに、軽井沢の電機屋店員・大久保勝也が登場する。

(信太郎は会うのをやめろと初めて命令するが、雛子は、大久保の元へ走った。初めて本気の恋をしてしまったのだ。信太郎は二階堂の召使だった母から生まれ雛子とは兄妹だった。大久保は雛子を独占しようとしていた。私はこの精神的な愛を汚らわしいと思い、あるべき世界が失われると感じた。それで大久保を憎み、信太郎の猟銃で射殺したのだ。二発目を撃ち込むとき、雛子を撃たれると思った信太郎が飛び出し、以後、車椅子生活となる。布美子が亡くなった後、鳥飼が、片瀬夫妻が静かに暮ら

す鎌倉の家を訪問すると、布美子買ったマルメロの実がなっていた。——これまでのサスペンス小説に行き詰まりを感じていた小池が靈感をえて書き上げた画期的な恋愛小説。直木賞受賞。兄妹の恋愛関係は小池の関心事で、『美神』（1997）や『レモン・インセスト』（2003）でも描かれる。結婚しながらいろいろな男性と楽しむのは小池真理子の願望そのものだが、本当に書きたかったのは、雛子の本気の恋だろう。主人公に大久保を殺させたのは、夫・藤田への遠慮がまだあったからだ。小説形式も電機屋を殺した謎が中心で、サスペンスミステリーのジャンルから完全には脱していない。）

1997年（平成9年）45歳

7月

20) 欲望（新潮社）

三島由紀夫邸とそっくりな家を建てた精神科医の袴田58歳は精神を信じず、外見の美にのみ信頼を置いた。私（青田類子）は袴田邸の造園業者で美しい体をもつ秋葉正巳に魅かれながらも、司書として勤める女学園の妻子ある教師・能勢との情事にのめり込む。一方、美しさが袴田の目に留まり、結婚した中学校時代の友人・阿佐緒は1回しか抱いてもらえず、夫が秘書水野の妻・初枝と関係していると妄想。買ってもらったMGに初枝を乗せ、高速道路の防音壁に激突して死ぬ。

（正巳は16歳のときトラックにはねられて以来、不能者だった。私を石垣島に誘い指で満足させてくれたが、自ら遊泳禁止区域に行き溺死した。私は科博の研究者と結婚し、糖尿病で全盲になった袴田を訪ねる。焼失した袴田邸から逃れた三島由紀夫の小説を開くと、新築記念パーティーのとき書庫で正巳と挟んだ楓の葉が落ちる。——文庫版解説で池上冬樹が『恋』よりも女の性が描けていると絶賛。性の刹那的快楽を絶対視する小池真理子が本領を発揮してきた。小池文学には美しい男が必須だが、不能者では意味がない。この設定は夫への遠慮か。）

10月

21) 美神 ミューズ（講談社）

完璧な美しさをもった阿佐子を主人公にした連作集。9歳、17歳、22歳、26歳、30歳、35歳の彼女を関わった男性の視点から外面的に描く。高校3年生の幸男はその美少女ぶりに圧倒されながら文化祭のために彼女の写真を撮る。大人の男たちもあまりの美しさゆえに手が出せない。唯一釣り合うのは、一緒に暮らしている血のつながらぬ美しい弟・正実だけだが、二人はあくまで姉弟の関係のまま珈琲専門店を営んでいた。阿佐子は、自分に一目惚れした常連客の醜男・花村藤夫のデートの誘いを受け入れ、肌も合わせる。

（しかし、花村藤夫は阿佐子が正実と寝ていると疑って、嫉妬に狂う。「殺してくれれば信じる」と迫り、阿佐子はストッキングで絞殺せざるをえなかった。——小池の小説の女性主人公はもてるが、阿佐子の美しさは別格で卑俗な性愛を超越している。家庭教師の大学生や高校生の幸男を自宅の部屋に連れ込んで誘惑する継母の雪乃が、小池の好む正統な女性像である。この本では、男性特有の女性崇拜とその対象となった「女神」阿佐子を皮肉な目で観察しているのだ。）

1998年（平成10年）46歳

1月

22) 律子 慕情（集英社）

幽霊の気配を感じとる能力がある律子を主人公にした連作集。昭和39年から50年まで、11歳から23歳まで6話からなる。アメリカに映画の勉強に行き俳優になるのが夢だった叔父の木所晴夫にずっとあこがれていたが、晴夫は定職につかず、能登の旅館で首を吊ってしまった。私はその後、叔父の足音を聞く。昭和46年、受験に失敗し、予備校で同じ浪人の伸也とつき合って、大学合格後、約束どおり連れこみ宿で初めて肌を合わせたが、疎遠になる。叔父に似た、アルバイト先の妻子ある塚本にあこがれるがどうにもならず、再会した伸也とよりを戻す気もない。高熱を出して入院した母親を叔父の幽霊が看病するのを見て、晴夫と母が相思相愛だったと知る。

（叔父がキスして去ったことを伝え、母は喜んだ。——小池作品にしては性的におとなしめだ。4編めの「天使」に登場する母親に捨てられた坊主頭の光男少年（＝本間のおじさんの隠し子）のけなげさが感動的だが、これも子供を恋愛のじゃまと見る小池文学では珍しい。）

12月

23) 水の翼（幻冬舎）

片足が不自由になったいきさつを紗江が回想。詩人の宇佐美に見切りをつけ、木口木版画の天才・柚木宗一郎と結婚生活を営んでいた。そこへ東北大学の学生・寺島東吾が弟子入りする。夫が見抜いたとおり、紗江は美男の東吾に魅了される。天才小説家・壬生幸作が残した詩『水の翼』に12点の版画をつける大仕事の最中に柚木が急死。東吾が後を継ぎ紗江と獣のように愛し合いながら、翼を広げる男の姿を彫る。

（この版画は自分の元を飛び去ろうとしている東吾自身だと気づいた紗江は、彼を引き留めるため、わざと自分の足に漬物石を落としたのだった。しかし、彼は去った。出版後に訪ねてきて完成本を手にし、妻子がいて癌の妻を看取ったと告白するが、それは嘘だった。東吾は美のために死ぬテロリストだった。芸術を統制しようとする

政治家の暗殺を企て、用意したペン型爆弾で爆死した。
——芸術に没頭する版画家の師弟関係に夫人の恋を絡ませて格調高い物語になったが、最後の取ってつけたような結末がいただけない。)

1999年(平成11年) 47歳

6月

24) 冬の伽藍 (講談社)

高森悠子28歳は3年前に交通事故で夫を亡くした薬剤師。軽井沢の兵藤内科診療所に職を得るが、180センチの身長に美しい顔立ちの兵藤義彦33歳も3年前に妻を亡くしていた。首吊り自殺だった。母の再婚で自分の義父にあたる兵藤英二郎の餌食になったと信じ、好色な義父を憎悪していた。義彦に好感を抱き肌を合わせるようになった悠子だが、英二郎60歳は情婦の聡美がいるのに、恋愛ゲームの乗りで着実に接近。愛撫の快楽に身を委ねてしまう悠子は秘密が増えてゆく。そしてついに、風邪で寝込んだ英二郎に薬を届けて、ベッドに誘い込まれた現場を義彦に見つかってしまう。火かき棒で義父を惨殺した兵藤義彦は、懲役6年の刑を受ける。

(待つと言ったのに義彦は取り合わず、11年後、悠子は医師の富岡と再婚。しかし、白血病で余命半年とわかる。富岡は妻がまだ義彦を愛していると知り、冬の軽井沢で二人を再会させることに決める。ドイツで結婚していた義彦は飛行機のエンジントラブルで遅れ、悠子は帰途につくため駅のホームに立つ。そこへ新幹線が到着。降りた義彦は悠子を見つけ抱きしめる。——小池の長編小説でもっとも衝撃的で一見もっともロマンチックな作品だ。実際、小池版『冬のソナタ』のようにも感じられるほどだが、義彦が信じる妻の美冬は、英二郎によると典型的なニンフォマニアで彼女の方から誘ってきて別の愛人の子を妊娠していたという。まさしく小池好みの女性像である。悠子自身も英二郎のテクニックに酔っていたのだから、純情すぎる義彦に満足しきれなかった彼女がいまさら愛しているというのは不自然すぎる。小池真理子が純愛ブームに便乗して書いた作品と思われる。)

10月

25) イノセント (新潮社)

わたし(玲奈)が26年前に死んだ血のつながらぬ自分の「片割れ」渚を回想。渚は侯爵家の血筋をひく三男坊が美貌の芸者に生ませた美しい男で、おびたしい数の女を相手にしてきた。幼い頃から兄のように慕うわたしは両親を安心させるため平凡な結婚をしたが、夫が海外出張すると、その3か月を渚が住む湖畔の邸宅で過ごし、愛し合った。地下牢には、渚が死にたがり屋の女に生ませた息子の晴夫が幽閉されており、若い家政婦のみやは

渚のご褒美めあてに性の相手も務めている。

(わたしはさらに渚が欲しくなったが、絶頂のあと目を覚ますと、急性心不全で亡くなっていた。渚は無垢そのものだった。その後、わたしは退屈な良人の元へ帰った。——ハナブサ・リュウ(1949-)によるエロチックな写真がつく。背徳の性を描く小池のファンタジー。その根源には、退屈な日常への不満があるようだ。)

2000年代

2000年(平成12年) 48歳

1月

26) ノスタルジア (双葉社)

繭子は、放蕩で34歳で亡くなった父の親友で母が頼りにした作家の仙波雅之の愛人となり、彼の死後15年の今も調布にある小さな古い家で暮らしている。そこに雅之そっくりの46歳の息子・俊之が訪ねてくる。妻子のある、研究所勤めの民族学者だったが、昔行った銀座や赤坂のなつかしい日本料理店で一緒に食事して愛し合い、繭子は22歳の頃に味わった官能を再び体験する。

(自らを犠牲にして結婚もせず一家を支え老母の世話をしている姉の千春が、俊之が山で亡くなっていることを突きとめる。青い鬼火とともに繭子は愛する父子のあとを追おうとするが、猫のクマによって現実に留まることになる。——文庫解説でホラー評論家の東雅夫が『雨月物語』を想起したと絶賛。なるほど「異界小説」の形をとっているが、40代半ばを過ぎて以前のようにもてない女性のプライベートなファンタジーという気がする。父子を両方愛するのは、三國連太郎とその息子・佐藤浩市の大ファンを公言する作者自身の性的願望だろう。)

10月

27) 月狂ひ (改題、浪漫的恋愛) (新潮社)

私(片岡千津46歳)は、幻想小説アンソロジーに葛城瑞穂の『月狂ひ』を入れるため、息子である横浜の建築家・倉田柊介49歳と会い、互いに一目惚れする。作家の妻・峯子が夫の親友で画家の門脇の子を孕み沙羅の木で首を吊って心中し、股から蛇が生まれる奇譚。この小説を偏愛する私は、小児科医の久保山と密会中に息子(私の弟)を交通事故で亡くして首を吊った母親の血を恐れ、平凡な結婚をしていた。柊介も結婚していたが、鎌倉にある葛城瑞穂の旧宅を逢瀬の場所に決め、愛欲に溺れる。無精子症の夫をだまして情事を重ねていた私は、柊介の妻・倫子に「色狂いの中年女」となじられる。私たちは会うのをやめ、1年後に再会して決断を下すことにする。

(1年後、柊介は現われなかった。狭心症で入院したのだ。私はタクシーで病院に向かったが、急きょ鎌倉の家

に変更。降り立って、庭に沙羅の木があることに気づく。——文庫では題名が変更になったが、月夜に男女が恋に狂う内容を見れば、『月狂ひ』のほうが断然いい。不倫を肯定し、世間で「色情狂」と蔑まれる中年女性を擁護し、そこに「浪漫」を見る小池文学がついに確立する。新世紀を意識した決意の表明でもある。）

11月

28) 蔵の中 (祥伝社)

大地主・小松原家の一人息子である孝也は大学時代の親友・野崎新吾が運転する自動車の事故で不能者になり、車椅子で暮らしている。妻の私（鮎子）は新吾と隣町のラブホテルで密会を続けるが、元家政婦の喜美子に見つかって百万円を要求されて支払い、その後も脅迫される。ついに新吾が絞殺し、蔵の中の大型冷凍庫に死体を隠す。（養子縁組をして新吾は小松原家を継ぐため嫁を迎えることになった。そばで見るのが嫌な私は、蔵の冷凍庫のコンセントを抜く。——チャタレイ夫人同様、不能の夫に用はない。本能に忠実に生きる女を一人称で描いた。）

2001年（平成13年）49歳

10月

29) 薔薇いろのメランコリヤ (角川書店)

両親が離婚して家出を繰り返していた17歳のわたし（野乃）は「バイシュン」で暮らしていたが、有名詩人新川エマ37歳に気に入られて、秘書の肩書をもらい一緒に元麻布のマンションに住む。彼女の生き方に心酔して、男たちを共有し面白がっていたが、街頭詩人・寺岡晋平が現われると、エマは本気で好きになってしまう。エマらしくないと不満なわたしは晋平を誘惑し、追い出される。わたしにとっても初めての恋だったが、創作中孤独を強いられるのが嫌で、彼のもとを去る。

（わたしはパリで知り合った男と一度離婚して、35歳になる年に出会った善意の塊のような男と再婚した。エマはそばに仕えていた召使の佐伯と結婚していた。小説家として成功した晋平は不倫の末、女優と結婚。わたしは小娘だった22年前をなつかしむ。——作中で酒とたばこ男たちを存分に満喫した過去をなつかしむ「わたし」は、50歳を目前にした作者自身でもある。）

2002年（平成14年）50歳

6月

30) 狂王の庭 (角川書店)

鎌倉の家の解体工事で天袋から発見された手記。私（杳子）は旧華族久我家の長男勇作の妻だったが、妹の美夜の婚約者で長身で美男の陣内青爾と相思相愛の仲になる。陣内紡績の名ばかりの社長である彼は国分寺の邸

に巨大なルネッサンス・バロック式庭園を築きあげて、マーラーを聴き、絵を描いた。私は夫と妹に嘘をついて邸で密会をつづけた。妹は何も知らずに結婚して、夫に抱いてもらえず悩み、ロールス・ロイスで私を送迎した運転手の佐高に厩でキスされ、松本市の実家に帰る。

（私は密会を再開するが、皮肉にも青爾の子ではなく夫の子を妊娠してしまう。絶望した青爾は奇行が目立ち、ついには野井戸の中で自殺を遂げる。私は生まれた娘が庭園から飛翔することを願い、翔子と名づける。青爾は私の裸婦像を残していた。——『イノセント』の渚同様、実社会から孤立した美男と優雅な愛に浸る夢が描かれているが、青爾は自信満々の渚と違い、あまりにも優柔不断で煮え切らない男だ。登場人物として魅力に欠けるが、小池はこの弱さに魅かれるようだ。）

2003年（平成15年）51歳

1月

31) 虚無のオペラ (文藝春秋)

高名な日本画家・堂島滋春の裸婦モデルを務めて16年になる結子46歳は、8歳年下の愛人でピアニストの島津正臣ときっぱり別れるため京都花背にある深山亭に二人で宿泊し、最後の4日間を過ごす。結子のすべてを見ながら性的関わりを持たなかった堂島は嫉妬したのか首を吊り、夫人に助けられる。正臣の全盲の妻・織江が二人目の子を妊娠したと聞き、結子は自分にはもうその能力がないと嫉妬した。（存分に愛し合って、最後には欲望も消え、二人は行先の違うタクシーに別々に乗って別れる。——更年期を迎えると、愛する人の子供も産めなくなり、年下の男との恋愛にも限界を覚えはじめる。鑑賞に堪える裸にも限界がある。作者はそのことを痛感して、この小説を書いている。）

7月

32) レモン・インセスト (光文社)

嶋田濤の叔母で銀座に事務所を構える弁護士的美沙緒50歳（妻子のいる法学部教授の楠田とつき合っている）は、日替わり定食のように女を替えた嶋田圭一の最後の愛人で彼ほどの男はもう現われないと思っている。その圭一の若いときとそっくりな岩崎昭吾が、24年前に誘拐されて行方不明だった濤の異母弟・崇雄と判明。二人を引き合わせる。濤は金持ちのどら息子で妻子のいる牟田に囲われて白金台のマンションで暮らしていた。ホストクラブで学費を稼いで大学に入学し、哲学を学んでいる昭吾はバーテンのアルバイトをしてホモのオーナーから赤いジャガーを借りだすことができる。姉弟は禁断の恋に落ちてしまうが、さすがにキスより先は進めない。

（牟田と別れた濤は新年を迎え、美沙緒の所で働くこと

を考えていたが、昭吾はジャガーの助手席に濡を乗せると急ハンドルを切り、ベイブリッジから墜落、心中する。——姉弟の恋は小池が好きなテーマだ。『美神』同様、性愛がタブーの場合は不安定な精神状態が続いて耐えられなくなるが、作者の小池真理子は作中「叔母」として傍観するのみだ。)

10月

33) 瑠璃の海 (集英社)

夫の孝明が乗った高速バスにタンクローリー車が突っこみ爆発炎上。萌は遺族会で10歳の娘を亡くした作家の石渡遊作と出会い恋に落ちる。自慰でも元カレでも満たせなかった欲望を遊作が満たしてくれた。小説『瑠璃』で理想の女性を求めて放浪する自分を描いて人気作家になった遊作はスランプに陥っており、続編に向けた取材を兼ねて、萌と平戸へ旅行する。

(結局、遊作は続編を書けないまま死ぬことを決意。萌は夫が英会話学校で奈々子と浮気していると疑っていたが、間違いであることが判明。やっと気分が晴れ、遊作と一緒に死ぬと申し出る。こうして、二人は旅館で愛し合い、浴衣の紐で手首を縛り、大バエ断崖から飛び降りる。——夫を突然亡くした虚無感と、自分の浮気は棚に上げて夫の浮気は絶対に許せない女性の本能がなまなましく描かれている。)

2005年 (平成17年) 53歳

1月

34) エリカ (中央公論社)

「オフィス・エリ」を経営し東京タワーの見えるマンションで暮らす独身の高石エリカ40歳は、急死した親友の蘭子が家族に隠してつき合っていた愛人の湯浅竹彦に告別式の後くどかれる。41歳の誕生日に401本の薔薇を贈られて感激し、肌を合わせるようになる。「愛してるよ」と繰り返す竹彦はヴェネチア旅行に誘ってくれたが、結局、彼のほうからキャンセルし、妻と出かけていった。その後、エリカは自分の部屋で盗聴器を発見する。

(犯人はバーガー亭のデリバリーを担当する青年だった。恋人も友人もないという宮本洗一は、密かにエリカに恋心を抱き、盗聴。湯浅竹彦が体めあてでエリカを愛してなどいないと見抜いていた。エリカはやっと目が覚め、帰国した竹彦をきっぱり拒むが、酔っぱらって代わりに洗一をホテルに呼んでキスしようとするが、逃げられてしまう。——作者の小池真理子は幻とも思っても愛を求めつづける孤独な都会人を描いた。小池は自分よりも若く設定したエリカの愚行をいとおしく感じているようだが、ストーカーに真実を突きつけられたエリカのぶざまさはどの程度、読者の共感を得られるのだろうか。)

9月

35) 愛するということ (幻冬舎)

わたし(マヤ)は、子宮の出血で患者として産婦人科医の野呂貴明と出会った。1年後、再会して恋に落ちたとき、彼は女のなまなましさに嫌気がさし経営者に転向していた。わたしは彼が青山骨董通りにオープンした「遊園地のソフトクリーム売場みたいな」雑貨店『ユリイカ』で働くが、肝心の彼は、妻の庸子と二人の子供がいるのに、元モデル千晶 47歳と愛し合い外国に行ってしまった。失恋を乗り越えるため、わたしは店の古本を全部買ってくれた初老の客(2度離婚して結婚は馬鹿げたことと悟ったという)に抱かれる。たくさんの男と寝るといいとアドバイスをもらい、紹介された俳優の拝島悟郎とも寝て、愛していない二人に友情に似たものを感じる。(こうして区切りがつき、わたしは『ユリイカ』をやめた。野呂を失ったが、わたしは自分の情熱を信じて、愛することはやめないだろうと思う。——野呂貴明の魅力は読者に伝わったか。47歳の美女にリアリティはあるか。大いに疑問だ。失恋の苦しみはよくわかるが、荒療治の解決策は一般に勧められるものではない。主人公を若く設定したが、性に憑りつかれた作者の姿が垣間見える。)

2006年 (平成18年) 54歳

1月

36) 青山娼館 (角川書店)

男なしでは生きられないだらしない母の不注意で、娘の舞2歳(テレビ局の愛人との子)がマンションのベランダから落ちて死んでしまった。その怒りから、わたし(奈月)は親友の山村麻木子が勤めていた、青山の秘密の売春クラブ『マダム・アナイス』で働くようになる。そして、川端丈志と出会う。愛人だった麻木子の自殺の真相を知るために、わざわざ入会金1千万円と年会費300万円を払って客となったのだ。

(わたしは笑い話のような真相を伝える。麻木子は老舗の呉服屋の若旦那に言われるままボールペンを腸に差し込んで死なせてしまい、それを苦にして首を吊ったのだ。わたしは川端に抱かれ、生きていけると思った。なお、経営者の漆原塔子は娘(私生児)の婚約者だった野崎(現マネージャー)を奪って娘に自殺されている。——前作同様に、歯止めのきかなくなった作者の欲望のすさまじさが感じとれる。ここまでくるとセックス狂というよりセックス教だ。)

4月

37) 虹の彼方 (毎日新聞社、集英社)

女優の高木志摩子48歳が座長となり、『虹の彼方』が上演される。原作者の奥平正臣43歳は妻の真由美と双子

の娘(春美と夏美)がいるが、エイジレスな美に一目惚れし、広尾にある仕事部屋で彼女を抱く。志摩子は、22歳のとき才能を認めてくれた細く骨ばった49歳の堂本監督に抱かれ、共演した妻子ある加地謙介の子供を妊娠してスキャンダルになったが流産。静かに受け入れてくれた大学教授の滋男と結婚し15年になる。正臣と恋に落ちた志摩子は夫に離婚を認めてもらい、昔の男にも嫉妬して妻子を捨てる決心をした正臣と上海に駆け落ちする。

(やがてマスコミが嗅ぎつける。一緒に暮らすため二人は一大決心して日本に帰る。――捨てられる配偶者は堪ったものではないが、すべてをなげうって、これまでにないくらい愛し合う二人を小池は賛美する。不倫の恋に憑りつかれた作者の激烈な欲望が文学に昇華した。柴田錬三郎賞を受賞した最高傑作である。小池真理子の性欲はこれ以降、落ち着きを見せる。)

2007年(平成19年) 55歳

10月

38) 望みは何と訊かれたら(新潮社)

音楽プロダクションの夫を手伝いパリに渡ったわたし(沙織。大学院に通う娘・恵がいる)がギュスターヴ・モロー美術館で昔と変わらぬ秋津吾郎と再会。1972年、半年一緒に暮らした過去を思いだす。N大ベ平連の富樫充と初めて寝て女になったわたしは、革命インター解放戦線を率いるカストロ風の大場修造に魅かれて奥多摩のアジトへ。そこで共同生活して女性蔑視に気づき、幻滅する。実家に電話しただけで浦部幸子は自己批判を強制され4日間もリンチにあい脱糞して死亡。わたしは死体を埋めに行かされた時に脱走し、都内の公園で寝ていたところを19歳になった吾郎に助けられたのだった。叔父から借りているという小さな家にかくまってもらい、赤ん坊のように食べさせてもらい、おむつを替えるように性交の後の処理をしてもらった。革命インター解放戦線は東京駅で爆弾テロを起こし、近所に追手を差し向ける。(わたしは仙台の実家に逃れた。死刑判決を受けた大場は刑務所で首を吊り、事件は過去のものとなっている。しかし今、わたしは離婚している吾郎の鎌倉の家で34年前と同じことをしてもらっている。――吾郎の父は青いモルフォ蝶の標本を残したコレクターで、高校の教え子の若い男を恋人にして離婚、首を吊って自殺したというのが、無意味だ。偶然の再会も結末もリアリティがなく、またも過去をなつかしむ作者のファンタジーとわかる。)

2008年(平成20年) 56歳

10月

39) 午後の音楽(集英社)

映画を製作する広瀬龍士郎は妻の美晴が子宮筋腫で入

院中、小6の航太の面倒を見に来てくれる義姉の由布子(離婚し女子大生の娘・咲と同居)とメールのやりとりを始める。美晴はファザコン(母は嫉妬して首吊り自殺)で龍士郎はうんざりし、メールの中で、翻訳家の由布子に心を開く。龍士郎は父をチンピラに刺殺され母を病気で亡くすつらい子供時代を過ごしてきた。二人はデートのたびに官能的なキスを交わす。由布子は娘の旅行中を狙って彼を自宅に呼ぶが、妹に気兼ねして男女の仲にはなれない。あきらめきれぬ龍士郎は酒に溺れて入院する。由布子は咲とロンドンに行つてイギリス女性作家の大作を訳すことに決める。握手で別れた龍士郎は一生愛すると誓い、耳を澄ませば二人の音楽が聴こえて共に奏でることができると書く。――小池文学としては珍しい純愛もの。結ばれないゆえに二人の愛が永遠のものになるというのは、肉体の快感を重要視した小池真理子の恋愛観からすれば邪道だが、これこそ、欲望が落ち着いた作者の新境地なのだろう。メール形式の小説でお互いの心情がきれいに整理されて書かれているのも、なまの感情が語られたこれまでの小説とは異なっている。)

12月

40) ふたりの季節(幻冬舎)

離婚後、26歳の公務員の息子(結婚するつもり恋人がいる)と同居し、シニアケアの仕事をしている由香が、夏休みをとり、清水谷公園前のオープンカフェで偶然、初めての男・長谷川拓と35年ぶりに再会する。妻を病気で亡くし、娘とその恋人に銀座でごちそうする予定だが時間があるという。二人はなつかしい昔話で盛り上がる。父親が仙台に転勤したため、由香は東京で一人暮らしを始めた。一浪した拓とはジャズ喫茶や同伴喫茶で会い、法学部合格後、初めてアパートで結ばれた。

(結婚する約束だったが、あさま山荘事件で一つの時代が終わり、別れた。しかし、人生はつづく。この再会を必然と感じ、二人は携帯番号とメアドを交換する。――『無伴奏』でも一部描かれた仙台での作者本人の体験を美しく改変し、子育てを終えて身軽になった二人の恋の再熱を爽やかに描く。未来に明るい期待を持たせながら、小池には珍しく爽やかなオープンエンディングになっている。三島由紀夫が自決した1970年あたりが年をとった作者には、たまらなく懐かしい青春時代なのだろう。)

2009年(平成21年) 57歳

3月

41) ストロベリー・フィールズ(中央公論社)

文潮書院2代目社長・月川智之(年齢不詳の55歳)の後妻である夏子は、ファザコンの娘りえの「夏子ママ」であるとともに、夫に出資してもらった月川クリニック

の院長である。ワーゲンポロで鎌倉の自宅から通う毎日だが、夫が秘書の葉月と書斎でキスしているのを目撃し、結婚前につき合っていたプレイボーイの早瀬と会ったり、りえの友人・愛の異母兄・平岡旬の誘いにのって、彼がアルバイトをする渋谷のロック・バーで会い、熱帯魚を飼う恵比寿のワンルームマンションに行きキスしたりする。1歳半で母親に捨てられた旬は、夏子にだけ女を感じると告白。復讐のため、葉月と寝て仕事ができないほど夢中にさせて解雇に追い込む。これはふられた智之にとってもショックで酒浸りになる。しかし旬は、婚約者のいるりえにまで手を出す。夏子が怒ると、腹に包丁を突き立てる自殺未遂を起こし、助けを求めてきた。

(旬は、りえと結婚して一生夏子のそばにいたかったという。夏子は医師として救急車を呼び、母の気持ちで旬を見る。りえは婚約者の元へ戻り、予定どおりフランスへ留学。回復した旬は公認会計士の学校に戻った。旬を本気で愛した夏子は大人げなかったと反省する。――夫の浮気に対する妻の典型的な仕返し。プレイボーイとの一夜を生涯の思い出にするというのも女性の本音だろう。息子のような若者との恋愛にはさすがに照れが出た。)

8月

42) 熱い風 (集英社)

新聞社文化部記者の私 (高橋美樹) 35歳はオランダのデルフト焼について原稿を依頼したのがきっかけで根津遼平41歳と出会い恋に落ちた。別れた妻にチョコレートショップを譲り『カフェ・ド・プリンス』から電話してきたのが最後だった。ずっと話していたい恋人だったが、酒と睡眠薬で急死した。1年後、私は彼の思いをたどるヨーロッパ旅行に出る。モロッコの公館派遣員のときに摂氏53度の熱い風で骨になることを望んだという遼平は天涯孤独の身で、闇を抱えて生きていた。30年前、小6のとき母が小鳥屋を営む愛人と下田の海でナイロン紐で手を結び、心中していたのだった。遼平は私が彼を愛したほどは、私を愛していなかったのではないか。

(『カフェ・ド・プリンス』で、1年前、遼平との話の途中で携帯に出たヤンと偶然出会い、遼平が私 (美樹) と暮らす家を見つけていたと知る。自分との結婚に希望を抱いていたことがわかって、救われた気持ちになる。――遼平の母の情死は『瑠璃の海』(2003. 10)を想起させる。前作は手首をしっかりと紐で結んだ心中をロマンチックに描いたが、やはり、家族特に子供がいる場合は、精神的ダメージを与えることになる。恋愛至上主義者の作家・小池真理子は最初から子供を持つ気がなかったのでそんなことは承知の上だったろうが、遅ればせながら、被害にあった子供のその後を目を向けるようになった。果たして遼平は酒と睡眠薬なしでは眠れない男となり、

それを救えたのはこれまでの激しい性愛ではなく、繊細な気遣いだった。作者の性衝動が収まって書けた小説だ。英国人の夫との不和と自分の欲望を克明に綴った森瑤子の同名小説(1982)と比べ、はるかに後味がよい。)

2010年代

2010年 (平成22年) 58歳

4月

43) 存在の美しい哀しみ (文藝春秋)

癌で亡くなった奈緒子に関係者の目から浮かび上がる連作集。わたし (榛名) は、異父兄がブラハにすることを知り、チェコスロバキアへ出かけ、正体を隠してガイドに雇う。その芹沢聡は国立ブラハ芸術大学を出て父親と同じチェロ奏者になっていた。母の奈緒子が榛名を生んだいきさつはこうだ。奈緒子は性戯に長けた芹沢喬と恋に落ち留学先のブラハで一緒に暮らすはずが聡を身ごもってしまう。不注意を怒った喬は、単身海を渡り、芹沢家に置き去りにされた奈緒子は、相談した後藤信彦の子 (榛名) を妊娠してしまう。喬は激怒して「売女」呼ばわりし、離縁。聡を奪われた奈緒子は傷心で榛名を生み、老人介護施設で働いたが、癌になり退職 (後藤は死が近い妻のことを忘れるため榛名と変わらぬ年齢の知沙を抱く)。独り、ホテルのスイートルームで映画『アンナ・カレーニナ』を鑑賞し、人生を善と肯定したトルストイに癒され、キリスト教徒として死ぬ。忠実な妻を得た喬は愛人をつくっている。長男の聡は、津田範子と婚約中。結婚まで肌を合わせない彼女の古風な考えに、人気俳優の愛人で妊娠中絶の経験のある妹・恵理が反発する。

(芹沢聡は、榛名を追ってウィーンへ。一緒に『第三の男』の観覧車に乗り、焼き栗をカイロ代わりにして歩く。異父妹であった榛名から実母・奈緒子のことを聞いて、初めて孤独ではないと思った。――因習的な結婚を非難するのはいつもどおりだが、セックスに依存してしまう奈緒子や後藤の行為を人間の弱さにとらえキリスト教や神を持ち出したのは以前の小池と違うところだ。新機軸のつもりだろうが、陳腐だ。しかし、それぞれ独立して読める短編小説の形をとりながら、視点人物を替えて、主人公・奈緒子の人生とその余波を描き切った文学的な試みは見事だ。全体として、洗練された印象を受ける。)

2011年 (平成23年) 59歳

6月

44) 無花果の森 (日本経済新聞出版社、新潮社)

映画監督の新谷吉彦の家庭内暴力に苦しむ妻・泉38歳は、相談して一緒に飲んで帰ったカメラマンを目の前で殴り倒されクビを言い渡されるのを見て、ついに家出。

たまたま下車した岐阜大崖の喫茶店で家政婦を募集する貼紙を見て、口の悪い老画家・天坊八重子（住まわせていた8歳年下の元恋人＝詩人を亡くしていた）のもとで偽名を使って働くようになる。八重子が夜連れていってくれたおかまバーで、還暦近いサクラが雇ったバーテンが新谷のDV疑惑を追っていた記者の塚本鉄治42歳と知り驚く。鉄治はアイドルの薬物事件を追って罠にかかり、自分が薬物所持の現行犯として追われる身になっていた。（二人は恋仲になり、琵琶湖へドライブするが、愛する泉と真摯に向き合うため鉄治は自首する。泉は家政婦をやめて新谷と離婚する。中庭の生命力あふれる無花果を描きつづけた八重子は、公言していたとおり最後に自分の老いたヌードを描くという計画を実行し、全裸で急死。告別式、再審請求中でまだ無罪が確定していない鉄治がタクシーで駆けつけ、泉はその胸に飛び込む。——恋と芸術に生きた天坊八重子は、小池真理子の理想の老女像だ。古厩智之監督が2014年に、江波杏子(1942-2018)を天坊八重子役に起用して映画化したが、小説版の八重子はもっと下品でふてぶてしい生命力に満ちあふれた老婆だ。夫の暴力に苦しむ泉は小池作品には珍しく受け身で、どぎつい性描写もなく、わき役である天坊八重子が印象に残る小説だ。2011年度芸術選奨文部科学大臣賞受賞も領ける。）

2012年（平成24年）60歳

6月

45) 二重生活（角川書店）

大学院でフランス文学を専攻する白石珠は、妻子ある武男をスキルス性胃癌で亡くし2年も留年。50代の女優三ッ木桃子の専属運転手をしている美大出の卓也と同棲し、痛手を乗り越えた。篠原教授のゼミでソフィ・カルの「文学的哲学的尾行」を知り、マンションの向かいに住む大手出版社の編集者・石坂を尾行し修論を書くことにする。武男を思いださせる石坂は澤村しのぶと不倫中。二人の諍いをイタリアンレストランの近くのテーブルで観察。ついに尾行がばれ、妻の美保子が自殺未遂を起こしたのをきっかけに、大家が珠が何か話してしまう。呼び出された珠は教授と相談し、すべてを正直に告白。こそこそ帰宅すると卓也が嫉妬していることを知り、珠は喜ぶ。ずっと卓也と桃子が愛し合っていると妄想していたが、二人とも誤解が解けて、互いを求め合う。

（珠は石坂とワインバーで会い、近況を聞く。元の鞘に収まったようだが、めでたしめでたしではなく倦怠感を覚え、珠は新たな尾行を開始する。——不倫の恋ばかりを描いてきた小池の作品自体が男女の秘密を暴く一種の「文学的哲学的尾行」だった。人生の倦怠感を追い払うにはもってこいの小説として需要があるのだろう。この

小説では以前の小池と違い、同棲中のカップルの健全な嫉妬を描き、誤解が解けて愛し合う穏当な結末を用意した。石坂が妻の元に帰るのも常識的で小池作品としてはかえって新鮮である。）

11月

46) 沈黙のひと（文藝春秋）

2009年、私（同じ出版社の柏木と離婚して20年になる、定年が近い三國衿子57歳）の父・三國泰造は介護付有料老人ホームで85歳で亡くなった。パーキンソン病だった。学徒出陣で中国に出征したが生きて帰国、S石油の仙台支店長になったが私が7歳のとき母・久子と離婚。再婚した華代は見舞いにも来ず、喋ることもできなくなった父は、認知症で全裸になって糞を塗りたくっても記念の指輪ははずさない母と別れたことを悔やんでいたようだ。死後、遺品整理で性具や裏ビデオが見つかり、私よりも欲望に忠実だったことがわかった。彼女いない歴が年齢と同じ吉森の協力で、古いフロッピーディスクに保存された手紙や手記も読んで、父のことを知ることができた。

（父は、パーキンソン病であることを示すカードを身に着けて、ちえ子という癌の女性を仙台まで訪ね、最後のひとときを分かち合ったようだ。また朝日歌壇に載った女性と文通していた。私は5分遅れで死に目には会えなかったが、父は私のことを心配して、私が自分の息子のように感じている吉森に、衿子をよろしくお願ひしますと書いていた。——亡き父・小池清泰に捧げた。性具を隠し持っていたのは実話だ（「父の遺品—『沈黙のひと』が生まれるまで」『感傷的な午後の珈琲』2017年）。性愛に関心を持ちつづけた父をいとおしむ娘の心情が表われている。「三國」と名づけることで、父をあこがれの三國連太郎と重ねている。若き日の父が書いた短歌「プーシュキンを隠し持ちたる学徒兵を見逃せし中尉の瞳を忘れず」を巻頭に掲げる。小池真理子の文学的才能と性への関心が父親譲りだとわかる。吉川英治文学賞受賞。）

2015年（平成27年）63歳

6月

47) モンローが死んだ日（毎日新聞社、新潮社）

軽井沢と佐久の間の花折で暮らす幸村鏡子59歳は夫を癌で亡くし2匹の猫と暮らしているが、抑鬱状態に苦しんでいた。近くの宇津木クリニックに非常勤で来ている長身でイケメンの精神科医・高橋智之に診てもらい完治する。高橋は、鏡子が管理人として働く文学館に現われ、ファミレスと一緒に食事し、夫の墓参にも同行。水曜日の夜は鏡子の手料理を食べて泊っていくようになったが、ある日、突然姿を消してしまう。鏡子は、横浜の病院に高橋智之を訪ねるが別人と知り、愕然とする。

(インターネットと雑誌記者と本人の手紙から、失踪した日に横浜の雑木林で首を吊ったマリリン・モンローのものまね芸人・川原まりりの父・高橋恭平55歳が正体と判明。離婚して引き取ったこの鬱病の娘の世話をした元製菓会社社員、横浜の病院の総務部職員であった彼は、娘の治療費を稼ぐため、精神科医を騙っていたのだった。その後、自首し、謝罪の電話をしてきた彼を鏡子は許し、家に迎える。——大きな謎をはらんでいっきに読ませる恋愛もの。2019年にNHKが草刈正雄(1952-)と鈴木京香(1968-)でドラマ化している。長身イケメンの草刈は作者小池真理子と同じ年齢で原作の恭平よりも10歳以上年上だったが、鏡子役の鈴木京香は原作の主人公よりも10歳近く若かった。小池がめざした初老女性の恋は皮肉にも、男性脚本家・岡田恵和の手で初老男性のよくある恋物語に改変されてしまった。小池文学への最大の侮辱である。ちなみに、この小説のとおり小池は藤田を癌で亡くした。本作の結末のような幸せをお祈りしたい。)

2018年(平成30年) 66歳

3月

48) 死の島(文藝春秋)

大手出版社、文芸春秋の文芸編集者だった澤登志夫69歳は文芸アカデミー青山教室も引退。腎臓の末期癌だった。ラジオ局のディレクターだった貴美子との不倫で48歳のとき離婚し、娘の里香も失った。皮肉にも互いの情熱が失われその後疎遠になった貴美子も、癌になって尊厳死を遂げ、登志夫にベックリーンの『死の島』の絵を残していた。登志夫は、祖父が息子の留守中に嫁と関係し、それを妻のせいにする『抹殺』という作品を書いた教え子の宮島樹里に慕われながら、密かに死の準備を進め、彼女から贈られた万年筆で遺書を書く。(そして、樹里には秘密のまま、佐久の別荘で「脱血死」自殺を決行。おれのことを書けと励まされた樹里はトルコキキョウの花束を手向け、その気になる。——もう恋愛をする気力も残っていない老人の最期を描いた作品。結婚も不倫も遠い思い出でしかなく、作家志望の樹里を娘代わりに、その将来に期待して「死の島」に旅立つしかない。老いと孤独な死を静かなタッチで描いている。)

2020年代前半

2021年(令和3年) 69歳

6月

49) 神よ憐れみたまえ(新潮社)

1963年11月9日の国鉄「鶴見事故」のあった日に自宅で両親を惨殺された百々子12歳。母親の須恵は絞殺され、帰宅した、函館の老舗黒沢製菓を継ぐ父はクリスタルの

灰皿で頭を砕かれていた。私立聖蘭学園でピアノを学んでいた百々子は、家政婦たづが大工の多吉と二人の子供と暮らす家に引き取られる。部屋を譲ってくれた長男の紘一にあこがれ、妹の美佐と仲良くなる。叔父の左千夫(母の異父弟)が温かく見守って、手紙のやりとりをしていたが、過剰な愛を感じとれ、様子が変わることに気づく。

(ハンサムで俳優志望だったのにあきらめて工場に勤めている独身の左千夫こそが、百々子の両親を殺した犯人だった。百々子を少女時代から熱愛して妄想をノートに書きつけていたのを姉の須恵に見つかってしまい、邸への出入りを禁じられて殺人を犯したのだった。左千夫は百々子を函館旅行に誘い、立待岬で自殺する。百々子は恋人の北島と結婚したが、子作りで自分を支配しようとしていると感じ離婚。出産で死んだ美佐のために、彼女の不倫の子・律を自分の手で育てるが、62歳で認知症になってしまう。40数年ぶりに、担任だった美村と再会。生き抜くよう励まされる。終章を語る「私」は、宇宙の暗黒の果てに吸い込まれる自分を想像する。——数奇な運命を生きた百々子的大河小説。恋愛小説の要素は後退し、謎の殺人事件と左千夫の異常性愛は、サイコものを書いてきた1980年代に逆戻りした感じだ。そこにリアルな切実さは感じられず、犯人に共感できない。作者の感慨として読者の印象に残るのは天命を生き抜いたあとに待つ宇宙の暗闇だ。小池が尊敬する、宇野千代は98歳まで恋に生きた。まだまだこれからではないか。)

2022年(令和4年) 70歳

7月

50) アナベル・リイ(角川書店)

今から40年以上前の1978年、美大を卒業後、デザイン事務所に勤めた私(久保田悦子)は社長との不倫を夫人に疑われ退社。多恵子のバーに勤め、元全共闘のプレイボーイで雑誌のフリーライター飯沼を知る。彼は島根から出てきた女優志望の杉千佳代が舞台『アナベル・リイ』に代役で主演し無残に失敗すると妻に迎えた。私は、舌足らずで子犬のような千佳代に一方的に慕われていたが、彼女はバーで倒れ、入院先で誰にも看取られずに死んだ。以後、幽霊が出没。多恵子が白目をむいて倒れ同じ病院で急死する。かつて飯沼と寝て夢中だったことに嫉妬したのか。飯沼に誘われて関係を持った私は次は自分かと恐れながらも結婚し、妻になる。取材中の飯沼に一目惚れした順子は新宿駅で電車にはねられ死亡。女が背中を押すのを見たという男性に会うと、やはり千佳代の幽霊の仕業らしい。(そして書きたくない出来事が2000年に起こった。52歳になって魅力がさらに増した飯沼が48歳の私を裏切り初めて女に溺れた。「恋多き人妻」が運転する車は高速道路の側壁に激突し、飯沼は即死したので

ある。月日が流れ、私は自分が老婆になったと実感する。私は、この原稿を夜中に読んでいる千佳代の幽霊を見た。——小池真理子の最新作は、ヘンリー・ジェイムズの『ねじの回転』(*The Turn of the Screw*, 1898)に似て、幽霊の実在は「私」が思っているだけで、実際のところ、死んだ千佳代の仕業とは言い切れない。わかるのは、年をとった小池真理子が恋愛ものを書くために1978年まで遡らねばならなかったことと、中年を過ぎてさらに魅力的になる男性とは対照的に、女性はそうではないということを確認ざるをえなかったことだ。結婚していても夫が魅力的なら他の女に奪われる恐れがある。48歳のとき

不倫の恋を謳歌したのは作者の小池真理子その人だったのに、亡き藤田宜永が交際した女たちが今ごろ憎らしくなったのか。夫の恋を妬んだのか。本書の最後に残ったのは、自信満々だった小池真理子の主人公を知る読者にはあまりに寂しい、孤独な老婆の嫉妬であった。))

これで終わってしまったのは、結婚制度をめぐる論敵と見なした「女性の男性に対する魅力は、母という要素を除けば急速に落ちやすい」と言った渡部彰一に負けたことになってしまう。今こそ知的悪女の意地を見せる時だ。小池真理子の新作に期待したい。

Mariko KOIKE's 50 Novels: Reading the Life of the Intellectual Wicked Woman

Koichi YOKOYAMA

Mariko KOIKE (1952-), one of Japan's most famous female novelists, has published 50 novels, from *I Cannot Run Away from You* (1985) to *Anabel Lee* (2022). This paper is a guide, including outlines and comments, to these novels with an introduction to Ms. KOIKE's literature, focusing on her development as a writer chronologically and pointing out the importance and significance of her works.

Although most people have already forgotten, Mariko KOIKE made her debut in the Japanese literary world as a feminist critic in 1978, when she successfully published her bestselling *Encouragement to Become an Intellectual Wicked Woman*, which was deeply influenced by the women's lib movements in the United States. The late 1970s and early 1980s were a time in Japan when the traditional way of life for Japanese women was being overhauled and the number of sexually liberated women increased dramatically. Naturally, conservative male critics like Shoichi WATANABE (1930-2017) were so afraid of this trend that they desperately tried to protect the existing marriage system. As a result, Momoe YAMAGUCHI (1959-), the most popular girl singer of the time retired at the age of 21 and married the seven years older actor Tomokazu MIURA in 1980, while Seiko MATSUDA (1962-) took over YAMAGUCHI's top position, and, as we know, has remained a popular singer despite her two divorces. Mariko KOIKE's insistence proved to be right in a way.

Mariko KOIKE published her first novel at the age of 32, shortly after she began living together with Yoshinaga FUJITA (1950-2020), a handsome man who had spent most of his twenties in Paris, in 1984. Familiar with French love culture, Mr. FUJITA found himself on the same wavelength as Ms. KOIKE, and they defied society by not registering their marriage until they were old. Their love life brought success as novelists to both Mariko KOIKE, who became a popular horror-mystery writer with her *The Graveyard Apartment* (1988) and Yoshinaga FUJITA, a popular adventure novelist with his *Iron Knight* (1994) in which a Japanese hero competed with Western rivals in the 1938 International Formula Car Race.

More than a decade after they lived together, Mariko KOIKE somehow remembered her vow to be a sexually free woman and apparently started dating other men. As a result, she became a leading romance novelist who wrote a number of illicit love stories. Reading his works autobiographically, it seems clear that even FUJITA, the cool guy influenced by French culture, was disgusted with his loving wife's sudden change. However, he continued to love Mariko so much that he let her do whatever she liked, and followed suit by starting to meet other women. Fortunately, they had the good fortune to gain a reputation as Japan's prestigious NAOKI Prize-winning writer couple, and miraculously avoided divorce. When her loving husband died of lung cancer in 2020, Mariko KOIKE was devastated. In 2024, it looks like she may not be able to recover from this shock. Even though she is in her seventies, let us hope that her new book, probably her autobiographical novel, will upgrade that of her predecessor Chiyo UNO (1897-1996)'s or will become a female counterpart to Shintaro ISHIHARA's autobiography *My Life as a Man* (2022). In either case, she will remain a free woman with the never-dying spirit of an intellectual wicked woman.

土木構造物の認知度のアンケート調査に基づく 土木工学初学者向けの新たな学習教材の提案

渡邊 祥庸* 高見澤 拓哉**

(2024年11月29日受理)

1. はじめに

知識は世界の見え方を変える。例えば、あるものの名前を知ることで、これまでただの風景として見過ごしていたものを認識できるようになる。

言うまでもなく、我々の暮らしは土木構造物に支えられている。通勤ルートや通学ルートを思い浮かべたとき、道路が張り巡らされているし、より身近なところでは自宅の周りに土留擁壁が設置されているかもしれない。盛土で構築された高速道路や主要な幹線道路を通行する人もいるだろうし、河川が近くに流れていれば、その兩岸には河川護岸があり、河川を渡るための橋が架かっている。山を越えて通勤・通学する場合は、山岳トンネルを通過する人もいるかもしれない。都市圏で地下鉄に乗る場合は、シールドトンネルの中を電車で移動しているし、そもそも鉄道という土木構造物として大きなパッケージを利用している。沿岸部であれば港が整備されているだろうし、近年だと洋上風力発電のための風車が見られるかもしれない。写真-1は筆者*の通勤ルートの写真¹⁾であるが、利根川を渡るための道路橋や、関越自動車道を横断するボックスカルバートなどの土木構造物が登場する。

上述のように、様々な土木構造物に囲まれて我々の生活は成り立っている。土木技術者や研究者であれば、出先やその道中で各種土木構造物の存在に気付き、「なぜそこにあるのか」、「なぜこのような構造・形状になったのか」に思慮を巡らすこともままあるだろう。

高等専門学校（以下、高専）の特色は、文部科学省が簡潔にまとめている²⁾が、「技術者に必要な豊かな教養と体系的な専門知識を身につけることができる」、「創造性をもった技術者の育成する」などが挙げられる。土木工学を学ぶ学生にとって、これらを実現する上でまず重要なことは、実社会で供用されている土木構造物についてその存在を認識することと考える。一方で、群馬工業高等専門学校（以下、群馬高専）における環境都市工学科の授業内容を振り返ってみたときに、土木構造物に

ついてその名称や役割について体系的に教える機会がそれほどないことに気が付いた。前述のように、我々の生活圏には既に供用されている土木構造物が数多くあり、土木工学を学ぶ学生にとって生きた教材が無数に存在することになる。これらに気づかず風景として見過ごしているのは、学びの機会の損失につながると考える。土木工学初学者に対して、極力早い段階で生活圏にある土



(a)利根川に架かる道路橋



(b)関越自動車道を横断するボックスカルバート

写真-1 筆者*の通勤ルートの土木構造物¹⁾

木構造物を認識してもらうことが、土木工学に対する興味を深め、その役割や意義について考える機会の創出につながると考える。

そこで本研究では、まず土木構造物の認知度の実態を把握するため、学生に対してアンケート調査を実施した。加えて、このアンケート結果および近年の建設業および高専教育の動向に基づき、土木構造物の名称を効率的に学ぶ方法を検討することとした。

2. 土木構造物の認知度のアンケート調査の概要

2. 1 アンケート調査の内容

土木構造物に関する認知度のアンケートは、添付資料の通りである。現在土木構造物の工種といえば、国土技術政策総合研究所の定めた工事工種体系ツリー³⁾や、一般財団法人日本建設情報総合センターで定めたコリンズ工種、工法・型式一覧⁴⁾に整理されている。なお、コリンズとは、企業が受注した公共工事または業務の実績を収集し、公共発注機関および受注企業が共に活用できるようにした工事・業務実績情報データベースである⁵⁾。工事工種体系ツリー⁴⁾にあるように、細かく分類すれば数多くの土木構造物が存在する。しかし、今回のアンケートでは、アンケート調査対象に土木工学の初学者が含まれることもあり、橋やトンネルといった世間一般に認知されている構造物から、ボックスカルバートのような街中で見かける多少専門的な構造物に範囲を絞り実施することとした。工事工種体系ツリー⁴⁾の中には、レベル0～レベル5までの区分があり、レベル0からレベル5へ階層が深くなるに従い、より詳細な細別・規格といった内容となる。これに照らし合わせると、今回アンケート調査を実施した土木構造物はレベル0事業区分、レベル1工事区分、レベル2工種のいずれかに該当する。工事工種体系ツリー⁴⁾の中で、今回アンケート対象とした土木構造物が登場する部分を抜粋し、表-1に示す。なお、表-1は今回対象とした土木構造物の名称が最も浅いレベルで登場した箇所を抜粋したものである。今回対象とした土木構造物は、この表に抜粋した箇所以外にも複数個所でその名称が登場するため、一例を抜粋したかたちとなる。

実際に現地を見に行く学生がいることを期待し、上述の思想に合致する土木構造物を極力群馬高専の周辺で選定した。一部企業ホームページの施工実績を引用⁷⁾する形となったが、それらの写真を掲載した上で、

1. 名称を答えられる
2. おそらく名称を答えられる
3. わからない

表-1 工事工種体系ツリー⁴⁾でアンケート対象土木構造物が登場する一例

No.	回答	レベル0 事業区分	レベル1 工事区分	レベル2 工種
1	橋	道路新設 ・改築	橋梁下部	—
2	擁壁	道路新設 ・改築	道路改良	擁壁工
3	道路 (舗装)	道路新設 ・改築	—	—
4	ボックス カルバート	道路新設 ・改築	道路改良	カルバート 工
5	盛土	道路新設 ・改築	道路改良	軽量 盛土工
6	護岸	河川改修	築堤・護岸	—
7	堤防	海岸整備	堤防・護岸	—
8	トンネル	道路新設 ・改築	トンネル (NATM)	—

表-2 アンケート調査の対象とその人数

学校名	学年	アンケート回答人数
群馬高専	1年	40
	3年	39
	5年	32
	専攻科1年	5

の3つの選択肢を選ぶアンケートを実施した。なお、1枚の写真に複数の土木構造物が写っていることに配慮し、写真中に矢印を追記し、矢印の指し示す土木構造物の名称を確認することとした。加えて、ボックスカルバートが指針によっては函渠と呼ばれることがあるように、呼び名が複数存在する土木構造物がある。そのため、一般的な名称の文字数を示した上でアンケート調査を実施した。

2. 2 アンケート調査の対象と回答手法

表-2にアンケート調査を実施した学年とその人数を示す。アンケート調査は、環境都市工学科の1年生、3年生、5年生および、環境工学専攻の専攻科1年生に対して実施した。調べながらの回答を避けるため、対面で添付資料を印刷した資料を配布し、事前の告知はせずにアンケートの回答を依頼した。なお、アンケート調査日に欠席していた学生に対してはアンケート調査は実施しないこととした。アンケート回答時間は、各学年共通で10分程度とした。アンケート調査は後期の授業が始まってまもない2024年10月10日～2024年10月16日の間で実施した。アンケートの回収率は100%であった。

3. 土木構造物の認知度のアンケート結果と考察

図-1に各学年の土木構造物の認知度の調査結果を示す。横軸に学年、縦軸は土木構造物の認知度を示している。なお、ここで土木構造物の認知度は、アンケート調査にて「1. 名称を答えられる」、「2. おそらく名称を答えられる」と答えた回答数の、回答総数に対する割合を学年毎に算定した値である。今回のアンケートは実際に土木構造物名を回答させるものではなく、1～3の番号で回答する形式のため、「1. 名称を答えられる」、「2. おそらく名称を答えられる」と回答した学生の中にも、正解と異なる答えを想定していた可能性がある。しかし、問題文中に回答の文字数も記載していたため、「1. 名称を答えられる」と回答した学生の大半は正しい回答を想定していたと考える。同様の理由で、「2. おそらく名称を答えられる」と回答した学生もその大多数は正解の構造物名を想定していたと考え、このような集計方法とした。

図-1からは、土木構造物の認知度が、1年生(57.5%)と3年生(57.4%)、5年生(83.2%)と専攻科1年生(85.0%)でほぼ同様であることがわかる。3年生と5年生では土木構造物の認知度の乖離が大きく、5年生は3年生と比べて土木構造物の認知度が25.8%高い結果となった。5年生にヒアリングしたところ、今回のアンケート調査に登場する擁壁やボックスカルバートを4年生の授業で扱うため、この影響が大きいと考える。

次に、土木構造物毎にその認知度を整理した図を図-2に示す。橋、道路、トンネルといった日常的に使用する土木構造物や主要な土木構造物は全学年で90%以上の認知度であった。一方で、擁壁やボックスカルバートといった工事工種体系ツリー⁴⁾で比較的レベルの深い段階で登場する土木構造物では、これらを授業で本格的に扱っていない1年生、3年生では25%未満の認知度となった。工事工種体系ツリー⁴⁾のレベル1の段階で登場する護岸について、全学年で他工種と比べて比較的認知度が低い理由としては、学生が生活をする上で視界に入る頻度が少

ないことや、道路や橋のように自らが使用していないこと、授業の中で取り扱う機会が少ないことが考えられる。

これらの結果を踏まえて、授業で扱うとその土木構造物の認知度が向上することが伺える。また、今回のアンケート調査の範囲では、1年生、3年生で土木構造物の認知度が比較的低い結果となった。極力早い段階で土木構造物に関する認知度を高め、生活圏に存在する土木構造物に気付き、そこから学びを得るためには1年生の段階で、土木構造物の名称やその役割に関する学習を行うのが効果的と考える。群馬高専の環境都市工学科では、1年生の前期の授業で環境都市工学概論がある。この授業は各種専門科目の概要を学ぶもので、施工、地震工学、構造力学、地盤工学、衛生工学、コンクリート工学、水工学の専門の教員がオムニバス形式で授業を行う。例えば、この授業の中の施工の担当回において、土木構造物の名称およびその役割について学ぶ機会を取り入れることが望ましいと考える。

4. アンケート結果を受けた新たな授業の提案

4. 1 建設業の現状

現状建設業は、少子高齢化による担い手不足とこれに伴う若年入職者の確保・育成が喫緊の課題である⁹⁾。これに対しi-Construction2.0¹⁰⁾が策定され、建設業の生産性向上に取り組んでいる。この中で、「社会資本整備や維持管理段階においても、3次元データやICTの活用が進みつつあるが、中長期的な建設産業の生産能力の確保を踏まえると、新技術の更なる活用やデータの活用により、調査・設計・施工・維持管理の高度化・効率化に取り組む必要がある¹⁰⁾」としている。3次元データの活用は、i-Construction2.0の前身のi-Construction¹¹⁾の段階から重点的に取り組まれてきた。この成果として、建設事業の各段階で3次元モデルを活用するBIM/CIMの取り組みがなされている¹²⁾。加えて、今ではUAV写真測量やUAVレーザ一測量、地上レーザ一測量などの3次元測量技術が建設

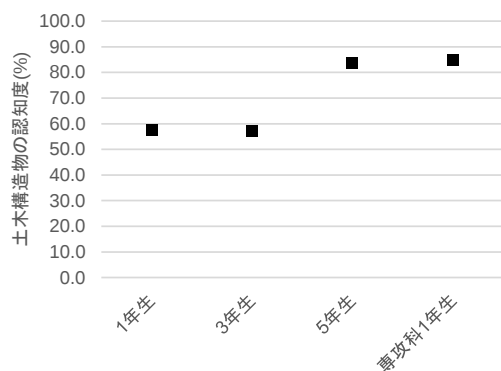


図-1 各学年の土木構造物の認知度

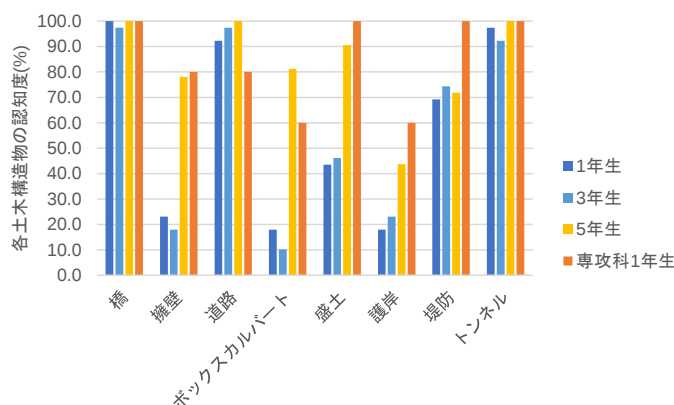


図-2 土木構造物ごとの認知度

事業における各段階で活用されている。また、これら技術を使った建設現場のデジタルツインを用いて、設計情報をAR・VRにより現場投影して現場作業の効率化を進める展望がある¹⁰⁾。このような方針のもと、施工段階における現状のBIM/CIMの活用方法とその将来性について検討している事例¹¹⁾や、構造物の維持管理段階における3次元点群処理技術に関する実用化技術とその課題及び将来像について検討した事例¹²⁾、斜面災害復旧の設計を高度化するための3次元点群データの活用方法について検討した事例¹³⁾など、数多くの研究がなされており、急速に3次元データの建設分野への活用の知見が積み重ねられている状況である。また、これらの取り組みを実践的に学習するための演習プログラムも各所で開発されており^{例えば14)}、高専や大学でもi-Constructionの取り組みについて、その策定背景や建設現場での活用方法の実例について授業で扱い始めている。

4. 2 群馬高専における近年の教育の取り組み

群馬高専では令和5年12月より、アントレプレナーシップ教育工房を開設している。この目的は群馬高専のHP¹⁵⁾に記載がある通り、学生がものづくりを通して発想力・想像力をもとにチャレンジして主体的に解決する力をつける場として活用することなどである。この工房では3Dプリンターや、UAV、地上レーザースキャナなどを保有しており、デザインコンテスト¹⁶⁾やDCON¹⁷⁾に参加する学生を中心に、活用されている。

また、群馬高専ではPBL(Problem Based Learning)教育を実施している。環境都市工学科においては、4年生の総合プロジェクトIIの授業²⁰⁾の中で、半年かけて社会的課題解決に向けた実践的学習を行う。例年7〜8班(1班当たり学生5,6人の構成)に分かれ、それぞれの班に対して群馬高専と交流のある民間企業、官公庁の方にファシリテーターを務めてもらう。取り組む課題はファシリテーターのアドバイスの元、学生主体で決定する。課題は群馬高専構内の河川や湖に関するもの、前橋市の中心市街地の活性化に関するもの、ファシリテーターの会社が抱える課題を解決するものなど様々である。なお、このような授業は、他学科^{例えば21)}や他高専^{例えば22)}でも実施されており、答えのない課題へのアプローチ方法を学ぶ機会として活用されている。

4. 3 これらを踏まえた提案

建設業の現状として、ICTや3次元データの活用による、生産性向上が課題である。実務では、現状既にUAV測量やレーザースキャナによる3次元測量がなされており、今後この流れは加速していくと予想される。また、群馬高専における近年の取り組みとして、アントレプレナー

シップ工房の活用やPBL教育などがなされている。PBL教育の課題解決手法のシミュレーションとして、地上レーザースキャナで3次元測量した空間で、RC壁の有無による交通者の視認性について検討しているような事例もある。加えて、授業で土木構造物の名称およびその役割について教える際、おおよそ1クラス40人に対してその全員が同一の教材を同時に閲覧できることが望ましいと考える。

これらを鑑みて、カラー点群による3次元測量で種々の土木構造物のある公園など一帯をスキャンし、その3次元空間を人間目線で探索可能なデジタルツイン空間を用いた、土木構造物に関する教材を提案する。3次元とすることで、写真とは異なり様々な角度から対象構造物を観察可能である。また、対象構造物の周辺状況の観察も可能となる。これにより、例えば擁壁が地形的に段差のある個所で土留めの役割を果たしているように、対象構造物が配置される箇所の周辺状況やその役割について、わかりやすさが向上すると考える。使用方法としては、

- ・デジタルツイン空間内に存在する土木構造物の種類の回答数を競い合う
- ・平面図などを提供した上で指定した土木構造物を探すタイムトライアルを行う

など、ゲーム性を持たせた学習が可能と考える。

加えて、今回は学生に向けた土木構造物の名称・役割の学習について検討したが、同手法にて例えば建設現場での安全管理用の教材にも活用できると考える。

5. おわりに

5. 1 本アンケート調査および検討で得られた結論

今回のアンケート調査において、土木構造物の認知度が、1年生(57.5%)と3年生(57.4%)、5年生(83.2%)と専攻科1年生(85.0%)でほぼ同様であることがわかった。3年生と5年生では土木構造物の認知度の乖離が大きく、5年生になると3年生と比べて土木構造物の認知度が26.2%向上する結果となった。5年生にヒアリングしたところ、今回のアンケート調査に登場する擁壁やボックスカルバートを4年生の授業で扱うため、この影響が大きいと考える。

また、擁壁やボックスカルバートといった工事工種体系ツリー⁴⁾で比較的水平の深い段階で登場する土木構造物では、これらを授業で本格的に扱っていない1年生、3年生では25%未満の認知度となった。逆に、橋、道路、トンネルといったツリーの中で比較的水平の浅い段階で登場する土木構造物は、低学年であってもその認知度は90〜100%と高水準であった。

今回の調査結果から、授業で扱うとその土木構造物の認知度が向上することが伺える。今回のアンケート調査の範囲では、1年生、3年生で土木構造物の認知度が比較的

低い結果となった。極力早い段階で土木構造物に関する認知度を高め、生活圏に存在する土木構造物を認識し、そこから学びを得るためには1年生の段階で土木構造物の名称やその役割に関する学習を行うのが効果的と考える。学習を行う授業には、1年生の前期に開講する環境都市工学概論が望ましいと考える。

建設業の現状や高専での新たな教育の取組を踏まえ、土木構造物の名称やその役割の学習に、カラー点群による3次元測量で種々の土木構造物のある公園など一帯をスキャンし、その3次元空間を人間目線で探索可能なデジタルツイン空間を用いた教材を提案する。3次元とすることで、写真とは異なり様々な角度から対象構造物を観察可能である。また、対象構造物の周辺状況の観察も可能となる。これにより、例えば擁壁が地形的に段差のある個所で土留めの役割を果たしているように、対象構造物が配置される箇所の周辺状況やその役割について、わかりやすさが向上すると考える。使用方法としては、

- ・デジタルツイン空間内に存在する土木構造物の種類の回答数を競い合う
- ・平面図などを提供した上で指定した土木構造物を探すタイムトライアルを行う

など、ゲーム性を持たせた学習が可能と考える。

5. 2 今後の展望

群馬高専の学生にとって、身近な群馬高専の学内において、3次元点群データの取得し、群馬高専構内のデジタルツインの作成を行う予定である。さらに、Unity²³⁾やVRchat²⁴⁾、CESIUM FOR UNREAL²⁵⁾によりその点群内を人間目線のアバターで探索可能にする予定である。これらにより、ゲーム感覚で土木構造物の名称や、その役割を学べるデジタルツイン空間を構築予定である。

加えて、この学習方法が有効であれば建設現場での安全管理の教材として発展させる予定である。VRゴーグルと併用することで、没入感のあるデジタルツイン空間を作成することで、従来の受け身な安全教育でなく、自ら能動的に危険箇所を探しに行く教材を提供可能と考える。

謝辞

本稿を執筆するにあたり、杉田悠美子氏に多くのご助言をいただきました。心より感謝申し上げます。

参考文献

- 1) Google LLC : Googlemaps, <https://www.google.co.jp/maps> (2024.10.28 閲覧)
- 2) 文部科学省 : 高等専門学校 (高専) について, https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kousen/index.htm (2024.10.15 閲覧)
- 3) 国土技術政策総合研究所 : 1. 令和6年度改訂版 工事工種体系ツリー, 1. 1 体系階層 (レベル) の定義, <https://www.nilim.go.jp/lab/pbg/theme/theme2/sekisan/tree/t1-2.pdf> (2024.10.15 閲覧)
- 4) 国土技術政策総合研究所 : 1. 令和6年度改訂版 工事工種体系ツリー, 1. 2 令和6年度版 工事工種体系ツリー, <https://www.nilim.go.jp/lab/pbg/theme/theme2/sekisan/tree/t-0604.pdf> (2024.10.15 閲覧)
- 5) 一般財団法人日本建設情報総合センターJACIC : コリンズ工種, 工法・型式一覧, https://cthp.jacic.or.jp/jacic/doc/cor_kouhou_list_all.pdf (2024.10.15 閲覧)
- 6) 一般財団法人日本建設情報総合センターJACIC : コリンズ・テクリスについて, <https://cthp.jacic.or.jp/overview/ct/> (2024.10.15 閲覧)
- 7) 清水建設株式会社 : 施工実績, ハツ場ダム, https://www.shimz.co.jp/works/jp_disa_202006_yamba.html (2024.10.13 閲覧)
- 8) 古郡建設株式会社 : 施工実績, 土木工事, R1 利根川右岸大越樋ノ口堤防天端整備他工事, <https://www.furugori.co.jp/works/ogohinokuchi/> (2024.10.13 閲覧)
- 9) 国土交通省 : 建設業を巡る現状と課題, <https://www.mlit.go.jp/policy/shingikai/content/001610913.pdf> (2024.10.13 閲覧)
- 10) 国土交通省 : 「i-Construction 2.0」を策定しました～建設現場のオートメーション化による生産性向上 (省人化) ～, <https://www.mlit.go.jp/tec/constplan/content/001738240.pdf> (2024.10.13 閲覧)
- 11) 国土交通省 : i-Construction～建設現場の生産性革命～, <https://www.mlit.go.jp/common/001137123.pdf> (2024.10.13 閲覧)
- 12) 国土技術政策総合研究所 : BIM/CIM ポータルサイト, <https://www.nilim.go.jp/lab/qbg/bimcim/bimcimindex.html> (2024.10.13 閲覧)
- 13) 中嶋 道雄, 前田 庫利 : 建設会社での BIM/CIM 利用方向性に関する検討, 土木学会論文集 B3 (海洋開発), 77 巻 2 号, pp.1541-1546, 2021
- 14) 門田 峰典, 宮森 保紀 : 建構造物の維持管理における点群処理技術に関する技術動向と今後の課題, AI・データサイエンス論文集, 2 巻 J2 号, p.333-340, 2021
- 15) 渡邊 祥庸, 井上 和真, 池田 隆明, 小林 雅人, 横山 和佳奈 : 被災後法面の迅速な形状把握と対策工設計を目的としたスマートフォンによる測量の適用範囲の検討, AI・データサイエンス論文集, 4 巻 2 号, p.73-83, 2023
- 16) 松下文哉, 谷島 諒丞, 小澤一雅, 永谷 圭司 : ICT 土工事のイノベーション創出を目指した土木工学/ロボティクス融合型演習の開発, 土木学会論文集 H(教育), 78 巻 1 号, pp.38-52, 2022
- 17) 群馬工業高等専門学校 環境都市工学科 総合プロジェクト I シラバス : 施設案内, アントレプレナーシップ教育工房, https://www.gunma-ct.ac.jp/facility_info/entrepreneurship-education_factory/ (2024.10.15 閲覧)
- 18) 全国高等専門学校デザインコンペティション : <https://xn--tckf4c8j.com/> (2024.10.24 閲覧)
- 19) JDCON 実行委員会 : 第 6 回全国高等専門学校ディープラーニングコンテスト 2025, <https://dcon.ai/> (2024.10.24 閲覧)
- 20) 群馬工業高等専門学校環境都市工学科 : お知らせ, 授業・学校生活, 4C 「総合プロジェクト II」科目で PBL 中間発表がありました, <https://www.cvl.gunma-ct.ac.jp/news/news->

class/20230630-7643/ (2024.10.24 閲覧)

21) 平社信人：地域連携企業における技術課題解決型 PBL 実験，公益社団法人日本工学教育協会，2021 年度工学教育研究講演会公演論文集，pp.168-169，2021

22) 石井建樹：木更津高専における土木工学教育の実践体験型 PBL の試み，木更津工業高等専門学校紀要，第 47 号，pp.39-

46，2014

23) Unity Technologies：Unity, <https://unity.com/ja> (2024.10.26 閲覧)

24) VRChat Inc.：VRChat, <https://hello.vrchat.com/> (2024.10.26 閲覧)

25) CESIUM FOR UNREAL：CESIUM FOR UNREAL, <https://cesium.com/platform/cesium-for-unreal/> (2024.11.9 閲覧)

Proposal for New Learning Materials Based on Questionnaire Survey on the Recognition of Civil Engineering Structures

Yoshinobu WATANABE and Takuya TAKAMIZAWA

A questionnaire survey was conducted among students in order to grasp the actual level of recognition of civil engineering structures. In addition, based on the results of the questionnaire and recent trends in the construction industry and technical college education, we decided to investigate an efficient method of learning the names of civil engineering structures. The results of this survey were almost the same for first-year students and third-year students. There was a large discrepancy between the recognition of civil engineering structures among third-year students and fifth-year students, with a 25.8% increase in the recognition of civil engineering structures among fifth-year students compared to third-year students. This may be due to the fact that retaining walls and box culverts are covered in the fourth grade classes. Based on these results, and taking into account recent trends in the construction industry and KOSEN educations, we propose the use of digital twin of National Institute of Technology, Gunma Collage, created from 3D point cloud data, as a learning material for civil engineering structures in lower grades.

添付資料 1/2

土木構造物の名称の認知度に関するアンケート

以下の写真中の、矢印がさす土木構造物の名称について、以下の選択肢の内最も当てはまる番号を選んでください。

1. 名称を答えられる
2. 確証はないが、おそらく答えられる
3. わからない

例題 治水, 利水, 治山, 砂防などを目的として、川や谷を横断するようにつくられる構造物。



※写真は清水建設株式会社 HP より
<https://www.shimz.co.jp/works/jp.disa.202006.yamba.html>

ダムだ！ ⇒1 と回答
 ダムかな・・・？ ⇒2 と回答
 わからない・・・ ⇒3 と回答

回答: 1

1. 川にかかる土木構造物. この写真は、車や人が通行するためのもの. 一般的な名称は漢字だと1文字, 平仮名だと2文字.

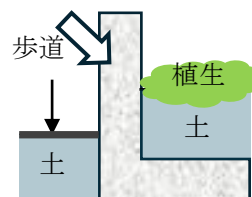


回答: _____

2. 背面側(写真右側)の土を支える土木構造物. これにより、全面側を人・自転車が通行するスペースが安全に確保される. 一般的な名称は漢字だと2文字, 平仮名だと4文字.



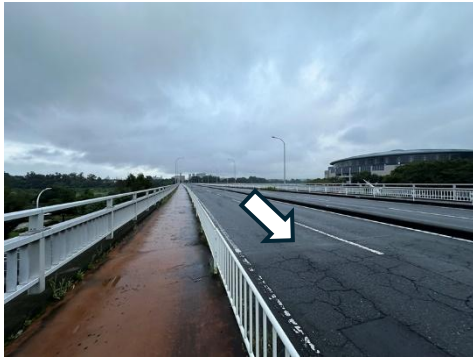
回答: _____



<補足>

地中部も含めた断面は、
 おそらく左図のような
 イメージ

3. 写真は車が通行するための構造物. 一般的な名称は漢字だと 2 文字, 平仮名だと 3 文字.



回答:

6. 川の水流による浸食を防ぐための構造物. 一般的な名称は漢字 2 文字, 平仮名だと 3 文字. (漢字 4 文字, 平仮名 6 文字でも可)



回答:

4. 写真中の四角い断面の構造物. 高専の近くだと, 関越自動車道の下をくぐる箇所にもある. 一般的な名称は片仮名 9 文字(もしくは漢字 2 文字, 平仮名 4 文字)



回答:

7. 人家のある地域に河川や海の水が浸入しないように, 土を盛り上げた治水構造物. 一般的な名称は漢字 2 文字, 平仮名だと 4 文字.



※写真は古郡建設株式会社 HP より
<http://www.furugori.co.jp/works/ogoehinokuchi/>

回答:

5. 土を盛ってつくった土構造物. この写真の場合は, この構造物の内外を区画するためにつくられているが, 工場の用地や道をつくるための, 平らな盤をつくるために用いられることが多い. 一般的な名称は漢字 2 文字, 平仮名 3 文字.



回答:

8. 山を貫いてつくった構造物. この写真の場合は, 道路として活用している. 一般的な名称は片仮名 4 文字.



回答:

以上, ご協力ありがとうございました.

Scratch を用いたソフトウェアとハードウェア 両面からの中学生向け体験型プログラミング教育 ー 群馬高専スマートサイエンススクールにおける取組（第3報） ー

荒川達也* 市村智康* 渡邊俊哉*

（2024 年 11 月 29 日受理）

1. はじめに

本稿は[2]の続報として、前年度からの変更点を中心に報告する。群馬高専では、平成 25 年度から中学生対象の公開講座「スマートサイエンススクール」を実施している。本講座は、群馬高専の各学科で企画された特色あるテーマの実習で構成されている。

筆者ら電子情報工学科教職員はその一環として情報教育をテーマに、ハードウェア、ソフトウェア両面からの体験型コンピュータプログラミング入門講座を企画担当し、[1]では平成 28 年度に実施したテーマ「コンピュータプログラミングへの招待 ゲームをつくろう！ロボットを動かそう！！」について報告した。また[2]ではコロナ明けを期に一新した講座内容「コンピュータプログラミングへの招待 ゲームをつくろう！プログラムでカメラやモータを動かしてみよう！！」の企画内容と実施結果についての報告を行った。今回は[2]からまだそれほど時間が経過していないが、今年度新しい試みとして導入した生成 A I のゲーム制作への応用に関する企画内容と実施結果に絞って報告を行う。テーマ全体の概要や特色は[2]参照。

2. 新コーナー「生成 A I を使ってみよう！」

2.1 概要

今年度も前年度までと同様に、開校式後のガイダンスの後、2 日間講座を実施した。前年度からの変更点として、担当スタッフの転出に伴い講座 2 日目午後の「Scratch によるロボット制御」を廃止して、代わって

「生成 A I を使ってみよう」を導入した。講座の主旨は、1 日目に作成した Scratch による R P G ゲームの素材を、生成 A I を使用して制作するというものである。具体的には、画像生成 A I [3] および音源生成 A I [4], [5]を用いて、各受講生が自分の望む素材を生成 A I にリクエストして、生成されたキャラクターグラフィックスや B G M, 効果音等をゲームプログラム（Scratch 実行ファイル）に読み込んで使用するというものである。生成 A I の使用に必要なアカウントを所有していない受講生については、講座スタッフが本人の要望に沿って生成 A I の操作を代行した。また、テキスト生成 A I [6]に関しては、講座スタッフが R P G 用のストーリーを生成するデモンストレーションをリアルタイムで教室プロジェクトに映し出して紹介した。

本コーナーの目的は、中学生にとって身近な存在であるゲームを題材として（1）生成 A I を使ったことのない受講生に基本的な使用方法を理解させること、および（2）テキスト生成だけが注目されがちな生成 A I だが、テキスト以外にもさまざまな広い意味でのコンテンツ制作に応用できることを紹介すること、の 2 点である。

2.2 受講生アンケート結果と考察

前年度までと同様に、講座 2 日目終了後に、受講生を対象に無記名式でアンケートを実施した。アンケートは Microsoft Forms を用いて行い、全受講生 10 名全員からアンケートを回収した（うち 1 名は 1 日目のみ出席し、アンケートは後日リモートで回答した）。

*電子情報工学科

アンケート項目は、実習全体について16問、ソフトウェアプログラミングの実習内容について9問、ハードウェアプログラミングの実習内容について4問、計算機の使用経験等について7問の計36項目である。ここではアンケート結果中、生成AIに関する部分に絞って抜粋・考察する：

第23問「今回の講座で生成AIを体験して、どのように感じましたか？」

回答：非常に興味深かった、興味深かった×9、普通×1、あまり興味を感じなかった、全く興味を感じなかった×0

第24問「今回使用した生成AIについて、特に興味深いと思ったものを選んで下さい、（複数回答）」

回答：テキスト（文章）生成AI×7、画像生成AI×5、音声生成AI×5

第25問「生成AIをゲームプログラミングに応用して、どのように感じましたか？（複数回答）」

回答：とても便利だと思った×7、思ったより希望通りの素材が得られなかった×3、便利そうだが、使いこなすのは難しそうに感じた×4、生成AIを使うよりも、素材も自作する方が楽しいと感じた×2、その他×0

第26問「今後もゲームプログラミングに生成AIを活用したいと思いますか？（複数回答）」

回答：積極的に使っていきたい×3、主に自作しながら、部分的に使用したい×5、今後使用したいとは思わない×0、もう少し生成AIについて調べてから考えたい×2

以上のように、受講生の多くは生成AIに対して興味を抱き、また、否定的な意見も少数見られるものの概ねゲーム制作における生成AIの使用についても肯定的にとらえている。その一方で、生成AIの操作が難しいと感じたという意見や、生成AIについてより詳しく調べてから考えたいという意見もあった。これらのことから、本コーナーの目的であった「ゲーム制作への応用を通して生成AIへの関心を高め、理解を深める」という目的は、概ね達成できたと考えられる。

3. おわりに

今回、試験的に導入した生成AIの使用は、概ね受講生に好評であり、また、講座の主旨に沿ったアンケート結果が得られた。今回のこの結果を受けて、次年度以降、より本格的な生成AIの導入を検討していきたい。また本テーマ全体の今後の目標として[2]で述べた諸課題についても、生成AIという新しい技術との連携という観点から再考する必要があると考えられる。

謝辞

情報教育「コンピュータプログラミングへの招待」の場として公開講座「令和6年度 スマートサイエンススクール」を企画、実施して頂いた群馬工業高等専門学校 物質工学科 羽切正英教授ほか事務局各位に深謝致します。また、講師およびチュータとしてご協力頂いた山口天花里君、岩脇啓太君、内山友洋君、高橋昂汰君、三井知世君に心より感謝致します。最後に、連休中に本講座に参加して下さい受講生のみなさん並びに本校までの送迎をはじめ本講座に多大なご支援を賜った保護者各位に、この場を借りて改めて御礼申し上げます。

参考文献

- [1]. 荒川達也, 市村智康: Scratch と mbot を用いたソフトウェアとハードウェア両面からの中学生向け体験型プログラミング教育—群馬高専スマートサイエンススクールにおける取組—, 群馬高専レビュー (35), 83-87, 2016.
- [2]. 荒川達也, 市村智康, 渡邊俊哉, 李沛讓: Scratch を用いたソフトウェアとハードウェア両面からの中学生向け体験型プログラミング教育—群馬高専スマートサイエンススクールにおける取組 (第2報)—, 群馬高専レビュー (42), 101-108, 2023.
- [3]. Canva https://www.canva.com/ja_jp/
- [4]. Suno AI <https://suno.com/create>
- [5]. MyEdit <https://myedit.online/jp/audio-editor/ai-sound-effect-generator/edit>
- [6]. Chat GPT <https://chat.openai.com/auth/login>

A Software and Hardware Programming Education for Junior High School Students Using *Scratch* , III

Tatsuya ARAKAWA, Tomoyasu ICHIMURA and Toshiya WATANABE

This report is a continuation of the previous one. The present report describes our new approach by incorporating a curriculum that applies generative AI to game programming. Participants used image-generating AI and audio-generating AI to create and utilize assets for the games they were developing. According to the post-workshop survey, this new approach was generally well-received.

ダイバーシティ推進室企画「メイクアップ教室」

～令和3年度から令和6年度の振り返り～

工藤 まゆみ* 佐藤 孝之** 太田 たまき** 櫻岡 広**

(2024年11月29日受理)

1. 就職活動に役立つメイクアップ教室

ダイバーシティ推進室では、毎年、男女ともに興味を引くような企画を計画し、実施している。令和3年度から令和6年度の4年間は、群馬ヤクルト販売株式会社の協力を得て「就職活動に役立つメイクアップ教室」を実施した。

一般に、就職活動におけるメイクは、普段のオシャレメイクとは異なり、採用担当者に好印象を与えることが求められる。本企画では、清潔感のある健康的な肌をつくるための正しいスキンケアや、誠実な印象を与える眉毛の整え方に焦点を当て、体験型のワークショップを実施した。

ヤクルト本社は、乳酸菌由来の保湿成分である「シロタエッセンス」を配合した化粧品を多数開発している。本企画では、スキンケア用の「LACTDEW」シリーズ(図1)からメイク落とし、洗顔料、化粧水、乳液、保湿クリームのサンプルセットを参加者に配布し、体験してもらった。



図1 スキンケア用品「LACTDEW」シリーズ

眉毛の整え方について、顔の目鼻立ちに合わせた黄金比率を学び、参加者は自分の顔に合う眉毛の形を描写した(図2)。続いて、ヤクルトスタッフの講師から、直接眉毛を顔に描いてもらいながら個別に眉メイクの方法を教わった(図3)。



図2 自分の顔に合った眉毛の描写



図3 眉毛を描いてもらっている様子

* 物質工学科 ** 一般教科 (人文科学)

ダイバーシティ推進室

就活用の眉メイクを初めて学ぶ参加者が多く、はっきりとした印象の眉毛に驚いている学生もいた。

令和6年度は、眉メイクに加えてベースメイク、アイシャドウ、チークの基本についても取り上げ、ヤクルトスタッフの講師によるチークの実演では、会場が大いに盛り上がった。

2. アンケート調査¹⁾

参加者に対し、参加理由、感想、今後のダイバーシティ推進室企画への要望などに関するアンケート調査を実施した。令和3年度から令和6年度の参加者数およびアンケート結果について俯瞰する。

2-1. 参加者数と学年・男女の割合

4年間の参加者数(表1)を比較すると、メイクアップ教室を最初に開催した令和3年度は33名と最も多く、就職活動を目前に控えた4年生の参加者が目立った。また卒業を控え、これから社会人になる5年生や専攻科2年生も参加していた。一方、令和4年度以降の参加者数は初年度に比べて減り、2年生を中心に低学年の参加者が目立った。

男女の割合(表2)を比較すると、令和3年度は女子学生の割合が多く、男子学生の4倍程度であった。これに対し、令和4年度は女子学生の参加はなく、男子学生のみであった。令和5年度および令和6年度は、再び女子学生の割合が多くなったが、近年、メイクやスキンケアに興味をもつ男子学生が増えつつあることが示唆された。

表1 学年別の参加者数

学年	参加者数(人)			
	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
1年	0	0	4	0
2年	0	13	9	5
3年	5	0	2	2
4年	18	0	0	2
5年	6	0	0	0
専攻科	3	0	0	0
教職員	1	0	1	0
合計	33	13	16	9

表2 男女別の参加者数

性別	参加者数(人)			
	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
男子	7	13	6	2
女子	26	0	10	7
合計	33	13	16	9

2-2. 参加理由

参加理由(表3)について、女子学生や高学年の参加者が多かった令和3年度は、「メイクアップに興味がある」という回答数が最も多かった。一方、男子学生や低学年の参加者が目立った令和4年度以降は、「スキンケアに興味がある」という回答数が多くなる傾向がみられた。事前に行ったアンケート調査でも、「ニキビケアについて知りたい」という要望が多く、スキンケアへの関心が高まっていることが示唆された。

表3 参加理由

選択肢(複数可)	回答数(人)			
	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
1. メイクアップに興味があり、学びたいと思ったから	19	1	10	5
2. スキンケアに興味があり、学びたいと思ったから	15	8	14	5
3. お肌に関して悩みがあるから	7	6	8	1
4. 就職活動や社会人になる上で役立つと思ったから	9	2	3	4
5. 進学に向けて役立つと思ったから	4	1	2	1
6. 誘われたから	9	6	6	3
7. トライアルセットがもらえるから	9	4	12	1
8. その他	1	1	0	0

2-3. 感想と今後の要望

令和3年度から令和6年度のいずれの年も、参加者からは「楽しかった」「スキンケアについて学べて良かった」「わかりやすかった」という感想が多数寄せられ、満足度の高さが伺えた。また、男子学生からは「ひげ処理の仕方」や「メンズメイク」についても知りたいという要望が複数寄せられた。

今後、ダイバーシティ推進室に企画してほしい内容について調査したところ（表4）、「美容関連」および「食・料理関連」の企画を希望する参加者が多かった。令和6年度の参加者のうち、「食・料理関連」の企画を希望する学生からは、「超本格チャーハン」「ガチンコ カレー対決!!」「料理教室（カレー、お菓子づくり等）」を企画してほしいという具体的な提案があった。

表4 今後企画してほしい内容の一例

選択肢（複数可）	回答数（人）			
	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
1. 美容関連	21	6	—	2
2. 食・料理関連	17	7	6	6
3. OB・OG講演会	2	2	1	0
4. 小物づくり	2	2	4	1

3. まとめ

令和3年度から令和6年度の4年間で継続して開催した「メイクアップ教室」の参加者数およびアンケート

調査について、動向をまとめた。当初は「就活用のメイク法を知りたい」という女子学生からの要望に応えるべく、高学年向けに始めたメイクアップ教室であったが、近年は低学年や男子学生の参加者が増えており、就活メイクというよりは、若者のスキンケアをはじめとした美容への関心が高まっていることが示唆された。

ダイバーシティ推進室ではこれまでに、男女共同参画を目指した「七夕会」や「OG 後援会」、「料理から学ぶダイバーシティ」など、学生が楽しめる様々なイベントを開催してきた。中でも、メイクアップ教室は4年間継続的に開催したことで、学生の動向を知るよい機会となった。

ダイバーシティ推進室では、今後も学生どうしの交流や、学生が高い関心を寄せる学びの場を提供し、年齢やジェンダーを問わず、誰もが互いに尊重し合える雰囲気づくりと人材育成に向けて活動していく。

4. 謝辞

メイクアップ教室を開催するにあたり、講師を引き受けて頂いた群馬ヤクルト販売株式会社のスタッフの皆さまに深く感謝申し上げます。

5. 参考文献

- 1) 大岡久子, 佐藤孝之, 宮越俊一, 櫻岡広: 群馬高専における就職活動に役立つメイクアップ教室, 群馬高専レビュー, 第40巻, pp.33-38, 2021.

Diversity Promotion Office Planning “Makeup Classes”

~Review of 2021 to 2024~

Mayumi KUDO, Takayuki SATO, Tamaki OTA, Hiroshi SAKURAOKA

This report summarizes a review of the “Makeup Class” held continuously for four years from 2021 to 2024, the number of participants, and a questionnaire survey. In recent years, the number of participants from lower grades and male students has increased, suggesting that young people are becoming more interested in beauty, including skin care, rather than job-hunting makeup. The make-up classes were highly satisfactory to participants, and the fact that they were held continuously for four years provided a good opportunity to learn about student trends.

三百六十番歌合にみる後鳥羽宮内卿歌について

難波 宏彰*

(二〇二四年一月二九日受理)

一、はじめに

後鳥羽院宮内卿は、生没年未詳。十六歳頃後鳥羽院歌壇に入る。その作歌活動をたどっていくと、正治二年(一一〇〇)から建仁三年(一一一三)の八幡若宮撰歌合までの四年間の作歌活動を確認するのみである。後鳥羽院宮内卿について『正徹物語』(注1)には

宮内卿は廿よりうちに亡くなりしかば、いつの程に稽古も修行も有るべきぞなれども、名譽有りしは生得の上手にてある故也。

とある。「宮内卿は、二十歳にならない内に亡くなってしまったので、いつ和歌の稽古や修行を行ったのか分からないのだけれども、優れた評価を得たのは、生まれながらにして和歌の資質があつたからである。」という意になる。夭折した後鳥羽院宮内卿の和歌の才能を惜しむ事柄が記されている。また、鴨長明の歌論書『無名抄』(注2)では

宮内卿は始めより終まで草子・巻物とりひろげて、切燈台に火近々ともしつつ、かつがつ書きつけ書きつけ、夜も昼も怠らずなん案じける。此人はあまり歌を深く案じて病に成りて、一度は死に外れしたりき。父禪門、「何事も身のありての上の事にこそ。かくしも病になるまでは、いかに案じ給ふぞ」と諫められけれども用ゐず、終に命もなくてやみにしは、そのつもりにや有りけん。

とある。『正徹物語』の優れた和歌に対する評価を得たのは、生まれながらにして和歌の資質があつたという記述とは逆に、草子や巻物(物語や和歌集か)を何度も何度も読み返し、夜も昼もなく燈台に明かりをとめて少しづつ、少しづつ和歌を書きながら思案していた。そのことが原因で一度死にかけたので、父の師光が、「何事も命があつてのことなので、このように病になるまで、どうして和歌の思案をしているのですか」と諫めたのだが、その甲斐なくついに亡くなってしまうのである。という内容である。才能だけでなく日々研鑽に励む姿があつたことがわかる。

また、『増鏡』(注3)の中では、

薄く濃き野辺の緑の若草に跡まで見ゆる雪のむら消え(注4)

草の緑の濃き色にて、去年の古雪の遅く疾く消えける程を、推し量りたる心ばへなど、まだしからん人は、いと思ひよりがたくや。この人、年つもるまであらましかば、げにいかばかり目に見えぬ鬼神をも動かしなましに、若くて失せにし、いといとほしくあたらしくなん。

「薄く濃き…」の和歌は、宮内卿の代表的な和歌で『新古今和歌集』に入集したものである。歌意は、「薄く、また、あるいは濃い野辺にある緑の若草の上に古雪のまだらに消えた跡が見える」ということになる。『増鏡』でも草の緑の濃い色に去年の古雪が遅く、あるいは早く消えることを推察する様子などは、未熟な歌人では、思いつかないと言っているように、この和歌を優れた代表作と評し、若くして亡くなった宮内卿を惜しんでいる。

以上、後鳥羽院宮内卿について『正徹物語』、『無名抄』、『無名抄』と見てきたが、いずれも新古今時代の歌人としての評価の高さが顕著に見られる。その理由としては、若くして後鳥羽院歌壇に入り、その才能を遺憾なく発揮して、他の歌

人に負けないくらい和歌を詠み、後鳥羽院をはじめ多くの歌人にその才能を認めさせた点にある。

後鳥羽院宮内卿の和歌の詠みぶりについては、『無名抄』が「始めより終まで草子・巻物とりひろげて…かつがつ書きつけ書きつけ、夜も昼も怠らずなん案じける」と指摘するように、以前に成立した和歌集や物語をよく学んでいたことがうかがえる。そして、和歌の特徴は、『増鏡』の中に「草の緑の濃き色にて、去年の古雪の遅く疾く消えける程を、推し量りたる心ばへなど、まだしからん人は、いと思ひよりがたくや。」に記されているような色彩感覚に優れたものであるように考えられる。

また、後鳥羽院宮内卿の両親や兄については、以下の通りである。

父、源師光は、生没年未詳。建仁三年（一二〇三）頃まで生存（七十三歳位）か。大納言師頼男。母は、藤原能実女。左大臣頼長の猶子となる。具親・宮内卿の父。官途にめぐまれず、正五位下右京権大夫にとどまる。晩年出家して生蓮と称した。六条藤家・歌林苑に近い歌人で太皇太后宮大進清輔歌合（撰歌合）・広田社歌合・石清水若宮社歌合・後鳥羽院初度百首などに参加。自家に歌合を主催し、また、千五百歌合の判者の一人となる。『花月集』を撰したという。家集に『師光集』がある。千載集初出。（注5）

母、後白河院女房安芸、巨勢宗茂の女。『たまきはる』（健寿御前日記）には、

新中納言殿 琴弾きの安芸が女。父は信頼の右衛門督。

とあり琴の名手であったことがうかがえる。

兄、源具親は、生没年未詳。従四位下左近少将に至った。正治二年院二度百首・千五百番歌合・承元元年最勝四天王寺障子和歌などに出詠している。建仁元年（一二〇一）には和歌所寄人となり、元久二年（一二〇五）三月の新古今集寛宴にも出席している。弘長二年（一二六二）三十六人大歌合に選ばれており、その頃までの生存は確認されている。新古今集初出。（注6）具親が弘長二年（一二六二年）まで生存していたと考ええると、八〇歳位になっていたと考えられる。また、具親の子、源輔通の母は、『尊卑分脈』によれば「母平重時女」（平重時は北条重時）とあり、『明月記』建久三年（一一九一）九月二十五日条にある

廿五日甲午。幕府官女（号姫前。）今夜始渡于江間殿御亭。是比企藤内朝宗息女。当時権威無双之女房也。殊相叶御意。又容颜太美麗云云。

「二五日甲午。幕府の官女（姫前と号す）今夜江間殿が御亭に始めて渡る。是れ比企の藤内朝宗が息女、当時権威無双の女房なり。殊に御意に相叶う。容颜太だ美麗と云云」（江間殿とは北条義時のことである。）

「姫前」であると考えられ、北条義時の正室であった「姫前」を娶ったとされている。

父の師光、兄の具親ともに勅撰和歌集に入集している歌人である。特に父師光は、官位は正五位下右京権大夫であったものの、自家での歌合の主催や、『新古今和歌集』の成立に大きく関わる『千五百番歌合』で判者をつとめるなど、歌人としての名声は高い。また、兄の具親も『無名抄』では、

寂蓮は此事をいみじがりて、兄人の具親少将の、歌に心を入れぬをぞ憎み侍し。

と後鳥羽院宮内卿と比べてあまり和歌に熱心ではないとの評があるが、正治二年院二度百首・千五百番歌合・承元元年最勝四天王寺障子和歌などに出詠し、建仁元年（一二〇一）には和歌所寄人となっており新古今時代の著名な歌人として名を連ねている。また、具親の正室が姫前であることから、鎌倉幕府の関係もうかがえる。

後鳥羽院宮内卿とその背景について見てきたが、新古今時代、式子内親王、俊成卿女と並び称される優れた女流歌人である。

これまでの後鳥羽院宮内卿については、有吉保氏、奥野洋子氏、田淵久美子氏等の研究があげられるが、それらの研究とともに、本論については、正治二年（一二〇〇）に成立した三百六十番歌合の後鳥羽院宮内卿の和歌について考察していくものとする。

二、三百六十番歌合

三百六十番歌合は、正治二年（一二〇〇）当時の現存歌人、後鳥羽院、藤原良経、慈円、藤原俊成、式子内親王、藤原定家、寂蓮など三十六人の既詠作品から結番した歌合である。

巻頭には、「聖曆庚申涼秋己酉」とあり、傍記に「正治二年事歟」とある。構成

は、真名序が据えられ、春、夏、秋、冬、雑の五部立からなり、各部七二番、総番数三六〇番、総歌数七二〇首、無判となっている。

以下、本文は、『新編国歌大観』に拠った。また、引用している和歌には新編国歌大観番号を付している。

三、三百六十番歌合にみる宮内卿歌について

三百六十番歌合に入っている後鳥羽院宮内卿の和歌は、九首がある。その九首は、春二首 夏一首 秋二首 冬一首 雑三首の部立に配列されており、正治二度百首から五首、建仁元年老若五十首歌合から四首が三百六十番歌合に入っている。

また、後鳥羽院宮内卿歌には、権中納言兼宗卿（藤原兼宗）、前斎院（式子内親王）、前中納言（藤原隆房）、定家朝臣（藤原定家）、左大臣（九条良経）、雅経（藤原雅経）、入道右兵衛督（藤原惟方）、家隆（藤原家隆）、越前の和歌が合わされている。

以下、後鳥羽院宮内卿の和歌九首を結番された歌人の和歌とともに考察していく。「後鳥羽院宮内卿」については、宮内卿と表記する。

廿二番 左

権中納言兼宗卿

四三むめのはなさきそむるよりいつしかと

まづちるものはほひなりけり

右

宮内卿

四四のきちかきむめのたちえやしるからむ

おもひのほかになんべんぐひす

歌合第一春部二十二番で、藤原兼宗と結番されたものになっている。

四四番の宮内卿歌の意は、「家の軒近く伸びた梅の枝を分かつていたのであろうか、思いがけず鶯が来て鳴いていることよ。」となり、『正治二度百首』「八〇六」に入集している。

この歌の参考歌には、『拾遺集』の平兼盛があげられる。

冷泉院御屏風のゑに、梅の花ある

家にまらうどきたる所 平兼盛

一五わがやどの梅のたちえや見えつらん

思ひの外に君がきませる

平兼盛の和歌の意は「私の家にある高く伸びた梅の枝が見えたのだろうか、思いがけずあなたがこられた。」となる。新日本古典文学大系『拾遺和歌集』兼盛歌脚注（注7）には、「家の主人よりも花見が目的の訪問を風刺して詠むのは、当時の類型的な発想。」とあり、宮内卿歌もこの発想を基に和歌に取り込んだと思われる。家の主人を訪ねるというよりも梅の花を見ることが目的で、鶯が家を訪問して鳴いているという趣旨の和歌になっている。平安中期、一条天皇時代の発想を借り、鶯を擬人化することで鶯の来訪を奥深いものにした詠になっている。

一方、四三番、藤原兼宗の歌の意は、「咲き始めた梅の花が、いつのまにか私知らぬうちに花が散ってしまう、梅が散り始めるのは、花ではなくてまず香りからなのであるなあ。」となる。なお、兼宗歌は、『三百六十番歌合』以外への入集は見当たらない。梅の香りに想いを寄せた詠歌になっている。

兼宗歌が、梅の香りを題材にした詠歌に対して、宮内卿歌は、梅の花見を目的に訪れる鶯を題材にしている。平安時代より詠まれた伝統を踏襲したものになっている。

藤原兼宗は、長寛元年（一一六三）〜仁治三年（一二四二）九月三日、八〇歳、正二位按察使権大納言。六百番歌合、守覚法親王家五十首、千五百歌合などに出詠、千載集初出。三百六十番歌合には、十一首入集している。

卅一番 左

前斎院

六一はるさめはふるともなくてあをやぎの

いとにつらぬくたまぞかずそふ

右

宮内卿

六二はるさめのふるとはそらにみえねども

さすがにきげのきのたまみづ

歌合第一春部三十一番で、式子内親王と結番されたものになっている。

六二番の宮内卿歌の意は、「春雨が降っていたとは、空を見ても見えないけれど、家の軒には玉水があるなあ」となる。この歌は、年老若五十首歌合「七二」に入集している他、勅撰集である玉葉和歌集「二〇三」、夫木和歌抄「九五八」、女房三十六人歌合「一〇」と多くの歌集に入集している。

また、六二番の宮内卿歌について、奥野陽子氏は、『式子内親王 たえだえかか雪の玉水』（注8）の中で「春雨は、和歌史において、空に降っている状態では目に見えぬものとして詠まれるものであった。」例としてこの和歌をあげている。『歌ことば歌枕大辞典』では「題としての『春雨』は、『堀川百首』でも設題され、中世の応制百首などでも設題される場合が多い。」（注9）としており、中古より「春雨」は和歌の中に詠まれていたが、中世から「春雨」を題材にした和歌が多くなった傾向にあるとしている。宮内卿も中世より詠まれることが多くなった「春雨」を題材にした和歌を詠んだ。奥野氏が指摘されているように、「春雨」は、降っている時は、目に見えぬものとして詠まれる」という構図が後世で評価され、後の歌集に入集していると考えられる。

一方、式子内親王は、「春雨」を題材にした秀歌を残している。

式子内親王

花はちりその色となくながむれば

むなしき空に春雨ぞふる

（新古今和歌集 春下 一四九）

式子内親王の晩年の詠歌とされる。この和歌に代表されるがごとく、式子内親王は、儚い想いを詠んだ秀歌を残している。六一番の式子内親王の歌意は「空を見ると春雨が降っているように思えないのだけれど、下にある青柳の糸には水滴が多くなっていることよ。」となる。視点が空（上）から青柳（下）に移行してすると同時に、春雨の降っていることであろう空（白）と青柳の（緑）を表現した詠になっている。

また、六一番の式子内親王歌は、『寂蓮法師集』「二二六」に入集しており、式子内親王の歌であるかの真偽は定かではない部分もあるが、ここでは式子内親王歌として取り扱う。この歌について小田剛氏、半田公平氏は以下のように述べている。

小田剛氏は、『式子内親王全歌注釈』の中で「この歌が果たして式子の歌であるのか、寂蓮の歌であるかは、教長の歌とのかかわりともからめて、今後考えられ

るべき問題であろう。―なお、半田公平氏も、私宛の私信で、どちらの歌であると断定できかねると言っておられる。」（注10）

半田公平氏は、『寂蓮研究―歌集と私撰和歌集』の中で「この歌は『寂蓮集』（雑纂本）のすべての諸本に入集しているが、建仁元年（一一〇一）三月以降の成立である『三百六十番歌合』（三十一番左、前斎院、対宮内卿）に入集しており、式子内親王歌となっている。『式子内親王集』には入集していなく、『寂蓮集』に入集しており、何れの歌か決定しかねる。」（注11）

宮内卿歌、式子内親王歌ともに、新古今時代らしい「春雨」の詠になっている。特に宮内卿が式子内親王と結番されているのは、宮内卿の評価の高さがうかがえる和歌になっている。

式子内親王は、久安五年（一一四九）く建仁元年（一一〇一）五十三歳。後白河院皇女。新古今和歌集四十九首入集。新古今時代の代表的女流歌人。家集に『式子内親王集』がある。千載集初出。三百六十番歌合には、三十九首入集している。

五十五番 左

前中納言

二五三ゆふさればあきのすがたをうつしえて

月をぞむすぶまつかげの水

右

宮内卿

二五四くもはる山井のみづにかけみえて

そこよりいづる夏のよの月

歌合第二夏部五十五番で、藤原隆房と結番されたものになっている。

二五四番、宮内卿歌の意は「夜空にあつた雲が晴れて、山井の水面には月影が見え始めた、夏の夜の月は空ではなく山井の水面からでるのだなあ。」となる。かげ（影）は月の縁語である。この歌は、『年老若五十首歌合』「一九〇」に入集している。

また、二五三番、藤原隆房歌の意は「夕方になると秋のようすを映してしまう、また、月そのものもその中に映し出してしまふ松陰の水であるよ。」となる。宮内卿歌、隆房歌ともに水面に映じた月光を詠む歌になっている。和歌では、水面に映じた月光を詠むことは『万葉集』以来詠まれてきたものであった。

例えば『万葉集』では、

落多芸知 流水之 磐触 与杼壳類与杼尔 月影所見
おちたぎち ながるるみづの いはにふれ よどめるよどに つきのかげみゆ

(万葉集 巻九 一七二四 作者未詳)

と水面に映る月を詠んでいる。

また、『拾遺和歌集』秋では、以下の三首が見られる。

延喜御時月次御屏風に

つらゆき

あふさかの関のし水に影見えて今やひくらんもち月のこま

(拾遺和歌集 秋 一七〇)

屏風に、八月十五夜池ある家に人

あそびしたる所

源したるがふ

水のおもにてる月浪をかぞふればこよひぞ秋のもなかなりける

(拾遺和歌集 秋 一七一)

水に月のやどりて侍りけるを

よしのぶ

秋の月浪のそこにぞいでにけるまつらん山のかひやなからん

(拾遺和歌集 秋 一七二)

と水面に映じる月光は、多くの場面で詠まれてきた。

しかし、拾遺集の和歌を見てみると、詞書には、「延喜御時月次御屏風」や「屏風に、八月十五夜池ある家に人あそびしたる所」とあるように、平安以降、屏風絵などを見て和歌を詠む場面も多くあったと推測される。宮内卿歌も屏風などの絵画の中から和歌の構図を導き出して、詠んだ絵画的な和歌であると思われる。古歌からの構図の摂取と絵画的な思考からの詠である。隆房歌も同様の意図が読み取れると考えられる。

藤原隆房は、久安四年（一一四八）〜承元三年（一二〇九）六十二歳、建春門院北面歌合、正治二年初度百首などの作者。家集に『隆房集』。千載集初出。三百六十番歌合には、十二首入集している。

四十四番 左

定家朝臣

三七五さとはあれて時ぞともなきにはのおもも

もとあらのはぎ秋はみえけり

右

宮内卿

三七六そこきよきのさはに秋のいろみえて

わけぬみづさへはぎがはなすり

歌合第三秋部で、藤原定家と結番されたものになっている。

三七六番、宮内卿歌の意は、「野辺の沢の底には、はつきりと秋の様子が見て取れる、その沢の水辺と見分けることができないくらい、萩の花の咲く野辺には入った私の衣は萩の花の色に染まっていることだなあ。」となる。この歌は、『正治二度百首』『八二七』に入集している。

野辺の沢に映る秋の水辺と萩に染まった衣とが見分けることができないという絵画的で色彩豊かな和歌になっている。

「はぎがはなすり」（萩が花摺り）は、『日本国語大辞典 第二版』によれば「萩の花が咲いている原に分け入って、衣服が萩の花の色に染まること。また、その衣服。萩の花を布にすり込んで染めることやその布もいう」とある。「萩が花摺り」を和歌の中で見ていくと勅撰和歌集では、平安中期に編纂された『後拾遺和歌集』に以下の和歌に見ることができる。

藤原範永

けさきつるのばらのつゆにわれぬれぬ

うつりやしぬるはぎが花すり

(後拾遺和歌集 秋上 三〇四)

また、その後は、

顕昭

夏ころもすその原をわけゆけば

おりたがへたる萩が花すり

(千載和歌集 夏 二二九)

心をばちくさの色にそむれども

長寛

袖にうつるは萩がはなすり

(千載和歌集 秋上 二五〇)

秋はぎををらではすぎじつきくさの

長寛

花すり衣つゆにぬるとも

(新古今和歌集 秋上 三三〇)

行宗

かり衣はぎの花すりつゆふかみ

うつろふ色にそほちゆくかな

(新勅撰和歌集 秋上 二三五)

と勅撰集では、平安中期の『後拾遺和歌集』一首の後には、平安末期の『千載和歌集』二首、鎌倉期以降は、『新古今和歌集』一首、『新勅撰和歌集』一首、『続後撰和歌集』一首、『続後撰和歌集』一首、『続古今和歌集』一首、『新後撰和歌集』二首、『続千載和歌集』二首などとなっており、平安末期以後にかけて和歌の中で取り扱われることが多くなっていることがわかる。私家集においては、

をるゝことにあたたら物をとおぼゆれど

しかたつのべのはぎの花すり

(和泉式部集 八六六)

よせかへるなみの花すりみだれつつ

しどろにうつすまののうら萩

(式子内親王集 二四二)

秋の色にわけなす程をかぞふれば

けふばかりこそ萩が花すり

(寂蓮法師集 一八二)

とあり、平安中期より和歌の中に「萩が花摺り」は撰取されていたものの、平安末期から鎌倉にかけて数が多くなる傾向にあり、新古今時代には多くの歌人に詠まれるようになったと考えられる。宮内卿は、「萩が花摺り」という中世、鎌倉期より和歌に撰取された歌語を用いて和歌を詠んだことになる。

一方、三七五番、藤原定家歌の意は、「里は荒れていて、いつと決まった時間が流れているわけではないのであるが、庭の上に下葉のまばらな萩があり、そのことから秋が来ていることがわかるなあ。」となる。時の流れが止まった里山に、萩の下葉によって時間の流れを感じるといふ。自然詠ではなく技巧を凝らした和歌になっている。この歌は、『玉葉和歌集』[五二〇]、『拾遺愚草』[二七五〇]、『御室五十首』(守覚法親王家五十首) [五二二]、『御室撰歌合』[六五]に入集している。

藤原定家は、応保二年(一一六二)〜仁治二年(一二四二)八月二十日、八十歳。正三位皇太后宮大夫俊成の男。新古今和歌集撰者、和歌所寄人。千五百番歌合など多く歌合の作者となるとともに、歌合判詞も行った。日記に『明月記』がある。千載集初出。三百六十番歌合には、三十六首入集している。

宮内卿歌、藤原定家歌ともに自然詠の中に、新古今的な虚構的、絵画的で幻想的な世界を織り込んだ和歌になっている。

四十八番 左

左大臣

三八三うちなびくいりえのをばなほのみえて

ゆふなみまがふまののうら風

右

宮内卿

三八四とやまなるならのはまではけはしくて

をばながするにやわる秋風

歌合第三秋部で、九条良経と結番されたものになっている。

三八三番、宮内卿歌の意は「人里から離れた山では檜の葉までは荒々しい風がふくのであるが、尾花(ススキの花穂)の頂までくると秋風も弱るのだな。」となる。この歌は、『新続古今和歌集』[三四五]、『正治二度百首』[八二五]、『雲葉和歌集』[六三七]、『題林愚抄』[三二〇〇]に入集している。

三八四番、九条良経の歌の意は「入り江に吹く風によって尾花が波打つようになびいているのがかすかにわかる。夕波と尾花が波打つ様子がよく似ていて取り違えてしまう真野の浦風であるよ。」となる。「まののうらかぜ」は「真野」滋賀県大津市真野の真野川が琵琶湖に注ぐ河口部にあった入江。この歌は、『新古今和歌集』〔四二二〕、『玄玉和歌集』〔六七〇〕、『夫木和歌抄』〔四三三三〕、『秋篠月清集』〔二七三〕に入集している。

宮内卿歌、九条良経歌ともに「尾花」と「風」（秋風）の取り合わせによる詠歌になっている。「尾花」と「風」の取り合わせを勅撰集の八代集で見えいくと、

源俊頼

うづらなくまののいりえのはまかせに

をばななみよる秋のゆふぐれ

（金葉和歌集二度本 秋 二二九）

源俊頼

うづらなくま野のいりえのはまかせに

をばななみよる秋の夕ぐれ

（金葉和歌集三奏本 秋 二二三）

源通能

わが恋はをばな吹きこす秋かぜの

おとにはたてじみにはしむとも

（千載和歌集 恋一 六七二）

家持

我がやどのをばなが末にしらつゆの

おきし日よりぞ秋風もふく

（新古今和歌集 秋下 四六二）

通光

入日さすふもとのをばなうちなびき

たが秋風に鶉なくらむ

（新古今和歌集 秋下 五二三）

と、『金葉和歌集』に二首（金葉集一度本に一首、金葉集三奏本に一首と源通能の同じ歌が入集している。）『千載和歌集』に一首、『新古今和歌集』に二首と平安末期から勅撰和歌集には見られるようになる。

その後を見ると『続古今和歌集』一首、『新後撰和歌集』一首、『玉葉和歌集』六首、『続千載和歌集』二首、『続後拾遺和歌集』三首、『風雅和歌集』三首と数が増えていく。また、以下のように『万葉集』などにもある。

多可麻刀能 平婆奈布伎故酒 秋風尔

毛等伎安気奈 多太奈良受等母

たかまとの をばなふきこす あきかぜに

ひもときあけな ただならずとも

（万葉集 四三一九）

しかし、その数は少なく中世以降に「尾花」と「風」の取り合わせは多くなっていく。また、「尾花」（花薄）は、

秋の野をすぎまかりけるに、をばなのかぜに

なびくをみてよめる

源親元

はなすすきまねかばこにとまりなむ

いづれののべもつひのすみかぞ

（詞花和歌集 雑下 三五四）

のように、恋の趣を連想させる。新日本古典文学大系『詞花和歌集』三五四歌の脚注には「花薄の招くさまは、女が男を誘うのに見立てることが多い」とあるように尾花の風になびく様は、どこか恋の予感を感じさせたのである。

宮内卿歌、九条良経歌からは、恋の予感を感じないが、尾花の風に靡く様は、中世以降に多く詠まれる歌材になり、「尾花」と「風」に注目した詠になっているのである。

九条良経は、嘉応元年（一一六九）～建永元年（一二〇六）三月七日、三十八歳。建仁二年（一二〇二）摂政を経て、元久元年（一二〇四）従一位太政大臣に至った。後鳥羽院歌壇での中核的位置を占め、『老若五十首』『三体和歌』『水無瀬

殿恋十五首歌合』『北野宮歌合』『新古今和歌集竟宴和歌』など多くの和歌行事に詠み、『千五百歌合』では判者の一人になっている。千載集初出。三百六十番歌合には、三十九首入集している。

廿二番 左

雅経

四七五かげとめしつゆのやどりを

おもひいでてしにもあととふあさぢふの月

右

宮内卿

四七六みしまえのたまえのあしのしもがれて

かぜのおとさへいろかはるなり

歌合第四冬部で、藤原雅経と結番されたものになっている。

四七六番、宮内卿歌の意は「三島江の美しい入江に生えている葦が霜枯れている。寒風の音でさえもその色を変えてしまうのであろうか。」三島江は、摂津の国の歌枕。

柿本人麿

みしま江の玉江のあしをしめしより

おのがと思ふいまだからねど

(拾遺和歌集 雑恋 一二二)

に代表されるがごとく、「三島江」と「葦」の取り合わせは多く詠まれている。四七六番の宮内卿歌と趣を同じにするのは、後代になるが、

権大僧都聖尋母

みしま江の玉えのあしの一夜にも

音こそかはれ秋の初かぜ

(続千載和歌集 雑上 一七三二)

が見える。宮内卿歌は、摂津の国の歌枕「三島江」を用いた詠になっている。この歌は、『老若五十首歌合』『三四〇』に入集している。

四七五番、雅経歌の意は「秋月の光を映し留めていた露を思いだし、そこに宿った跡を訪ねて霜に映る浅茅生の月であるよ。」となる。浅茅生は、浅茅の生い茂った場所で、廃園の慣用句である。この歌は、『新古今和歌集』『六一〇』、『明日香井和歌集』『九〇二』、『老若五十首歌合』『三四』に入集している。また、新日本古典文学大系『新古今和歌集』では、

あさぢふの露のやどりに君をおきて

四方のあらしぞ静心なき

(源氏物語 賢木 一五〇)

を本歌にし、『源氏物語』を題材にした詠になっている。

藤原雅経は、嘉応二年(一一七〇)〜承久三年(一二二二)三月十一日、五十二歳。飛鳥井と号し、蹴鞠の祖。『老若五十首』、『新宮撰歌合』などに出詠。後鳥羽院中心メンバーとなり、和歌所寄人、新古今集撰者となる。新古今集初出。三百六十番歌合には、十三首入集している。

四十七番 左

入道右兵衛督

六六九おちつもるなみだのうみとなりぬれば

みはうきしまのこころこそすれ

右

宮内卿

六七〇かりそめのよはのけぶりとおもはずは

つるのはやしのなこそをしけれ

歌合第五雑部で、藤原惟方と結番されたものになっている。

六七〇番、宮内卿歌の意は「火葬の煙となつて立ちのぼる煙が一時のものではないと思えば、仏入滅の際、火が消えてしまったようになった鶴の林が口惜しく残念に思われる。」となる。『正治二度百首』『八五八』に入集している。

「鶴の林」は、釈迦が涅槃に入つた沙羅双樹の林。釈迦入滅の様子を火が消えたようだと法華経・序品の句がある。『日本国語大辞典第二版』では、「釈迦入滅の時白鶴のように白変し枯れたという沙羅双樹。また、その地。転じて、仏の涅槃」

槃をいう。また、死。かくりん。」とある。勅撰八代集の中で「鶴の林」が使われた和歌を見ていくと、『後拾遺和歌集』「五四四」の一首のみである。

入道前太政大臣の葬送の朝に人人まかり
かへるにゆきのふりてはべりければよみ
はべりける

法橋忠命

たきぎつきゆきふりしけるとりべのは

つるのはやしの心地こそすれ

(後拾遺和歌集 哀傷 五四四)

また、それ以後になると、『新勅撰和歌集』「六一三」

自惟孤露の心を

寂超法師

とことにはたのむかげなきねをぞなく

つるのはやしのそらをこひつつ

(新勅撰和歌集 釈教 六一三)

があげられるが、勅撰二十一代集でも、八首(『後拾遺和歌集』一首、『新勅撰和歌集』一首、『続後撰和歌集』一首、『続拾遺和歌集』一首、『玉葉和歌集』一首、『続千載和歌集』一首、『新千載和歌集』一首、『新統古今和歌集』一首)と数少ないものになっている。

宮内卿歌は、「鶴の林」という法華經・序品の句を中心に据えて、その内容を物語化し、絵画的することによって人の死を白の世界で表現したものになっている。

六六九番、藤原惟方歌の意は「落ち積もる涙が海のようになってしまうたので、私自身は、海に浮かぶ小島のように孤独を感じることだ。」となる。この歌は、『治承三十六人歌合』「五二」に入集している。

この歌も、「落ち積もる涙」で宮内卿歌同様に、死を表現したものになっている。

藤原惟方は、治承三年(一一七九)没年未詳。出家して法名寂信。建仁元年

八月三日影供歌合に参加。この時七十七歳であった。家集に『栗田口別当入道集』がある。千載集初出。三百六十番歌合には、十首入集している。

六十番 左

家隆朝臣

六九五さきだてしころのはてはあしびきの

山のあなたにきゆるしらくも

右

宮内卿

六九六みわたせばくもよりなみにいぎいでて

あさひにちかきあまのつりぶね

歌合第五雑部で、藤原家隆と結番されたものになっている。

六九六番、宮内卿歌の意は、「海を遠く見渡すと、海の波と空の雲が同じ白なので境が無いように感じられる、それはまるで、雲から波間に漕ぎ出でて朝日近くを航行しているように思われる海人の釣り舟であるよ。」となる。まるで雲から波に漕ぎ出でるといふ雲を波に見立てる、見立ての手法が用いられた詠になっている。この歌は、『正治一度百首』「八七四」に入集している。

海に雲、雲を波に見立てて詠まれた和歌は、

詠天

人まろ

そらの海に雲の浪たち月の舟

星の林にこぎかくる見ゆ

(拾遺和歌集 雑上 四八八)

海辺霞といへるころをよみ侍りし

家隆朝臣

見わたせば霞のうちもかすみけり

煙たなびくしほがまのうら

(新古今和歌集 雑中 二六二)

などがあり、『拾遺和歌集』柿本人麻呂歌は、雲を波に、月を舟に見立てた詠にな

っている。また、今回合わされている、藤原家隆も『新古今和歌集』の中で、海浜と霞（雲）の取り合わせで詠んでおり、この取り合わせで詠まれた和歌は比較的多い。

宮内卿歌は、海と雲の取り合わせに、雲を波に見立てるといふ人麻呂歌にあるような見立ての技法を用いて、和歌を絵画的に表現している。

六九五番、藤原家隆の歌の意は、「先立ってしまった心の落ち着く先は、山の向こうに白雲とともに消えてしまった。」となる。「あしびき」という枕詞を用いた詠になっており、宮内卿歌、家隆歌ともに景色に寄せる雑歌というべき詠みぶりであった。

藤原家隆は、保元三年（一一五八）～嘉禎三年（一二三七）四月九日、八十八歳。定家らとの交友を通じて作歌生活への精進の程がみられた。『六百番歌合』作者。『守覚法親王家五十首』を詠み、『後鳥羽院初度百首』『老若五十首歌合』『新宮撰歌合』『通親家影供歌合』などに出詠。千載集初出。三百六十番歌合には、三十五首入集している。

六十九番 左

宮内卿

七三だけのはに風ふきよわるゆふぐれ

ものあはれは秋としもなし

右

越前

七十四なにゆゑにはるをもまたむ山かげや

かきねのむめにうぐひすの声

歌合第五雑部で、越前と結番されたものになっている。

七二三番、宮内卿歌の意は「竹の葉に吹く風が弱まってきた夕暮れのしみじみとした情趣は秋だからということではない。」となる。この歌は、『新古今和歌集』『二八〇五』、『老若五十首歌合』『四一四』、『続歌仙落書』『二二三』に入集している。秋については、

春はただ花のひとへにさくばかり

物のあはれは秋ぞまされる

（拾遺和歌集 雑下 五一二）

とあるように、秋が優れている等とする春秋を論ずる歌は多い。
また、秋の夕暮れは、

寂蓮法師

さびしきはその色としもなかりけり

楨立つ山の秋の夕ぐれ

（新古今和歌集 秋上 三六二）

西行法師

こころなき身にもあはれはしられけり

しぎたつ沢の秋の夕暮れ

（新古今和歌集 秋上 三六二）

西行法師すすめて、百首歌よませ

侍りけるに

藤原定家朝臣

見わたせば花も紅葉もなかりけり

浦のとま屋の秋の夕暮

（新古今和歌集 秋上 三六三）

『新古今和歌集』の三夕の歌があり、夕暮れは、秋の歌の中で「物のあはれ」を感じられる最大の景物である。

しかし、宮内卿歌は、「もののあはれは秋としもなし」とし、秋だからもののあはれを感じるのではないとしている。この歌について、新日本古典文学大系『新古今和歌集』の脚注（注12）では『秋は夕暮』という定説を否定するのではなく、秋よりも上句の情景「日も暮れて来、竹の葉のそよぎもようやく静まってきた、そのあはれさを強調しようとするのが眼目」とある。脚注が指摘するように、「秋の夕暮」の「物のあはれ」に着目するのではない。

この歌は、「秋」の部立に入ってはおらず、三百六十番歌合においても「雑歌」に配され、『新古今和歌集』の部立も「雑歌下」に配されている。

『新古今和歌集』において、宮内卿歌「二八〇五」の歌の前三首の配列について

見ていくと、以下のようなになる。

宮内卿歌 前3首

こがらしの風にもみぢてひとしれず
小野小町

(新古今和歌集 雑下 一八〇二)

うきことのはのつもる比かな

皇太后宮大夫俊成

嵐ふく嶺の紅葉の日にそへて

もろくなり行く我が涙かな

(新古今和歌集 雑下 一八〇三)

崇徳院御歌

うたたねは萩ふく風におどろけど

ながきゆめ路ぞさむる時なき

(新古今和歌集 雑下 一八〇四)

宮内卿歌

竹の葉に風ふきよわる夕暮の

宮内卿

もののあはれは秋としもなし

(新古今和歌集 雑下 一八〇五)

と、「風」に関する和歌が連なっている。吹く風に関する和歌が連なっており、その流れの中で和歌を解釈する方が自然である。この歌は、脚注（注12）が指摘するように、竹の葉に吹く風が静まってきたことに対して「物のあはれ」を感じたとすることに重点を置いた雑歌になっている。

一方、七・一四番、越前の歌の意は、「どという理由で、春がくるのをまたないのであろうか、山陰や家の垣根の梅には、鶯の鳴く声がする。」となる。この歌も春秋を論ずる歌と捉えるのではなく、季節外れの鶯の鳴き声に注目した雑歌になっ

ている。

越前（嘉陽門院越前）は、生没年未詳。「伊勢女房」などと伝えられる。『正治二年初度百首』を初見として、『千五百番歌合』、『老若五十首歌合』ほかに列席。活躍は、新古今時代であり、歌風も新古今歌風の域内にある。新古今集初出。三百六十番歌合には、九首入集している。

四、おわりに

『三百六十番歌合』に入集している後鳥羽院宮内卿の和歌九首について考察してきたが、そこから分かったことは、『三百六十番歌合』は、新古今時代の当代歌人三十六人による既詠作品から歌合形式に結番された作品であるためか、部立に忠実に結番の配列がなされており、和歌に詠まれる素材や詠歌の内容にいたるまで、きめ細かく繊細に配列されていたことである。

後鳥羽院宮内卿歌が『三百六十番歌合』の中で、唯一『新古今和歌集』に入集していた和歌、雑部六十九番、左、七二三番歌

たけのはに風ふきよわるゆふぐれのもののあはれは秋としもなし

は、一見すると、秋の歌の夕暮れを詠んだ和歌のようであるが、竹の葉の吹く「風」に注目したものになっている。結番された右、越前も

なにゆゑにはるをもまたむ山かげやかきねのむめにうぐひすの声

と春の和歌のようであるが、鶯の鳴き声に鳴き声に注目している。

それぞれの和歌には、「もののあはれは秋としもなし」（宮内卿歌）、「なにゆゑにはるをもまたむ」と春秋を論ずる歌であるかのようにしているが、雑歌の部立に忠実に、「風」「鶯の鳴き声」に眼目がありきめ細やかな配列になっていることがこの結番からも伺うことができる。

また、結番された和歌は、それぞれのテーマがあり和歌によって表現されている。

『三百六十番歌合』秋の部立、四十四番などは、萩を歌材にしているが、

『三百六十番歌合』中の宮内卿歌は、新古今調に則った景物を物語調に仕立てた絵画的な和歌が多く採択され、後鳥羽院宮内卿らしさが凝縮された九首になっ

表									
部立	春	春	夏	秋	秋	冬	雑	雑	雑
歌材 (宮内卿)	梅の花	春雨	水に映る月影	萩	尾花	霜	鶴の林	海と雲	風
歌材 (結番された歌人)	梅の花	春雨	水に映る月影	萩	尾花	霜	涙	山の彼方	鶯の鳴き声
歌人名	藤原兼宗	式子内親王	藤原隆房	藤原定家	九条良経	藤原雅経	藤原惟方	藤原家隆	越前

定家の和歌では、時間という目に見えない世界がテーマとなり、宮内卿歌は、「秋の色」「萩の花の色」「衣」が一体となる現実にはない、絵画的な世界が広がっている。
それぞれの結番された和歌にテーマが与えられて編纂された様子がよくわかるものである。
また、後鳥羽院宮内卿歌について、以下、結番された宮内卿歌九首とそれぞれの眼目となる歌材についてまとめると表のようになる。

四十四番 左
定家朝臣
さとはあれて時ぞともなきにはのおももとあらのこはぎ秋はみえけり
右
宮内卿
そこきよきのざはに秋のいろみえてわけぬみづさへはぎがはなすり

ていた。
以上、拙い考察と和歌の解釈であったが、今後後鳥羽院宮内卿歌を丁寧に読み解くとともに、その評価についても考察を進めていきたい。

注

- 1 『正徹物語』歌論書。二巻。正徹著。成立年次は、文安五年（一四四八）とする説と宝徳二年（一四五〇）とする説がある。本文は、久松潜一、西尾実校注『歌論集 能楽論集』（日本古典文学大系65）岩波書店、一九六〇年に拠る。
- 2 『無名抄』鎌倉時代の歌論書。鴨長明著。一巻。建暦元年（一二二二）末以降健保四年（一二二六）閏六月以前に成立。本文は、久松潜一、西尾実校注『歌論集 能楽論集』（日本古典文学大系65）岩波書店、一九六〇年に拠る。
- 3 『増鏡』歴史物語。作者未詳。十七巻。十四世紀後半の成立。治承四年（一一八〇）後鳥羽天皇の誕生から筆を起し、元弘三年（一一三三）後鳥羽天皇が配所の隠岐から帰京するまでの歴史を、貴族社会を中心にして仮名書き雅文体で述べた書物。本文は、井上宗雄全訳注『増鏡』講談社学術文庫に拠る。
- 4 『新古今和歌集』新編国歌大観番号七六 巻一、春歌上、に入集。
- 5 有吉保編『和歌文学事典』「師光」六五〇～六五一頁に拠る。
- 6 有吉保編『和歌文学事典』「具親」四八七頁に拠る。
- 7 新日本古典文学大系『拾遺和歌集』八頁、平兼盛歌脚注に拠る。
- 8 奥野陽子氏『式子内親王 たえだえかかる雪の玉水』二二三頁に拠る。（ミネソラヴァ書房 二〇一八年六月十一日）
- 9 久保田淳・馬場あき子編『歌ことは歌枕大辞典』「春雨」七二二頁に拠る。
- 10 小田剛氏『式子内親王全歌注釈』五三三頁「三七五 はるさめは……」の和歌解説に拠る。（研究叢書一七三 笠間書院 一九九五年二月一日）
- 11 半田公平氏『寂蓮研究―歌集と私撰和歌集―』八五頁「16 春雨は……」注に拠る。（新典社研究叢書一七九 新典社 二〇〇六年一〇月一〇日）
- 12 新日本古典文学大系『新古今和歌集』五三五頁、宮内卿歌脚注に拠る。

参考文献

- 有吉保氏『新古今和歌集の研究続編』（一九九六年三月一日 笠間書院）
- 奥野陽子氏『纂輯後鳥羽院宮内卿歌集稿』（『王朝』第三冊 一九七〇年一〇月一日）
- 田渕久美子氏『異端の皇女と女房歌人』（角川選書五三六 二〇一四年二月二五日 角川書店）
- 有吉保編『和歌文学事典』（一九八二年五月二五日 桜楓社）
- 久保田淳・馬場あき子編『歌ことは歌枕大辞典』（一九九九年五月二二日 角川書店）
- 小田剛氏『式子内親王と三百六十番歌合』（『滋賀大國文』第二一、一九八四年六月一日）
- 田仲洋己氏『三百六十番歌合』再考』（『岡山大学文学部紀要』六二、二〇一四年二月二五日）

A discussion the waka poem by *Gotoba no in Kunaikyo* in the 360number uta-awase

Hiroaki NAMBA

Gotoba no in Kunaikyo (後鳥羽院宮内卿) was born and died at an unknown date. She entered the Go-Toba-in Imperial Poetry Club around the age of 16. She was highly acclaimed as a waka poet of the Shin-Kokin period, tracing her poetry composition activities reveals only four years of composition activity from 1200 to 1203 AD. Her waka poems, which were under the influence of the Shin-Kokin period, are characterized by a rich sense of color.

The 360number uta-awase (三百六十番歌合) is a contest of poems composed from the works of 36 existing poets at the time of 1200 A.D, including *Gotoba no in*, *Fujiwara no Yoshitsune*, *Jien*, *Fujiwara no Toshinari*, *Shokushi Naishinno*(prince shikiko), *Fujiwara no Teika*, and *Jakuren*.

There are nine waka poems by *Gotoba no in Kunaikyo* in the 360number uta-awase. The nine waka poems are arranged into two spring poems, one summer poem, two autumn poems, one winter poem, and three miscellaneous poems. In addition, The nine waka poems have a one-to-one relationship with the following waka poets: *Fujiwara Kanemune*, *Shokushi Naishinno*, *Fujiwara Takafusa*, *Fujiwara no Teika*, *Kujo Yoshitsune*, *Fujiwara Masatsune*, *Fujiwara Tadakata*, *Fujiwara Ietaka*, and *Echizen*.

This paper examines nine waka poems by *Gotoba no in Kunaikyo* in the 360number uta-awase, along with the waka poems of other poets in their one-to-one relationship.

妙義山麓の天神信仰とその伝承 ―旧菅応寺をめぐる―

大島 由紀夫 *

(二〇二四年一月二九日受理)

一. はじめに

長野県との境に近い群馬県西部に位置する妙義山が古くから信仰の山であったことは、地主神である波己曾神(はこみのかみ)の叙位が『日本三代実録』の貞観元年(八五九)・元慶三年(八七九)・元慶四年(八八〇)の項に記されることなどからも明らかである。十四世紀半ば頃に成立したと考えられる『神道集』の巻八・四十八話「上野国那波八郎大明神事」には、群馬太夫満行(満行権現)の妻であり、八郎満胤(八郎大明神)の母である「母御前」が「今の白雲衣権現である」と記される。同話と内容が密接に関係する近世期の在地縁起の一本である前橋市立図書館蔵『上州群馬郡岩屋縁起』^{注1)}では「白雲衣」に「ハコソ」と訓が付されており、白雲衣権現は波己曾神であると理解されていたことを示している。『上野国妙義山旧記』^{注2)}に収める慶安二年(一六四九)朱印状の写しには次のとおり記される。

一、破胡曾大明神ハ、日本仁王四十九代帝光仁天皇御宇、上野国十四郡内利根河西七郡中「群馬之郡地頭ハ群馬大夫満行ト申、榛名満行大権現と頭、本地地蔵菩薩、同御前ニ神ト頭被、破胡曾大明神ト成ル、男子八人神ト頭ル、内一人八郎大明神、当山破胡曾三社大明神満行大権現、破胡曾大明神、八郎大明神上州甘楽郡諸戸村 破胡曾明神社領御朱印写
上野国甘楽郡諸戸村破胡曾明神社領、同村之内五石事、任先規寄附之訖、全可收納^并山林竹等諸役木免許如有来永不可有相違者也
慶安二年八月廿七日 御朱印

破胡曾大明神と(榛名)満行権現・(那波)八郎大明神とを関係づけて説くこの記述は、『神道集』や在地縁起に記す物語内容と対応するものであるが、慶安二年朱印状を除くと、妙義山の妙義神社・菅原神社・中之嶽神社に伝来する縁起関係諸資料には見いだせない。妙義山麓の一帯は、中世末期の天正年間に戦禍を蒙り、妙義神社も被災したと伝える。また、妙義神社・菅原神社は近世期に火災に遭っており、加えて明治初期の神仏分離時の混乱などを経て、中世以前の古記録類を殆ど失っている。慶安二年朱印状の記述は、中世後期の様相を僅かに窺わせるものであると言えよう。

このように、中世以前の妙義山の信仰実態はほぼ不明であり、近世期に隆盛した妙義神社の沿革・祭神に関しても近世期の資料には諸説が見られ、判然としない。長楽寺(太田市世良田町)の末寺であった別当の石塔寺は、寛永年間に東叡山寛永寺の末寺に組み込まれる。東叡山の強い支配のもとで石塔寺が管理した妙義山に関する縁起言説が上書きされた徴証があり、このことも諸説が混在する一因であると考えられる^{注3)}。

妙義神社・菅原神社・中之嶽神社の縁起言説を記した主な資料は次のとおりである。

妙義神社・別当石塔寺(天台宗)
『上野国妙義山旧記』所収文書
『白雲山妙義大権現由来』
『妙義大権現略縁起』
菅原神社・別当菅応寺(天台宗)
『天神縁起』

中之嶽神社・別当巖高寺(真言宗)

『上野国中嶽金洞山武尊大権現由来』

高橋道斎撰碑文

この他に、近世後期の紀行文や地誌類にも沿革・祭神に関する伝聞・考証が記されている。これらの資料では、それぞれの立場から沿革・祭神に関して述べられ、諸説が展開するのであるが、「後に天神となる菅原道真が菅原是善邸に小児の姿で忽然と現れる前に、妙義山麓の菅原の里に出現していた」とする点だけは一致している。菅原神社だけでなく、妙義神社も天神を主要な祭神とし、中之嶽神社も天神を祀っていて、それぞれの縁起でも「妙義山麓の菅原が天神出生の地である」ことに言及するのである。

以下に、妙義神社・石塔寺、中之嶽神社・巖高寺の天神に関する言説、加えて菅原神社から南東に下った富岡市南蛇井の実相寺境内社天満宮の縁起伝承を一瞥した上で、菅原神社・菅応寺の天神伝承について少しく検討する。

二、妙義神社・石塔寺の資料

『上野国妙義山旧記』の冒頭、妙義社・石塔寺の沿革を一つ書きで記す条に、当山御門中菅原村の菅応寺ハ小兒天神の御出生^二御朱印九石頂戴罷有候、菅原のさとも伏見のさとと申候、此さと方山伏峯に入るよし申伝候、古歌に

菅原やふしみのをとかたち出てさかきこへして峯にいりたり
と申候、

あり、『白雲山妙義大権現由来』^{註4)}〈元禄十五年(一七〇二)奥書本を文政五年(二八二二)に写したもの〉にも、

石塔寺門中、菅原村菅応寺、小兒天神御出生。菅応寺御朱印九石頂戴被有候。此里を伏見之里と申。哥に

菅原や伏見の里を立出て櫛越して峯へ入なり

と、ほぼ同内容の記述がある。石塔寺と菅応寺の本末関係が定まるのは、東叡山の支配が及んだ寛永期であると考えられるが、末寺である菅応寺の天神伝承は、石塔寺としても特記すべきことだったのである。

さらに詳しい記述が次の『上野国妙義山旧記』所収・元禄十五年(一七〇二)の寄進状に見られる。

菅原天神ハ

上野国菅根庄菅原里ト云所ニ天沼の祖父祖母二人有り、亦召仕る童部一人、或時三人連れ入山、菓子拾ひ、飯時、白雲山片岩屋辺に五六歳計の小児を見付け不思議成思、奉負我宿所に飯り奉養育、彼二人滅度鉢を学、祖父祖母共に棺入給て葬送成給、三十三年迄惣年之忌日無怠事、御経書写、同宮ニ不思議有、其比御門推古天皇百官伴イ菅原ニ臨幸成、聖徳太子天神三人御同心御経御供養御奉納、天皇聖徳太子都江御上京候ト云、天神ハ祖父祖母に衣食を被召、東土利益以先如此我亦都移思也、汝此所ニ可有、吾亦及末世為東利益我亦旧里ニ可飯、其時汝モ出現、共に衆生済度云、其以後二百六十余年過ぎ、菅承相ハ承和年中比、都菅相公南の庭上紅梅の本に五六歳童子出現、相公奉養育御生長、於延暦寺ニ学極、天上交りを成、醍醐院時、依無実讒奏ニ九州安楽寺江左遷シ畢、憤怒色々不思議有、仁王六十四代円融院御時、贈太政大臣正一位宣命、一乘院御宇正暦四年十二月廿五日奉勸請北野ニ有、崩御後九十三年過テ也、康安元年九十九代帝時、上州菅原飯住し給ふ、其寄瑞多有之、奉寄進妙義権現境内所、(以下、略)

この内容は、後述する菅原神社蔵『天神縁起』とほぼ対応し、特に「康安元年(一二六二)に上州菅原に帰住した」とする点が注目される。

三、中之嶽神社・巖高寺の資料

中之嶽神社蔵『上野国中嶽金洞山武尊大権現由来』^{註5)}の中で、天神に言及する箇所は、次のとおりである。

于茲当ニ崇峻天皇御宇ニ、麓なる天沼村の樵夫婦在リ。栗を拾ふて金洞屈の下に至る。忽孤々として児の泣あるを聞、怪ニて窟中を窺へハ、一小児あり。顔玉の如し。是た々事に非と謂て、懷に抱て家に還り、謹て撫育し奉る。容姿自ラ世の類ひに非ず。好て文字を書、常に自ラ書を巖の辺に学ひ、嘗て構葉を撮リ、木枝を筆とし、石上に立て経文を書給ふ。其石剝て、童子の足痕、宛然として今猶存す。後、自ラ謂て曰ク、我いま時至らず。将ニ帰天と。迺其所之を不知。而後、二百余年を経て、承和年間、京師ニ於て菅家の庭梅の下に降臨なし給ふ。菅相公是也。睿悟聡敏、一を聞て萬を識。長人といへとも能比之者なし。嘗て手自ニ箇の肖像を作り給ひて、一をは河内道明寺に贈リ、一をハ上毛天沼の里に贈リ給ふ。迺七歳の尊像にして、正ニ今、菅原村の本社に安置し、世に童子天神宮と称し奉る、是也。事、叡聞に達し、天曆四年夏六月、天沼里を改て、菅根庄菅原村とハ名つけ給ふ。

其村端林中に猶昔日養育し奉る老人夫婦の社あり。惟く全^レ天満大自在天神も則此金洞屈に出生し給ひしこと、遍く世の知るところにして、国人の口実たるなり。

この内容は、後述する『上野国甘楽郡童子天満宮縁起略文』の内容にほぼ対応し、『上野国中嶽金洞山武尊大権現由来』の当該箇所は菅応寺が版行した略縁起に依拠したものと考えられる。巖高寺の僧が略縁起の他にも菅応寺所伝の縁起を見ていたことは、石塔寺と巖高寺の訴訟関係文書によって確認できる。天和三年（一六八三）六月、石塔寺が東叡山元光院を通じて「巖高寺が白雲衣山妙義という札を処々に立てて勸進を行っているが、白雲衣山と名乗るのを禁じてもらいたい」と寺社奉行に訴え出る。これに対して、巖高寺僧・長義の提出した反論が次のように『上野国妙義山旧記』に収載されている。

一、白雲衣山之義者、今度同山石塔寺方中嶽^ニ者白雲衣山為名乗申間敷由被申上候、中嶽白雲衣山と名乗申義者、往古方名乗来候古来之証文尤所之者共委細存候。其上石塔寺末寺菅応寺之縁起等にも白雲衣山中嶽と御座候、此等之義、然之証拠と奉存候、《中略》右之通中嶽者前々方白雲衣山と名乗来候、勿論貧寺^ニ御座候へハ寺為建立之勸進奉加杯をも仕候、委細之儀者百姓存候間不当成御尋先規之通白雲衣山名乗候様^ニ被為仰付被下候ハ、可有難奉存候、

天和三年^亥六月廿七日

寺社御奉行様

上州白雲衣山中嶽

長義

傍線を付した箇所、菅応寺の縁起などにも「白雲衣山中嶽」と記してあることを反論の重要な根拠として挙げている。これは菅原神社蔵『天神縁起』が「白雲山中ノ嶽」と記すことに対応するものである。『天神縁起』の書写年次は宝永六年（一七〇九）であるが、天和三年の時点で「白雲衣山中嶽」の表記を含む縁起の存していたことがわかる。

四、法性山妙法院実相寺の資料

富岡市南蛇井の実相寺は、旧甘楽郡の鐺川流域に展開した天台系諸寺院のうち、拠点寺院の一つであり、かつては談義所であったと伝える。近世から近代にかけて書き継がれてきた『実相寺記録』には、寺の沿革に関する諸伝、代々住持の血脈、穴太流・蓮華流の血脈、末寺開山の記録等を記す。これとは別に、

境内社天満宮の縁起を記す『法性山天満宮之縁記』一冊が伝わる。明治二十七年（一八九四）に六十四世住職澄賢が写したもので、原本の所在は不明であるものの、次の元奥書がある^{注6}。

上野国甘楽之郡南蛇井奥吉田之郷之内、在台法性山妙法院実相之寺、慶豊安平興国道場中道坊談義所
大政大威徳天満大自在天神宮之縁記、政古書損字為末世書留令什物勿令失却

伝灯大法師位阿闍梨権大僧都伝戒法師 六十五老 慶海 書
于時寛文三年八月廿五日書之

これによれば、寛文三年（一六六三）の書写時には「古書」が存したという。その冒頭部は、

上野国甘楽郡之内、白雲山之辺^ニ一有^ニ貧士、恒^ニ薪ヲ拾^テ近里持出、得^テ値^ヲ身命^ヲ助、有^ニ時、白雲衣山之中、金銅之岩屋之^ニ禦^リ至^テ、索^ニ薪、在^ル入^ニ平林^ニ取^ニ枯木^ヲ、三、四歳^ノ童子^ノ之幽玄^{ナル}カ、手^ニ持^テ梅^ノ華^ヲ、独^リ安然ト^ニ虞遊^ス、

とあり、以下、総じて菅原神社蔵『天神縁起』の内容と重なり、

往古、菅原廟社荒破敗壞^{シテ}、造営無力、社僧菅応寺侶、勸^テ隣国^ヲ、欲^レ營^レ社^ヲ……

と始まる社殿（菅原神社）の荒廃と復興を語る箇所、また、

而^ルニ当法性山^ニ崇^ニ、天神ノ宮^ヲ……

と始まる当寺に天神を祀る所以を語る箇所は、独自記事である。天神を祀るのは、法性坊尊意を開山とすることに関わる。菅原神社と実相寺とを結ぶ道は、現在の車道では下仁田町中心部を経由するが、かつては大桁山の東側を通る山道が用いられていた。

五、菅原神社・菅応寺の資料

菅原神社の別当・天沼山威徳院菅応寺は、神仏分離政策のもと、明治四年（一八七二）に廃された。『上野国郡村誌』^{注7}第八巻には、次のように記される。

菅応寺廢跡 菅原社ノ南下ニアリ。東西十間、南北十五間、面積百四十坪。

天台宗、妙義山石塔寺ノ末。天曆四年二月創立セシト云フ。住僧代々菅原社ニ別当タリ。

菅応寺跡に残る宝篋印塔の基礎部には貞治四年（一二三五）の年紀が刻まれて

おり、また、十三世紀以降、妙義山麓の菅野庄を本拠地とした高田氏の系図記事を併せて考えると、遅くとも十四世紀半ばには菅応寺は当地に存していたようである。系図によると、高田氏は初代盛員が美濃から菅野庄へ移って高田と号したという。盛員とその子政行の項を見ると^{注8)}、『古幡家所蔵系図』には、

盛員…文永三丙寅年(一二六六)八月十二日卒 法名大岩快笑居士 石塔以前ハ菅応寺ニ有 今ハ甘羅郡要雲寺ニアリ

政行…永仁二甲午年(一二九四)三月九日卒 法名傑岫玄英居士 石塔以前ハ在菅応寺 今ハ要雲寺ニアリ

とあり、『陽雲寺所蔵系図』でも盛員・政行ともに「石塔以前者有菅応寺」と記される。盛員・政行の石塔の建立期は不明であるが、菩提寺が陽雲寺(曹洞宗)に移る前は、菅応寺が高田氏の菩提寺に相当する寺であったと考えられる。

菅応寺は近世期には石塔寺の末寺となったが、鐺川流域の実相寺・勸学寺とも親しい関係にあったようで、例えば、天保九年(一八三八)に菅応寺僧徳門が御朱印改めに関して役所へ提出した文書^{注9)}には、勸学寺の賢宏が連署している。さて、菅原神社蔵『天神縁起』一卷^{注10)}は、奥書に、

宝永六巳丑歳正月廿六日、白雲山ノ下住、謹而 珍書写
此卷旧^{ヨリ}秘^テ、以^テ不^ル出^サ世^ニ処^也、雖^レ然^{リト}、櫻井氏任^{懇望}書^レ之者
也、且^ツ憚^二博覽^一而巳

とあり、秘蔵されていた原本を宝永六年(二七〇九)に書写したもので、書写者は「白雲山ノ下住」と記すことから石塔寺関係者であろう。菅応寺が廃寺となった後は、陽雲寺が管理していたようで、菅原神社の先代神主の談によると、昭和三十年代に菅原神社に所蔵が移ったとのことである。

その冒頭部は、

上野州白雲山^{トテ}有^レ山。勝照ノ比、甘樂郡菅根ノ庄菅原ノ里^{ト云所}、天沼ノ祖
父祖母^{トテ}二人^{リノ}人在。亦、召仕^ル童部一人。或時、三人連^テ入^レ山拾^二菓子^一、
帰時、白雲山中ノ嶽金銅ノ岩屋辺ニ、五六歳許ノ小兒^ヲ見付^テ、

とあり、老夫婦の他に「召仕童部一人」がいたとする設定は他書には見られない。また、「幼児化現」から「太宰府左遷」「時平薨去」「北野勧請」に至る、所謂「天神縁起」の概要を漢詩三首を掲げながら記すことも、他書には見られない。注意すべきは、

康安元年辛丑、上州菅原^ニ帰住^シ玉^ツ

と記すことで、他にこのことを記すのは『上野国妙義山旧記』所収・元禄十五

年寄進状のみである。康安元年(一二三六)と設定することの意味については未詳であるが、

有時、諸国依^テ「動乱」^ニ、其ノ所ノ人々造^リ兵士屋^ヲ、往行ノ人ヲ守護^ス、漸^ク
依^テ「世上静^{ナル}」^ニ、康安元年四月十一日^ニ、彼ノ兵士屋^ヲ取破^ル時、十三ノ少
童、無^ニ何方^{トモ}来^テ…

と記されることから、あるいは康安元年に關東管領畠山国清が失脚した一連の騒動に関わるとも考えられる。この康安元年菅原帰住説を記すこと、養育にあつた老夫婦が白雲山に入定して仙人になったと記すこと等々を勘案すると、菅原神社蔵『天神縁起』の内容は、石塔寺側に寄つた立場から記述されていると考えられる。

これに対して、菅応寺が版行した略縁起の『上野国甘樂郡童子天満宮縁起略文』は、内容は文字通り簡略ではあるが、菅応寺が管理・主張した縁起言説であり、妙義神社・石塔寺側の資料に見られた天神伝承とは相違する点が少なくない。翻刻紹介されたことのない資料であるので、以下に翻刻と写真を掲げる。また、菅応寺が版行した護符の「童子天神像」(一枚摺)の写真も掲げる。それぞれの書誌は次のとおりである。

○『上野国甘樂郡童子天満宮縁起略文』^{注11)}

木版刷三枚(未製本) タテ二八・三 cm ヨコ三七・〇 cm

匡郭ナシ 版心下に一丁は「一」・二丁は「二」と記す 三丁はナシ

○『護符 童子天神像』^{注12)}

木版刷一枚 タテ三六・七 cm ヨコ上部一四・一 cm ヨコ下部一三・九 cm

上部に本地仏の十一面觀音を表す梵字「キヤ」

下部に「上野国甘樂郡菅根庄菅原村 別当 菅応寺」

「天沼山威徳院」の朱文方印

〈翻刻凡例〉

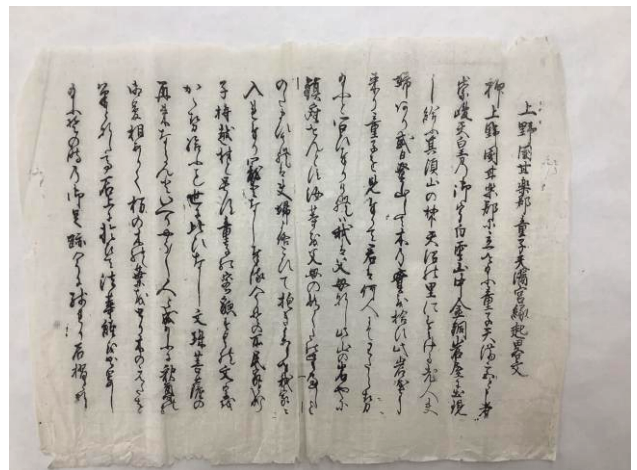
○改行は原本のとおりとし、読解の便を考慮して私に句読点・括弧を付した。
○漢字は原則として現行の字体を用いるが、一部に旧字・異体字を用いた。
○刷りの不鮮明、虫損によって判読しづらい箇所は、推定される字を□で囲んで示した。

○各紙の末尾を「〱」で示し、その紙数(丁数)を記した。

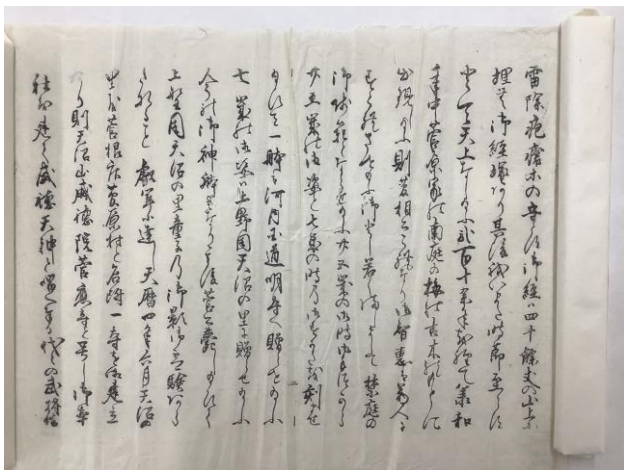
上野国甘楽郡童子天満宮縁起略文

抑、上野国甘楽郡に立せ給ふ童子天満宮と申者、
 崇峻天皇の御宇、白雲山中金銅岩屋に出現
 し給ふ。其頃、山の禁、天沼の里にすみける老人夫
 婦あり。或日、登山して木の実を拾ひ、此岩屋に
 来り、童子を見奉りて、「君は何人にてわたらせ
 給ふ」と問ひ奉りけれハ、「我は父母なし。此山の岩やに
 鎮座せんとす。汝等を父母の如くたのむへし」と
 のたまひければ、夫婦よろこひて抱き参らせ、我家
 に入れ奉り、寵愛なし奉る。今、その所、民家と成、
 子持越村と号す。童子の容貌すくれ、文字を
 かゝせ給ふこと、世に比ひなし。文殊菩薩の
 再来ならんといへり。やう／＼人と成給ふに、釈尊の
 御夢相ありて、栃の木を葉をとり、木のえたを
 筆となして、石上に於ひて法華經を書写し
 給ふ。その時の御足跡、今に残れり。石搦とて『第一紙
 雷除、疱瘡等の守とす。御経ハ四十余丈の山上に
 埋む。御経塚あり。其後、「我いまた時節至らす」
 とて、天上なし給ふ。貳百十余年を経て、承和
 年中、菅原家の南庭の梅の古木のもとに
 出現し給ふ。則、菅相公これなり。御智恵は萬人に
 すくれさせ給ふ。御とし若くましまして、禁庭の
 御師範とならせ給ふ。廿五歳の御時、御手つから
 廿五歳の御姿と七歳の時の御すかたを刻ませ
 給ひて、一鉢は河内国道明寺へ贈らせ給ふ。
 七歳の御姿ハ上野国天沼の里に贈らせ給ふ。
 今の御神躰、是なり。其後、菅公薨し給ひて、
 上野国天沼の里、童子の御影、御靈驗あら
 たなること、叡聞に達し、天曆四年六月、天沼の
 里を菅根庄菅原村と名附、一寺を御建立
 あり。則、天沼山威徳院菅応寺と号し、御本
 社を建て、威徳天神と唱へ奉る。代々の武將信『第二紙
 仰し給ふこと、かきりなし。中にも武田勝頼、武運長

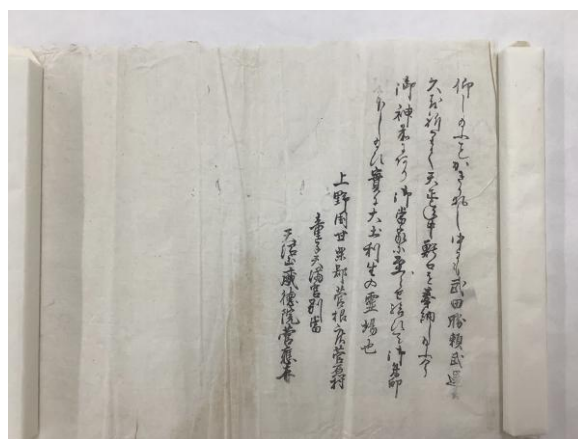
第一紙



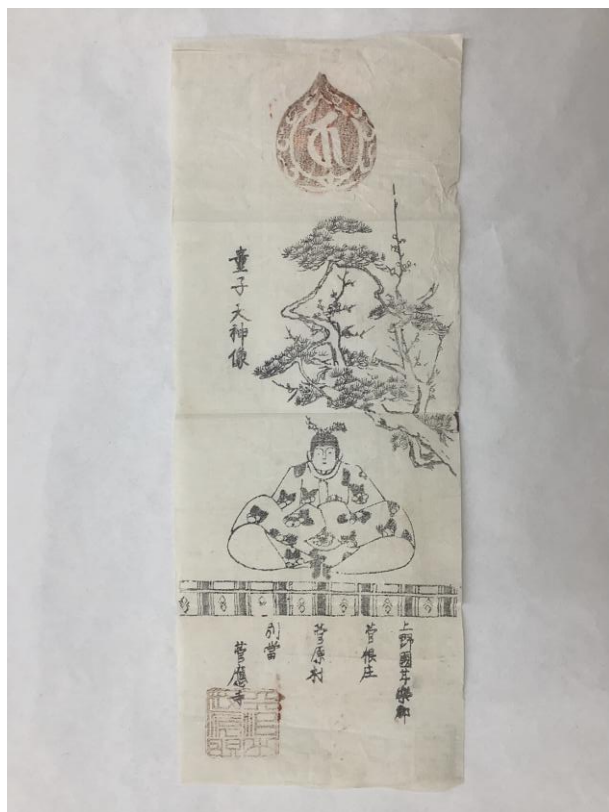
第二紙



第三紙



護符(童子天神像)



久を祈りて、天正年中、鰐口を奉納し給ふ。今、御神前にあり。御当家に至らせ給ひて御朱印を下し給ひ、実は大土利生の霊場也。

上野国甘楽郡菅根庄菅原村

童子天満宮別当

天沼山威徳院菅応寺 第三紙

次に、『童子天満宮縁起略文』の梗概を示す。

①上野国甘楽郡に鎮座なさる童子天満宮は、崇峻天皇の御宇、白雲山中の金銅岩屋に出現なさった。

②その頃、麓の天沼の里に住む老夫婦が登山して木の実を拾っていたところ、この岩屋で童子と出会った。

③童子は「父母はいない。お前たちを父母のように頼りたい」と言うので、老夫婦は喜んで童子を我が家へ迎え入れた。＊今、その場所は民家となつて子持越村という。

④童子の容貌はすばらしく、達筆で、文殊菩薩の再来であろうと言われた。

⑤成人して釈尊の夢相を受け、石の上に座し、栃の木の実に木の枝で法華経を書写した。

⑥その時の足跡が今も残っており、石擂といつて雷除け・疱瘡の守りとしている。

⑦書写したお経を四十余丈の山上に埋めた御経塚がある。

⑧その後、「まだ時節が来ない」と言つて、天に上られた。

⑨二百十数年後の承和年間、都の菅原家の南庭の梅の古木のもとに出現なさった。これが菅相公である。

⑩智慧は万人に勝れ、若年ながら朝廷のご師範となられた。

⑪二十五歳の時、二十五歳の姿と七歳の時の自身の姿を自ら彫刻し、二十五歳像は河内国道明寺に、七歳像は上野国天沼の里に、それぞれお贈りになった。

＊七歳像は童子天満宮のご神体である。

⑫その後、菅公はお亡くなりになり、天沼の里の御影の霊験あらたかなることが叡聞に達し、天曆四年六月、天沼の里を菅根庄菅原村と名づけ、一寺を建立した。

⑬その寺を天沼山威徳院菅応寺と号し、社を建てて威徳天神とお唱えした。

⑭代々の武将が信仰し、武田勝頼は天正年中に鰐口を奉納した。＊今、ご神前

にある。

⑮徳川の世となつて御朱印を下され、実に大土利生の霊場である。

以上の内容について、他書との主要な異同を確認する。①②③の「白雲山中に童子が出現し、里に住む老夫婦が養育することとなつた」とする記事は、諸資料と一致するところである。そのうち、③で子持越村の由緒と結びつけるのは本書の独自記事である。⑤の「柝の葉に木の枝で写経した」という記事は、本書の他には中之嶽神社蔵の縁起に見られるだけであり、このことは中之嶽神社(巖高寺)が縁起作成にあたって菅応寺所伝の縁起を参照したことを端的に示している。⑥の「足跡が今も残っている」とするのは諸資料と一致し、後掲の静嘉堂文庫蔵『職原抄註』や近世の紀行文にも記されることから、天神出現の地であることの最も重要な「証拠」と認識されていたことがわかる。但し、その足跡を「石搦」と称するのは本書だけである。⑪は、石塔寺側の資料や石塔寺側に寄った立場から記述された『天神縁起』と最も大きく異なる点で、康安元年菅原帰住説を採らない。菅公自刻の七歳像がご神体であるとし、その御影の霊験あらたかであることが叡聞に達して菅応寺が建立されたと説明する。『天神縁起』では七歳像や菅応寺に関して全く言及しない。七歳像をご神体とすることを述べるのは、他に中之嶽神社蔵の縁起だけである。⑭は本書の独自記事で、この鰐口は、小幡信龍斎が一族の繁栄と武田勝頼の武運長久を祈って奉納したものである。

右に主要な異同のみを列挙したが、石塔寺側の資料や石塔寺側に寄った立場から記述された『天神縁起』と相違する点に、菅応寺の管理した天神伝承の特徴が表れている。

六、妙義山麓の天神信仰

妙義山麓の菅原が天神出生の地であるとの伝承は、近世前期にはある程度流布していたようである。国文学研究資料館蔵『職原抄聞書』(ヤ一五三・一〇一)には、

菅ハ北野ノ天神、先^ツ生^ル上野ノ菅原^ニ所ナレハ、菅ノ字ヲ以テ醍醐天王氏姓卜定玉リ。其後、進丞相ノ位^ニ。然^ハ名^ハ菅丞相卜。此菅家ノ源タリ。

とあり、また、小峯和明氏が紹介された静嘉堂文庫蔵『職原抄註』^{注14}には、

菅姓^{トハ}、上野ノ州高田ノ庄白雲山ノ下^{トニ}、菅原^{ト云フ}処^ニ、八月四日^ニ化生ス。故^ニ今^{マシ}足^シ跡^ト在^リ彼^ノ処^ニ也。然^レ者、撰津^ヲ如何^{ント云ヘバ}、長風ノ三位^{ト云フ}証拠^{有リ}之。上野^ヲ如何^{ント云ヘバ}、今^{マシ}足^シ跡^ト在^リ彼^ノ処^ニ。能ク^タタ可考。

とやや詳しく記される。両書とも『職原抄』の注釈書の中で「関東系」^{注15}と分類されるものであり、この伝承が関東では知られていたことを示している。遡って、中世後期には天満天神が地域の主要な神として妙義山麓で信仰されていたことを窺わせる資料が、生島足島神社所蔵文書の起請文である。西上州に侵攻した武田氏に対して、その支配下となつた在地武士が服従を誓つたものである。妙義山麓の在地武士である高田繁頼が永禄十年(一五六七)に奉じた起請文に、

上^ニ梵天帝釈四大大王、下^ニ堅牢地神、惣而日本国中大小神祇、殊者甲州一二三大明神、八幡大菩薩、摩利支尊天、熊野三所権現、諏方上下大明神、上州守護一宮、二宮赤城大明神、別而者天満天神、妙儀法印、波古曾大明神、可罷蒙御罰者也、仍起請文如件

とあり、同じく、一宮氏忠が永禄十年に奉じた起請文には、

上^ニ者奉始梵天帝釈四大大王、下^ニ者賢牢地神、殊^ニ者八幡大菩薩、摩利支尊天、甲州一二三大明神、諏方上下大明神、惣而日本国中六十余州大少神祇、別而者上州一宮拔鉾大神、天満大自在天神、部類眷属神罰冥罰、各可罷蒙一身也、以此旨宜預御披露候、仍起請文如件

と記される^{注16}。「惣じては」「殊には」に続く「別しては」では、自身の信仰する身近な神々を掲げるのであるが、高田繁頼は「天満天神・妙儀法印・波古曾大明神」と、天満天神を筆頭に掲げている。一宮氏忠は一宮拔鉾大明神の社家一族であるから「上州一宮拔鉾大神」を掲げるのは当然であるが、続けて「天満大自在天神」も掲げている。妙義山麓一帯において、天満天神が重要な神として認識されていたことを示すものである。

以上に述べたとおり、妙義山麓に展開した天神信仰は、中世後期には相応の基盤を確立しており^{注17}、その拠点となつたのは菅応寺・菅原神社であつたと考えられる。石塔寺は菅応寺と本末関係を経^レぶことによつて、菅応寺の管理する天神信仰とその伝承を共有する環境を得たと解されるのである。

このような状況をふまえると、『神道集』が末尾の五十話「諏訪縁起」の直前に四十九話「北野天神事」を配することについて、東信の小県・佐久地方と隣接し、東信と一宮拔鉾大明神(現・貫前神社)との間に位置する妙義山麓に天神

信仰が展開していたことが、あるいは一因なのではないかとも考えられるのである。

因みに、尾崎喜左雄氏は、

「天つ神」はやがて天神となり、天満天神と混同され、遂に菅原道真を祀ることとなる。

と述べた上で、『上野国神名帳』甘楽郡の項に載る「正五位天津社明神」に当たる社の有力な候補として妙義町菅原の菅原神社が「最も妥当であろう」とされる^{注8)}。極めて魅力的な推論であるが、これを証することは難しい。

注

- (1) 近世末期から明治期の間の写。大島由紀夫編著・伝承文学資料集成第六輯『神道縁起物語(二)』(二〇〇二年・三弥井書店)に翻刻収載。
- (2) 内閣文庫蔵『墨海山筆』十三所収。引用は『神道大系神社編』二五 上野・下野国(一九九二年・神道大系編纂会)の翻刻により、私に読点を付した。以下、『上野国妙義山旧記』の引用は同じ。
- (3) 沿革・祭神に関する諸説については、『妙義町誌(下)』(一九九三年・妙義町)第七部第一章第一節「妙義神社」参照。
- (4) 山岳宗教史研究叢書17『修験道史料集I』(一九八三年・名著出版)、注(3)掲出『妙義町誌(下)』に翻刻収載。引用は後者による。
- (5) 大島由紀夫「中之嶽神社蔵『上野國中嶽金洞山武尊大権現由来』解題・翻刻」・『群馬高専レビュー』第四二号(二〇二四年)の翻刻より引用。
- (6) 大島由紀夫「群馬県富岡市・実相寺蔵『法性山天満宮之縁記』について」・『群馬高専レビュー』第三五号(二〇一七年)の翻刻より引用。以下、同じ。
- (7) 太政官の「皇国地誌編輯令則」(明治八年六月五日達)により編集され、内務省地理局へ提出されたものの稿本または写しで、全三十巻。引用は『上野国郡村誌8』(一九八三年・群馬県文化事業振興会)による。
- (8) 引用は、『妙義町誌(上)』(一九九三年・妙義町)第二部第一章第一節「高田氏の系譜」に掲載する翻刻による。
- (9) 群馬県立文書館所蔵・(県史収集複製横尾一布家文書「以書付奉願上候」(H 50-11-3 近世⑥/1219)。
- (10) 引用は注(1)掲出『神道縁起物語(二)』(二〇〇二年・三弥井書店)の翻刻による。注(3)掲出『妙義町誌(下)』にも翻刻を載せるが、原本に付された返り点・送り仮名を全て除いている。尚、『妙義町誌(下)』に記す同社蔵『菅原天

満宮略縁起』については未見。

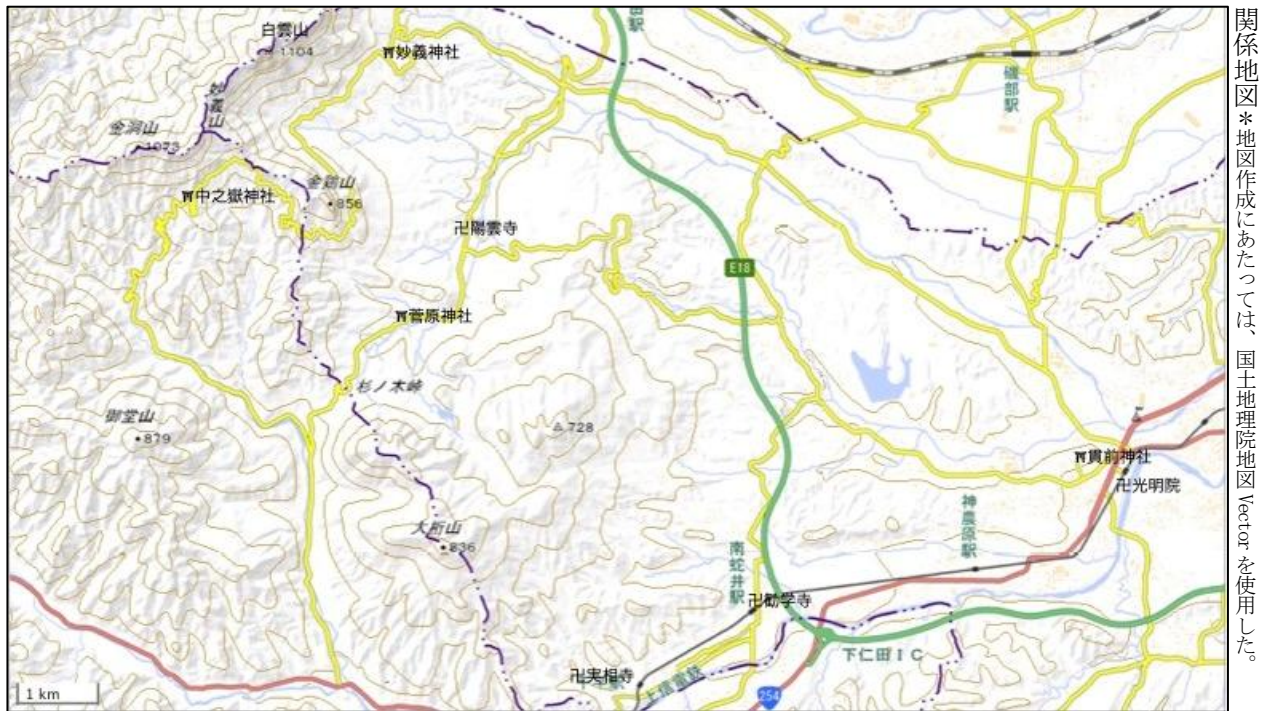
- (11) 群馬県立文書館所蔵・中島徳造家文書(P 8909/6613)。
- (12) 群馬県立文書館寄託・松村孝志家文書(P 0704/310)。
- (13) 国文学研究資料館所蔵『職原抄聞書』写本二冊(ヤ一・一五三・一一一)・国書データベース(<https://doi.org/10.20730/20006704>)により、私に句読点を付した。
- (14) 小峯和明「説話資料としての『職原抄』注釈―関東系を中心に―」・『説話文学研究』第三二号(一九九七年)。引用もこれによる。本文中に寛永十七年(二六四〇)・寛永一八年の年紀が見られるという。
- (15) 『職原抄』の関東系注釈書については、相田満「関東系『職原抄』注釈学をめぐる―その聖典意識―」・馬淵和夫編『中世説話の「意味」』(一九九八年・笠間書院)所収を参照した。
- (16) 引用は『群馬県史 資料編7中世3』(一九八六年・群馬県)による。
- (17) 元和二年(二六一六)、甘楽郡七日市(現・富岡市七日市)に前田利家の五男利孝が七日市藩主として入封し、以後、妙義山麓の天神を祀る杜寺は、「菅原道真の末裔」を称する前田氏の庇護・支援を受けることになるが、稿中で確認したとおり、前田氏入封以前に在地信仰として妙義山麓一帯に天神信仰は根づいていたと考えられる。
- (18) 尾崎喜左雄『上野国神名帳の研究』(一九七四年・尾崎先生著書刊行会)・「五、『上野国神名帳』記載の諸神」二七五頁。

《付記》

小稿では、紙数の都合から『上野国甘楽郡童子天満宮縁起略文』以外の縁起資料については、その一部のみを掲げた。全容については注に記した翻刻を参照いただきたい。

《謝辞》

『上野国甘楽郡童子天満宮縁起略文』・『護符 童子天神像』の翻刻・写真掲載にあたり、種々高配を賜った群馬県立文書館の関係各位に厚く御礼を申し上げます。



関係地図※地図作成にあたっては、国土地理院地図Vectorを使用した。

The faith in *Tenjin* and Its Tradition at the Foot of *Mt. Myogi* —Issues Surrounding the Former *Kannoji* Temple—

Yukio OSHIMA

Although there are differences in the contents of documents that record the origins of Myogi Shrine (妙義神社), Nakanotake Shrine (中之嶽神社), and Sugawara Shrine (菅原神社), which were the religious centers of Mt. Myogi (妙義山), all of them include the legend that this was the place where Sugawara no Michizane (菅原道真), who would later become Tenmatenjin (天満天神), was born into the secular world.

By comparing and examining these various documents, it can be inferred that Kannoji Temple (菅応寺), which controlled Sugawara Shrine, was the original base of Tenjin faith that developed at the foot of Mt. Myogi.

『讃岐典侍日記』——「動」と「静」の効果——

太田 たまき*

(二〇二五年一月一〇日受理)

一 はじめに

「平安女流日記文学」という括りの中で、『讃岐典侍日記』は孤高の作品といえる。

『讃岐典侍日記』の特性は、作者が内侍司二等官「典侍」の職にあり、堀河天皇の側近として体験したことを、自身が思う「忠実さ」で再現している点にある。なかでも「天皇の死」を中心に描き、死後もなお、すべての要素がその一点に帰結するという点では、まさに「ブレない」執筆姿勢ともいえる。そのため、続く『弁内侍日記』『中務内侍日記』などの「女官日記」とは異なり、体感が主となった独自の時間軸で語られ、厳密には日次構成にはなっていない。作者の視点は常に堀河天皇にあり、すべてが「天皇と自分とのつながり」を語る目的で描かれている。よって、「女官日記」でありながらも執筆姿勢は『蜻蛉日記』や『更級日記』などを踏襲した、回顧録的要素が強い。

しかし『讃岐典侍日記』がそれらとも異なるのは、本作品は作者が自身の晩年に人生全体を振り返って書いたものではなく、あくまで「堀河天皇の発病から死」を書き綴った上巻と、「それを追慕しつづけた一年半」とい

う、限られた期間の記録を、そう時間の経っていない時期にまとめたと見られる点にある。だからこそ生まれたのが今回取り上げる、他作品にはない「臨場感」なのだろう。

平安時代の天皇日常は、菊のカーテンならぬ「帳の陰」に隠されている。

その場を共有できたのは一代の天皇に対してごくごくわずかな人数に限られたため、『源氏物語』を含め、他の作品で天皇の日常がここまで詳細に語られることはない。弁内侍や中務内侍は『讃岐典侍』より下位の女官であることから天皇との関係にも制限があり、尚侍が事実上空位となっていた当時の女官としては最高位の「典侍」であった『讃岐典侍日記』作者藤原長子は、まさにその「限られた人物」であった。しかも彼女は堀河天皇と男女の関係にあり、女官でありながら侍妾的側面を有していた。御子もなく后妃待遇を得られないまま堀河天皇の崩御を看取り、その後は他の女御が生んだ堀河天皇皇子・鳥羽天皇に仕えるといった、彼女の経歴の特異性が複雑に絡み合い、本作品は誕生したといえる。

こういった、他作品にはない特異性が本作の魅力ではあるが、その「特異性」が先行するあまり、本作品における「作者の叙述者としての力量」に焦点が当てられることはあまりない。一つには、本作品が「日記」と銘打ち、大枠ながらも日付に準えて記事が進行していることから、どうしても読み手側は史実との合致、正確性、緻密さを求め、それが評価の必須条件

となる。そのため、そこに瑕疵があると作品の評価は頭打ちとなる。しかし、本作品は「堀河天皇の死」という一点にすべての記述が集約するという明解な構図をもって書かれており、捉えようにとっては大変単純な作品である。時間軸よりも自身の感情、体感に従順な記述であり、それが本作品の魅力なのである。

本稿は『讃岐典侍日記』上巻に一貫して流れる、正確さを追い求めれば逆に成立しない、「記述の波」「動と静の効果」に焦点を当てる。堀河天皇の発病から崩御に至る、史実としては貴重な、そして作者にとっては胸が張り裂けんばかりの日々を彼女がどう感じ、それがどのように作品に表現されているのか。後年、『秋長記』において堀河天皇の霊が乗り移り奇妙な託宣を行ったともいわれた彼女の、五感を駆使した記述の妙について、今一度吟味するとともに再評価を試みたい。

二 「紫の上」死去場面との相違

僧正召し、十二人の久住者召し寄せて、おほかたものも聞こえずなりなりなり。大臣殿の三位、御口に手をぬらしてぬりなどしまゐらせたまふ。念仏いみじく申させたまふさまこそ、ことのほかなれ。ともすれば、「大神宮、助けさせたまへ」と申させたまへど、そのしるしなく、むげに御目など変はりゆく。僧正、とみに参らせたまはず、ややひさしくありて参らせたまへれば、日ごろへだつれど、何のもののおぼえんにかもののはづかしとおぼえん、ただひとつにまとはれて、僧正、三位殿二人、御前、わが身、五人の人々、ひとつにまとはれあひたり。声を惜しまず、頭よりまことに黒煙立つばかり、目も見開けず念じ入りて、仏をうらみくどき申さるさま、いとたのもし。例ならぬをりは、あやしの僧だに、もの祈るはたのもしくそなる心地すれ、かばかりの人の、一心に心に入れて、「年ごろ仏につかうまつりて、六十余年になるぬるに、まだされども仏法つきず、すみやかにこの御目なほさせたまへ」と、人などをいふやうに、「おそし、おそし」とあれど、

何のしるしもなく、御口のかぎりなん念仏申させたまへるも、はたらかせたまはずならせたまひぬ。(注二)

嘉承二年六月二十日から始まった堀河天皇の不例は七月六日に重篤となり、一進一退の状況を経て、同月十九日の崩御に至った。上巻はこの十四日間を軸に語られ、その後、作品自体は下巻に引き継がれていくものの、実質はこの崩御までの日々が作品のクライマックスと言っていいだろう。その間、堀河天皇は堀河院西の対の母屋を病床の間に充てていた。そこには「大方ものも聞こえずなりなり」というほどの大勢の僧たちの朗々たる読経の声が充満し、その中に堀河天皇本人の「大神宮助けさせたまへ」などの声が混じる。最後にはうわごとのようになったであろう念仏を唱える声も果て、堀河天皇は崩御するのであった。

この経緯を見てもわかるように、崩御までの約二週間は完全に人事不省の状態であったわけでなく、ときに小康状態を得ていた。「体調の悪化」「持ち直し」といった波を交互に繰り返し、それに伴う「病床の間」の内部もまた、「喧噪」と「静寂」を繰り返していた。この二つの「動」と「静」の波が複雑に絡みあい、作品に緊張感と臨場感をもたらしているのである。

そこで、この章段の「臨場感」を改めて味わうために、古典文学史上最も有名な死去場面の一つであり、かつ、作者藤原長子も目にしたであろう『源氏物語』紫の上の臨終の場面と比較してみよう。

かばかりの隙あるをいとうれしと思ひきこえたまへる御気色を見たまふも心苦しく、つひにいかに思し騒がんと思ふに、あはれなれば、おくと見るほどぞはかなきともすれば風にみだる萩のうは露びにぞ、折れかへりとまるべうもあらぬ、よそへられたるをりさへ忍びがたきを、見出だしたまひても、

ややもせば消えをあらそふ露の世におくれ先だつほど経ずもがなとて、御涙を払ひあへたまはず。宮、

秋風にしばしとまらぬつゆの世をたれか草葉のうへとのみ見ん

と聞こえかはしたまふ御容貌どもあらまほしく、見るかひあるにつけても、かくて千年を過ぐすわざもがなと思さるれど、心のかなはぬことなれば、かけとめん方なきぞ悲しかりける。

「今は渡らせたまひぬ。乱り心地いと苦しくなりはべりぬ。言ふかひなくなりにけるほどといひながら、いとなめげにはべりや」とて、御几帳ひき寄せて臥したまへるさまの、常よりもいと頼もしげなく見たまへば、「いかに思さるるにか」とて、宮は御手をとらへたてまつりて泣く泣く見たてまつりたまふに、まことに消えゆく露の心地して限りに見えたまへば、御誦経の使ども数も知らずたち騒ぎたり。さきさきもかくて生き出でたまふをりにならひたまひて、御物の怪と疑ひたまひて一夜さまさまのことをし尽くさせたまへど、かひもなく、明けはつるほどに消えはてたまひぬ。^(注二)

秋になり、紫の上の見舞いのために宿下がりをしていた明石の中宮が病床を訪れ、紫の上、源氏、中宮が歌を詠みかわす。紫の上にとっては、事実上の辞世の歌だろう。中宮に帰還を促した紫の上はその夜、誦経や物の怪の騒がしさのなかしばらくは持ちこたえたものの、「明けはつるほどに消えはて」る。その後、嘆き騒ぐ女房、生前叶えてあげられなかった「頭おろし」をさせてあげたいと心強くも夕霧に手配を支持する光源氏、そしてそれに對して道理を説く夕霧の姿が続く。「僧」「読経」「物の怪」、そして『讃岐典侍日記』では大式三位、『源氏物語』では明石中宮といった病人の手を取り見守り続ける人物、「明け方」の死、僧たちの退出という、「臨終を語る要素」として、両者は多くの点で同じ構図で描かれている。この類似性は『源氏物語』が作者に与えた影響の結果なのかという考察、典拠論といったものは別の機会に譲るとして、注目したいのは、死者と最も近い関係にあり「嘆く」資格を持つ者が、同じような「冷静さ」を持つ者として描き出されている点である。

当然、『讃岐典侍日記』の中では作者自身が自分をそのように設定してお

り、紫の上にとっては光源氏がそれに該当するが、最も嘆き悲しむはずの両者は意外な冷静さをもって描かれる。

われは、御汗をのごひまゐらせつる陸奥紙を顔に押しあててぞ、添ひゐられたる。あの人たちの思ひまゐらせらるらんにも劣らず思ひまゐらすと、年ごろは思ひつれど、なほ劣りけるにや、あれらのやうに声たてられぬはとぞ、思ひ知らるる。
(四二一)

堀河天皇の乳母である大式三位、作者の姉で同じく堀河天皇乳母の藤三位の、堀河天皇の亡骸を前にした狂乱とも言える姿を目の当たりにした作者は、そのような慟哭の輪に入れない自分を描く。同様に、『源氏物語』でも泣き叫ぶ女房たちの姿を背景に、最愛の紫の上の死に直面した光源氏も意外な冷静さで描かれているのである。

仕うまつり馴れたる女房などのものおぼゆるもなければ、院ぞ、何ごとも思し分かれず思さるる御心地をあながちに静めたまひて、限りの御事どもしたまふ。いにしへも、悲しと思すこともあまた見たまひし御身なれど、いとかうおり立ちてはまだ知りたまはざりけることを、すべて来し方行く先たぐひなき心地したまふ。
(五一〇)

平安時代の上流階級の臨終の場面は、構図的にどれもそう大差はないのだろうが、「物の怪」「僧」「読経」「握られる手」「嘆き悲しむ女房たち」、加「明け方」の死去という時間帯の一致もあり、画像として再現した場合、両者は相当な重なりがある。病床の間に朗々と響き渡った何重もの読経は止み、替わって表れる人々の泣きの声。そしてそれを背景に描かれるのが、「泣き叫ぶ」ことはせず、嘆きの集団とは異質の喪失感を身にまとった「最愛の人物を失った者の喪失感」なのである。

もっとも、詳細に見ていくと、『讃岐典侍日記』の作者藤原長子と光源氏

とはそこに表現されたものが異なる。そもそも、源氏は「女房集団」の構成員ではない。嘆き悲しむ女房集団との対比は、あくまで「最愛の人を失くした際の意外なまでの冷静さ」「だからこそその嘆きの深さ」を強調するためのものだろうが、長子の場合、女房たちとの距離感は「本来所屬している集団からの逸脱」「自身の異質性」を自身が主張したものであり、「おとりにけるにや」は完全な反語だろう。堀河天皇崩御後、読経に替わって病床の間に響き渡った乳母たちの咆哮は、「泣くより深い喪失感に襲われる自分」を描くための背景なのである。

そもそも、『源氏物語』はあくまで「物語」であり、『讃岐典侍日記』は「作者の中で事実」を述べた、作者の中では「ノンフィクションの日記」である。両者に臨場感、リアルさの差があるのは当然で、そういった点では『源氏物語』はあくまで「物語」としてのまとまりとなっている。臨終に先立ち、「夫婦とその子ども」である源氏、紫の上、明石の中宮が顔を揃え、和歌を詠む。「臨終の場としてこうありたい」という要素を、『源氏物語』では網羅しているのである。一方、堀河天皇は実父白河院、子の東宮（鳥羽天皇）、そして中宮篤子内親王にすら看取られていない。近い血縁といえれば叔父にあたる内大臣が出入りするのみで、結局は疑似家族ともいえる「女房」たちに囲まれての崩御であった。そして堀河天皇は「辞世の歌」どころか生への執着を見せつけ、うわごとのように念仏を唱えながら亡くなっていくのである。これこそが、同じ構図を持ちながらも、あくまで読み手に求められる「理想の臨終の場」を表現した『源氏物語』では味わうことのできない、『讃岐典侍日記』のリアリティなのである。

三 五感の駆使

このほか、『讃岐典侍日記』に臨場感やリアリティ、そして躍動感を与えているのは、他の作品にない「五感」を駆使した描写にある。その筆頭に挙げられるのが、臨終を迎えた亡骸の描写だろう。

御腕をさぐれば、いまだ、冷えながら、例の人のやうにたをやかにさぐらるれば、もしやとところみがてら、しばしも、さらば、たがへまゐらせて、もののたまへかしと思へば、いたくもすすめで、もろともにも御腕をとらへてゐたれば、いつのほどに変はるにか、ただすくみにすくみはてさせたまひぬ。
(四二四)

天皇か否かという以前に、このような「褻」の最たる場面を省略することなく書き綴ること自体が異例だが、そもそも作者自身にこの描写がタブーであるという認識がなかったとも考えられる。作者にとっては死後硬直を書くことが主眼ではなく、「堀河天皇の崩御と、それを支えつづけた自分」を余すところなく描くことにあり、この描写はその一要素に過ぎない。しかし、この描写が読み手に与えるインパクトは絶大であるとともに、身近な人を失った経験がある者には大きな共感を呼ぶ。しかも、これはあくまで堀河天皇のぬくもり、体の重みを体感しつづけた作者の「堀河天皇を感じる」ことの終着点であり、ここに至るまで作者は同様の「体感」を描きつづけている。

たれも寝も寝ずまもりまゐらせたれば、御けしきいと苦しげにて、御足をうちかけて、おほせらるるやう、「わればかりの人の今日明日死なんとするを、かく目も見立てぬやうあらんや。いかが見る」と問はせたまふ。
(三九六)

見れば、大貳の三位、うしろのかた抱きまゐらせて、大臣殿の三位、ありつるままに添ひ臥しまゐらせられたり。御あとのかたにひたれば、大貳の三位、「苦しうせさせたまへば申しつるぞ。その御足とらへまゐらせさせたまへ」とあれば、とらへまゐらせたり。御汗のごひなどせさせたまふ。(中略)大臣殿の三位、帰り参られたれば、御足うちかけて、御手も首にうちかけさせたまへば、えはたらかねば、三

位殿、わがゐたるやうに御あとのかたにさぶらはる。(四一四)

「なほ苦しいこそなりまさるなれ」とて、ただせきあげにあげさせたまふ御けしきにて、「ただ今死なんずるなりけり。大神宮、助けさせ給へ。南無平等大誓講妙法華」など、まことにたふときことどもおほせられつつ、「苦しい堪へがたくおぼゆる。抱き起こせ」とおほせらるれば、起き上がりて抱き起こしまゐらするに、日ごろは、かやうに起こしまゐらするに、いと所せく抱きにくくおぼえさせたまへるなりけり、いとやすらかに起こされさせたまひぬ。

大式の三位、御うしろにゐたまひたり。御背中を寄せかけまゐらせて、御手をとらへまゐらせなどする御腕、ひややかにさぐられさせたまふ。かばかり暑きころかくさぐられたまふほど、あやし、あさまし、たとへんかたなし。(四一六)

苦しさに悶絶する堀河天皇は、乳母や作者にその身をゆだね、苦痛から逃れようと足や腕をうち掛ける。陰暦七月の病床の間はまだ暑く、そこに詰めた人々のひといきれや僧たちが炊く祈祷の香など、相当の熱気であったことだろう。そのようななか、直接感じた堀河天皇の生身の体の重さ、ぬくもりはもちろん、臨終に向かつて痩せ衰え軽くなる玉体、そしてその不気味な「冷やかさ」をも、作者はリアルに描き出している。「御腕、ひややかに」はのちの崩御の場面につながっていき、悲しい対応を見せる。もちろん、これらは作者が実体験を可能な限り再現しただけのものとも言えるが、そこに作者が肌で感じた堀河天皇の「生」と「死」が如実に表れ、読む者にもその温度、重みをあざやかに追体験させるのである。

四 「動」としての物の怪と読経

よく似た状況を描きながらも、臨場感や喪失感の表出という点では『讃岐典侍日記』は決して『源氏物語』に劣るものではなく、「リアルさ」とい

う点ではそれを上回る表現力を持つものとして評価されてもいいだろう。こういった『讃岐典侍日記』が持つ表現力は、冒頭で言及した「喧噪と静寂」「動と静」の交錯によるところも大きい、「五感」という点からすると、前節の「触感」に加え、「聴覚」に由来する「動と静」が『讃岐典侍日記』の筆致に躍動感を与えていることにも注目したい。

これまでも述べてきたように、現代の我々の常識とは異なり、当時の病床の間は多くの喧噪に包まれていた。病人の身分が高ければ高いほど周囲には多くの女房たち介助者が付き添い、僧たちが加持祈祷を行い、物の怪を移らせる「よしまし」もいた。当時の病床の間は静寂とは無縁な、阿鼻叫喚とも言える喧噪、一種のトランス状態を引き起こすような読経の声に覆われた空間である。そしてそれらはすべて、病の原因たる「物の怪」調伏を目的としたものであった。

『源氏物語』にも見られるように、当時の病は「物の怪」との戦いである。『讃岐典侍日記』を見ても医師の姿は見えず、ただ女房たちが「御かゆ」を与える程度であった。「物の怪」は執念深いものになると簡単には調伏されず、六条御息所のように再三現れるものもいる。『讃岐典侍日記』に描かれた堀河天皇の病床の間もまた、物の怪の登場に悩まされていた。現れては消える物の怪の姿が潮の満ち引きのように作品の随所に組み込まれ、それらが徐々に力を得て堀河天皇を死へと追いやる。『讃岐典侍日記』の上巻は、言わば「物の怪との戦いの記録」なのである。

増誉僧正、頼基律師、増賢律師など召しにやりつつ、頼基律師、すなはち参りて、経読み仏くどきまゐらせらるるほどに、しばしばかりありて、うち身じろきさせさせたまふほどに、いますこしののしりあひぬ。経読まるるを聞かせたまひて、「今は益あらじ。ただ駆り移せよ」とおほせられ出でたれば、ものつく者など召してゐて参り、移さるるおびたしさは、おしはかるべし。移りて、そのことはいはでかはめきののしるさま、いとおそろし。(三九四)

かやうに、いみじき人たちあまたさぶらひて、われも劣らじと祈りまゐらせらるるけにや、御物の怪あらはれて、隆僧正、頼豪など、名のりのしる人、あらはれさせたまうて、「一年の行幸ののち、また見まゐらせばやと、ゆかしく思ひまゐらするに、その徳なければ、おどろかしまゐらするぞ」といふを聞かせたまひて、「いかにも、この二三年、例さまにおぼゆることのあらばこそ、行幸もあらめ、近きほどだになし。この心地やみたらばこそは、年のうちにもあらめ」とおほせらるるほどより、苦しげにならせたまひにたり。

(四〇七)

僧と物の怪の対峙が一旦落ち着ついたのか、堀河天皇の病状に一時的な小康状態が訪れると、高僧たちの読経の声に添う堀河天皇の声が聞こえてくる。

受けさせまゐらせはてて、法印出でさせたまへば、故右の大臣殿の子に定海阿闍梨といふ人の、もとよりさぶらはるる、御枕がみに近く召し寄せ、おほせらるるやう、「経誦して聞かせよ。定海が声聞かんも、今宵ばかりこそ聞かめ」とおほせられて、いみじう苦しげにおぼしめされたれど、御涙もえ出でず。それを聞かん心地、たれかはなのめなる心地せん。たれも堪へがたき心地ぞする。阿闍梨、ややもいらへなし。経の声も聞こえぬは、あれもためらはるるなめりと聞こゆ。

しばしばかりありて、すこし出だされたるを聞けば、方便品の比丘偈にかかるほどの長行をぞ読まるる。つくづくと聞かせたまふて、「衆中之糟糠仏威徳故去」といふところより、御声うちつけさせたまひて、つゆばかりがほどとどこほるところなく、いういうと読ませたまふ御声、たふとさ、阿闍梨の御声おし消たれて聞こゆ。阿闍梨も、とりわきてそこをしも読み聞かせまゐらせらるる、「明け暮れ、一二の巻をうかめさせたまふ」と聞きおきたまへることなればなめり。

(四一二)

しばしばかりありて、例の、定海阿闍梨、御几帳のそばに召し入れて、「観音品讀みて聞かせよ」とおほせらるれば、いとたふとく読みたまふ。いかにおぼしめすにか、「偈を読め」とおほせらるる、おぼしめすやうあるなめりと心得がたし。

(四一四)

「いみじく苦しくこそなるなれ。われは死なんずるなりけり」とおほせられて、「南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏」とおほせらるるを聞くに、ただにおはしまするをりに、かやうのことは、局々の下人までいまいましきことにこそいふを、御口よりさはさとおほせられ出だすを聞くは、夢かなどまであさましければ、涙もせきあへず。

(四一五)

堀河天皇が定海阿闍梨に掛けることば、涙をこらえるために返事はせず、ただ静かな読経を紡ぎ出すことでそれに答える阿闍梨の姿は、読み手にいようない切なさを感じさせる見事な筆致で、そこに唱和する堀河天皇の声すら聞こえてくるような錯覚さえ覚える。このような、「読経」一つにつても強弱、緩急をつけた書き分けをすることで、時には物の怪に対峙する力強さ、心強さ、一方で死を覚悟した堀河天皇の姿と、それを見守るしかない作者たちの切なさが表されている。こういった「動」と「静」の使い分けが、『讃岐典侍日記』上巻を、読む者を捉えて離さない仕上がりになっているのである。

五 「風」の効果と訪れる「静寂」

交互に押し寄せる「動」と「静」の波は、当然のことながら堀河天皇の容態と連動する。緊張感が続いたあとに挟み込まれる小休止的な小康状態は、意図的ではないにしろ、読み手に一息をつく間を与え、同時に次に訪れる「動」がもたらす緊張感への心構えの暇ともなっている。

すこし御かゆなど参らすれば、召しなどすれば、うれしきは何にかは似たる。

(三九五)

明けがたになりぬるに、鐘の音聞こゆ。明けなんとするにやと思ふに、いとうれしく。やうやう鳥の声など聞こゆ。朝ぎよめの音など聞くに、明けはてぬと聞こゆれば、よし、例の、人たちおどろきあはれなば、かはりてすこし寝入らん、と思ふに

(三九九)

「たか文ぞ」と問はせたまへば、「あの御方より」と申せば、「昼つきた、のぼらせたまへ」とおほせごとあれば、さ書きて。(中略)夕つきた、帰らせたまひぬれば、たれもたれも参りあひぬ。御けしき、うちつけにや、変はりてぞ見えさせたまふ。「今日しも、すこし夜の明けたる心地しておぼゆれ」とおほせるる聞く心地のうれしき、何にかは似たる。

(四〇二)

御前に、金まりに氷の多らかに入りたるを御覧じて、「あれ見れば、心地のさはやかにおぼゆる。氷の大きならんを提子に入れて、人ども集めて食はせて見ん」とておほせらるれば、女房たち、みな立ち退きぬ。

(四〇四)

これら小康状態を得てはふたび襲い来る波は徐々に力を増し、堀河天皇の容態は悪化していく。あくまでも「日記」として事実を描いているのであるが、この不穏な「波」の寄せ返しが、作品を読む手を休ませない効果を生み出している。そしてこの「風」が終わる先には臨終が訪れ、作品には「風」を超える、真の「静寂」の訪れが描かれている。

殿、御覧じ知りて、「今は、さは、院に案内申さん」と申させたまへば、民部卿こなたに召して、殿、御簾押し上げ、ものしのびやかに、い

かにおほせらるるにか、おほせらるれば、立たれぬ。大臣殿寄りて、「今は何のかひなし」とて、御枕なほして、抱き臥せまゐらせつ。殿たち、みな立たせたまひぬ。僧正、なほ御かたはらに添ひゐたまひて、何のことに、かのびやかにつづつと申し聞かせたまふ。

かかるほどに、日はなばなと射し出でたり。日のたくるるままに、御色の日ごろよりも白くはれさせたまへる御顔の清らかにて、御鬢のあたりなど、御けづりぐししたらんやうに見えて、ただ、大殿ごもりたるやうにたがふことなし。

僧正、今はと見はててまつりて、やをら立ちて、御かたはらの御障子をしのびやかに引き開けて出でたまふに、大弐の三位、「あな、かなしや。いかにしなし出でさせたまひぬるぞ。助けさせたまへ」と、声も惜しまず泣きたまふを聞きて、さながら泣きとよみあひたり。

(四一八)

増誉僧正の祈祷と、自身が最後の力を振り絞って唱えた念仏の声もむなく、堀河天皇は崩御を迎える。祈祷の中心であった僧正が退出し、病床の間を覆った読経の声は引き続き聞こえていたものの、この後の「動」の中心となるのは大弐の三位を中心とした側近たちの泣き叫ぶ声であった。

御手をとらへてをめきさけびたまふを聞くぞ、堪へがたき。この声を聞きて、そこらののしりつる久住者ども、ひしとやみぬ。山の座主、今ぞ参りて、僧正の出でたまひぬる障子引き開けたまへば、三位、「山の座主をも今は何にせんずるぞ」といひつづけて、泣きたまふ。

(四二〇)

病床の間は「御障子をなみなどのやうにかはかはと引き鳴らして、泣きあひたるたびたしき、ものおぢせん人は聞くべきもなし」といった、堀河天皇に近い人物たちの嘆きでまさに「愁嘆場」となった。一方で僧正

が退場し久住者たちによる念仏も止み、関白の命で遺体が北枕にされる。徐々に「病床の間」は、「臨終」から「亡骸との最後の別れの場」「遺体安置の場」へと変わっていくのである。

御乳母たち立たれぬれば、因幡の内侍とて、明け暮れ、あまたの内侍のなかに、とりわきつかうまつりつきたりし人と二人、御かたはらに無期に近くさぶらふ。「あはれ、多くさぶらひつれど、契りふかくもつかうまつりはてさせたまへる」などいひつづけて、いみじう泣かるるさまぞ、いとどもよほさるる心地して堪へがたき。
(四二五)

立場上、「嘆く」権利を持っている乳母たちが退出すると、真の「静寂」がやってくる。身分的にも堀河天皇との「親しさ」という点でも自分より下位の人物、「因幡の内侍」とともに「無期に近く」堀河の亡骸に寄り添う作者の姿は、どこまでも静寂さにつつまれた、影絵のような静謐さを印象づける。この記述が生きてくるのはここまでの「動」の積み重ねがあつてからこそであり、結果的にここまでの記述すべてを集約した「果ての場」として、この場面は成立しているのである。

堀河天皇の病状に呼応するような「動」と「静」の入れかわりが本作品に臨場感と躍動感を与え、すべてが終わったあとの圧倒的な静寂の場として描かれたこの場面は、続く下巻にも引き継がれていく。いうなれば、「動」の帰結として描かれた最後の静寂の延長線上に、下巻は存在するのである。

六 引き継がれる「静寂」

御前のかた、かいすみて、いつのまに変はるにか、日ごろ、おびたたくものも聞こえずののしりつるけしきども、しめじめと、火をうち消ちたるとはこれをいふべきにやとおぼえて、音もせず。(四二六)

昼の御座のかたにこほこほともの取りはなす音して、人々の声、あまたすなり。何ごとにかと聞くほどに、御前より、おなじ局にわがたぎまにてさぶらひつる人、うち来て、いみじうものもいはず泣く。見るに、いとど、そのことと聞かぬに鳴き伏さるる心地ぞする。しばしためらひて、いふやう、「あな、心憂や。ただ今神璽、宝剣のわたらせたまふとて、ののりしさぶらふぞ。昼の御座の御物の具のわたり、御帳のひき、御鏡など取り出でさぶらふ。御帳こほつ音なりけり」といふに、かなしさぞ堪へがたき。
(四二七)

堀河天皇の崩御を以て、『讃岐典侍日記』からは一切の喧噪が排除された。長子自身、この極端な「動」から「静」、喧噪から静寂への急激な変化を認識し、亡骸から離れて自室に下がったあとも、自身の喪失感と周囲の静寂を呼応させる。壁を隔てた隣室からもれ聞こえる大式三位の嘆き、そして御座所を取り壊す音など、堀河天皇が健在のままであれば耳に届かないはずの音に反応し、それを描くことで上巻は終わっていく。そして堀河天皇崩御後、時を置いて鳥羽天皇御所へ出仕することになった作者は、下巻において「堀河天皇を追慕し続ける自分」のみを描き続ける。そこには喧噪も「動」の要素も必要なく、語られるのは上巻末尾と同じ、寂寥感のみである。そして「静寂」を強調する「音」の存在は、下巻でも同様の構図で用いられる。

朔日の日の夕さりぞ参り着きて、陣入るるより、昔思ひ出でられてかきぞくらさるる。局に行き着きて見れば、こと所にわたらせたまひたる心地して、その夜は何となくて明けぬ。

つとめて、起きて見れば、雪、いみじく降りたり。今もうち散る。御前を見れば、べちにたかひたることなき心地して、おはしますらん有様、ことごとし思ひなされてゐたるほどに、「降れ、触れ、こ雪」と、いはけなき御けはひにておほせらるる、聞こゆる。こはたぞ、たが子

にかと思ふほどに、まことにさぞかし。

(四三九)

波のように交錯しながらも最後には「静」が「動」を凌駕し、永遠の静寂が訪れる。おそろしかった物の怪やそれを調伏せんとわめかんばかりに鳴り響く読経の声も、二度と戻ってくることがない。思えば、それら喧噪もまた、堀河天皇が懸命に生きていた証なのであった。それが消え失せたあとの作品全体を包む「静」は作者の一貫した執筆姿勢であり、それは作品末尾まで揺るぐことはなかったのである。

晦日の夜、内へ参ると堀河院過ぐるに、二条の大路、堀川などの
かいすみ、ものさわがしげに人の出で入りたるけしき見えず。目のみ
まづとどまりて、

主なしとこたふる人もなければ宿のけしきぞいふにまされる

とよみけん古言さへ思ひ出でらる。

(四七五)

本作から十年後の『長秋記』の記事には、堀河天皇の霊が移ったとして託宣を行う長子の姿が残されている^(注三)。自らが作品に描き続けた「物の怪」を彷彿とさせるものであるが、下巻を通じて堀河天皇追慕の念と、自らの境遇の嘆きを静かに語った長子を襲った精神的な錯乱の結果なのだろうか。あれほど鮮明に「物の怪」とそれに立ち向かう読経の声、「泣けない」自分を描きだした長子の最後の足跡としては皮肉とも、象徴的な記録とも言える。しかし、むしろ、そのような内に秘めた情念の深さがあったからこそその、『讃岐典侍日記』の表現力なのかもしれない。

今回見てきたとおり、『讃岐典侍日記』、とくに上巻の筆致は読む者を捉えて離さない魅力がある。今後、これら本作品の魅力と作者の表現力、構成力がさらに評価されることを期待したい。

『讃岐典侍日記』(二〇一四年二月 第一版第五刷 小学館)四一七頁。以下、『讃岐典侍日記』本文の引用は同書に拠り、引用末尾に該当頁を示した。

注二 新編日本古典文学全集23『源氏物語』(二〇〇二年五月 第一版第五刷 小学館)五〇四頁。以下、『源氏物語』本文の引用は同書に拠り、引用末尾に該当頁を示した。

注三 源師時『長秋記』天永元年・二年の記事に拠る。

拙稿『『讃岐典侍日記』——「託宣」する女房——』(二〇一六年三月「中央大學國文」第五五号)

注一 新編日本古典文学全集26『和泉式部日記 紫式部日記 更級日記』

The Diary of Sanuki no Suke

——— Reevaluating the author's expressive power ———

Tamaki Ota

The Diary of Sanuki no Suke is a work written mainly about the death of Emperor Horikawa, and the uniqueness of its subject matter is often pointed out. However, this is not a fair assessment. In this paper, I will focus on the skillful development of the scenes and attempt to give it a fair assessment.

In the work, "noise" and "silence" alternate like waves, expressing tension and relaxation. The purpose is to fairly evaluate the author's ability to describe such things.

高専生とアカデミックライティング——『夢十夜』実践報告——

太田 たまき*

(二〇二五年一月一〇日受理)

一 はじめに

「高専生とアカデミックライティング——『城の崎にて』実践報告——」

(注)に続き、今回は多くの高校・高専で一年次に扱う夏目漱石『夢十夜』「第一夜」(以下、本稿では「第一夜」に限定して扱う)を取り上げ、高専における小説分野の扱いについての実践例を報告する。大学受験を前提としない高専生に国語授業(とくに小説分野)を行う最大の壁は、学習の動機づけにある。そこで、前回報告同様、「高専」の特性を考慮し、「高専の国語授業での小説の扱い」「レポート・論文作成(アカデミック・ライティング)指導への落とし込み」といった観点からの授業の組み立て・実践と、学生の反応についても共有していきたい。

『夢十夜』は多くの検定教科書に採択され、ある世代から下の教員の多くが自らも高校時代に学習した経験を持つ。そのため、自分が受けた「高校生の」「夢十夜」授業形式を高専内でも踏襲しがちだが、高専生対象の授業で扱う場合、純粋に「文学作品の鑑賞」というだけで終わらせるのは惜しい作品である。「幻想小説」と評され、書き手の自由度が発揮された作品と思われがちではあるが、実際、本作品の特性は徹底した「構成の緻密さ」にあり、学生参加型の授業を取り入れながらの「アカデミックライティング」入門の教材とすることに大いなる可能性を秘めている。

*一般教科人文

そこで、今回は高専一年生、入学直後の前期に扱うことを前提に、「高専生の国語」に特化し、さらに卒業までの五年間を大きな括りとした授業構成を意識した。「高専一年生の国語」ではなく、五年間(群馬高専では四年次「国語演習」(半期科目)で授業としての国語系科目は終了)をとおして「国語」学習が完成するという連続・関連性を意識した指導である。そのような長期視点の最初の授業教材として、『夢十夜』を同作品の特性である「伏線と回収」の在り方を中心に、原稿用紙五枚程度の小説の読解が、自分たちの今後にどう役立つのか、文章を書くうえで今の自分に何が足りないのか、そして何より「小説」を読む楽しさはどこにあり、それを授業で共有して意見を出し合うことの大切さというものを実感させ、多様な感想や視点の在り方などを包括的に学ぶことのできる場としての授業設計を模索していく。

とくに今回は、「アカデミックライティング」の導入要素はもちろん、学生の意見を引き出し、それをクラス内で共有しつつ活発な意見交換の雰囲気づくりという点にも留意した。高専入学直後の学生たちは、その年齢にふさわしい瑞々しい感性を持っている。「研究者の解釈はこうだ」「読解として何が正しい」「時代背景的にその解釈はあり得ない」といった発想の制限や否定から入るのではなく、彼らがそれまでの人生の中で重ねた経験や培ってきた感性、自由な発想力を生かした意見を尊重し、「自分の意見を自分のことばで表現する」ことへの羞恥心を乗り越えて発言する、その姿勢を優先させた。そしてそこから、自分が得た着想や立てた仮説を実証する

にはどうしたらいいのか、研究者の視点からはその仮説にどのような問題点が見えているのかといった、「感想が仮説になり、それが論へと発展していく」過程についても可能な限り提示していった。

なお、前回同様、本報告はあくまで「授業報告」であり、『夢十夜』自体の研究論文ではないことをご了承いただきたい。また、報告と考察を兼ねているという特性上、掘り下げが不十分などの論述上の稚拙さが散見するが、あくまで「報告」であることをご理解いただければ幸いである。

二 「新聞小説」としての『夢十夜』

初回授業では、小説分野、とくに「夏目漱石」に興味を持ち、学習のモチベーションを高めるために文学史や作品の関連データ、授業の方向性を示すことを意図した。

群馬高専では一年次の「国語表現」は週一回九〇分授業一コマのみであるため、文学史を体系的に扱う時間的余裕はない。そのため、通常は毎回授業冒頭で実施する漢字テストの裏面に有名作品の解説を印刷し、解き終わった学生から目を通すといった形で補う程度にとどまっている。今回のように教材として有名作品を扱う場合のみ、初回授業で年表や関連図などを用い、可能な限り関連作品や文学界の動向なども盛り込んで解説することに努めた。

『夢十夜』の場合は、とくにそのような解説の効果は高い。「近代文学の双壁」としてともに語られることの多い森鷗外や深い親交のあった正岡子規、弟子の芥川龍之介についても可能な限り言及することで、これ以降『羅生門』や『舞姫』、俳句・短歌を扱う場合、「授業の循環」が生まれる。また、群馬高専の地域性も取り入れ、群馬出身の田山花袋、萩原朔太郎、土屋文明、本校校歌を作詞した佐藤春夫についても^(注二) 関連図などで言及した。

(漱石略歴)

一八九〇(二三歳) 東京帝国大学英文科入学

一九〇〇(三三歳) イギリス留学

一九〇三(三六歳) 一高・東京帝国大学英文科講師(神経衰弱)

一九〇五(三八歳) 『吾輩は猫である』(作家デビュー作)

一九〇六(三九歳) 『坊っちゃん』

一九〇七(四〇歳) 教職を辞し東京朝日新聞社入社。専属作家となる。

紙上にて『虞美人草』連載開始。(胃病発症)

一九〇八(四一歳) 連載四作目『夢十夜』(全十回／七月二五日～八月五日掲載)

一九一〇(四三歳) 胃潰瘍手術／修善寺の大患(一時危篤)

一九一四(四七歳) 『こころ』

一九一六(四九歳) 死去

右記のように、『夢十夜』に関連することに絞って略歴を説明することから始めた。漱石の実際の作家活動歴は一〇年程度であったが、文学史として彼の半生を説明するとかかなりの時間を取る。よって言及するのは多くても右に挙げた項目程度で、本作に限って言えば「東京朝日新聞社への入社」には言及しておきたい。『夢十夜』は新聞連載小説であるため、執筆には新聞ならではの制約がある。そこで、漱石が特注で作成したという原稿用紙の複製^(注三)を見せ、市販のものとの相違、そこから漱石の原稿用紙作成意図、意気込みなどを考えさせた。漱石自身がどれほど「新聞小説」の特性を意識していたのか、彼の緻密さを実感させる狙いがある。また、当時の新聞の発行部数や想定読者層についても言及し^(注四)、当時の新聞小説が現代のような娯楽作品というよりも、一定以上の知識階級を対象にしていたことにも気づかせたい。

本校は九〇分授業のため、この時点で二〇分程度の時間を残すように調整し、残りの時間で黙読と、いわゆる「ネタバレ」をしておくことにした。

それは内容の読解というよりも、「構成の妙」を体感させるのと同時に、次の授業まで興味を持続させるためでもある。まずは各自のペースで黙読

をさせ、直後に「なぜこれが名作と言われるのか」「どこがポイントなのか」を問い、あえて「百年」「百合」の「ネタバレ」から始める形を取った。

最近はいわゆる「文豪」たちを題材にした漫画も多く、ごく少数ではあるが「百年」「会う」と「百合」の関係を知っている学生がいる場合も、自力で発見する学生もいる。そのような意見が出ない場合や発見のヒントとして、まずは黙読して各自意味段落に分けさせ、その後、意味段落ⅠとⅢのみ結合させて読ませた。

本作は時系列、登場人物の入れ替えといった面からして、意味段落に分けるのはそう難しくない。意味段落Ⅰを「こんな夢を見た。もう死んでいた」、意味段落Ⅱを「自分はそれから庭へ下りて」と思い出した^(注五)、意味段落Ⅲを「すると気がついた」までという展開に注意して一度全体を黙読させ、意味段落の確認をした後、意味段落Ⅱを飛ばし、意味段落ⅠとⅢをつなげて読ませる。すると、何名かの学生が「百年・会う」と「百合」の関係に気づき、学生からは「漱石さすが」といった反響がある。また、ここで「約束(願い)」と「実現(達成)」という、本作品の軸の部分を確認させるため、「見かけ上、意味段落ⅠとⅢにあってⅡにないものは何か」「意味段落Ⅰの中でも特徴的に使われているものは何か」などのヒントを出すこともある。これによって、会話記号(鉤括弧)が使われているのは「百年、私の墓のそばに座って待っていてください。きつと会いにきますから」↓(百合の花)↓「百年はもう来ていたんだな」という、「約束」と「実現」の部分だけであり、このことから本作品が「百年待つて」「百年待ちとおした」という、極めて単純な構造であることが確認できる。また、意味段落Ⅰ前半では「死ぬ」ことに対する「私」と「女」のやり取りが続いているにもかかわらず、そこに鉤括弧が使われていないことも注目させたい。漱石は鉤括弧の使い分け一つとっても緻密に計算し、作品の意図が浮き上がるように工夫している。時間があれば、冒頭で説明した「本作は新聞小説であり、原稿用紙五枚程度という字数制約がある中での執筆である」とことと関連づけ、「それも含めて会話の意図的な使い分けができています」ということ

にも触れておきたい。

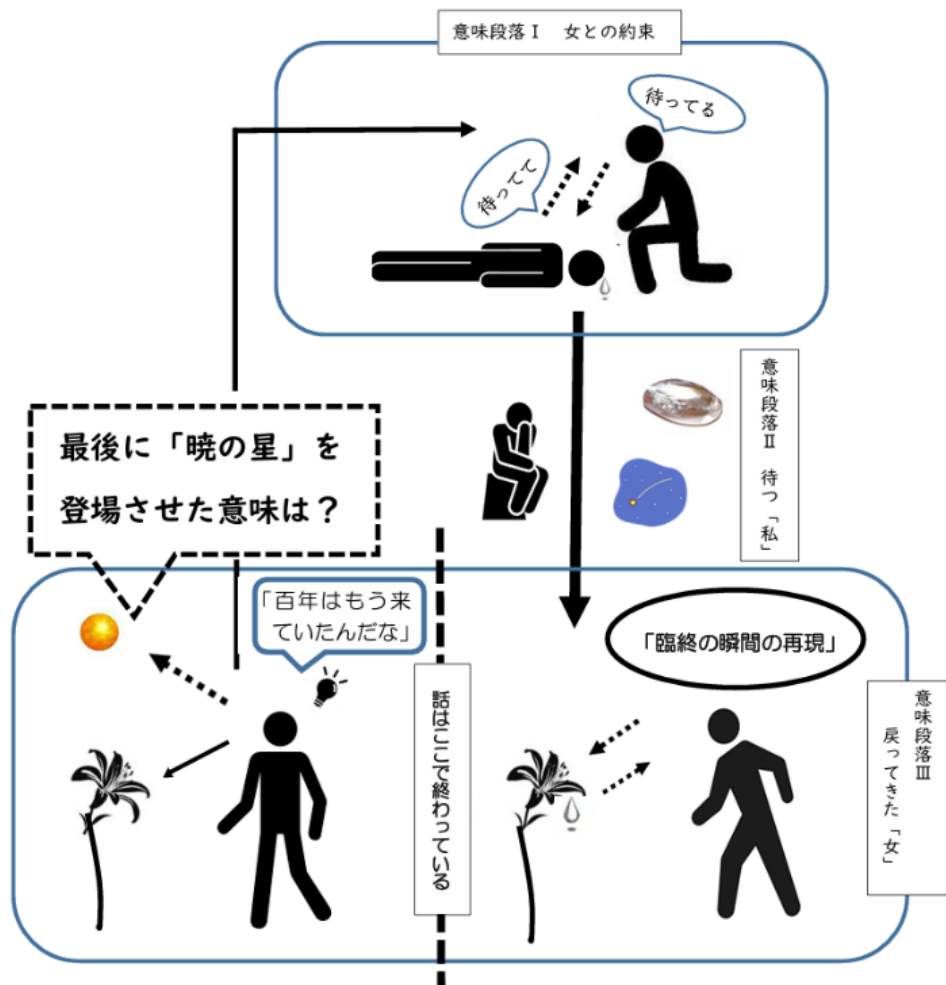
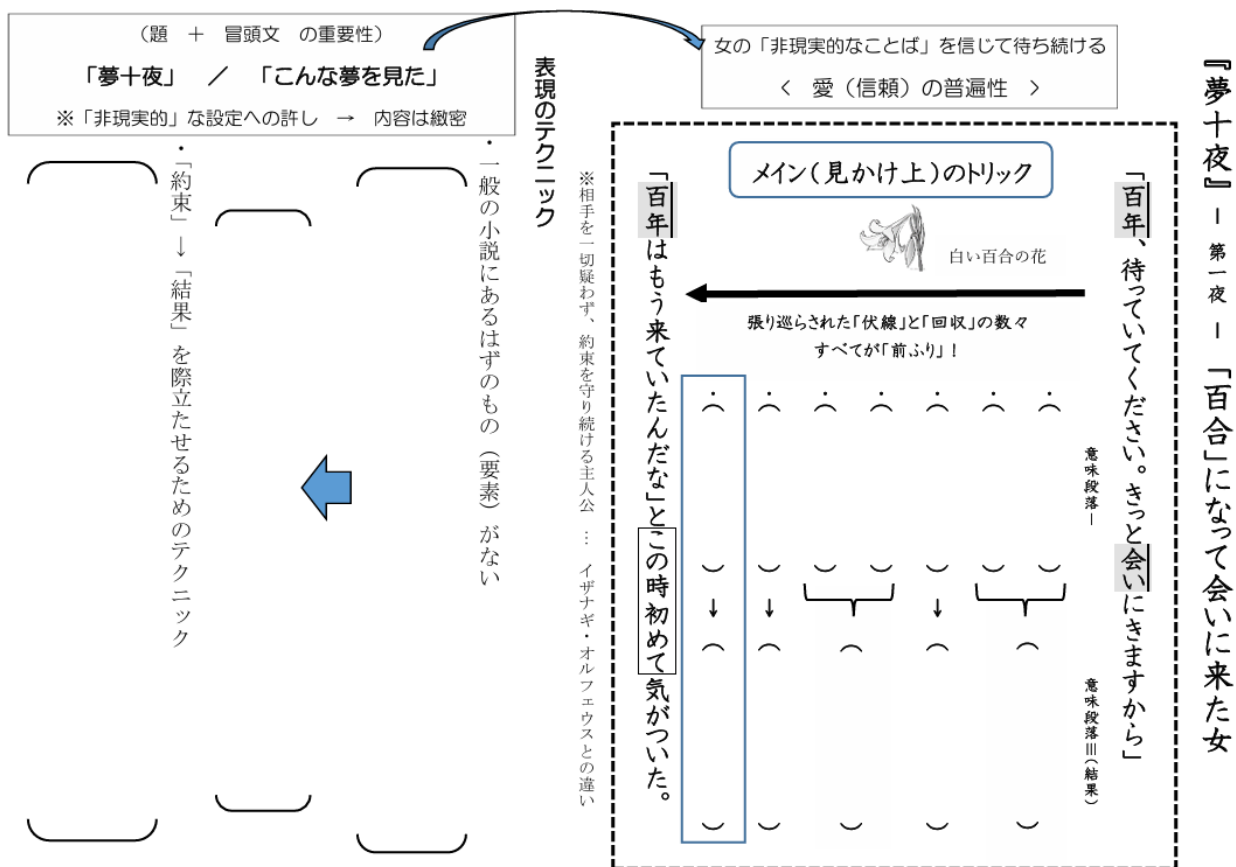
以上の「謎解き」で一気に学生は授業に興味を持ち、授業も盛り上がりを見せるため、ここで授業が終わるように時間調整をするようにした。「トリック」の巧妙さを印象づけることで、今回の『夢十夜』の授業意図である「構成力」について解説するには、こういった作品の骨組みを事前に認知させておいた方が、今後の説明がしやすくなる。同時に、この後重要になる「意味段落ⅠとⅢの対応関係」「意味段落Ⅱの存在意義」を説明する素地となるため、授業の循環性という点からも一定の効果があつたと考えられる。

以上の点を九〇分に落とし込むためには、適宜『国語便覧』や配布資料を併用する必要があるが、このように興味を引いておいた形で授業を終わらせ、次の授業まで興味を維持させる工夫も授業設定の時点で考慮すべきであろう。

三 「私」と「女」の関係性

『夢十夜』の中でも今回取り上げる「第一夜」は、特に構成の妙が際立つ作品である。第一回授業で確認した「百年・会う」「百合」の説明を踏まえ、本作品の特性や作品のテーマ、それを印象づけるためにどのようなテクニクを持ち込んだのかを確認していく。

ここからは教員からの発問と学生の意見発表だけでなく、解釈や着眼点の多様性、気づきを得るためにも、新型コロナウイルスなどの感染症の心配がない限り、可能な範囲でグループワークの形を取った。これは本授業を一年次、入学直後の時期の実施と設定しているため、新入生の交流の時間となるのではという狙いもある。グループ分けをした場合は、教員はあくまでアドバイザー的な立場にとどまり、グループ内で書記・ファシリテーター・発表者といった役割を決め、話し合いの指針が明確になるよう、適宜配布資料を用いて話し合いをさせた。実際に使用した資料は次のとおりである^(注六)。



それでは、実際に学生たちに投げかけた質問、反応、発問意図について事例を挙げて行く。

【発問①】一般小説との違いはどこか

△発問の意図▽ 漱石の独創性と作品のテーマに気づかせる

まず、本作について初見でどのような印象を持ち、どのような点に気づくか、学生が普段読んでいる小説や漫画との違いに気づかせる。特に、本作が多くの検定教科書に採択されている理由を考えさせるとともに、「自ら問題点を探す」「気づき」を体験させながら作品への興味を持たせることを狙った。

学生の読後第一印象は、「ファンタジーっぽい」「不思議な雰囲気」「盛り上がりやオチがない」「何の話がよくわからない」といった、作品の雰囲気に関するものが大半である。そこで、「では、この二人はどういう関係か、どういう組み合わせの二人だと思うか」と問いかけ、グループで話し合わせ、人によって「思い浮かべる絵」が異なるという点に着目させた。

もともと多く出されて意見は、前回取り上げた夏目漱石の解説を踏まえての解釈であった。「こんな夢を見た」の主語は漱石だろうから、中年の男性とその妻の話というものだ。これは前回の文学史授業が大きく影響していることと、中には高専生らしく、二松學舎大学作成の漱石アンドロイドの存在^(注七)を知っていて、「脳内で漱石の声が再生された」という者もいた。そのほか、「若い恋人同士」「年の離れた男女」「恋人以前の（プラトニックな関係の）二人が現世では結ばれないまま終わる話」などの意見が出てくる。

そこで、なぜこのような現象が起きるのか。一般の作品では行われていて、この作品ではないものは何か。それはどのような結果をもたらし、作者は何を狙っているのかをグループで考えさせる。「自分たちが小説や漫画を描く立場になったら、まず何から始めるか」という声掛けもした。

本年度は特に、映画公開があった綾辻行人『十角館の殺人』を読んだ学生がいたり^(注八)、それ以外にも純粋に推理小説の愛読者である学生がいる

と進行の助けになるが、それが見込めない場合はACジャパンの「聞こえてきた声」のCM^(注九)などもヒントとして提示した。それらを踏まえると、

- ・人物の説明がない
- ・名前がない
- ・年齢がわからない
- ・主人公の「私」は男性か女性か規定されていない
- ・「私」と「女」の関係も根拠となる記述がない

という、彼ら曰く「キャラ設定が曖昧」である点に学生たちも気づく。作品内に規定がない以上、「二人の関係性をどう読むかは読み手の無意識のうちの裁量に任されている」のである。「可能性」という点からすれば、両者が恋人（夫婦）関係である必要はなく、「きょうだい（兄妹）（姉弟）」「親子」「親友」であっても成り立つ。

そもそも、本文には主人公「私」の性別を規定する具体的な描写は一切ない。一人称は「私」であり、「女」から「私」への呼びかけは一貫して「あなた」である。同様に、一人称を用いた「私」から「女」への呼びかけもない。日本語の特性によって可能な「主語の曖昧さ」から、「私」の性別はもちろん、両者の関係性、設定年齢も読者に委ねられている。

一般に、このような曖昧な人物設定が許される小説は少ない。これを可能にしているのが、冒頭の「こんな夢を見た」の一文なのである。この一文が免罪符となり、読者は「夢」の持つ不条理さ、曖昧さを前提に本文を読むことになり、一般には「不自然」とされる設定の曖昧さも受け入れてしまう。この冒頭の一文が、読んだ瞬間に読者をその世界観に引き込み、不自然さを感じる余地を与えない「魔法のことば」であること、また、前回『城の崎にて』でも解説したように、小説家たちの「書き出しの妙」を確認させ、学生に書き出し文の重要性を強調することも忘れないようにしたい。

それでは、これによって何が「可能」になるのか。これについても追加発問していくと、「自由に読める」「自分のこととして読める」といった意見が出る。「多様性」を受け入れながら成長してきた学生たちらしい発想であ

るが、その「多様性」を持ち込むことが可能にするものは何なのか。ここで、作品のテーマである「普遍性」についても言及し、「どのような関係性の中にあっても価値の変わらないものを描く」「そこにある真理」という点にも触れ、次の発問に移っていく。

【発問②】「女」はなぜ「約束（願い）」を言い出したのか

△発問の意図▽ 作品の構成の緻密さ

それでは、そもそも「女」はなぜ「百年待ったら百合になって戻ってくる」と明言し、「私」にそれを待つよう言わなかったのか。言わないことで何を求めたのかを考えさせる。前回授業で意味段落Ⅱを飛ばし、「意味段落Ⅰ」と「Ⅲ」をつなげて読ませることができなかった場合は、ここでそれを試みる。それにより、この作品の根本、もつともシンプルな「あらずじ」というようなものなのか、実際は「百年待つて」「百合になって戻ってきた」というごく単純な話であることを認識させるとともに、後述する「意味段落Ⅱ」の必要性についてもつなげていきたい。

【発問①】で確認したように、この、「女」が「私」に求め続けた「約束（願い）」は、「私」によって誠実に履行され、結実する。では、なぜ「女」は「私」に「真珠貝で穴を掘り」「星の破片を墓標にし」、そのうえで「墓の側で百年待つて」といったのか。そもそも、なぜこの約束の軸である「百年」を、最後に付け加えたのか。

この時点ですぐに核心を突いた発言が出ることもあるが、多くは「小説としての盛り上がり」「話が単純になつてしまうから」「種明かしの推理小説要素を意識したから」といった程度の発言で終わる。これらはどちらかというところ「ウケる小説の成立条件」といった、商業主義的な観点からの発想であろう。そこで、純粋に自分が「女」の立場になったとき、どういう思いでこれらを提示していったのか、そこに漱石はどういうことを表現したかったのかという点について、「女」の発言を中心に意味段落Ⅰをもう一度振り返っていった。

第一回授業でも触れておいたが、本作品は「女」と「私」との会話から始

まる。それにもかかわらず、冒頭では一切鉤括弧は使われず、会話は地の文に織り込まれている。それが一変するのは「死んだら埋めてください」という「女」の発言からである。

冒頭、「女」の衝撃的な発言から始まるが、それは鉤括弧、「約束」の内容に入るまで、淡々と繰り返される。

- ・ 静かな声でもう死にますという。
- ・ しかし女は静かな声で、もう死にますとはつきり言った。
- ・ 死にますとも
- ・ やっぱり静かな声で、でも、もう死ぬんですもの、しかたがないわと言った。
- ・ 見えるかいって、そら、そこに写っているじゃありませんかと、にこりと笑ってみせた。

ここで注目すべきは、「女」の発言が一貫して「静かな」という言葉とセリフになっている点だ。学生には、「どんな調子で会話が進行しているか」「それがどこから変わるのか」などと投げかけながら考えさせるといいだろう。

そして、この「静かな」という均衡が破れる瞬間が、前述の鉤括弧の登場とともにやってくるのである。

(1)しばらくして、女がまたこう言った。

「死んだら、埋めてください。大きな真珠貝で穴を掘って。そうして天から落ちてくる星の破片を墓標に置いてください。そうして墓のそばに待っていてください。また会いに来ますから。」

(2)自分はいつ会いにくるかねと聞いた。

「日が出るでしょう。それから日が沈むでしょう。それからまた出るでしょう、そうしてまた沈むでしょう。――赤い日が東から西へ、東から西へと落ちてゆくうちに、――あなた、待っていられますか。」

(3)自分は黙ってうなずいた。女は静かな調子を一段張り上げて、「百年待つていてください。」と思い切った声でいった。

(4)「百年、私の墓のそばに座って待つていてください。きっと会いに来ますから。」

自分はただ待つていると答えた。すると、黒い瞳の中に鮮やかに見えた自分の姿が、ぼうつと崩れてきた。

「女」は「私」との「死ぬ」「死ぬのかね」のやり取りを、常に「静かな声」「静かな声」「やっぱり静かな声で」、時には「にこりと笑ないながら」繰り返す。これは「女」の中で自らの死は既定路線であり、何ら迷いはない。その彼女が、「しばらくして」言ったことが(1)と(2)である。一見、荒唐無稽にしか思えない数々の願いごとを口にした彼女も、この時点では「静かな調子」は変わっていない。問題は(3)で、彼女はここに至って「静かな調子を一段張り上げて」、「思い切った声で」本題を持ち出す。つまり(1)(2)は話のきっかけ、本題を切り出すための「前振り」に過ぎなかった。それを「いつ会いに来るかね」と尋ね、「黙ってうなずく」「私」の姿を見て、「女」はやっと真の願いを言い出したのである。

ここで、学生には「難題譚」「見るなのタブー」などの話型についても言及した。日本ではイザナギとイザナミの昔から、女が提示した契約を男が破る。そして二人には永遠の別れ、決別が訪れるのだが、この時点の「女」の不安はまさにそれだろう。結果、「私」は「百年はもう来ていたんだな」と、その誠実さを以って「女」との「約束」を完遂するのだが、「女」にあって、自らが言い出した「百年待つてほしい」という荒唐無稽な難題を、「私」が疑念なく受け入れてくれた時点ですでに自分の願いは半ば実現したのも同然なのか、「女」はすべてを受け入れてくれた「私」のことに涙する。「私」のことは聞いて「女」の流した「涙」は、「安堵の涙」「うれ

し涙」だったのである。そしてこの「約束」は「私」の忠実な履行によって結実し、「女」流した「うれし涙」は概念上の一〇〇年後に、百合になった「私」にふたたび降り注ぐのである。

そもそも、本文に「約束」の語句は登場せず、あくまで「女」側が提示した「願い」という方が正確なのかもしれないが、本作品の構成の骨子は「女」が言い出した「約束」と、それを守り通した「私」が最後にもらした一言、この対応に過ぎない。そこに表現されたのは両者の堅固な愛情、または信頼関係である。しかも前述のとおり、「女」の切り出し方からすると、「女」には迷いがあった。自分に対する「相手」の思いの誠実さに一抹の疑念があったのである。一方で、「女」が「私」のことに安堵の涙を流したように、「私」も最後に一瞬、「だまされたのではなからうか」という疑念を抱く。このように両者の揺れる気持ちを描くことが、かえって本作品に一種のリアリティを与えるわけだが、それらあくまでも「約束と履行と永遠の愛(信頼)」を語るうえの添え物に過ぎない。作者が伝えかったことは、「誠実であること」の難しさと大切さという、ごく単純なことなのであった。とかく「走りながら考える」方式の文章作成をしがちな学生たちに、どのような文章であれ「何を書くのか」を明確にしたうえで、それを読み手に伝えるためにはどのような方法があるのか、どうすることが効果的なのかを、文章を書き出す前に常に念頭に置き、文章を練る必要があることを重ねて強調したい。

本作品は、新聞の連載小説として書かれた。基本的には一回の読み捨てで、作者が「百年と百合」について、俗に言う「ネタバレ」的な解説を読者に行うことは想定されていない。そこで、鉤括弧をはじめとした「ほのめかし」の数々は、「百年・会う」「百合」を導き出ださせ、まず一つ目の大きなテクニクク存在を読者に気づかせる、誘導灯とも言える措置なのかもしれないという点を学生に示しつつ、これがあくまで漱石が仕掛けた「表面上のトリック」であることを、後述する解説でさらに考えさせていきたい。

【発問③】「真珠貝」「星の破片」はなぜ必要なのか（意味段落Ⅱの必要性）
 △発問の意図▽ 提示された要素の必然性（不要な要素はない）

【発問②】「涙」のところでも軽く触れたが、本作は結局のところ、意味段落Ⅰと意味段落Ⅲの重なりにある。意味段落ⅢはⅠの「女との別れの場」の再現であり、そのため、「百年」待ち続けた「私」が唐突に現れた「百合」に、無意識に惹かれていくのである。

ここまでの授業をとおして、ほとんどの学生が「女」の遺言（願い）とそれを守った「私」「私」の誠実さが「女」の再来を実現させたという点は読み取ることができるため、ここからはさまざまな「アイテム」の必然性と意味段落Ⅱの必要性についても考えさせたい。

意味段落Ⅰ、前掲「女(1)」の発言で「女」が示した条件は、

①死んだら「真珠貝」で掘った穴に埋めてほしい

②「星の破片」を墓標にする

③自分が会いに来るのを、百年の間墓の側で待っていて

というものである。常識でありえない設定も「こんな夢を見た」の一文で許されてしまうことから、「真珠貝」「星の破片」も、作品に幻想要素を取り込むためのアイテムだとして特別の意味を見出さない学生も多い。まれに、「百年・会う」と「百合」の関係から、「真珠貝」の輝きが「私」が見上げ続ける天空、「星の破片」が「暁の星」の予兆といった発言が得られることもある。しかし、そこで終わってしまうと「真珠貝で」自分が埋まるほどの穴を掘ることを、「女」が第一条に挙げている意味はどこにあるのが放置されてしまう。

まず、学生に「真珠貝」の役割についての着想と聞くと、そもそも「真珠貝」自体がすぐに浮かばないようだ。そこで中学の日本史の授業で扱う正倉院蔵の琵琶（螺鈿細工部分）の写真を提示し、意見を求めた。多くは、ここまでの世界観を踏襲し、漆黒の闇の中、「女」のために真珠貝で穴を掘り続ける様子から、「死体を埋めるための穴を掘るといふ猟奇的なシーンが、真珠貝の存在で美しいものになる」「夢ってこういう感じが強くなる」「男が眺

め続けた星空を想起させる」などの意見が出た。中には、「真珠貝と星の破片がセットになっている」「真珠貝 ↓ 星の破片 ↓ 暁の星という連鎖」といった意見も出た。

そこで、角度を変えて「なぜ女は真珠貝で穴を掘って」と言ったのかという点についても考えさせた。「絵画を思わせる情景描写」を完成させるためのアイテムあることももちろんだろうが、一般的に「真珠貝で成人女性の遺体を埋めるほどの穴を掘ること」は現実的でない。しかし、「私」は女のことは疑念を持たず、言われたことを黙々と、淡々とこなしていく。こう考えると、話の本流から外れたような、「百合の再来」を待つ間の消化試合に過ぎないものと思われがちな「意味段落Ⅱ」の、本来の存在意義が見えてくる。

このような前振りをしたあと、併せて「星の破片」についても考えさせた。こちらは「暁の星」につながるものとすることに特に異論が出るはなかった。そこでこちらも、「それでは「星の破片は丸かった」「長い間天空を落ちていく間に、角が取れて滑らかになったんだろう」「抱き上げて土の上に置くうちに、自分の胸と手が少し暖かくなった」という表現に注目させ、これがのちにどう生きて来るのかを考えさせた。

ここまでくると学生も授業の進行に慣れてきたのか、「丸くなるほど時間がかかって天から降ってきたことがポイント」「無機質なものはずが暖かいのは、女の命に関係ある」などの反応が出てくる。そこで、

・わざわざ真珠貝で掘る（掘らせる）意味は

・丸くなるほど長い時間を掛けて落ちてきた星を拾って墓標としてから、

「私」にとって一〇〇年が始まるという合図

・これ以降の、「私」が「女」を待ち続ける描写とのつながり

などを考えさせることで、この意味段落Ⅱと「真珠貝」「星の破片」の存在が、「女」が提示した願いに疑念を持たず、女への全幅の信頼が土台となった、「私」の誠実さを表現したものであることに気づかせたい。

実際、学生の中には「人間の遺体を埋めようとしたら、縦二〇〇cm×横

一〇〇cm×深さ一〇〇cmは必要。それを手のひらサイズの真珠貝で掘るのは実質無理だ」などの意見を出してきた者もいた。

一見古風な印象の「女」と、「女」の最期の願いに一切の疑念も持たず、忠実に応えつづける「私(♂男)」という構図は、現代の我々からするとそれほど新しい話型ではないかもしれない。しかし、江戸時代最末期に生まれた漱石の、英文学研究や留学経験から得た「対等な男女の関係」という知見によるものかもしれない。当時の日本ではこのような愛情の示し方はまだ目新しい愛の形であったかもしれない。意味段落Ⅱは、「私」の誠実さを表現するための必須要素であり、「女」がそれを天から見守りつづけた、「百夜通い」を想起させる一〇〇年間でもあったのである。

このように、「意味段落Ⅱ」の存在意義として「真珠貝」「星の破片」を考えさせると同時に、これらのアイテムが持つ「符号」については後の発問でも引きつづき注目させる。

四 「伏線と回収」と「循環」

「アカデミックライティング」の観点からすると、本作品の秀逸性は「伏線と回収」「循環性」にある。ここまで、学生にはあえて「百年待つて」「百合になって帰って来た」という対応関係、「約束」と「実現」に注目させてきた。そこで、前掲の「配布資料Ⅱ」を示すことで、それだけではない「作品の二重のトリック」に気づかせ、それにより「すべてのアイテムが完全に回収される」ことの妙を実感させる。

ここまで授業を重ねてくると、多くの学生が「暁の星」の存在についても「何かあるのでは」と気になってくる様子を見せる。前回、「すべてのアイテムには意味がある」と強調しておいたことを覚えている学生は、「暁の星の存在意味がわからない」「最後はいらない」「ファンタジー要素としては効果的」といった、「暁の星不要論」が出てくる。そこで、「配布資料Ⅱ」を提示し、なぜ本文が「百合の登場で終わらないのか」「暁の星を見て、そのとき初めて気がついたというのはどういうことか」について注目させ、

残されたアイテムの解説をしながら、謎解きをしていく形で授業を進めた。

△アイテム① 「うりざね顔」の女▽

英国留学の経験があり、幻想的な舞台設定をした漱石が描いた「女」は、「真っ白な顔」「真っ黒な瞳」を持つ「うりざね顔」をしている。学生には「うりざね顔」自体がわからないようで、お雛様や、群馬県伊香保温泉に美術館がある竹久夢二の絵などを見せると、「女」の古風な印象が伝わった。それでは、なぜ「女」は「うりざね顔」で「白い頬」「黒い瞳」なのか。学生の多くが、この時点で「百合の花となって女が再生する暗示」「女と百合の容姿の合致」「私」がふらふらと百合に引き付けられた理由がわかった」など、「百合が女の化身」であることに気づく。天から落ちてきた「露」が花びらに沿って落ちる様子も、ちょうど「うりざね顔」の女の頬を連想させるようなカーブを伝っていることにも言及しておきたい。

このように、物語の冒頭から我々は知らず知らずのうちに漱石が敷いた「女が百合となって戻ってくる」場面までのルールに乗せられているわけだが、そこに向かう最中にも、いくつかのアイテムが待ち構え、それを読み手が拾っていくことで「百合になって戻って来た女」が完成するのである。

△アイテム② 「黒い瞳」と「涙」の行方▽

次に学生に気づかせたいのは、字数の限られた本作の中で繰り返される言葉の存在だ。一般に、小・中学校では「説明文で繰り返し出てくることばはキーワードだ」といった説明をすることが多い。その観点からすると、意味段落Ⅰで不自然なまでに登場するのが「女」の「真っ黒な瞳」である。

「私」と「女」の会話は、横たわる「女」と、それをのぞき込むようにしている「私」の間で展開されており、「女」の容姿は常に「私」の視界をとおして描かれている。だとすると、その間「女の瞳」に映りつづけていたのは「私」の姿であり、「女」の瞳を覗きつづける「私」も、実は「女の瞳に映った自分」を見つづけていたことになる。それが臨終の「黒い瞳の中に鮮やかに見えた自分の姿がぼうっと崩れた」に集約され、最後、「女」のう

れし涙の中に「私」の姿は消えていくのである。

それでは、「黒い瞳」の持つ意味はそれだけなのか。「配布資料Ⅱ」に注目させると、「臨終の女を覗き込みつづける私」と「百合の花を覗きこむ私」の重なりに気づく学生が出てくる。つまり、百合の花を見た「私」が無意識のうちにふらふらと近づき、百合に接吻したのは、それが「女」との最期の場面の完全なる再現だったからなのである。

そこで学生に、「百合の花」が「うりざね顔」の「女」の再現のために必要なものなのか、もう一度「図」を参照させると、「黒い瞳」の存在と重要性が腑に落ちる学生が出てくる。「真つ白な百合」の花びらのカーブに沿って「ぼたりと落ちる露」は、「女の流した涙」である。「胸のあたりで止まった」百合の、むせかえるような匂いに惹きつけられた「私」は、ちょうど百合の花をのぞき込む形になる。そこまで説明すると、学生の中には「百合の花に足りないのは瞳では」「百合のおしべやめしべが瞳に見える」という意見が出始める。「うりざね顔」の女を「百合」に見立てた場合、この場面に欠けているのは意味段落Ⅰで「私」が見つめつづけた「黒い瞳」である。意味段落Ⅰの「私」は、最後まで「女」の瞳を見つめつづけ、そこに語りかけた。換言すれば、意味段落Ⅰの舞台は、「女の瞳」の中でのみ展開されていたともいえる。そこで、意味段落Ⅰ臨終場面の再現としてもう一つ足りないもの、それが「黒い瞳」から流れた「涙」であることに気づけば、「はるかの上から、ぼたりと露が」落ちてきた意味もわかる。「女」が流した「うれし涙」は、自分の提示した「難題」をすべて忠実に実行した「私」の姿を見てふたたびの「うれし涙」となり、百年をかけて天から百合の花びらの上に落ちたのである。ここで最後のピースがはめ込まれ、女の臨終の完璧な再現となった。

ここまで見てきたことで、学生には「瞳」「涙」もまた、漱石が意図的に繰り返し登場させ、我々にほのめかしつづけた「循環」のヒントであることを気づかせ、「構成」の妙とともに、「書いてあることにはすべて意味がある」「不要なものは登場させない」「登場させた以上、責任をもって回収

する」といった、文章作成上の鉄則にも言及しておきたい。学生の小論文やレポート、志望理由書などの文章を添削していると、かなり「不要な要素」「言いつばなし」の無責任な記述が多く、「アカデミックライティング」の観点からは必ず注目させておきたい点である。

以上の解説を終えたあとは、今後の展開から「意味段落ⅠとⅢが対応関係にあるとしたら、暁の星はどうなるのか」という点に注目させ、次回以降の課題として考えさせたい。注目すべきは、「私」は「百合の登場」「百合に接吻したこと」で「百年経っていた」ことに気づいたわけではない。百合から顔を離れた拍子に見た、「たった一つ瞬く暁の星」を見て、「百年はもう来ていたんだな」と「このとき初めて気がついた」のである。そう考えると、実はこの話の根本的な軸は「百年待つて」「会いに来るから」が「百合」の暗示になって点ではなく、実際は「暁の星」の登場に大きな意味がある。今回の「タネあかし」的な授業展開からして、そのような問題点を提示して授業を終わらせることで、次回にまで学生の関心を維持しつづけるような授業構成も意図した。

五 「このとき初めて気がついた」

「百年待つていて」「待つている」「百年来ていた」という、単純な話をどこまで「新聞小説」として完成させるか。ここまでの授業で、漱石の手腕が余すところなく発揮された作品であることは学生には伝わるようだが、最後は意味段落Ⅲに残された「暁の星」の存在意義を考えさせ、授業の総括としていく。

冒頭の授業の「ネタバレ」の回でも示したとおり、本作品が本当に「百年待つてください。きつと会いに来ますから」「待つ」「百合（百・会）になつて戻ってきた」だけを表現したものであれば、「暁の星」は必要ない。極論ではあるが、接吻の場面すら必要なく「百合」の出現で終わってもいいはずだ。そこに敢えて「暁の星」を出すことに、読者はどのような意味を見出すことができるのか。

そこで、この回の授業こそグループワークが効果的であると考え、辞書を使って話し合いをさせた。

まず、「暁の星」(暁)を辞書で調べると、

・金星。ヴィーナス。

・明けの明星。

などの意味が出てくる。この時点で「百年が明けた」ことの象徴としての「暁の星」であることがわかるが、さらに

・(暁) 夜明け。あけがた。夜半から夜のあけるころまで。

・(暁) 待ち望んでいたことが実現する、その際。

という点まで調べたグループは、ここに「百年・会う」「百合」以上の隠された符号の存在、作品の奥深さと「二重のトリック」の巧妙さに気づく。

「女」は、躊躇しつつも真実の愛の確証を得たいがために、「私」に無謀な約束を投げかける。それに対し、全くの疑念も躊躇もなく「待っている」と答える「私」。「女」はそれにうれし涙を流し、死んでゆく。しかし、「女」は死後もなお、誠実に約束を実行し続ける「私」を天から見届け、それが完遂した「暁」に、死の瞬間に流れた「うれし涙」が天を駆け巡り、自らの化身である「百合」に落ちていくのである。

それを見た「私」は、自分が最後に見た「女」の様子の再現をしたかのような錯覚に陥り、無意識のうちに「百合」に接吻する。その時点では、百合が「女」の化身であることへの自覚はなく、「百年が明けた」実感もない。そこで漱石は最後に「暁の星」を登場させ、「百・会」と「百合」を上回る「暁の星」という「夜明け」「待ち望んでいたことを実現した」「約束の完遂」の象徴を登場させ、物語の真の終焉を告げるのである。

六 学生の持つ発想力

学年が上がるにつれ、学生を積極的に国語の授業に参加させることは困難になる。自分の意見や感想を述べることに抵抗が出ることに加え、「高専生に国語はいらない」「授業で小説を読む意味がわからない」という無気力

感や反発心が出てくるからだ。小・中学生であれば自らの意見をいかにアウトプットするかが授業の楽しさにつながり、意見を述べることへの躊躇はないが、高専生の年齢になると教員側から「学生の意見を引き出す」ことがおそろしいほど困難になる。

しかし、本報告のように題材や問いかけの方法を工夫することで、ある程度リアクションを期待することはできる。もちろん、本校は一年生五クラス(学科混合クラス)であるため、クラスの特長や授業を牽引する学生の有無によって、すべてのクラスで同様の効果が出るわけではない。そうであっても、教員側がそれをどう引き出し、学生に投げかけ、解決していくか。その挑戦を放棄するということは、学生はもちろん教員自身の成長の機会を失うことに直結する。そしてその授業に対する教員の根本的な取り組みの姿勢に加え、大学受験をしない学生に「国語の授業を受けさせる」という、高専の特殊な事情を踏まえたうえでの授業構成が求められる。

そのため、前回の『城の崎にて』の報告同様、「小説の論理性」「構成の重要性」「伏線と回収」といった点に注目させながら、「アカデミック・ライティング」につなげる形で本作品の読解を行った。この授業をとおし、意図した以外の効果や学生の自由な発想力が発揮された場面もあったため、最後に学生から出た興味深い意見を紹介しておきたい。

△「むろん」赤い唇▽

ある年、一人の学生から「頬と瞳が合致するのであれば、「むろん」赤い唇はどうなるのか」という発言があった。学生は、「長い髪、白い頬、赤い唇は、お雛様より白雪姫をイメージする。横たわっているところとか、王子様のキスとか」と言うのだ。たしかに、『配布資料Ⅱ』のような図を提示しておきながら、「女」が横たわっていることに注目したのは「のぞき込む」「私」と「女」の位置関係だけで、「女」が横たわっている」ことに注目してはいなかった。学生がいうように、長い髪、白い頬、真っ黒な瞳、そして赤い唇をした女が横たわっている姿は、グリム童話やデイズニー映画で育った日本人にとって、まさに毒りんごを食べ、仮死状態で横たわる白雪姫の

構図を彷彿とさせる。見方によつては、『白雪姫』もまた「死と再生」の物語であり、『夢十夜』とも合致する。その学生がそう考えた理由には、「むろん」という表現が引つ掛かり、「当然そうだろう」という根拠がどこにあるのかという点からの思いつきだったそうである。加えて、夏目漱石は留学経験もある英文学者であり、明治時代であっても『白雪姫』も知っていたのではないかという、初回の授業の解説が浮かんだそうであり、まさに本授業のテーマの一つである「循環」が行われた結果かと、教員としては少々感激するところもあった。

そこから「だから「私」は百合に接吻したのか」という意見まで出て、これらの考察から、さらに「死にゆく女」と「百合になって戻って来た女」のシーンが完全に一致することになった。この時点で授業は大いに盛り上がり、学生も楽しんでくれたようだが、ここで釘を刺しておいたのが「それは作品の楽しみ方であつて、学問的な解釈としては成立しない」という点である。小説の授業の難しさは、作品を「楽しむ」とことと「正確な読解」の棲み分けである。ほとんどの学生が将来技術者、研究者になることを考え、彼らにはここで「仮説」と「検証」の重要性についても解いておいた。

まず、「むろん赤い」のことばから、「この説が成立するためには何が必要か」を投げかけた。

「むろん（無論）」は、「論じる必要がない」「言うまでもなく」といった、「むろん」につづく要素が「周知の事実である」ことを示す。そのことから、文学史の授業で言及した作品執筆の時代背景や漱石の経歴を参照し、「成立する条件」について意見を聞くと、「むろん」の表現が成立するには、

- ・留学経験があり、英文学者であつた漱石は『白雪姫』の話を知っていた。

- ・当時、少なくとも「東京朝日新聞」の講読層に『白雪姫』の話は浸透していた。

という二点の検証が必須であることは、学生も思いつくようであつた。反対に、

- ・『白雪姫』が前提でなく、単に「美人の条件」としての表現では。
- ・直接的な表現はないが、発熱を伴う病気で「熱っぼさ」を表しているのでは。

といった意見もあった。

学生からこの「白雪姫説」が出されたことは想定外の展開であり、授業時間の関係でこれ以上言及することはできなかった。そこで後日、学生には、ウィキペディア程度の簡易な検索を参照しただけでも次のような検証課題があることを提示した。

- ・明治期には『白雪姫』の翻訳は複数出版されていた。^(注一〇)
- ・どの程度の流布・認知状況だったのか検証の余地あり。
- ・雪のように白い肌、血のように赤い頬や唇、黒檀の窓枠の木のように黒い髪」という白雪姫の容貌には諸説ある。どの話型（底本）によるものが認知されていたのかという問題。^(注一一)

- ・王子のキスによつて目覚める」のはデイズニー映画から始まったか。
- ・王子のキスによつて目覚める」のは「眠れる森の美女」にも使われた設定。

もちろん、単純に『夢十夜』を小説として個人で読む分にはこのような検証は必要なく、自分の経験や知識と結びつけた自由な発想で楽しみ、意味を見出すことが「読書」の神髄である。学生にはこの前提を明言したうえで、「読者」ではなく「研究者」としてものごとを見た場合、どこまで緻密に、どこまで検証を重ねることが必要か、そしてそれら検証が自らの立てた「仮説」を成立させるものとなったときに得る、研究者としての達成感についても話した。これにより、「研究者として求められる姿勢」「資質」というものを感じてもらえればという思いから、授業時間の許す範囲で、手持ちのスマートフォンで調べられる程度の「検証の体験」をさせた。

△追加「真珠貝」と「暁の星」▽

この「むろん赤い唇」の件から派生したのが、「真珠貝」と「暁の星」の関係である。

「暁の星」の意味調べをさせたときに、「ヴィーナス」「女神」との関係から「私」とつての女神である「女」という解説をしたことがあった。たしかに、「ヴィーナス」は愛と美の女神であり、「百合」への接吻の時点では忘我の境地であった「私」が、「暁の星」を見て「女」を思い出したという解釈も興味深い。また、サンドロ・ボッティチェッリ「ヴィーナス誕生」の絵を見ると、ヴィーナスは「貝」の帆掛け舟にのって海の彼方から流れ着く。

漱石がこの絵画を目にし、作品にそのモチーフを投影させたからこそ「真珠貝」であり、「真珠貝」は「きらめく様子が幻想的な雰囲気と作品に持ち込む」「真珠貝で穴を掘るという困難さが、「私」の誠実性を証明するもの」という役割以外に、「暁の星」「ヴィーナス」「女」をつなぐものであるという解釈も、壮大で興味深い。もちろん、これを説明するのは困難かもしれないが、それが成立すれば本作品の中でただ一つ余ってしまった「真珠貝」の帰結先が「暁の星」になり、「暁の星」自体にも、「夜が（百年が）明ける」「待ち望んでいたことが実現する、その瞬間」に加え、三つ目の意味が加わり解釈の重層性が出てくる。作品の中に張り巡らされた「伏線と回収」「循環」、そして「重層感」というものにつながるようになるが、「国語表現」の授業の中で、漱石研究の専門でもない一教員が検証するには荷が重過ぎるため、学生にも「読みの可能性」という程度の提示に留めておいた。

七 読者への挑戦状

不思議なことに、作品の中には一度も「約束」という言葉は出てこない。表面上は「女」から持ち掛けられた「願い」「契約」なのかもしれないが、「私」とつては「女」から強要されたのではなく、何ら特別な意味をもたない、「女」との日常の延長線上にあったものなのかもしれない。そのような「普遍的な愛（信頼）の尊さ」について、陳腐にならず、かといって説教臭くもならない形で説いていくにはどうしたらいいか。そこで、非日常的な、幻想的な舞台設定の中にそれらを取り込み、その「普遍性」を表現したのが本作品である。作品内部に張り巡らされ、ちりばめられた漱石からの

「ヒント」は、別の視点からいえば読者への「挑戦状」である。この「挑戦状」を、我々がいかに発想力を駆使して読んでいくかというのが小説の本来の楽しみ方でもあるのだ。

もちろん、本稿で挙げた諸々の事例すべてが、漱石の意図したものだというわけではない。単に着想の域を出ないものが多く、当然のことながら詳細な検証を加えないことには「論」どころか「検証対象」にすらなり得ない。しかし、学生にとっては「仮説を出して検証していくことの楽しさ」「単なる思いつきが何かにつながる可能性」への気づきにつながり、教員にとつては「学生の可能性」「柔軟性」「高学年に向けての指導の指針」にもなることだろう。

この、「非日常の中に普遍的な真実を語る」という形式は、漱石の弟子である芥川龍之介『羅生門』にも通じる。報告者の授業設定では、成立時代順、漱石と芥川の関係性、文章量、取り掛かりやすさという点で、『夢十夜』を一年生前期、『羅生門』を後期に扱うことにした。『夢十夜』の授業をベースに、そこにどう関連付けて『羅生門』につなげるかは、授業の循環性という点から十分に留意すべきであるが、授業の流れという点ではこの順番での実施が自然のようである。そして『羅生門』においても、学生の主体的な読みや「気づき」、意見発表といった「アクティブラーニング」的な双方向授業を踏襲しつつ、同様に「アカデミックライティング」の解説につながる授業を実践していく予定である。

本報告にあるように、学生の持つ発想力や、それを発揮できた際の授業への集中力は、教員としても目を見張るものがあった。扱う教材をいかに対象学校、対象学生の特性に合わせるかは、その実態を知る教員のみができることである。一般高校や指導書のモデルケースが必ずしも有効とは限らず、授業の在り方こそ柔軟的に「アクティブ」であるべきなのではないだろうか。学生におもねるというわけではなく、どう寄り添い、彼らに「学ぶことの意義」を伝えるか。加えて、どのように「高専生に必要な国語力」養成に結び付けるかという、多くの困難は確実に存在する。今回述べたも

のはそれらを少しでも解消すべく、試行錯誤を続けた結果であり、あくまでも「経過報告」に過ぎない。これらをさらにどう昇華し、洗練させていくかは今後の課題としていきたい。

注一 拙稿「高専生とアカデミックライティング——『城の崎にて』実践報告——」(群馬工業高等専門学校「群馬高専レビュー」第四二号 二〇二三年三月)

注二 田山花袋(一八七二—一八七二)は群馬県「上毛かるた」に「誇る文豪 田山花袋」として登場する。出身地である館林市には田山花袋記念文学館があり、田山花袋旧宅も残されている。萩原朔太郎(一八八六—一九四二)は群馬高専所在地である前橋市出身、最寄り駅新前橋駅には「萩原朔太郎ゆかりの駅」の看板が設置されている。土屋文明(一八九〇—一九九〇)は高崎市出身、市内には群馬県立土屋文明記念文学館がある。

佐藤春夫(一八九二—一九六四)は本県出身者ではないものの、県内高等学校等の多くの校歌を手掛け、本校校歌は実際に来校したうえで作詞である。

注三 「漱石山房原稿用箋」は神奈川近代文学館、漱石山房記念館などで購入可能。一行一九文字であるのは、当時の東京朝日新聞の連載小説掲載欄に合わせたものと言われる。

注四 山口謡司『漱石と朝日新聞』(二〇一八年六月 朝日新聞出版)

朝日新聞ひろば (<https://info.asahi.com/guide/soseki/joined.html>)
朝日新聞デジタル (<https://www.asahi.com/special/soseki/>)
などを参照させ、執筆背景や状況を調べさせることもできる。

注五 指導書と比較すると、意味段落Ⅱをどこで終わらせるかの見解が分かっている。後述する、意味段落Ⅱの役割を「私」の誠実さの強調」とするか、「百合」の出現を印象づけることを主眼にするか、適宜判断してうえで授業進行、解説と整合性が取れるものを採用すべきだ

ろう。

注六 図Ⅰ・Ⅱともに太田が作成。実施年度やグループワークの実施の有無によって内容に変動があった。

注七 二松學舎大学では創立一四〇周年事業として、夏目漱石アンドロイドを作成。二〇二二年度には同アンドロイドによる特別授業も実施された。

<https://www.nishogakusha-u.ac.jp/android/project/index.html#sec03>

注八 綾辻行人『十角館の殺人』(一九八七年九月 講談社)

注九 公益社団法人ACジャパン「聞こえてきた声」より

テーマ「ジェンダー平等」

制作・ADKマーケティング・ソリューションズ

掲載メディア・テレビ／ラジオ／新聞／雑誌／ポスター／屋内外ビジョン／電車内動画

私たちは、無意識のうちに性差や男女の役割について固定的な思い込みや偏見を持ってしまいがちです。本当はもっと働きたいのに。本当はピンクが好きなのに。本当はパイロットになりたいのに。男性はこうあるべき、女性はこうあるべき、という社会の偏見によって苦しんでいる人、何かを諦めようとしている人がいるとしたら。その人たちの選択の自由が今よりも増える社会になればと企画されました。マンガのセリフをフックに、ジェンダー平等について考えるきっかけをつくります。

注一〇 以下は漱石の動向と比較する便宜上、発行年は元号で示した。

明治二三年「中川霞城訳『雪姫物語』(雪姫の話)(少国民 10-13, 15, 18) 学館

明治二九年巖谷小波訳『小雪姫』(少年世界2巻8号) 博文館

明治三七年教授資料研究会訳『雪姫』(話の泉) 学海指針社

明治三九年橋本青雨訳『小雪姫』(独逸童話集) 大日本国民中学会

明治三十九年 山君（森於菟）訳 『雪姫』（萬年艸 12号） 臨川書店

明治四十一年 木村小舟訳 『雪姫物語』（教育お伽噺） 博文館

明治四十一年 寺谷大波（友吉）訳 『雪姫』（世界お伽噺第9） 博文館

明治四十二年 水野繁太郎、権田保之助訳 『雪姫』（独逸文学叢書第2編） 有朋堂書店

明治四十四年 くすを生訳 『白雪姫』（新女界） 新人社

注二 黒いのは髪、瞳、どちらのパターンもあり、逆ればもともと白雪姫の髪は黄色であったともいう。

Academic Writing Guidance for Technical College Students

Ten Nights of Dream

Tamaki Ota

Natsume Soseki's ``Ten Nights of Dreams" is extremely elaborately written. There are many things that students should learn, such as structure and how to choose words.

Since many students at technical colleges do not take university entrance exams, they tend to be reluctant about Japanese language classes. However, because they have more opportunities to write specialized reports and papers than average high school students, they need to improve their writing skills. I then gave them a lesson using Ten Nights of Dreams, a work with excellent structure and accurate description. This paper is a report on a class aimed at developing the enjoyment of reading novels and the skills of academic writing.

群馬高専レビュー執筆・投稿要領（タテ書き）

群馬 太郎* 高専 花子**

（二〇〇八年一月二八日受理）

一、原稿形式について

A4判の白上質紙を使用してください。

全てのページのマージンはこのサンプルのように上辺25ミリ、下辺30ミリ、左右ともに14ミリ、に設定して下さい。

一、一 タイトル部分のレイアウトとフォント

タイトル部分は一段組にして下さい。

以下次の順にタイトル部分の構成要素を書いて下さい。

タイトル：ゴシック体 20ポイントフォント、センタリング

（約10ミリのスペース）

著者名：明朝体 14ポイントフォント、センタリング

（約5ミリのスペース）

受理年月日：明朝体 12ポイントフォント、センタリング

著者と所属（テキストボックス内）とは*印で対応づけて下さい。

一、二 本文部分のレイアウトとフォント

本文部分は二段組にして下さい。

本文と受理年月日の間に約10ミリのスペースを設けて下さい。
本文は二段組で、左右のマージンは14ミリずつ、段と段との間のスペースは約6ミリとします。

和文ヨコ書き：二五文字×四八行程度

和文タテ書き：三五文字×三三行程度

欧文原稿 二五文字×四八行程度

本文には明朝体10ポイントフォントを用いて下さい。

一、三 テキストボックス内

著者に対応する所属を記入して下さい。なお、群馬高専に所属している場合には、学科名のみを記入して下さい。

一、四 原稿枚数について

原稿枚数は、二〇ページ以内として下さい。

二、見出し（見出しが一行以上に長くなるときはこの例のようにインデントし折り返す）

二、一 見出しのレベル

見出しのレベルは章、節の二段階までとします。章の見出しはゴシック体とし、二、などの数字に続けて書きます。また、見出しの左右に一行程度のスペースを設けて下さい。ただしページや段が切り替わる部分は章の見出しが最右部に来るよう調整して下さい。

二、二 節の見出し

節の見出しもゴシック体で、「二、一」などの数字に続けて書きます。見出しの右だけに一行程度のスペースを空けて下さい。

三、図表および注

三、一 図表の位置

図表はそれらを最初に引用する文章と同じページに置くことを原則とします。図表の横幅は、「二段ぶち抜き」あるいはこのサンプルの表や図のように「一段の幅いっぱい」のいずれかとします。

三、二 図表中の文字およびキャプション

表及び図のキャプションは、左におき、長くなる場合はインデントして折り返してください。

三、三 注

注は脚注・章末注の二本だてとして下さい。引用文献の注記やその他くわしい注記は論文本文の最後にまとめるか、章末注にまとめ、脚注は最小限にとどめることとします。脚注番号は、*印で*、**のごとく、章末記号は(一)、(二)のごとく記して下さい。

資料番号	高さ h (m)	幅 w (m)
1	1.45	0.25
2	1.75	0.40
3	1.90	0.65
4	1.45	0.25
5	1.75	0.40
6	1.90	0.65
7	1.45	0.25
8	1.75	0.40
9	1.90	0.65
10	1.45	0.25
11	1.75	0.40
12	1.90	0.65
13	1.45	0.25
14	1.75	0.40
15	1.90	0.65
16	1.90	0.65

表1

表および図のキャプションは表の左に置く。このように長いときはインデントして折り返す。

四、最終ページおよび英文要旨

原稿が和文の場合、または英語以外の外国語で書かれた場合には、英文による論文題目、著者名及び四百語程度の論文要旨が必要となります。

別ページに、英文のタイトル、著者名および要旨を横一段組で書きます。タイトルは、Times New RomanのBold(太字)で20ポイント、著者名は、Times New Romanで14ポイント、要旨は、Times New Romanで10ポイントとします。

五、原稿の提出・受理について

投稿希望者は、「群馬高専レビュー投稿申込書」を担当者に提出して下さい。

さい。

原稿は、締切日までに担当者に提出して下さい。提出日を以て論文受理日付とします。その際、本論文にコピー一部を添付すると共に、電子ファイルを担当者に送付してください。

申込書や原稿が期日に遅れた場合、投稿要領に著しく反している場合は受理されないことがあります。また、原稿締切日以降の原稿内容の変更は認めません。

六、著作権

「群馬高専レビュー」に掲載された論文の著作権*のうち、複製権及び公衆送信権は、群馬工業高等専門学校に帰属するものとします。

なお、営利を目的とせず、著作者自身が論文の複製および公衆送信を行う場合、群馬工業高等専門学校は、著作者からの申し出がなくてもこれを許諾します。その際、著作者は、出典（誌名・巻号・ページ・掲載年）を明記することとします。

*著作権法第二一条から第二八条に規定する権利

参考文献

- (一) 群馬太郎、高専花子：高等教育の展望、教育研究センター、第四〇巻、四〇頁—四六頁、二〇〇六
- (二) 日本研究協会：高等教育・研究機関における最先端研究戦略、工学部門編、一一〇頁—一二〇頁、二〇〇七

Print Sample for Japanese Manuscript for the GUNMA-KOUSEN REVIEW

Taro GUNMA and Hanako KOUSEN

The present paper has been made as a print sample of the Japanese manuscripts for the GUNMA-KOUSEN REVIEW. Its text describes instructions to prepare the manuscripts: the layout; the font styles and sizes; and others. If you replace the text or the figures of the present file by your own ones, using CUT & PASTE procedures, you can easily make your own manuscripts.

This English ABSTRACT has narrower width than the main text by 10 mm from the left and the right margins of the main text, respectively. Font used here is Times-Roman 10pt. The length should be within 7 lines. It is preceded by the title and the authors; both are centered and the font size is 12p.

群馬高専レビュー要項

(令和6年9月5日改訂)

1. 名称について

本誌の名称を、群馬高専レビュー（THE GUNMA-KOSEN REVIEW）と定める（通称「高専レビュー」と言う）。
「高専レビュー」の発行は、年1回年度末までに行う。

2. 編集発行事務について

「高専レビュー」の編集発行は、教育研究委員会がこれを行う。

教育研究委員会には、常任編集委員若干名をおき、教育研究委員会委員長がこれを総括する。

事務は、総務課総務係においてこれを処理する。

3. 内容と目的について

「高専レビュー」は、高専教育の向上と本校教職員の研究成果を公表することを主目的とし、オリジナリティーのある未発表の論文を原則とする。

「高専レビュー」の掲載においては査読を行わないものとし、「査読なし論文」として取り扱う。

4. 投稿資格について

投稿者は、原則として本校の教職員（非常勤講師は除く）および名誉教授に限る。ただし、共同発表に関しては本校の教職員が代表者である場合に限り、外部の研究・教育及びそれに相当する機関に所属する者についてのみ許される。

また、論文の投稿者名は、事前に提出する申込書に記された投稿者と同一であることとする。

5. 体裁について

(1) 印刷上の体裁

A4判、本文10ptフォント、ヨコ2段組とする。なお、特別のタテ書き原稿はタテ2段組とする。

(2) 掲載順について

論文は、理工系・人文系に大別し、その掲載は受理日の順とする。ただし関連論文はなるべくまとめる。

(3) 体裁の統一について

執筆要領の詳細は別に定めるが、論文提出について、体裁の統一上必要な修正を編集委員から依頼することがある。

6. その他

(1) 原稿の執筆・投稿・受理に関しては、別に定める「群馬高専レビュー執筆・投稿要領」による。

(2) 別刷の作成は、原則として、自己の研究費負担とする。

群馬高専レビュー執筆・投稿要領

群馬 太郎* 高専 花子**

(2008年11月28日受理)

1. 原稿形式について

A4判の白上質紙を用い、和文ヨコ書き・和文タテ書き・欧文原稿のすべてにおいて、タイトルページは2つの部分で構成されます。

タイトル部分：1段組（題目、著者、受理年月日）
本文部分：2段組

1. 1 タイトル部分のレイアウトとフォント

全てのページのマージンはこのサンプルのように上辺25mm、下辺30 mm、左右ともに14mmに設定して下さい。

そして、以下次の順にタイトル部分の構成要素を書いて下さい。

タイトル：ゴシック体20pt フォント、センタリング
(約10 mm のスペース)

著者名：明朝体14pt フォント、センタリング
(約5 mm のスペース)

受理年月日：明朝体12pt フォント、センタリング

著者と所属（フッタ）とは*印で対応づけて下さい。

1. 2 本文部分のレイアウトとフォント

本文と受理年月日の間に約10 mm のスペースを設けて下さい。

本文は2段組で、左右のマージンは14mm ずつ、段と段との間のスペースは約6mm とします。

和文ヨコ書き：25文字×48行程度

和文タテ書き：35文字×33行程度

欧文原稿：25文字×48行程度

本文には明朝体10pt フォントを用いて下さい。

1. 3 フッタ

著者に対応する所属を記入して下さい。なお、群馬高専に所属している場合には、学科名のみ記入して下さい。

1. 4 原稿枚数について

原稿枚数は、20ページ以内として下さい。

2. 見出し（見出しが1行以上に長くなるときはこの例のようにインデントし折り返す）

2. 1 見出しのレベル

見出しのレベルは章、節の2段階までとします。章の見出しはゴシック体とし、2. などの数字に続けて書きます。また、見出しの上下に1行程度のスペースを設けて下さい。ただしページや段が切り替わる部分は章の見出しが最上部に来るよう調整して下さい。

2. 2 節の見出し

節の見出しもゴシック体で、2. 1 などの数字に続けて書きます。見出しの上だけに1行程度のスペースを空けて下さい。

表-1 表のキャプションは表の上に置く。このように長いときはインデントして折り返す。

資料番号	高さ h (m)	幅 w (m)
1	1.45	0.25
2	1.75	0.40
3	1.90	0.65

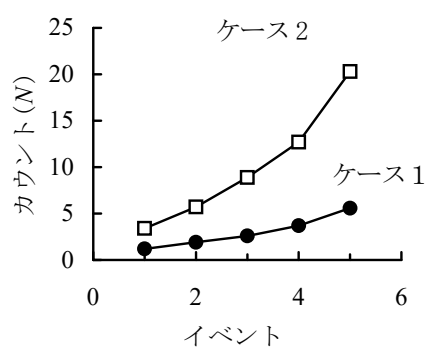


図-2 図のキャプションは図の下に置く

3. 図表および注

3. 1 図表の位置

図表はそれらを最初に引用する文章と同じページに置くことを原則とします。図表の横幅は、「2段ぶち抜き」あるいはこのサンプルの表-1 や図-2 のように「1段の幅いっぱい」のいずれかとします。

3. 2 図表中の文字およびキャプション

図表のキャプションは、図の場合は下方に図-1、図-2のごとく、表の場合は、表の上方に表-1、表-2のごとく付記して下さい。欧文原稿の場合は、Fig. 1やTable 1として下さい。長いキャプションは表-1 のようにインデントして折り返します。

3. 3 注

注は脚注・章末注の2本だてとして下さい。引用文献の注記やその他くわしい注記は章末注にまとめ、脚注は最小限にとどめることとします。脚注番号は、*印で*、**のごとく、章末記号は、片バーレーンで1)、2)のごとく記して下さい。

4. 最終ページおよび英文要旨

原稿が和文の場合、または英語以外の外国語で書かれた場合には、英文による論文題目、著者名及び400語程度の論文要旨が必要となります。

最終ページに、英文のタイトル、著者名および要旨を横1段組で書きます。タイトルは、Times New RomanのBold(太字)で20pt、著者名は、Times New Romanで14pt、要旨は、Times New Romanで10ptとします。

なお、和文タテ書きの場合は、英語要旨は別ページにして下さい。

5. 原稿の提出・受理について

投稿希望者は、「群馬高専レビュー投稿申込書」を担当者に提出して下さい。

原稿は、締切日までに担当者に提出して下さい。原稿締切日を以て論文受理日付とします。その際、本論文にコピー1部を添付すると共に、電子ファイルを担当者に送付して下さい。

申込書や原稿が期日に遅れた場合は、受理されないことがあります。また、原稿締切日以降の原稿内容の変更は認めません。

6. 著作権

「群馬高専レビュー」に掲載された論文の著作権*のうち、複製権および公衆送信権は、群馬工業高等専門学校に帰属するものとします。

なお、営利を目的とせず、著作者自身が論文の複製および公衆送信を行う場合、群馬工業高等専門学校は、著作者からの申し出がなくてもこれを許諾します。その際、著作者は、出典(誌名・巻号・ページ・掲載年)を明記することとします。

*著作権法第21条から第28条に規定する権利

参考文献

- 1) 群馬太郎, 高専花子: 高等教育の展望, 教育研究センター, 第40巻, pp.40-46, 2006.
- 2) 日本研究協会: 高等教育・研究機関における最先端研究戦略, 工学部門編, pp.110-120, 2007.
- 3) Gunma, T. and Kousen, H. : A Study on the Evolution of Education and Research in the Natinal College of Technology, Journal of Education Research Center, pp.110-120, 2007.

Print Sample for Japanese Manuscript for the GUNMA-KOUSEN REVIEW

Taro GUNMA and Hanako KOUSEN

The present paper has been made as a print sample of the Japanese manuscripts for the GUNMA-KOUSEN REVIEW. Its text describes instructions to prepare the manuscripts: the layout; the font styles and sizes; and others. If you replace the text or the figures of the present file by your own ones, using CUT & PASTE procedures, you can easily make your own manuscripts.

This English ABSTRACT has narrower width than the main text by 10 mm from the left and the right margins of the main text, respectively. Font used here is Times-Roman 10pt. The length should be within 7 lines. It is preceded by the title and the authors; both are centered and the font size is 12pt.

編集委員

委員長	堀尾	明宏
委員	西山	勝彦
〃	太田	たまき
〃	神長	保仁
〃	矢口	久雄
〃	五十嵐	睦夫
〃	安西	高廣
〃	谷村	嘉恵

群馬高専レビュー

第 43 号 (2024)

発 行 者	令和 7 年 3 月 4 日
編 集 者	群馬工業高等専門学校教育研究委員会
発 行 者	群馬工業高等専門学校
	群馬県前橋市鳥羽町 580
	電話 (027) 254-9000 (代)